第8巻第2号1992年1月26日発行 1985年第三種郵便物認可。
SPECIAL·ISSUE
おもしろ元気ヤング·ミュージック·マガジン·パチ·パチ
PATi-PATi
PRESENTS
STYLE
YEAR BOOK '91～'92
PS '92
PRICE=990YEN
UNICORN / TMN / B'z
J(S)W / BUCK-TICK / PRINCESS PRINCESS
KOME KOME CLUB / BY-SEXUAL
THE CHECKERS / BAKU / THE BOOM
FLIPPERS GUITAR / SENRI OE / TOMOYASU HOTEI / KAN
KOJI KIKKAWA / HIDEAKI MATSUOKA / SOFT BALLET
LÄ-PPISCH / LINDBERG / BUMI-BUMI / etc....
PS*'92
PATi-PATi

Johnson & Johnson

（風ニモマケズ、乾燥ニモマケナイ。ジョンソン*ベビーローションすべすべ講座）

冬こそ、ベビーみたいな素肌でいたい。

ひとつ 冬のカサつきとキレイにお別れするために。

なにかと乾燥する冬は、肌のダメージも大きいよね。暖房のせいで、湿度が少なくなるから部屋の中はカラカラ。この季節、肌にたっぷりの水分を与えてすべすべの状態に保つために、ジョンソン*ベビーローションが大活躍。赤ちゃんのために生まれた刺激の少ない自然なうるおいだからデリケートな冬の肌に、とてもやさしいの。

ひとつ 肌にもボディガードが必要なのだ。

寒くなればなるほど肌は敏感になって、皮脂の分泌も悪くなりがち。肌の表面に膜をつくって水分の蒸発を防いでくれる皮脂が少なくなるのはピンチ。でも、ジョンソン*ベビーローションがあれば安心。肌のうるおいを逃さない膜をつくる成分が含まれているから外のいろいろな刺激をしっかりガードしてくれるの。冬の冷たい北風も、もうコワクナイというわけ。

ひとつ 毎日のケアだから使い心地も要チェック。

冬のスキンケアは、とにかくマメにしてあげることが大切。だからケアするたびに肌がベタベタしないかどうか、使い心地のチェックも、忘れないでね。サラッとした感触のベビーローションなら、顔やボディにたっぷり使っても快適。1本で全身をお手入れできるシンプルさも魅力なの。好みによって無香料タイプが選べるのもうれしいよね。特に乾燥の激しい部分にはジョンソン*ベビークリームがいいみたい。

カサつく肌に、いっそう保湿効果の高い。ジョンソン*ベビークリーム

――ベビーみたいな素肌をくれた――

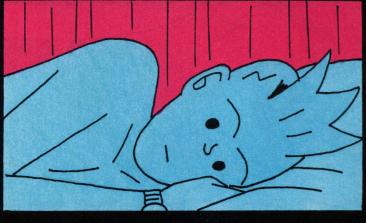
Johnson's baby lotion

ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社 消費者相談室
フリーダイヤル・サービス〈問い110番〉
0120-101110
料金無料 受付時間・月～金 10:00～16:00

金星はひどいところらしいな。
ヘイ、ヘンリー・リガッタ、奴のアパートをひっくり返してこいとさ。
TELEPHONE
「この見捨てられた状態では、すべてがけだるく、すべては腐り、ただれ、すべては息をつまらせる」
TELEPHONE
THUN
ここではないどこかへ僕の螺旋頭で飛んでいくとして、
あなたではない誰かと話ができるとしたら……
WATER LOO SUNSET
THE INFINITE, I SAID.
やれやれ、手もつけられないありさまだな。で、どのくらい持ち逃げされたんだ？
天文学的数字、とボスは言ってるがね。

リトル・ベニータ、
奴はきっと今ごろ
トリスタン・ダ・クーニャ
あたりでしょうね。
どこ
ですって？
「たとえばミズナギドリは、毎年400万羽あまりがそろってニューファウンドランド、グリーンランド、北ヨーロッパを飛び立ち、6000マイル離れた先祖伝来の、そして唯一の営巣地へ産卵に行く。もっとも近い陸地からでも2000マイルほども離れたところにある、広大な南大西洋の一点にすぎないトリスタン・ダ・クーニャの小島へ、彼らは間違いなく行くのだ」
キミとは別の女性で、
ブライアン・オールディスの『百億年の宴』を読んでいたっけ。
そこではどんな人に逢っていたの？
「昼食はひどかった。まるで夢の中で食べるような食べ物、肯定的な意味で味がなく、その味の不在そのものが嫌悪感をもよおさせるのだ」
大陸横断も
悪くないがね。
どうやらメキシコも
ひどいところ
らしい……
アメリカ人は
戦争が終わると
日光浴に出かけるのよ。
キミは
ピクニックのにおいがするよ。

見たことのない場所、話したことのない人たち……

ココア・ビーチのモーテルでは、ポータブルラジオのピアノの音に心を奪われてしまった。
接続する和音のピッチ……。

「1978年、ドイツ生まれの映画女優エルケ・ソマーがロサンゼルスの自宅の庭にいると、直径20フィートのオレンジ色に光る球体が出し抜けに現われ、大きな月のように輝き始めた」

目を閉じるといちめんの淡いピンクの雲がブルーの渓谷にゆきわたっていく。

クリスマスツリーみたいに光る
バカでかいトレーラー、モーテルのネオンサイン
連中の逃避行、この物語
どこかで読んだろ？
MOTOR CARGO
液体のようにふるえる
その映像をあなたに伝えたい。
今夜は
気晴らしに
楽しいことを
話して
みて…
連中に
勝ち目はないね。
……とは言え、
私にそれを別の方向から
検討させてくれないか？
夜の香気、満点の星
導きの神、深い峡谷
いろいろなものを見たよ。
GASO
どうも
ご親切に。
それから先は
神のみぞ知る。
「一行はさらに航海を続け、香ぐわしい花の絨毯を敷きつめた楽園のような土地を発見した」
残りの人生を
どうするか
考えたこと
あるの？
ラスヴェガスから
始めるとしよう。
BILTMORE
MOTOR
INN
©WRITTEN AND DIRECTED BY MIEKO HARA 1991

Double Coating & Slim Case

ダブルコーティングとスリム、カセットの最新条件です。

高音用と低音用に役目を分けた、2つの磁性層 これがとんでもなくいい音の理由です ダブルコーティングになった、今度のPS
音のにごりを消す低共振トライウインドウ・ハーフに着替えて、新しいPSは、中身も外身も全とっかえのオールニュー
それはそうと、スリムケースはPSが元祖です 新しいPSを、どうぞよろしく

PS-I:C-40¥410 C-46¥430 C-50¥450 C-54¥470 C-60¥530 C-64¥550 C-70¥580 C-80¥640 C-90¥690 C-100¥750/PS-II:C-40¥450 C-46¥470 C-50¥500 C-54¥530 C-60¥580 C-64¥610 C-70¥640 C-80¥720 C-90¥790 C-100¥860/PS-IV:C-40¥470 C-46¥510 C-50¥540 C-54¥570 C-60¥610 C-70¥670 C-80¥740 C-90¥800

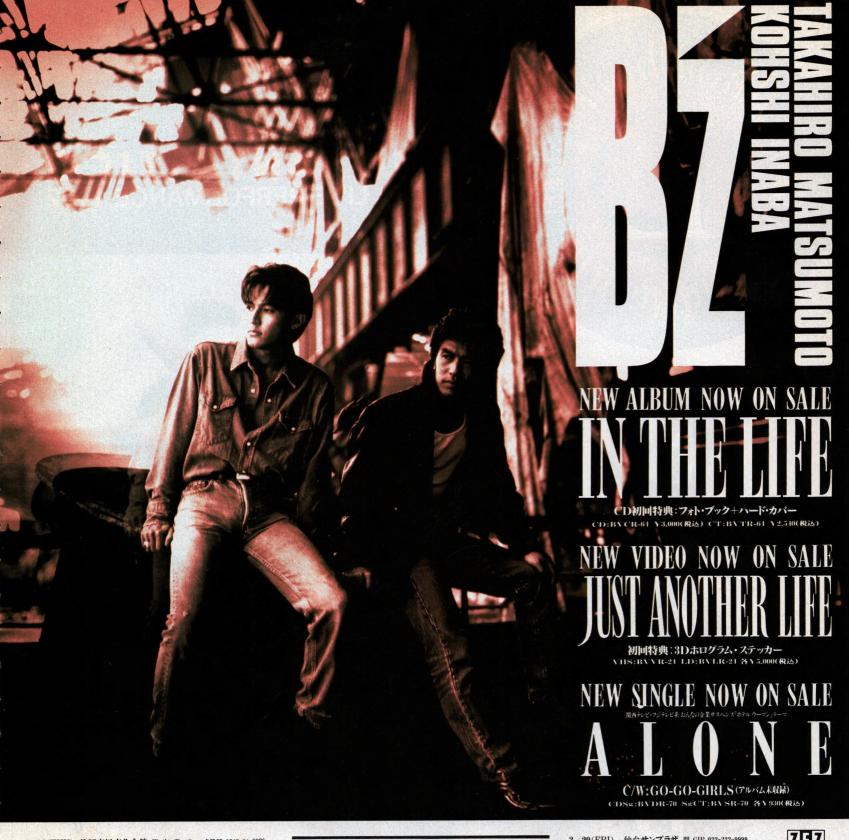
(この広告に掲載している全商品の価格は、メーカー希望小売価格で、消費税は含まれておりません。)●ラジオ放送やレコード、テープから録音したものは、あなたが個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●カタログのご請求は、富士写真フイルム株式会社磁気材料事業本部営業部アクシア係 〒106 東京都港区西麻布二丁目26番30号 TEL.03(3406)2804●総発売元 富士マグネテープ株式会社 〒150 東京都渋谷区宇田川町4番3号 神南ビル TEL.03(3496)2421

FUJI FILM

epic
CHARA
Debut Album
"Sweet"
ESCB 1231
¥2,800(税込)
好評発売中!!
New Single
"Sweet" 1.22発売
ESDB 3274 ¥800(税込)
CHARA'S Information : YS corp. 03·3409·8707
VIDEO JAM (ANB系全国11局NET) パーソナリティーとして出演中
Epic/Sony Records

L
S
D
P
詩人の血 Le Sang du'n Poête
NEO FANTÁSTICO
LSDP LIVE PERFORMANCE 1992
★TOKYO[PARCO劇場]★NAGOYA[ボトムライン]★OSAKA[MIDシアター]★
1992年1月3日㈮/4日㈯ 16:30 OPEN 17:00 START
全席指定 ●前売¥3,399(税込み) ●当日¥3,605(税込み)
●2日間通し券¥6,000(税込み、スペシャルプレゼント付)
主催:ディスクガレージ 後援:TVKテレビ、EPIC/SONY RECORDS
協力:エプソン販売㈱、PARCO
お問合せ:ディスクガレージ 03(5704)3200 (平日のみ15:00〜19:00)
1992年1月10日㈮ 18:00 OPEN 19:00 START
●前売¥3,399(ワンドリンク付・税込み)
●当日¥3,605(ワンドリンク付・税込み)
主催:FM AICHI 後援:EPIC/SONY RECORDS
協力:エプソン販売㈱、ジェイルハウス
お問合せ:ボトムライン 052(741)1620
1992年1月11日㈯ 18:30 OPEN 19:00 START
全席指定 ●前売¥3,399(税込み) ●当日¥3,605(税込み)
主催:FM 802 後援:EPIC/SONY RECORDS
協力:エプソン販売㈱ お問合せ:グリーンズ 06(454)8834
Produced by POWER POX
チケットは各地区ともにチケットセゾン、チケットぴあにて発売中。
●ご好評の詩人の血「ビデオMAGAZINE」の完結編・VOL.3は、Love, Songs, Dreams & Poet の4つの部屋をテーマに現在制作中です。お楽しみに。なお、リリース日が12月12日から来年1月22日に変更になりました。ごめんなさい。今しばらく、お待ちください。●一部誌面でPARCO劇場でのLIVEを3日間とお知らせしましたが都合により2日間になりました。お詫びして訂正いたします。

B'z LIVE-GYM "IN THE LIFE" '91-'92

OPEN 18:00 START 18:30 ¥4,350(消費税込)

1／9(THU) 静岡市民文化会館 問.サンデーフォーク静岡 0542-84-9999
1／10(FRI) 宇都宮市民文化会館 問.栃木音協 0286-22-4101
1／14(TUE) 山梨県立県民文化ホール 問.FM富士 0552-28-6600
1／16(THU) 大宮ソニックシティ 問.アーク 03-3321-8844
1／17(FRI) 八王子市民会館 問.アーク 03-3321-8844
1／20(MON) 大分文化会館 問.ピッツバーグユニオン 096-356-1808
1／22(WED) 徳山市文化会館 問.キャンディープロモーション 082-249-8334
1／23(THU) 倉敷市民会館 問.キャンディープロモーション 082-249-8334
1／25(SAT) 広島厚生年金会館 問.キャンディープロモーション 082-249-8334
1／26(SUN) 広島厚生年金会館 問.キャンディープロモーション 082-249-8334
1／28(WED) 姫路市文化センター 問.民音神戸 078-251-7447
1／31(FRI) 高知県民文化センター 問.デューク高知 0888-31-2020
2／1(SAT) 愛媛県民文化ホール 問.デューク松山 0899-47-3535
2／3(MON) 徳島文化ホール 問.デューク高松 0878-22-2520
2／5(WED) 香川県民ホール 問.デューク高松 0878-22-2520
2／6(THU) 香川県民ホール 問.デューク高松 0878-22-2520
2／10(MON) 新潟県民会館 問.FOB新潟 025-229-5000
2／11(TUE) 市川市文化会館 問.民音千葉 0472-25-4181
2／13(THU) 秋田県民会館 問.リバーシティオフィス 0188-35-1205
2／15(SAT) 青森市文化会館 問.コルクボード 0177-35-9999
2／18(TUE) 渋谷公会堂 問.アーク 03-3321-8844
2／19(WED) 渋谷公会堂 問.アーク 03-3321-8844
2／21(FRI) 大阪厚生年金会館 問.サウンドクリエーター 06-361-9900
2／22(SAT) 大阪厚生年金会館 問.サウンドクリエーター 06-361-9900
2／24(MON) 大阪厚生年金会館 問.サウンドクリエーター 06-361-9900
2／25(TUE) 大阪厚生年金会館 問.サウンドクリエーター 06-361-9900
3／1(SAN) 長崎市公会堂 問.ピッツバーグユニオン 096-356-1808
3／2(MON) 佐賀市文化会館 問.ピッツバーグユニオン 096-356-1808
3／4(WED) 九州厚生年金会館 問.ピッツバーグユニオン 096-356-1808
3／6(FRI) 宮崎市民会館 問.ピッツバーグユニオン 096-356-1808
3／10(TUE) 沼津市民文化センター 問.静東音協 0559-31-7078
3／11(WED) 磐田市民会館 問.遠文連 053-454-9999
3／14(SAT) 渋谷公会堂 問.民音 03-3366-9999
3／15(SUN) 渋谷公会堂 問.民音 03-3366-9999
3／17(TUE) 群馬県民会館 問.高崎音協 0273-22-9999
3／20(FRI) 仙台サンプラザ 問.GIP 022-222-9999
3／21(SAT) 仙台サンプラザ 問.GIP 022-222-9999
3／23(MON) 岩手県民会館 問.GIP 022-222-9999
3／24(TUE) 山形県民会館 問.GIP 022-222-9999
3／27(FRI) 富山市公会堂 問.FOB金沢 0762-32-2424
3／28(SAT) 石川厚生年金会館 問.FOB金沢 0762-32-2424
3／30(MON) 福井フェニックスプラザ 問.FOB金沢 0762-32-2424
4／1(WED) 長野県民会館 問.FOB長野 0262-27-5599
4／3(FRI) 名古屋センチュリーホール 問.サンデーフォーク 052-320-9100
4／4(SAT) 名古屋センチュリーホール 問.サンデーフォーク 052-320-9100
4／6(MON) 和歌山県民文化会館 問.民音大阪 06-768-3632
4／8(WED) 川崎市立教育文化会館 問.民音神奈川 045-231-9999
4／9(THU) 郡山市民文化センター 問.GIP 022-222-9999
4／13(MON) 北見市民会館 問.ウエス 011-613-9000
4／14(TUE) 釧路市民文化会館 問.ウエス 011-613-9000
4／16(THU) 帯広市民文化ホール 問.ウエス 011-613-9000
4／18(SAT) 苫小牧市民会館 問.民音札幌 011-642-5601
4／23(THU) NKホール 問.アーク 03-3321-8844
4／24(FRI) NKホール 問.アーク 03-3321-8844
4／29(WED) 沖縄コンベンションセンター劇場 問.PMエージェンシー 0988-64-1616
4／30(THU) 沖縄コンベンションセンター劇場 問.PMエージェンシー 0988-64-1616

SPECIAL▸ISSUE

PATi▸PATi PRESENTS

STYLE

YEAR BOOK '91-'92

P.S '92

PRICE=990YEN

CONTENTS

お待たせしました。年末恒例『パチ▸パチ・スタイル』です。1年間を回想するのにもってこいのスタイル。おっと、もちろん、最新PHOTO&最新インタビューですぜ。しかも、ボリューム満点。全アーティストが大特集ときた。ワクワクしてきたでしょ。さあ、気合い入れて思う存分読んでくれ!

UNICORN ⑱

●とーとーSTYLEの表紙巻頭特集を飾ってしまいました、UNICORNさん。思えばモノクロ2ページのアンケートのページでスタートしたUNICORNさん、あれは確か4年前。早いもんです。あのころの、あのころの、やせたカワイイ少年たちは、今やこんなに立派に体もガッチリ、面がまえもリリしく、押しも押されぬ一流ロックミュージシャン！ クーッ。（泣く）しかし、この巻頭特集、タイトルは「大反省1991」だったりするんですよねー。トホホ……。これもひとえに彼ら5人のスッパラシー人柄ゆえ。柔軟な姿勢から生み出す数々の楽しいことを'91年も満喫させてもらったもんねっ。

COVER

◀まーたしてもやっていただいてしまった全曲イメージビジュアル化！『ヒゲとボイン』だから、外人さんは出てくるわ、プレスリーさんは出てくるわ、看護婦さんは出てくるわ、おじーちゃんは出てくるわ…… 何はともあれ名アルバムでしたっ。

◀広島弁タイトル単行本、第1弾「イナゲ」。今やUNICORNファンの間ではバイブル?! 写真も文章も、いろんな企画も満載で、この1冊でUNICORNのたくさんのことがわかる！（すべてがわかる！ と豪語できないのは5人がすぐ変化するから）

◀広島弁タイトル第2弾、「チャンガラ」。―― ポンコツという意味だからなー、なんせ。そしてソングブックです、「オクダタミオよりうまく歌おう、UNICORNの曲」というコンセプトの。全曲歌唱指導はおかしー。CDシングル（お喋りのみ）付きっ。

DATA

奥田民生
S40年5月12日生まれ。牡牛座。血液型は不明。広島県出身。ボーカル&ギター。

手島いさむ
S38年8月27日生まれ。乙女座。血液型B型。広島県出身。ギター。

西川幸一
S34年10月20日生まれ。天秤座。血液型O型。広島県出身。ドラムス。

堀内一史
S40年10月2日生まれ。天秤座。血液型B型。広島県出身。ベース。

阿部義晴
S41年7月30日生まれ。獅子座。血液型A型。山形県出身。キーボード&ボーカル。

B'z ⑬④

●いよいよ"メガ・セールス"のスーパーバンドに仲間入りした彼ら。相変わらず謙虚に「いや、先輩達に比べるとまだまだ…」的発言を繰り返すけれど、そろそろ尊大になってもいいんじゃない？ B'zくらいになれば……。もちろん、それまでに至るには、まとわりつくプレッシャー、さまざまなアクシデントがあっただろう。'91年を振り返って、稲葉浩志として、松本孝弘として、そしてB'zとしての道のりを、胆念に検証します。そして、次なる展開の予感は？

COVER

◀ついに、ミリオンセラーを記録したアルバム『IN THE LIFE』。その全てをさまざまな角度から徹底分析した入魂の50ページ。でも、この頃はスケジュールが超過密で、分刻みの取材だったんだよなぁ～。ホントにタフな御二人でした。

DATA

松本孝弘
S36年3月27日生まれ。牡羊座。血液型A型。大阪府出身。ギター。

稲葉浩志
S39年9月23日生まれ。天秤座。血液型AB型。岡山県出身。ボーカル。

BAKU ⑯③

●たった1年でこんなにページ数が増えたバンド、他にはいません。1991年のBAKUはまさに急成長という言葉がぴったりのバンドでした。彼らがどんなことをしてきたかは、同じ時間を刻んでいるみんななら百も承知。じゃあ、彼らの思うところは？ 1991年の彼らの感情を。

COVER

◀初の表紙・巻頭は、1991年の最後（発売日）と1992年最初の1月号。実は、1号前の12月号からこの巻頭の特集が始まってたってこと、知ってた？ 4枚目のアルバム『DAY AFTER』の発売前と発売後という大きなコンセプトがあったのさ。

◀BAKUのリアルタイムをリアルタイムな君たちに伝えたい―― だから、本当に彼らを追いかけて、追いかけて…本当に追いかけまくって半年間。その半年を1冊にまとめたのがこのBAKUマガジン。パチ▶パチ1冊まるごとBAKU。必見！

DATA

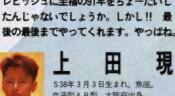
谷口宗一
S46年8月29日生まれ。乙女座。血液型A型。栃木県出身。ボーカル。

車谷浩司
S46年8月29日生まれ。乙女座。血液型O型。栃木県出身。ギター。

加藤英幸
S46年7月26日生まれ。獅子座。血液型A型。栃木県出身。ドラムス。

LÄ-PPISCH ㉛

●この方たちは、この1年間なにをやってたんでしょうか…?! なんてことを言ったらバチが当たる。そりゃフル・アルバムこそ発売されなかったけど、我々はレピッシュに至福の91年をちょーだいしたんじゃないでしょうか。しかし!! 最後の最後までやってくれます。やっぱね。

DATA

上田現
S38年3月3日生まれ。魚座。血液型AB型。大阪府出身。キーボード。

MAGUMI
S38年9月24日生まれ。天秤座。血液型A型。熊本県出身。ボーカル。

雪好
S42年11月26日生まれ。射手座。血液型O型。東京都出身。ドラムス。

狂市
S38年3月20日生まれ。魚座。血液型O型。熊本県出身。ギター。

TATSU
S37年2月7日生まれ。水瓶座。血液型B型。東京都出身。ベース。

布袋寅泰 290

DATA

S37年2月1日生まれ。水瓶座。血液型B型。群馬県出身。ボーカル&ギター。

●とうとうパチ▶パチはこの1年間、布袋寅泰のリアル・タイムをひと時も欠かさずお伝えすることができました。これもひとえに本人を始め、周囲のスタッフのおかげと深く感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。さて、このSTYLE。布袋寅泰とパチ▶パチが組んだからこそ実現した特集を2部構成でお届けします。しかと見てちょうだい。

COVER

◀ハッキリ言ってスゴイッすよこの特集。布袋寅泰だけで70ページですからねえ…。大傑作アルバム『GUITARHYTHMII』を、なんと16項目という多角的角度から徹底解剖。まさにこれは〝バイブル〟ですよ。当時を思い出すと熱が出てきますよ、ホント。

UNICORN J (S) W 50

●思えば7月号で表紙をやったときが最初でありました。初めて会うジュンスカさんのさわやかな態度にUNICORN担当の編はココロ洗われたものです。8月号では両バンドの不徹底批較を、そして、10月号では合同イベントの追っかけレポートをしました。それにしても仲いいです。奥田くんなんてJ(S)Wのカラオケを愛聴盤として紹介する程なのよ。

COVER

◀合計9人の表紙撮影は時間に追われてバタバタしたもんだった。〝時間がないからフィルム2本しか撮れなーいっ〟という表紙用カットのとき、カメラマンの小木曽さんがおかしいと、笑い出して止まらなかった奥田くん。キメたのはコレ1枚だけ。

SPECIAL ISSUE PATi-PATi PRESENTS STYLE YEAR BOOK

JUN SKY WALKER(S) 56

●ジュンスカの91年は『TOO BAD』に始まり『TOO BAD』に終わった…というのは言い過ぎかな。しかし、彼らは実質的に1年の半分以上を『TOO BAD』関連に費したわけだから、まあそれもひとつの印象として正解かもしれない。とはいえ、91年初頭のジュンスカは、まだ〝LADIES AND GENTLEMEN TOUR〟をやってたんだし、春には傑作アルバム『START』を発表し、しばらくのオフを経てリハーサルとイベント並行の日々で夏を過ごし、そして『TOO BAD』を発表したわけです。ところがそれにもあきたらず、なんと年末だっての話が4つもあるなんて…。

COVER

◀ハッキリ言ってスゴイッすよこの特集は。アルバム『START』をとにかく超徹底的に大特集!! かつて無い彼らのビジュアルに加え、パーソナル・ロング・インタビューに「おまえとケーキ」徹底解剖、ツアー・レポート…ああ書き切れんぜよ。

◀ハッキリ言ってスゴイッすよこの特集は。取材期間がなんと5ヵ月!! そのすべての時間がこの1冊のためだけにあったわけッス。アルバム『TOO BAD』が産まれるまでの全過程をパッケージにした永久保存版!! 持ってないアナタは不幸でっせ。

DATA

宮田和弥
S41年2月1日生まれ。水瓶座。血液型B型。東京都出身。ボーカル。

森純太
S40年3月10日生まれ。魚座。血液型A型。大分県出身。ギター。

寺岡呼人
S43年2月7日生まれ。水瓶座。血液型A型。広島県出身。ベース。

小林雅之
S40年5月13日生まれ。牡牛座。血液型B型。東京都出身。ドラムス。

BUCK-TICK 76

●91年のパチ▶パチは、ホントにいろんな角度からB－Tにアプローチしたと思います。それは当然彼らが、常に新鮮な話題を我々に提供し続けてくれたからにほかなりません。年末にあたり、B－Tの91年の活動を9項目にしぼって総括してみました。「まあ、こんなにいろんなことがあったのね」ときっと思うはずです。加えて彼らの92年を占う驚愕の企画も掲載です。まあ、たのしんでください。

COVER

◀ハッキリ言ってスゴイッすよこの特集。なんと『狂った太陽』収録の全11曲を、櫻井敦司のプロデュースで完全ビジュアル化。撮影所用時間が不眠不休の23時間。「あんな撮影は2度とイヤだ」と本人たちも言ってます。(笑)是非あなたもモライ泣きを。

◀ハッキリ言ってスゴイッすよこの特集。シングル「JUPITER」の話題を中心に、今井寿＆藤井麻輝のウワサのユニット"SHAFT"の独占インタビュー。そして大爆笑＆大好評の『狂った事件簿』の3本立て。え～い酔うか笑うかハッキリせい。

DATA

櫻井敦司
S41年3月7日生まれ。魚座。
血液型O型。群馬県出身。
ボーカル。

今井寿
S40年10月21日生まれ。天秤座。
血液型O型。群馬県出身。
ギター＆コーラス。

ヤガミトール
S37年8月19日生まれ。獅子座。
血液型A型。群馬県出身。
ドラムス。

星野英彦
S41年6月16日生まれ。双子座。
血液型A型。群馬県出身。
ギター＆コーラス。

樋口豊
S42年1月24日生まれ。水瓶座。
血液型A型。群馬県出身。
ベース。

THE CHECKERS 227

●チェッカーズの1991は、LOVE、LOVE、LOVE♬ 彼らのLOVE攻撃は普通に生活していても、すぐ目に耳に入ってくる、わかりやすいLOVE。お休みの日にTVを見てたらドキュメント番組のナレーションは郁弥氏の声――メンバーのドラマ出演もLOVEの表現――ボーカル3人のBABY & WEDDINGでさえ、あれだけ隠さず報告してくれたなら素敵なLOVEのメッセージ――そして、もちろん、チェッカーズの楽曲は、まるごとLOVE。でも、今回のインタビューでは、もう1992のたくらみ"が――におうぞっ。

COVER

◀さ、やっと出ました、ザ・チェッカーズ『SEVEN』でございます。地域によっては、このSTYLEと発売日が同じなんてこともあろうかと思いますが、『SEVEN』は逃げないから、ゆっくりと、70万字のチェッカーズに首までつかってくださいねっ。

DATA

藤井郁弥
S37年7月11日生まれ。蟹座。
血液型A型。福岡県出身。
ギター。

藤井尚之
S39年12月27日生まれ。山羊座。
血液型A型。福岡県出身。
サックス。

武内享
S37年7月21日生まれ。蟹座。
血液型A型。福岡県出身。
ボーカル。

鶴久政治
S39年3月31日生まれ。牡羊座。
血液型A型。福岡県出身。
ボーカル。

徳永善也
S39年6月7日生まれ。双子座。
血液型A型。福岡県出身。
ドラムス。

高杢禎彦
S37年9月9日生まれ。乙女座。
血液型A型。福岡県出身。
ボーカル。

大土井裕二
S37年11月2日生まれ。蠍座。
血液型B型。福岡県出身。
ベース。

松岡英明 296

DATA

S42年12月23日生まれ。山羊座。
血液型O型。横浜市出身。
ボーカル。

●90年からの続いていたコンサートツアーを終えた松岡英明の公式的な活動は、小休止状態に入った。シングル、アルバムを一切リリースせず、ライブ・ツアーも行なわないまま過ぎてしまった91年。彼にとって91年は「空白の年」だったのだろうか？ インタビューそのものも久しぶりに送る「91年を振り返って」。

〔F・C〕KISS KISS 〒150 渋谷区桜岡町9-15渋谷ローヤルコーポ103号室 ☎03(3477)1389

SOFT BALLET 307

●ソフトバはこの1年間を通じて、自分たちこそが、今後日本のロック・シーンを担うのだと名実共に証明してくれた。

DATA

遠藤遼一
S42年12月6日生まれ。射手座。
血液型不明。東京都出身。
ボーカル。

藤井麻輝
S40年8月17日生まれ。獅子座。
血液型B型。愛知県出身。
キーボード。

森岡賢
S42年3月16日生まれ。魚座。
血液型B型。東京都出身。
ベース&キーボード。

KAN 300

DATA

S37年9月24日生まれ。天秤座。
血液型A型。福岡県出身。
ボーカル&キーボード。

●一種の社会現象になってしまったとも言える。あんまりそれだけを取り沙汰したくはないけれど、それは1991年の大切な足跡だから。「愛は勝つ」、名曲です。もちろん、KANさんの名曲はそれだけじゃない。それらの曲たちを知ってもらうキッカケを、きっと今年はたくさん投げられたんじゃないかな。天才的アルバム『ゆっくり風呂につかりたい』も91年の宝です。

吉川晃司 285

DATA

S40年8月18日生まれ。獅子座。
血液型B型。広島県出身。
ボーカル。

●いつもどこか道をはずれていたがる。ひとつのところにじっとしていられない。そうして吉川晃司は1991年、再びソロとなった。アルバム『LUNATIC LION』は91年の彼の野性や本能、狂気を感じさせる。硬質で熱い。疾駆感が身体に響く、そんな1枚だ。このアルバムを生み出した彼の91年をもう一度知っておきたい。彼が新しい地を拓く(ひら)その前に!!

SPECIAL ISSUE PATI・PATI PRESENTS YEAR BOOK STYLE

リンドバーグ 316

●大ヒットは91年も続いた。リンドバーグのフライトはさらなる上昇気流に乗りどこまでも昇り続けていきそうだ。

DATA

渡瀬マキ
S44年2月22日生まれ。魚座。
血液型O型。三重県出身。
ボーカル。

平川達也
S37年2月27日生まれ。魚座。
血液型O型。静岡県出身。
ギター。

川添智之
S39年1月30日生まれ。水瓶座。
血液型O型。宮崎県出身。
ベース。

小柳昌法
S36年10月23日生まれ。天秤座。
血液型A型。静岡県出身。
ドラムス。

T M N 109

●だって髪を伸ばしてハードロックのステージを演っていたハズなのに、91年の初めの頃は……。今はEXPOを開催しています。ついて行くのが全くたいへん。

DATA

小室哲哉
S33年11月27日生まれ。射手座。
血液型O型。東京都出身。
キーボード。

宇都宮隆
S32年10月25日生まれ。蠍座。
血液型O型。東京都出身。
ボーカル。

木根尚登
S32年9月26日生まれ。天秤座。
血液型B型。東京都出身。
ギター。

COVER

◀木根さんが急きょ入院! ということで残念ながら2人だけの表紙となりました。寂しかったけれど、その木根さんも1ケ月後には全快。良かった。"月とピアノ"をコンセプトに、宇宙~エコロジーをイメージして撮影。テーマカラーは蒼でした。

大江千里 ㉗⑤

DATA

S35年9月6日生まれ。乙女座。
血液型O型。大阪府出身。
ボーカル。

●やっぱり91年も走っていました。走って走ってエネルギーを出し尽くすほど忙しそうに見えて、実はその間も吸収し続けていて、どんどんパワーアップしてゆくのが千里くん。多忙の中、着実にいい作品を残していて。そしてまた皆勤賞!!

COVER

◀仲の良い兄妹のような2人。曲を提供したり、ライブに飛び入りしたり、レコーディングに参加したり…… という音楽仲間です。撮影や対談でも息のあったところを見せてくれました。浴衣も、2人ともライブで着てるだけあって着こなしが見事。

PRINCESS PRINCESS ⑨②

●91年も元気に自然にロックしていたライブ好きの5人。ツアーを終えるごとに着実に成長しているから、曲作りのほうもどんどん脂がのってきて……。クロウト音楽関係者にも評価が高い『DOOLS IN ACTION』を作ってしまったのでした。

DATA

奥居香

S42年2月17日生まれ。水瓶座。
血液型O型。東京都出身。
ボーカル&ギター。

中山加奈子

S39年11月2日生まれ。蝎座。
血液型B型。横浜出身。
ギター&コーラス。

富田京子

S40年6月2日生まれ。双子座。
血液型B型。横浜出身。
ドラムス。

渡辺敦子

S39年10月26日生まれ。蝎座。
血液型B型。千葉県出身。
ベース。

今野登茂子

S40年7月15日生まれ。蟹座。
血液型O型。埼玉県出身。
キーボード。

COVER

◀シングル「KISS」のリリースの頃の表紙、巻頭特集でした。メンバーはインド旅行から帰国した直後で、インド熱さめやらぬ様子。インドについてのインタビューが盛り上がりました。珍らしくパステルカラーの衣装を着た5人が春らしいでしょ?

◀1冊まるごとプリンセス・プリンセスの雑誌です。メンバーの着物姿(もちろん初公開!)をはじめ、豪華な写真が満載、リレー小説あり、ロングインタビューあり、マンガありで内容も超盛りだくさん。今まで出会えなかった5人に会える1冊。

THE BOOM ⑱④

●THE BOOMは1年間、ずっとライブをやってましたね。(笑) しかも、ずっと遠い街で=すごく近い街で。だから、ハデではなかったけれども。どこかで、BOOMが歌ってるってわかるだけで、レコーディングをしてるっていう報告だけで、私たちは元気と勇気をもらってしまう。この事実は、彼らが持つ神技ですっ。

COVER

◀THE BOOM 初のアーティストBOOK & 小杉之子氏初の書きおろし単行本で話題をさらった「君がいっぱいI」は、今年の1月20日発売でしたっけ。しかー し、もう、この本の194ページには「君がいっぱいII」の告知が載ってるんだからっ!(笑)

DATA

宮沢和史

S41年1月28日生まれ。山羊座。
血液型O型。山梨県出身。
ボーカル。

小林孝至

S40年12月26日生まれ。山羊座。
血液型A型。山梨県出身。
ギター。

栃木孝夫

S33年7月11日生まれ。蟹座。
血液型O型。千葉県出身。
ドラムス。

山川浩正

S40年5月11日生まれ。牡牛座。
血液型A型。山梨県出身。
ベース。

BY-SEXUAL ㉔③

●パチ▶パチのレギュラー・アーティスト多しといえども、毎月毎月、話題が多すぎて、ネタ選ぶのに困るのは、コイツらぐらいのもんだ。だって、だいたいの号が業界で言う“リリース月”(何か発売される月のこと)なんだよね。(笑) おかげで、いっぱい考えてた“企画もの”をやるヒマがなかったぢゃないかぁ――、

COVER

◀どーよ、立ち読みでもいいから、『PENALTY AREA』見てみてくれた? DENさんがDOZAEMONやりたいって言うから、NAOが路上ヌードやるって言うから――みんなでウソついて、戦争中にサイパン行っただけのことはある初の単行本!

DATA

SHO

S45年8月25日生まれ。乙女座。
血液型AB型。神戸市出身。
ボーカル。

RYÖ

S45年8月14日生まれ。獅子座。
血液型不明。大阪府出身。
ギター。

DEN

S45年6月10日生まれ。双子座。
血液型O型。大阪府出身。
ベース。

NAO

S45年7月7日生まれ。蟹座。
血液型O型。大阪府出身。
ドラムス。

NEW ARTIST ⑲⑤

●バンドブームが終わったといわれた1991。確かにバンド数は減少した。けれども、確実に質は向上し、個性が強調されてきたと思う。シーンはまだまだ面白いのだ！

福山雅治
役者ロックの王道を走り始めた福山君は、絵になる男なのだ。

詩人の血
独自の音楽性を追求し続ける彼らのサウンドは目が離せない。

the PILLOWS
人気急上昇。1991の新人の中でもグンを抜いた存在なのでした。

TO BE CONTINUED
ポップ、ポップ。トゥ ビ コンを聞いて元気を出そうじゃないか。

スピッツ
心に浸み通るマサムネのボーカル。本当にいいバンドだなあ。

GARLAND
はじけるポップ感覚に君はついてこれるかな。要チェック!!

鈴木彩子
彼女の歌を聞いて励まされた人は多いはず。心にズンとくる。

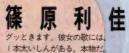
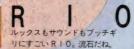
PTON!
飛び跳ねるキュートなサウンド。元気いっぱいのプトンはいいぞ。

CHARA
独特のキャラクターが印象的だけど、サウンドは奥が深いんだぞ。

電気GROOVE
ハデだねえ…いつも。1991年に1番笑わせてくれた人達でした。

M-AGE
超期待。1992年に何かやってくれそうな予感。カッコイイんだ。

篠原利佳
グッときます。彼女の歌には、1本太いしんがある。本物だ。

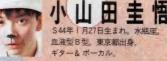
RIO
ルックスもサウンドもブッチギリにすごいRIO。流石だね。

安部純
さわやか度No.1。メロディーメーカーの才能がキラリ光る！

フリッパーズ・ギター ⑫④

●唐突に去っていったフリッパーズ。ロック史上に残る傑作『ヘッド博士の世界塔』を残し、本当のことを白日の元にさらしていった2人。もう彼らのいないシーンなんて何の意味があるのだろうか。'91年の奇跡・フリッパーズ・ギターこれがホントに最後。彼ららしい方法で、手厚く葬って。その記憶を封印しよう。

DATA

小沢健二
S43年4月14日生まれ。牡羊座。
血液型O型。神奈川県出身。
ギター＆ボーカル。

小山田圭悟
S44年1月27日生まれ。水瓶座。
血液型B型。東京都出身。
ギター＆ボーカル。

COVER

◀これで既製のロックシーンは意味を失う、なあ〜んて力んで作ってたなあこの本。かぶりものとはまた一味違う「仮装もの」の方法論を示した「文豪と編集者」表紙。猫と戯れる2人なあんて、意外な一面があったっけ。ホントはいい奴等だったなぁ〜。

SPECIAL・ISSUE YEAR・BOOK
PATi・PATi PRESENTS STYLE

米米CLUB ⑰③

●「他の追従を許さない」というよりも「天上天下唯我独尊」ってな存在になってしまった米米クラブの91年とは!?

COVER

◀一度掲載アーティストに、取材で用意したコーヒーは何杯？というのを競ってみたいと思う。必ず1位になるはずだ。他にも、「撮影待機中のオトナ度チェック」もいいと思う。米米のメンバーは、待ち時間もそれぞれ譜面を書いたりしていてオトナ。

真夏の砂丘で一大ロケーションを繰り広げたのも、幻のツチノコを求めて日本全国を行脚したのも『E』本での辛くも楽しい思い出だけど、'92年はもっとスゴイ！ ますますアダルトに、ますますミステリアスに展開される米米ワールドに乞御期待！

DATA

C.S.石井
S34年9月22日生まれ。乙女座。
血液型B型。茨城県出身。
ボーカル。

J.小野田
S33年11月8日生まれ。蟹座。
血液型A型。神奈川県出身。
ボーカル。

ボン
S35年3月5日生まれ。魚座。
血液型A型。神奈川県出身。
ベース。

J.得能
S34年8月10日生まれ。獅子座。
血液型O型。東京都出身。
ギター。

F.金子
S39年3月22日生まれ。牡羊座。
血液型A型。千葉県出身。
サックス。

リョージ
S34年4月25日生まれ。牡牛座。
血液型A型。福岡県出身。
ドラムス。

ミナコ
S36年12月18日生まれ。射手座。
血液型B型。茨城県出身。
コーラス。

マリ
S41年11月20日生まれ。蠍座。
血液型A型。茨城県出身。
コーラス。

会議室より愛をこめて ㉕⑨

●年に1度の子供隊の遊び場所。(いつまでたっても子供隊…) 今年は孫も参加して、ノリはまさに学級新聞。(笑) イラストもいつものカドさんで読みごたえ◎

BUHi♥BUHi ㉜①

●前担当者フッチーからBUHi²を引き継ぎ、暗中模索の日々を過ごしております。(ウソブースカブー) 恒例レギュラーコーナースペシャルに+α。笑ってブー。

UNICORN

●'91年もご活躍だったUNICORNさん、「休みがほし〜〜〜っ」と叫びつつ、'92年まで続いてゆくライブツアーはこれまででいちばん本数が多かったりして。ケガしたり、（インタビュー参照）へんな顔したり（NG写真参照）しながらも、つき進む（スゴロク参照）5人に幸あれと祈りつつ、反省してもらったんだよ〜〜〜ん。

Photo by Takeo Ogiso
Copy by Miho Utsunomiya

ニシカワコウイチ大反省。

①「ひとりぐらいはまともなヤツがいないと」ごもっとも。②いったい誰に怒っている。③山の夜はホントーッに暗い。④トーゼン、嵐丸ちゃんを抱っこするのも片腕で。⑤レコーディングだけならまだしもライブまでチェーンジッ。⑥「現代っ子か、オヤジ」と奥田さん。⑦ライブの出来を評価するマーク。⑧どうせ編がやると言うに決まっている。⑨相変わらず冗談絶好調の西川さんなのだった。⑩でも「ふたり目ができるのがちょっと早かったかなぁ」という反省もしていた。

UNICORN 1991

いちばんオイシいリズムの「黒い炎」を弟子にとられた。

「いつも、テレコを回すその前に、「できる限りお答えしましょう」と、必ず西川さんの一言。[①]

いい人だ。取材主旨に従って、あれやこれや答えてくれる。だからといって「反省はですねぇ……ナニ反省しましょうかね」じゃ、あまりにも。あげくに「じゃあですね、14歳か15歳か16歳の……」

違うんです。

「え？」

'91年1年を反省するんです。

「俺、一生を振り返ってかと」(笑)

テレコ巻き戻し――。

「'91年だとやっぱりアレですね、レコーディング中に転んでケガしたこと。アレは反省してますよ。ドラム叩けなかったですからね、あのせいで」

思い出しても口惜し涙がにじむ突発事故。

「[②]クソタレが、ホンマぁ(笑)30過ぎて走るもんじゃないですよ」

もしかして思いきり走ってたんですか？

「全速力」

で、転んだ。

いや、それも走ってたら……って状態だったらまだいいですよ？ 走り始めたとたんですからね、全速で。バンッ！ バターン!! でしたからね」

なんちゅう痛そうな転び方。

「〝痛い〟というより、淋しかったですよ。夜[③]だったから真っ暗でしょ？ 俺んとこ真っ暗なんですよ。で、車に積み込みしてるみんなのとこ明るいんですよね」

遠くに見えるほのかな灯りが、いっそう淋しさをかきたてて。

「そうそうそう(笑)〝誰か見といてくれよう〟っていう。誰か見といてくれて、大笑いしといてくれりゃあね、それはそれでいいけど、ひとりで〝ララ……〟って言ってんの、淋しいですよ、アレは。アレは完全に淋しいです」

誰かが置いたままの器材につまづき転んだとか。普段なら〝誰がここ置いといたんや――!!〟と怒るところを、痛さと淋しさのあまり「怒る元気もなかった」そう。

「[④]運転して帰るのに、片手動かなかったですから」

そこまでになっていながら、その後もへーゼンとレコーディングを続けた無謀さはいかばかりか。

「痛かったけど、まさか骨がイッてるとは思ってなかったですからね、〝ヒゲとボイン〟ともう1曲〝車も電話もないけれど〟を叩いたんですよ」

一説には、転んだその時点では大丈夫だったのが、無理してレコーディングしたせいでヒビが入ったとも言われている。

「病院行ってレントゲン見た瞬間に〝もうダメだ〟と思いました。〝コレは痛い〟と思いました」

よって、西川さんがいちばん楽しみにしていた「黒い炎」のドラムは、奥田さんにチェ[⑤]ーンジッ。

「いちばんオイシそうなリズムの〝黒い炎〟を弟子にとられた」(笑)

〝飼い犬に手を噛まれる〟とは、まさにこのことなり。

「このことですよーって、別に手を噛まれたわけじゃないですね。俺、タミオに電話して〝ずいませぇん、やってくれん？〟とか言って」(笑)

以来、「落ち着いて行動しよう」という気にはなったというが、最近の西川さんを見ていて〝落ち着いた〟とはちっとも思えないのであった。

他に反省はないですか？

「他に反省……あんまりないでねぇ。反省ねぇ……んー、15年前に基礎練習やっときゃよかったなぁと、今になって反省してることはあるんですけど(笑)あとはないですねぇ」

ユニコーンの人、[⑥]みんな反省しないみたいですね、と言うと「現代っ子なんじゃないですか？」

あえて言うまでもなく、西川クンは現在32歳である。

「でもね、ライブの反省とかはちゃんとするんです。俺、日記つけてますからね」

初めて知った。西川クンが日記をつける人だったとは。しかも、内容も詳細!!

「〝[⑦]◎・♡・△・×〟」

ウソでしょー!!

「いえ、書きます。で、〝(ナニがどうした)〟とか」

ビックリ。たじたじ。さすがリーダー。

「取材でよくあるじゃないですか。〝今度のツアーを振り返って〟っていうの。やるでしょ？ [⑧]どうせ。そんときに便利かなぁと思って」

どうせ(笑)きっと、やるだろう。

「あとね、'91年[⑨]はもうちょっと取材もやりゃあよかったかなっていう反省[⑩]はあります。ユニコーン、取材少ないですからね(笑)もっとパァーッとやるべきだったたってみんなで話し合ってるんです」(笑)

アベヨシハル大反省。

失敗多し。「でも僕は好きなんですよ、自分の性格が」

[1]「反省はしないことにした」んだそうだ。なので、「強いて挙げるとするならば」と、阿部さんは前置きしたのであるが、ボロボロ、ボロボロ、出るわ出るわ。いったいどこが〝強いて〟なのだろう。

「最近で言えばね、こないだササジーズ[2]のライブにちょっと出たんですよ。僕が18歳の頃からお世話になった方々のバンドで歌わせて頂くという立場で」

西川「それ、立場忘れちゃったの?」

「うん、忘れてしまってですねぇ。歌ってる途中でキレまして、みんな真面目に演奏してるのにダイビングしてしまったという。そこでちょっとヘンなムードになってきたのが、まずあって」

ちなみに、そこには奥田さんもいらっしゃった。

「奥田サンはそのへんうまいんで、おとなしくして」(笑)

奥田「オマエが飛んだ後、俺も飛べるか、オマエー」

西川「普通は察知するよ、そういう雰囲気は」[3](笑)

「でね、そのダイブでけっこうキたかなっていうときに、僕のMCだったんですよ。そこで何も考えてなかったので、いつもの調子で〝ピラフとグラタンが合体した食べ物はなんですか?〟って話をしたんです」

……その先は恐ろしくて聞けないような、聞きたいような。

「で、お客さんは〝ドリア、ドリア〟とか言ってんですけど、一応坂井さん[4]にも言ってもらおうと思って、〝なんですか?〟って聞いたわけ。ちょうど坂井さんはチューニングしてたんだけど、僕は全然知らなくて、〝ドリア[5]〟つったら(空手チョップのアクションで)〝ドリァッ、ドリァッ〟てやったわけ(笑)そしたら〝俺はチューニングしてるんだ!!〟て怒られちゃって」(笑)

トホホ……。一途な阿部さんゆえの失敗、それも大失敗と言えよう。

奥田「本気で怒ってた」

西川「サーッて、退いちゃったんでしょ? シーンとかして」

ま、反省すべき出来事ですね。

「ソレ、反省です」

阿部さんをかばうわけではないが、一生懸命やろうという気持ちから出た行為ではあったはず。

「でもまあ、人をムカつかせたってことは、よくないことじゃないかと」

他に何かありますか?

「えっ、他にぃー?」

奥田「いっぱいあるやないか」[6]

「(笑)なぁに、あったっけ!? そんなにー」[7]

ケガしましたよ。

「あっ、今年」

失神もしたんじゃなかったですか?[8]

西川「あー、それは違う。失禁だ、失禁」

「失禁でしょう?」

自分で言う。(笑)

「失神はしてないですけど、脱臼がねぇ。アレもご迷惑かけましたよ、ホントに」

また、反省。

「僕がちょっと図に乗りすぎて……これもですね(笑)飛び蹴りして脱臼してしまったという」

よかれと思ってやることが、なぜに裏目、裏目に出てしまうのか。

「やりすぎちゃうってところが、僕いつもあってねぇ。」

「なんとも悲しい性格ですよね」

聞いてるとホロリときちゃう。

「ツハッハッハッハッ」(←EBIクンのステレオ笑い)

「でも僕は好きなんですよ? こういう性格が自分では」

なるほどね、と話がまとまりかけたところへ「神戸[9]の会館で暴行を働いたのは阿部一人だっけ」と原田さん[10]。あわてて阿部さんが「脱臼してたらそんなことしないんじゃないかな」と言ったとたん。

「違うっ、いきなり病み上がりの一発だっ!!」

と奥田さん。

「ふはははははっ。脱臼が治ってですねぇ、調子に乗ったワタシは(笑)神戸国際会館のアナウンス・ギャルが開演前のスピーチをやってるところに行って、頭を後ろから〝うりゃあっ〟て押したんですよ。そしたらマイクに額がぶつかって〝ボコッ〟て鳴って」(笑)

原田さん「それも何度もねぇ?」

「一度だよぉ!? 一度、一度」

原田「ウソつけー」

「あ、椅子引いたかもしれない」

(一同)ダー!!(笑)

そういうことを世間では〝セクハラ[11]〟と呼んでいる。

「でもだって、かわいいイタズラ[12]じゃないですかぁ…。あとはねぇ…」

〝あとはねぇ[13]〟って、まだあるか!?

①「考え込むほうだから」②阿部さんのお師匠さん、笹路さんのバンドが神戸チキンジョージに出演。③確かに。④ササジーズのボーカリスト。⑤あげく首もとに。⑥ホントーにいっぱいあるのだった⑦ブルース・リーで脱臼、ツアー延期に。⑧アタクシのカン違い。⑨〝嵐のケダモノTOUR〟のat神戸。⑩西川「いや、わからんで?」⑪「セクハラ男!!」の大合唱。〝セクシャル・ハラスメントNo.1〟と命名された。⑫「××するわけじゃないし」——××って…書けない。⑬まだあった。

①だって、反省なんてないって顔してるもーんね。②「確かに!!」と言う奥田さんの賛同も得た。③ソロを出してＥＢＩクンは積極的になったと一部で評判。④でもそれがアダになったりもする。⑤"an an"だって出た。⑥アルバムの選曲会の前の晩、あわてて書いたのが「黒い炎」⑦「レコーディングに飽きたみたいね」と発言。⑧ただし、あくまでも個人の意見。⑨香那が小学校に上がる頃は確実に週休２日。「土曜に泊まって日曜に帰ってくりゃいいもんね」と、今から旅行を楽しみに。

UNICORN 1991

あえて反省点を挙げるなら、オフがなかったことですよ。

ホリウチカズシ 大反省。

エビ

もちろん、EBIクンにも反省はない。反①省なんか、あるはずない。

「ン–、なんかあるかなぁ、ン–……」

やはり何も出てこない。そこでアタクシは、さしでがましいとは思いつつ、ひとつのテーマを耳元で囁いてみた。

(小声でこっそり)"ソロでハシャギすぎた②"っていうのはどーお?

「ツッツッツッ」(←声にならない笑い)

ダメ?(笑)

「すーっごい意見。(笑)"ハシャギすぎた"やっぱダメですかね。(笑)

「まぁ"疲れ"っつうのはありますね。で、その"疲れた"感じが、この操③状態を生んでるんじゃないですか?」

上手にまとめ。とはいえ、その操状態ゆえに、一部で"④EBIクンのイメージが崩れた"とも噂されていたりする。

ソロの取材でボロ出したってことないですか?

「いえいえいえ。そーんな。(笑)取材は真面目にやりましたよ、僕は」

ですよね。

「もう服もちゃんとして」

"ちゃんとして"というのは、もしやあの?

「そう『MUSÉE』仕様ということでね」

『MUSÉE⑤』の嵐吹きまくるあの頃、音楽誌を問わず、一般誌を問わず、ありとあらゆる雑誌で幾度EBIクンの華麗なスーツ姿を見たことか。

「いろいろとね、気苦労も多かったですよ」

気苦労——そりゃそうだろう、大御所達との対談の数々よ。

「鈴木慶一さんとかねぇ、高橋幸宏さんとかねぇ? 一生懸命やりましたよ、僕は。反省なんて、むしろ"よくやった"と言ってもらいたい」

(即座に)よくやった。

「ッハッハッハッ」(手を叩いてよろこぶ)

ところが、ユ⑥ニコーン。ソロで大活躍がために、忘れられた(?)ユニコーン。

「そうですね。そういった意味ではユニコーンに対してちょっとね、反省点はあるんですけど。んー、なんかホント'91年1年は自分のことに重点置いてやったことがいちばんで、ユニコーンのアルバムも出したことは出したんですけど、自分の中ではソロが中心になってしまった。それはやっぱ反省してるところあります」

じゃ、'92年はユニコーンのアルバムに焦点合わせて。

「もう、じっくり。レコーディングからどんどん参加してね、納得のいくものを作れたらいいな、と」

そう言っておきながら、「ライブ・アル⑦バム出したいなぁ」

なにおーっつ。ライブ・アルバムじゃ、作るもなにも、演奏したのを録ってもらうだけではないか。プンスカッ。

「いや。(笑)"EBI⑧が思ってる"みたいな」

「でもホント'91年は忙しかったからねぇ、まぁワケがわからないうちにこの1年が終わりそうで……無理もないかなと思いますね。だから、あえて反省点を挙げるなら、オフがなかったことですよ。'92年は、もっと休まなきゃいけないなと思いますね」

ときに、休むとなればどのくらい?

「2~3か月は休みたい」

積極的ですねぇ。

「ッハッハッハッ。やっぱね、⑨人間は充電する期間がないといけませんよ。学生だって週休2日ですからね、もう」

毎年、「来年は休む」と宣言して、ちっとも休まないことで有名になりつつあるユニコーンさん。今度こそ本当か!?

「ボーッとしたいんですよ。今までずうっと4年間ね、ライブやって、レコーディングやってってきたんで、ここらへんで、3月にツアーが終わったら、ひと区切りという感じでね。で、充電することでいいものを蓄えて、また新鮮なものをユニコーンに放出するという」

すなわち"'92年は休む"——これがEBIクンの、ひいてはユニコーンさんの目標となるわけで。

「'92年は、他の人のソロ活動があってもいいんじゃないですか? きっと話があれば阿部もやるだろうし、タミオもやったら面白いと思うんだけど」

もしも、メンバーのうちの誰かがソロ・アルバムを作るとなれば、その間、EBIクンは「夢」とまで言う長いお休みをのんべんだらりと過ごす予定。

「家族サービスもできるだろうし、自分の好きなことをやる時間がずっとなかったから、それもできるだろうし。車とか乗りたいですよね。仕事のために乗るんじゃなくて、ゆっくりと」

なんだか1月号の続きのようになってしまったのだった。

テシマイサム大反省。

UNICORN × 1991

車なんか、いつも反省してるのに痛い目にあうんです。

そりゃね、言うと思ったたよ。思ったけど、いきなり「反省はないっす」って、そんなミもフタもない。

全然ないですか。

「まったくないです。もう1分1秒を生きるべくして生きてますから」

シ①―――ン。

「②シーンとなったじゃないですか」(笑)

アタクシのせいじゃございません。

「反省なんて、自分でこう、細々としてりゃいいんですよ。別に口に出して言ったからって、なんだっつうわけでもないし」

というと、自分の胸の内ではしてると。

「そうそう。自分の中ではすることいっぱいあります。ありますけど、③それは人に言うようなことでもないっていうか」

誰に話すでもなく。

「まあ、そうですね」

いつも自己解決というタイプの。

「そうですね」

そんな人なんですね。

「そうです」

へぇー。

「よくわかってるじゃないですか」(笑)

ありがとうございます。しかしながら、返答しないゆえに痛い目にあうということもままあるわけで。

「④それは……車だなっ」

(なぜか周辺大爆笑)

「車なんか、いつも反省してるのに痛い目にあうんです」

トーゼン、この日もテッシーさんの車は修⑤理中。某高級国産車を代車として乗り回す日々であるが。

「自分のが壊れたらねぇ、他の借りりゃいいけど、この国産車まで壊れたらどうするんだ。ていう事件が今日あってですね」

まーた壊れたんですか!?

「いや、壊れそうなんです」

「それ、なんか出してんだ、テッシーが。オーラ、ブンブンって」

と言う阿部さん。

「絶対だよ。このへん磁気が出てる、磁気が」

と言う奥田さん。

まぁ、比較的よく壊れてるみたいですよ。ねえ、とアタクシも恐る恐る言ってみる。

「家、出かけにプッとねぇ、切れたんですよ、エンジンが」

笑うに笑えず。

「で、なんかバック・ランプがついて。で、かけ直したら修りました」

よかったですね〜〜〜。

「⑥でもこの渋滞ですよー」

遅刻しちゃいましたね。

「んー」

今日は反省してないですか?

「今日はもう反省の色がありまくり」

ハハハ……。

「もう2時間早く家を出ればよかったんです、俺が。ねっ? そういうことです」

メンバーの中でいちばん遠く、うーんと遠くに居を構えられているテッシーさんなのだ。移動時間もたくさん、たくさ――んかかってしまうテッシーさんなのだ。

「今日は見事に2時間半かかりました」(笑)

お家、引っ越さないんですか?

「引っ越しません」(キッパリ)

都心に住む気はないですか?

「ないです」(キッパリ)

背後で奥田さんが⑧「俺も遠くに行くぜっ」との声に続いて「俺も」「俺も」「俺もー」と、ワラワラと。好きなところに行ってください。

「あっ、あった、反省。金、使いすぎた」

何に使ったんですか?

「いろいろっ。まぁ、楽器ですね」

しかして楽器はミュージシャンの商売道具。'92⑨年2月に、必要経費として申告できるのではあるまいか。

「⑩でも奥田クン、領収書くれないから」

買った楽器の中に、奥田さんのミキサー卓もあり。

そういえば、エアー・ガンなんていう浪費もありましたっけね、テッシーさん。ねぇ?

「そうそう。ハイランダー買ったな。でもアレは反省してないです、全然」

するとまたしても背後で、今度はEBーくンが「いや、そのハイランダーで俺を撃ったっていうの〝反省〟」

「しまった……」(笑)

「根に持ちあげっ。んーはっ」と、奥田さん。

「よほど言いたかったと」と、阿部さん。

「いや、俺の銃ね、ある距離を置いて、そこまでは痛いんだけど、そっから先は痛くないのね。で、その限界に⑪EBーがいたんだな」(笑)

お気の毒と言うしかない。

「EBーを撃ったのは、ちょっと反省に値しますね」

「ない」と言いつつ、これだけあったらもう十分、なんちて。

①先の発言に周囲の人間が絶句した。②と思ったら「え？ 弁当食ってるだけだよ」と奥田さん。③でも言っちゃうの。④テッシーさんの立派なアメ車はしょっちゅう壊れる。⑤走っているときより修理しているときのほうが多い。(ウソ) ⑥雨で都内は大渋滞。⑦サウンド・チェックに大遅刻。⑧ユニコーン大移動の計画アリ。⑨確定申告の月。⑩奥田「あっ、忘れてた!! 領収書ってどう書けばいいの？ 〝俺え〟って書けばいいの？」⑪阿部「マジで痛がってたよね」(笑)

オクダタミオ大反省。

「反省はしないが、後悔はする」。それが奥田民生さん。

①麗蘭の人。②つまり奥田さんも「えーん」と言っている。③見えるのだとすれば、ね。④嘲笑。⑤コイツには何も言いたくないという沈黙の３秒間。⑥「これ見てみ」とわざわざ見せびらかした。ケガを自慢するという子供の行為。⑦ローリー寺西様のいとこ。ローリー様はこの番組を狭いアパートでコンビニの弁当を食べながら見ていて、わびしさに泣いた。⑧原田さん「ＴＵＢＥのＴシャツはシャネルなんだから」(ウソ)⑨「俺ら見て拍手しながら〝ウォンチュッ〟て言ってたもん」一あのね。

「反省はしないが、後悔はする」

それが奥田民生さん。①アタクシはかつてこれと同じセリフを、かの仲井戸〝チャボ〟麗市氏から聞いた。

「ふふふふ。で、〝えーん〟って言ってるだけなんでしょ？　要するに」

そのようでした。

「だからといって打開したくないわけでしょ？

そのようでした。

「②僕もそうですよ」(笑)

いわば〝なし崩し的人生〟を送ってらっしゃると。

「でも、僕はなんかやる前にけっこう悩みますよ？　で、それも一応、周りから見れば流れで行ってるように見せて」

それが狙いどうりに見えているのなら、③アナタはスゴイ。

「見えてるのだとすれば、僕はスゴイでしょ？　ねっ」

戦略家なんですね、と言うと「危い男なんですよ」

④ワハハハハハ――ッ（なぜかバカ笑いする宇都宮）

「〝信長の陰謀〟と呼んで下さい」

酔っ払ってケガしたのは反省じゃないんですか？

「反省じゃないですよ。だって、アレはだってねぇ、大変なことをやってしまったおかげでなったんじゃないですから」

酒を飲む→酔っ払う→暴れる→ケガする。普通の人はこの経過を逆にたどって、その原因を反省するのだが。

「あんなのだって〝あー、なんでアレぐらいでこんななるんだろう〟っていう、思いでしょ。〝おかしいなぁ、打ちどころが悪かったなぁ、っていう」

⑤……痛かったですか。

「その日は痛くなかったのよ。ほんで3日目ぐらいから〝あら、痛てーっ〟と思ってたらだんだん、だんだん痛くなってきて。ズキッとかきて歌も歌えない」

おかげで大阪、名古屋のライブは苦しまぎれのボーカルだったという説もあれど、それでもやっぱり反省しない。

「なんかで腹筋痛いときに笑うときの感じあるでしょ？　だからといって笑いは止められない、あの状態ですよ。〝あ、痛ててっ、痛ててっ、どうしたらいいの？〟そういう」(笑)

完治したのが一か月後。つまり、最終日の横浜アリーナまで持ち越したわけで。

「あんときもまだテーピングしてたもんねぇ？⑥アレはがすときが痛いんだよ、また。テープを」チリチリチリ……ってねぇ。

「クルクル、クルクル…とかね。(笑)〝あーっ〟ていう」

なにか反省ないですか。

「反省ねぇ……あ、あのねぇ、こないだフジテレビの『ヒットパレード』でねぇ、ビンボーくさい服を着て出た」

司会が徳光アナ、堺正章、出演者が工藤静香、ＷＩＮＫ等々のゴーカな番組だったとか。

「で、⑦槇原くんも出てたのね？〝槇原ぐらいだろ〟と思ってね、こう物理的には。そう思って出てみたら、もうごっつうビンボーくさかったの、俺ら。みーんなで。死ぬほどビンボーくさいんですよ、なんか知らないけど」

衣装というものを持たないユニコーンのみなさん。いつでも、どこでも普段着なのが敗因か。

「いや、でもよ？　Tシャツに半ズボンとかだけだったら、ステージのスタイルじゃないですか。ねぇ？　そしたら逆にビンボーくさくなかったかもしれないんですけど、普通に上着とか着てたん…これが(笑)これがどうもこのクソビンボーくさくて」(笑)

本来なら、洗いざらしのTシャツは洗いざらしだからこそいい。が「テレビではそういうの通用しないんだなっていうのがわかりました。だからたとえば⑧TUBEとかもいいかげんな格好して出てるけど、アレはちゃんとしてるんです」

「もうWINKなんてゴッツいよ？　格好」

ゴッツいって？

「コタツみたい」

なんじゃソレ。(笑)

「ホント、ホント。カーペットみたいなっつーか。電気毛布みたいにスイッチがありそうな格好してた」

ユニコーンさんは何を歌ったんですか？

「〝ヒゲとボイン〟ですよ。〝うわーっ〟ブチかましてきましたよ。もう俺らのパワーに影響受けて、次に歌う堀内孝雄さん気合い入ってたもん。〝うりゃあ〜〟とか言ってたもん、ホント」

堀内孝雄が〝うりゃあ〜〟――とか言うわけない。

「マジで、マジで。燃えてたんですよ。〝ウォンチューッ〟かなんか言って、叫び声をかましてあげてきました。⑨きっとアレは僕らを見て燃えたんだと思いますよ」

●また巡って来ました、NG写真の季節。決めが少ないことで有名なUNICORNさんの写真から厳選した、特にハズした41枚。

▲なぜかオクダくんの背中をかくテッシー。

▲本日も過度にサワヤカEBI君。

▲テッシーさんが見えませーん。

▲本気で痛がってるように見える西川くん。

▲そんなにコカンが好きかね。

▲何げなくアベが痛がっている。

▶コーコツとした瞳。あげくヒゲで年齢不詳。

▲若僧アベとナイスミドルEBIの静かな敵意。

▲EBIくんの足、テッシーさんの髪、アベ、オクダの表情、キマったと思ったら寝てたの、西川君。

▲取って食いそうな激しい下心を露わにしたスバラシー演技力!?

▲若僧アベ、ついに攻撃をしかける!

▲ハナからヒゲをはやしたオクダくん。でも西川くんがね……

▲なーんか手がヘンなところへ。

▲だーれ? ボイン攻めてるの。

▲積極的なEBIさまざんしたっ。

▲ナイスミドルEBI、パイプ使うなんて…

▲犬になつかれまくっているオクダくん。"遊んでってくれよー"。

▲絶対本気のアクビと見たぜっ。

▲なんせソロ作った頃だからね。

▲ソロ作ってる頃だからねぇ…

▲御覧下さい、としか言いようのない……

▲オレは花形満、星くん、見たまえ、オレのコカンを……

▲"いてもたれーっっ"ひたすらやられまくりの我らが奥田くん

▲アベ、西川そしてっ、テシマ。なぜか目がでかああ〜〜いっ。

▲歯を出すEBIくんファイトッ。

▲頑張れEBIくんガッツでベース。

▲カッセー、カッセー、E〜〜BI。

▲おデコを出したのは何のため。

▲物販のペンダント、ヨロシク。

▲まったくコカンの好きな……

▲何想う!? 妙に息の合う2人。

▲あらぬ方向を見つめるアベ、オクダ。しかし寝てるEBIが……

▲アベがいないことより、本気で寝てる西川くんよりEBIの笑顔。

▲何よりもやはりEBIさんの口もとからアゴにかけてに注目!

▲奥田さんのオリジナリティーと冒険心あふれる着こなしに拍手。

▲テッシーさんのアゴにカコ〜〜ォォン

▲じっと玉を見つめるイサム

▲やっ、今度はボーリングに挑戦かイサム

▲憔悴の仕方にも個性が光るようですね。

▲だからさあ、マジメに撮影してるんですよ、みなさんは、マジメにさあ。

▲『MUSÉE』売れますよーに。

ユニコーン界の生き辞引き、原田公一による

UNICORN【大百科'91】

文、監修●原田公一

●この事典はUNICORNの大マネージャー、原田公一御大によって著わされたものです。UNICORNの一部が詳くわかるようになっている便利な事典。著書の私情が多分に盛り込まれているのも、特徴です。

A

【阿部義晴】 ユニコーン界の切り込み隊長。ウケないときは阿部くんがヒサンなことになるし、ウケるときは阿部くんが盛り上がる

【アベB】 死語。ファンの間では使用頻度多いが、バンド界では死語。年に1回ぐらいレコーディングで会う笹路さん（アレンジャー）やマイケル（ディレクター）だけは今だに"アベB"と呼ぶ。もともとは、阿部が2人いたので、後から入った阿部くんが"アベB"と呼ばれた。

【アベ・リー】 嵐のケダモノツアーにいた。ツアー最終日札幌で死す。

【アベQ】 "舞監なき戦い"ツアーが始まるまで、アベ吉川（きっかわ）は実はアベQだった。洗面器を被って白いシーツを被ってアベQ（＝オバQ）になる予定だったが本人が強力に拒否。

【アベルビスプレスリー】 阿部とエルビスプレスリーの造語。'89年の服部ツアーの後半、矢沢永吉を経て辿り着いたロック界の大御所。

【アメリカ帰りで独身】 NY好きの私がモデル。最近では"浩宮が早いかオレが早いか"がログせ。

【アメリカ】 ユニコーンの曲によく出てくる。が、なぜかロンドンなどヨーロッパの地名は全然出てこない。

【ALL MAN BROTHERS BAND】 西川くんが好きな70年代のバンド。'92年2月に来日。

B

【THE BEATLES】 奥田くんのフェイバリットバンドのひとつ。'92年に復活の噂あり。

【ボーリング】 ツアー先で最近こっている。時々ボーリング大会をやり、負けたメンバーはコンサート終了後、スタッフと共にバラシをすることもある。

【バリ島】 「奥田民生ショウ」参照。

【ベース】 堀内くんの担当楽器。フェンダーのプレシジョンベースのブルーのものを使用。ピックガードは特注のミラー仕上げ。

【貧乏】 ユニコーン・ツアー・スタッフの中で最も貧乏なのは、ビンボージョー。（ローディーのチーフ、横沢ジョーくんの愛称）いつもメンバーおさがりのTシャツを着ている。'92年大石さんと結婚の予定。

【ブーツ】 手島くんの衣装。今や体の一部。牛革製のはき物。たまに魚製あり。赤、緑、黒、白多数。

【BOOM】 ユニコーンのデビューアルバム。今は無きアロナグ版のジャケットが懐かしい。歌詞カードの写真は、超笑える。

C

【CAP】 奥田くんの肉体の一部と化した。各地のスケボーショップにて購入。本人はカープの帽子がいちばんのお気に入り。

【CARP】 5人のうち4人が強力に愛するプロ野球団。'91年度、セ・リーグのリーグ優勝を果たす。日本一にはなれなかったが、'92年に期待。

【チャカさん】 PSY・Sのボーカリスト。デーゲームなどのレコーディングに参加。

【CSA】 シーエスアーティスツ。御存知ユニコーンの事務所。

【CATERさん】 ケーターする人のこと。楽屋で食事を用意したり、衣装を繕ったりしてくださる女性。各地のイベンターさんが手配してくださる。たまに超気のきかない人がいるのも事実。

D

【電気GROOVE】 最近、奥田くんが気に入っている日本のラップバンド。奥田くんいわく、"詞がすごくいい"とのこと。

【デンちゃん】 向井美音里（本名・堀内美音里。元ユニコーンのキーボーディスト）の愛称。高校時代に、「あっちこっち丁稚（でっち）」という番組に出てくるデンジロウという犬に似ているということからこう呼ばれるように。

【デコちゃん】 マネージャーの銀ちゃんの奥さんの愛称。ちなみに銀ちゃんは"うちのヨメ"と言う。

【デーゲー（DEGE）】 『服部』～『ヒゲとボイン』までのジャケットデザインしたデザイン事務所。ムを付けるとあの手島くんの名曲となる。

E

【E・YAZAWA】 アイドル。

【EBI】 高校時代からARBが好きで、"ARB、ARB"と呼ばれていたのが、EBIになってしまったユニコーンのベーシスト。現在ソロ歌手としても活躍中。

【EDEN】 EBIくんのソロのビデオのタイトル。2曲入り。

【ENGLISH】 '92年、奥田くんの最大課題とされている英会話。果たして、世界進出なるか!?（なるわけない）広島なまりの英語が'92年の年末には聞けるであろうか？

【江戸っ子連合】 '91年2月ごろ、神戸近辺をツアーした過激ロックバンド。バンド名は『踊る亀ヤプシ』のアシスタント・エンジニア、エド・コレンゴさんからもらった。

F

【ファン】 なくてはならないものだが、時として……。"パラードの手拍子や「家」や「幸福」をメンバーと一緒に合唱するのは歌い辛くなるのでやめて欲しい"ときっとメンバーは思っているだろう。

【F1】 奥田くんの中嶋好き、阿部くんの亜久里好きも困ったもの。阿部くんは亜久里と同じジャンパーを金沢にて購入。ツアー後半のキャラクターが亜久里になる可能性あり。

G

【銀ちゃん】 ユニコーンのマネージャー。世界でいちばんよく喋る。デコちゃんの夫。

【G・H（ゲーハー）】 音楽業界用語でハゲのこと。すなわち私の愛称。鮨業界用語では、"ヒカリモノ"となる。

【ギター】 手島くんと奥田くんの得意な楽器。たまに阿部くんも弾くことがある。

【GUILD（ギルド）】 ギター・メーカー。手島くんのアコースティック・ギターはこのメーカー。ちなみに彼のは山下達郎モデルだ。

【GRETCH（グレッチ）】 ギター・メーカー。奥田くんと阿部くんが、NYにて購入。2人とも赤を買った。ビートルズが愛用していたことで有名である。

【GIBSON（ギブソン）】 ギター・メーカー。奥田くんが'91年に購入したレスポールは450万円。

H

【HEY MAN】 サビの部分で、私の愛称を合唱することで有名なユニコーンの曲。私がマネージャーになる以前に作られた曲にもかかわらず登場人物のルックスは私にソックリ。

【へーちゃん】 CSAの専務取締役。温厚な紳士である本名平郡（へぐり）泰典。

【星野楽器】 手島、奥田、EBIくんのイバニーズ製ギター、西川くんのTAMAドラムをモニターさせていただいている楽器屋さん。わがまま言って申し訳ありません。

【服部】 ユニコーンの3枚目のアルバム。服と部が合体してハットリと読む。これ珍なり。促音便もまたおかし。

【ハットリ・トリトリ】 森高千里 作詞、奥田民生 作曲、ユニコーン&森高 歌唱による幻の名曲。'90年の夏、大阪、安治川イベントでのみ演奏された。

【ヒゲとボイン】 ユニコーンの7枚めのアルバム。ヒゲとボインと宇宙というこれまでになく判り易いシンプルなテーマを持ったコンセプト・アルバム。

【HAVE A NICE DAY】 ユニコーンの6枚めのアルバム。

【原田さん】 本名原田公一。37歳独身。メンバーより目立つルックスをしたユニコーンのマネージャー。このページの書き手。

I

【家】 『ヒゲとボイン』の中の名曲。コンサート中この曲を合唱などせず、歌詞を味わって下さい。

【市井】 イチイ・デチューという外人が初代ユニコーンのマネージャーであったものだった。

【伊藤しゃん】 （機材運搬）ユニコーンのトランポのドライバー。テレクラ業界で有名。

【イバニーズ】 手島くんのギター。あのスティーブ・バイもイバニーズ製の7弦ギターを使っている。米国では"アイバニーズ"と発音。

J

【J-MEN】 （ジェイメン）千代田線のジゴロであり、"舞監なき戦い"ツアーの舞台監督代理である。その姿はビデオ『嵐の獣』エンディング、及び冒頭のブルース・リーコーナーなどでも見ることができる。

【ジェラシー】 ユニコーンの元・舞監。某アーティストのツアー中に失

蹤。"舞監なき戦い" ツアーサブ・タイトルは "ジェラシーを探せ!!" だった。

【JOEBLANDY(ジョー・ブレイニー)】『踊る亀ヤプシ』、『ハヴァ・ナイス・デー』のエンジニア&プロデューサー。キース・リチャーズ大先生、プリンスのエンジニアとして有名。私とは9年来の友達。身長195cm、笑うとモノスゴイ。N.Y.ウエストビレッジに生息。米人。

【J(S)W ジュン・スカイ・ウォーカーズ】友達の少ないユニコーンの心の友。スタッフ同士も仲良し。

K

【KEYBOAD(鍵盤楽器)】ユニコーンでは阿部くんと手島くんが担当。コルグSG-1、E-max等を使用。

【恋人】欲しい。

【ケージ】向出敬二ともいう。"舞監なき戦い" ツアーの舞監代理をJ-MENと共に兼任。S×G×G(スパークスゴーゴー)の舞監としても有名。C.S.A所属。金沢では燃えた男。

【ケダモノの嵐】4枚目のアルバム。

【毛】私を始めとするスタッフ、メンバーみんなの話題となる。上にしろ下にしろ気になるモノだ。

【カルビ】奥田くんの大好きな焼肉の種類。GREG KALBIというマスタリング・エンジニアがN.Y.にいて、『踊る亀ヤプシ』と『ハヴァ・ナイス・デー』をマスタリングしていただいたものだった。

【香那】EBIくんの娘。近頃よく動き回るようになった。ガキのくせにL.A.にもハワイにも行ったぜいたくなヤツ。J-MENに妙になついている。

【きみの男】奥田くんがヒデキ・サイジョーに書いた曲。男シリーズの一環である。

【カッタン】片山くん。広島のバンド、"ギャメル・バック" のリーダー。元スタジオ・スズヤの社長。ちなみに元副社長は奥田くん。

【カメ】ツアーの照明、THE ROCKの淵上くんの愛称。最近ツッシーとストロベリーズというチーム(何のチームだ?)を組んだらしい。

L

【LINBO(リンボー)】地獄の辺土のこと。ユニコーンの曲名。先日来日し、奥田&西川くんと対談したサンフランシスコのバンド、リンボーマニアックスは、訳すと "地獄の狂人" というモノスゴイバンド名になる。

【ロンドン】奥田くんが生まれて初めて行った外国。相当ヤラれたらしい。プライベートな写真を見たことがあるが、いずれも暗い落ち込んだ表情をしていたものだ。

【ルー大池】ソニー・レコード社員。マイケル河合のアシスタント。元・東南西北(トンナンシャーペー)のドラムス。ジャッキー吉川ばりのドラミングは聞く人をなごませる不思議な魅力を持っていた。尾道(オノミチ)人。

M

【マイ・シャローナ】偉大なる一発屋ザ・ナックの唯一のヒット曲。阿部くんがライブでカバー。'91年夏、L.A.でのユニコーンの公開リハの際、突然演奏され、外人スタッフも眼を白黒させていた。

【南佳孝】私が、ユニコーンの前に担当していたアーティスト。現在シビックのCMで "ウォンチュー" と流れていて、超懐しい。あれは12年前、ジョンが撃たれた頃流れていたものだった。

【マイケル】本名・河合 "マイケル" 誠一。アメリカで生まれ、育ったため、ミドルネームがマイケルである。マサチューセッツ工科大学からハーバード大学に移り、次席で卒業後、帰国。上智大学に入り、F-1のテーマで有名なスクエアーのドラム担当。現在ソニーレコードの社員で、ユニコーン、プリンセス^2、ササジーズ、仙波清彦など多くのアーティストのプロデューサー&ディレクター。'90年は厄年だった。

【みやちゃん】本名、宮島哲博、サバイバル・ゲームの際はマニアックスと化す。ユニコーンの録音技師。

【MUSÉE】ミュゼ。EBIくんのソロアルバム。

N

【ナサニエル・ローソン】シカゴ・ミュージック・エキスプレス副編集長。マイケルのハーバード時代の友人で、ベトナム戦争当時、2人ともサイゴンに赴任していたため、戦場で友情を誓い合ったという。米国音楽業界唯1人のユニコーン信者。大柄な熊男だ。

【NIKE(ナイキ)】スニーカー・メーカー。奥田、西川くんが愛用。ジョーダン・セブンが待たれる。ちなみに、ボー・ジャクソンモデルもおススメだ。

【西川幸一】本名、川西幸一。愛称、ニシカワクン。ユニコーンのドラマー。32歳。長老。

【ニューヨーク】ユニコーン初の海外レコーディング、ビデオシューティングを行った都市。私の庭。

【ナベ純】ソニー・レコードの制作部長。渡辺純一氏。"ナベサン" とも呼ばれる。マイケルの上司。でかい。コワイ。

【ナカタッチ】本名、中田研一。芸名キース・コーガン。元K⊗GANSのドラマー。ハードスラッシュ・スケーターであったが、'92年ケッコンするらしい。

【中村ウンジャク】本名・中村収。ソニーレコードの元ユニコーン担当宣伝マン。暴れん坊将軍にソックリ。'92年ケッコンするらしい。

【熱血飲料】オクタコサノールを奥田は好む。最近ステージではこれを飲んでいる。

O

【奥田民生】ユニコーンのボーカル、サイドギタリスト、ドラマー。春に初の単行本「奥田民生ショウ」を出す予定。

【オナラー】本名・森山恭行(ともゆき)。サバイバル・ゲームの際、何かと歩伏前進を行うことで有名。ユニコーンの録音技師。

【岡山】私がこの原稿を書いた街。西川夫人の実家があるので、西川くん異常に盛り上がりのプレイをする街でもある。

P

【踊る亀ヤプシ】5枚めのアルバム。

【フルルーフ!】時として西川くんの発する奇声。結婚式などの厳粛な儀式の際に多く発せられる。「働く男」のイントロで有名。

【PANIC ATTACK】ユニコーン2枚目のアルバム。ジャケットの西川くんのモヒカンが見事。

Q

【クイッくん】サバイバルゲームの時使用するオート銃弾補充マシン。手島、阿部、EBI、奥田が所持。

【クォーター】手島くんはアメリカ人の血がクオリティー(4分の1)混じっている。

R

【ROCKPHONE(ロック・フォン)】ユニコーンの生の声で情報が聞けたり、占いコーナー、カラオケコーナー(このカラオケはメンバーの指導入りだ)などがある有料電話サービス。
東京 0990(30)9999
大阪 0990(311)666

「ROCKは肝だ」泉昌之さんの漫画、"ジジメタルジャケット" の源さんのセリフ。西川くんがよく口にする。この漫画から、「ザ・マン・アイラブ」の八又(ヤマタ)のタムおろしは誕生した。

【ラジオ】ユニコーンは現在2つのレギュラー番組を持っている。文化放送(1334KHz)の「ミュージック・ステーション ウシミツ時だよ全員集合!!」(毎週金曜日26:00〜26:30)と西川くんによる広島FM(78.2MHz)の「LET'S GET TOGETHER」(毎週日曜日18:00〜18:55)両番組ともあまりのリクエストの少なさに困っています。よろしくお願いします。

【嵐丸】川西嵐丸。西川くんの第一子。"嵐のケダモノ" ツアーの最中に生まれたので嵐丸。それでは次の子は舞子、戦丸か?

S

【STUSSY(ステューシー)】L.A.のサーファー、ショーン、ステューシーのデザインによるスケーター・ウェア。奥田くんもよく着るが、銀ちゃんの着ているバリ島みやげのニセ・ステューシーTシャツには笑えるぞ。

【シマテツ】西川くんと私のみが使うテッシーの愛称。

【S.M.E.】SONY MUSIC ENTER-TAIMENTの略。ユニコーンの所属するレコード会社。(今はCD会社ともいう) 20万枚以上売ったアーティストに冷たいことで有名。(来年こそ〇芝か?)

【ステージ・マネージャー】舞台監督のこと。ブカン。ブタカンともいう。かつてはジェラシー、今はケージ、J-MENがユニコーンのブカンだ。

T

【ツッシー】本名 対馬智司。ユニコーンのPA(音響)担当。ユニコーンと共に広島より上京。仙台銘菓 "萩の月" の20個踊り食いは見事だ。

【テッシー】本名 手島いさむ。ユニコーンのギタリスト、キーボーディスト。

【トランス・ワールド】ユニコーンのトランポ(機材運搬)を行う会社。今回のドライバーは千葉ちゃん、タイソン、ヒロの3名で3台の11t車を転がす。

【TV】ユニコーンの現在のレギュラーは、フジテレビ系 "ごっつうええ感じ"。毎週土曜日20時より。

【テレカ】ツアー中メンバーがいちばん喜ぶプレゼントのうちのひとつ。

U

【UNICORN】ロックな人たち。伝説上の動動。EBIクンの『MUSÉE』のジャケット右上に登場。T-REXの前身ティラノザウルス・レックスの3枚目のアルバム、タイトルから手島くんが命名。いかにも豪快な骨太ロック魂的名前である。名は体を表すという。

【植木等】大先生。彼を尊敬してやまない奥田くんは、某誌の対談で昨秋おめもじした。人生はタイミングにC調に無責任。

【Uちゃん】U也さんではない。裕次郎さん。"風速40米" はキテるぞ。

【UNTOUCHABLE】怒った時の手島くんにはアンタッチャブル!

V

【ビデオ】L.A.まで行って作った3-Dビデオが大失敗で飛び出さなかったユニコーンが満を持して制作したダイナマイト・ビデオが3月25日発売される模様。今回は3-Dコーナー有。

【VACATION(バケーション)】'92年の大半は休暇らしいユニコーン。

【VAN】阿部くんの購入したデカいアメ車。走るスタジオ、走るオフィス。そして走る♡ホテル。

【VODKA(ウォッカ)】奥田くんの好物。ウォッカ・ソーダ、あるいはウォッカ・トニック。差し入れにはアブソリュート・ウォッカ シトロンを! 超喜ぶぞー。

W

【ワカマッちゃん】御存知CSAの大社長。若松宗男様だ。

【ワォーリャー】広島の人たちがコンサート本番前楽屋でやたら叫ぶ言葉。本番前はとても楽屋うるさくて仕事の電話できない。

【WHAT'S THAT?(ナニ! それ!?)】手島くんが1日に1回は必ず使うあいさつのような言葉。どうも特に意味はないらしいのだが、慣れていてもビビる。

X

【X】今回のツアー・リハのスタジオで、隣はXさんたちが練習されていたが、あまり時間帯が合わなかった。

Y

【Y.ABE EXITING MATES】今でもあるのであろうか、一夜の盛り上がりで結成された阿部の応援団。東海ラジオ、月刊明星、ハチ▼パチというマルチ・メディア戦略による美少女狩りとの声もあり。あとフォローの無さはすさまじいものがあった。

【ヤプシ】5枚目のアルバム、『踊る亀ヤプシ』のイメージ・キャラクターとなった亀の名前。西川くんの発する意味無し話。"プルルーフ、ヤプシ!" などのように用いる。

【YS(ワイズ)】EBIくんのお気に入りのブランド。Yoji Yamamoto氏デザインのブランド。『MUSÉE』のプロデューサー、高橋幸宏、鈴木慶一両氏の影響による。

【山形】御存知、阿部先生の出身地。ついに今年からコンサートは2DAYSとなり、山形の非アベファンであるが、ユニコーン・ファンには涙の朗報となった。

Z

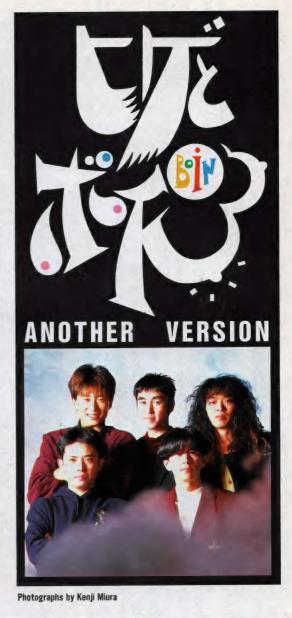
【ゾンビ】コンサート会場から脱出時、メンバーの乗って車を追っかけて来るファンの皆様。転んでもすぐ起き、また追って来るその姿がゾンビを思わせ少し怖い。危いのでやめましょう。

▲ニッポンへ行くの巻

▲フリージャズ

▲風 II

▲風

Photographs by Kenji Miura

▲Oh, What a Beautiful Morning

▲家

▲ヒゲとボイン

▲黒い炎

▲立秋

▲開店休業

UNICORN

▲車も電話もないけれど

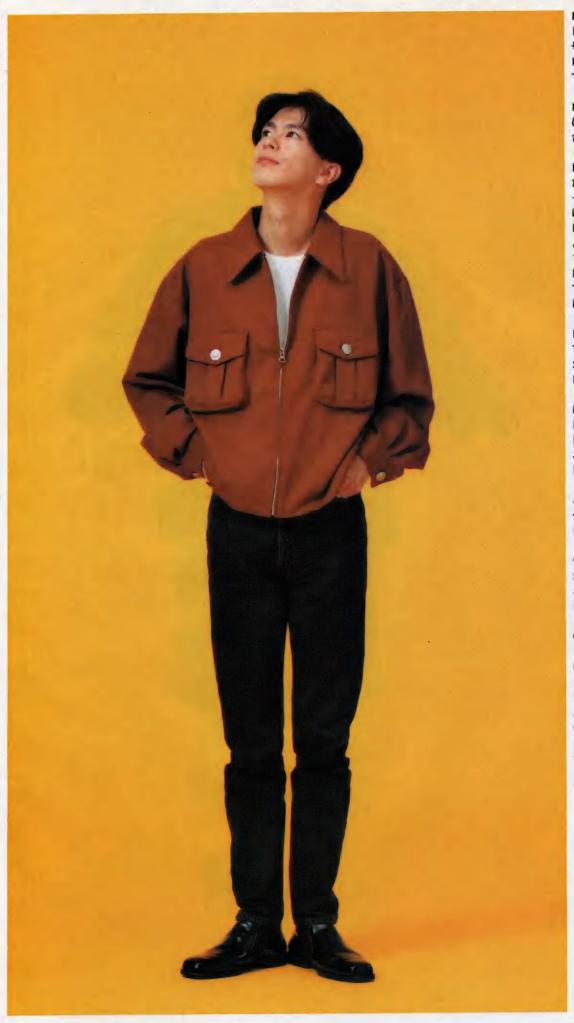
▲ターボ意味なし

▲看護婦ロック

▲幸福

●インタビューが面白いと評判のUNICORNさんです。'91年もいろんな言葉を吐いてくれました。ノリから生まれた真実(マコト)もあれば、何やら鋭いセリフもあったりで。そんな5人の金言(!?)の数々をここに抜き出してみますと…

UNICORN

▶Q・尊敬する人は誰ですか？
奥田・僕は誰でもすぐ尊敬してしまうのよ。
▶Q・神様が３つのお願いをかなえてくれるとしたら？
奥田・絶対風邪をひかんすごく強い体だけでいいっす。
▶Q・前世は何だと思いますか？
奥田・ビートルズですかね。（以上２月号）
▶嬉しいですよ。男が受け身になれる日ですからね。普段から受け身の僕にとってはまたとない機会です。（バレンタイン・デーをテーマに。３月号）
▶皆さんの知らない曲がたくさんです。盛り上がってもしょうがありません。（江戸っ子連合ライブのMCで。４月号）
▶反省点はですねぇ、ちょっと僕のドラムが少なかったですね。（ツアーを振り返って。５月号）
▶僕も「働く男」以上の曲はもう作れませんっ。（笑）
▶も、「働く男」なんてもう、〝ぐわー〟と思いましたもん僕は。作ったとき、マジで。
▶もう、コレほど人の心にバシッてくるものはないっ。ねー。僕は思ったんですよ。（UNICORNに大ヒットは生まれるか!?をテーマに。以上６月号）
▶ギャルの分際でオレらの曲をコピーしようなんざ、30年早い！
▶そうです。気合い。男の気合いが入ってるんですよ、僕らの場合。
▶プロは上手あいっていうかね、プロでもアマがいますよ、ということが言いたいんですよ、僕は。どうですか、このズバッとショッキングなこのセリフ。（笑）（バンドのすすめ）
▶騒ぐだけなんですよ、みんな。買わないんですよ。おかしいなあっ！
▶コーレが売れなきゃね、僕はもう音楽やめて〝リコーマン〟になりますよ。（ユニコーンが売れない理由。以上７月号）
▶〝散漫〟じゃないんですよ。拡がってんですよ僕らのは。（EBIくんのソロアルバムに比べて散漫だと言われて。９月号）
▶そりゃ前よりは良くなってるでしょう、ちょっとはね。でも曲作ってる段階で〝わーっ〟ていうのは「働く男」だけですから。
▶だから僕の中ではずうっとポップですよ、今までのアルバム全部。（『ヒゲとボイン』をテーマに。以上10月号）
▶顔はいい男ばっかりですから。それで言われるんならテレちゃうよ。（ユニコーンはアイドルですか？という問いに。10月号）
▶マジマジ。俺ら英語で歌ったら全米ナンバーワンよ。（ロスにて。11月号）
▶胸を打つのは「働く男」でしょ？（ワタシの名曲。12月号）

▶Q・朝起きて胸が大きくなっていたら？
EBI　ブラジャーします。(Q&A。2月号)

▶今、幸せなのにこれ以上なんてゼイタクですよね。"愛はバラまいちゃダメですね"（バレンタイン・デーをテーマに。3月号)

▶「こんばんわー、エビスです。みなさんはアリスって御存知ですか？」(江戸っ子連合ライブでアリスのカバーをして、MC。4月号)

▶××（某有名ミュージシャン）って、ローディーにフェラーリあげたんだって？　いいなぁ、オレもローディーになろうかな〜。(マジ)(ラジオの追っかけ取材の雑談で)

▶けっこうねぇ、オレらって喋ってるんだよねっ、本番で。(西川くんに「オマエがいちばん喋ってんだよ」と言われる)

▶できない？（笑）ウチのメンバーくらいですかね、理解できるのは。(EBIくんの曲について。あげく奥田くんに、「え？　理解してないけど」と言われる。以上5月号)

▶あと15年後くらいかな、大衆が追いついてくるのは。(UNICORNにヒットは出るか!?　について。6月号)

▶1人じゃないってことですかねぇ。(バンドの楽しさをきかれて。"その実、ソロ活動に余念がない"と書かれる)

▶なんかねぇ、楽しいんだよやってるのが。

▶統一感あるんですよ、すでにこの時点でユニコーンにはない統一感が。(笑)

▶なんかねぇ、向いてるみたい、だってもう次の作りたいと思ってるから。(ソロアルバムのレコーディングを始めて。以上7月号)

▶やっぱりねぇ。"これこそプロだ"って思う毎日で……　影響されるっていうより、音楽知識にしても、才能にしても、レベルが違いすぎると思ってね。緊張しましたよ、ホント。(ソロアルバムが完成して。8月号)

▶おもしろいよー。物を作っていくっていうのはね、すごい楽しい。世の中にないものを自分が作ってるわけですから。

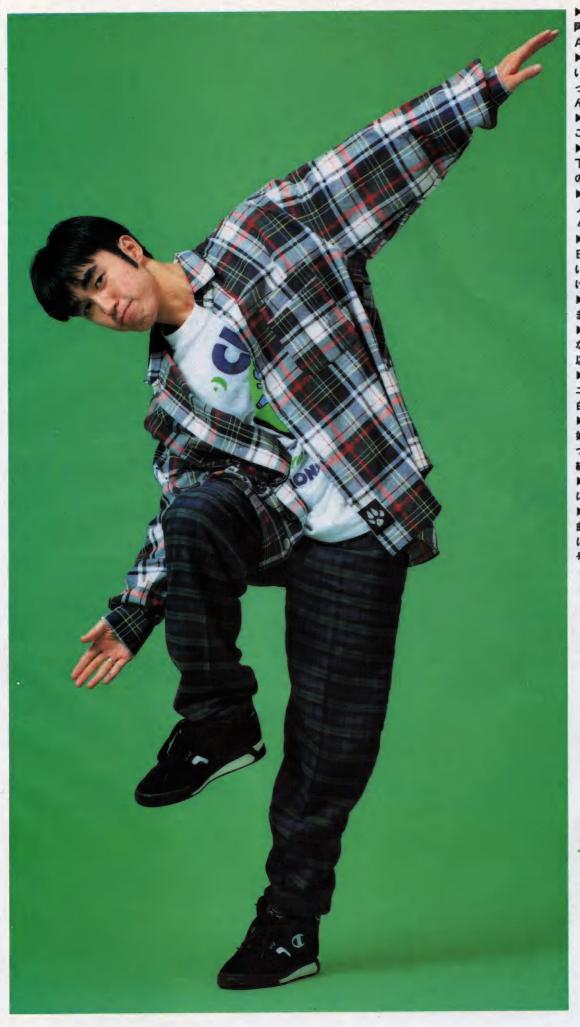
▶このバンドはいろんなことができるからいいっすよ。肩こらなくて。(笑)

▶陸上で100mやってたんですよ、中学のとき。すごい、さわやかな顔して走るらしいんですよ、100mを。(笑)(『ヒゲとボイン』のインタビュー。以上10月号)

▶「スライム・ブリーズ」アレは笑う。傑作よ。(笑) 自分にないものを出してるでしょ？　そういった意味で冒険しているわけで。(ワタシの名曲。12月号)

ニシカワコウイチの金言?!

▶Q・同性に告白されたらどうしますか？
西川・原田さんに教えてあげる。
Q・今、考えていることを、ことわざで答えて下さい。
▶西川・いい所に毛がはえたね。(Q&A。以上２月号)
▶全然違うんですよ、世界観が。人間が生まれるっていうのはひとつの時空間の営みでしょ？　宇宙全体の。それはもう偉大だと思いましたよね。
▶生きてること自体が宇宙のドラマの中に入ってるんだっていうのがわかったんです。(長男・嵐丸くんが生まれて。以上、３月号)
▶オレねぇ、ボーカルが最近ねぇ、奥田さんに……。(奥田くんのドラムが西川くんに似てきたという発言に続いて、５月号)
▶ブールスですよ。アレはブールスの……ソウルが生きたブルースです。(シングル「ブルース」を語る、６月号)
▶ホントはボーカルになりたかったんですけどねぇ。でも、負けてよかったと思います。(初めてバンドを組んだとき、ジャンケンで負けてドラムになった。７月号)
▶外で実際演奏してると、空が晴れてきたりしてね、それがすごい気持ちいいんです。で、録った音をあとで聞くと覚えてるんですよ、"あ、このへんが晴れたんだよね" とか。だから自分たちにとってライブな感じですね、すごい。(野外レコーディングの話。８月号)
▶一般大衆には受け入れられやすいよねぇ。オレら一般大衆に受け入れられてないですからね。
▶あのねぇ　アレですよ。ユニコーンが嫌いな人もユニコーンのアルバムじゃないですから。(『MUSÉE』の話。以上９月号)
▶16ぐらいで聞いてても、20歳になっても聞いてもらいたい。ずっと聞かなくてもいいけど、思い出して何年か後に聞いてくれたら、全然違うと思いますよ。(『ヒゲとボイン』をテーマに)
▶まぁスティックが折れるまでやっていきたいですね。(奥田くんに "すぐ折れるやないかー"、と突っこまれる。解散のことをきかれて。以上10月号)
▶言葉が通じりゃこっちのもんですよ。(ロスにて。11月号)
▶歌うことに関して開き直りました。ドラム叩きながらコーラスやるときも、"ハズしたらどうしようか" とかそういうことをあんまり考えずにハズすようになりましたね。(笑)(ワタシの名曲。12月号)

アベヨシハルの金言?!

▶Q・挑戦してみたい楽器はありますか？
阿部・バイオリン。高尚っぽいから。(Q&A。2月号)

▶恋愛してるからこそ地に足がちゃんと着いてられるんです。それが普通の状態であって、恋愛してなかったら何かが欠けてるんです。

▶食事と一緒ですから。人を愛するということは。(バレンタイン・デーをテーマに)

▶僕のことをこれから〝ダッキ〟と呼んで下さい。(脱臼して、肩から腕を吊った状態のころのMC。以上3月号)

▶今日はちゃんと死ぬからね。(〝嵐のケダモノ〟ツアー最終日、アベ、リーが死ぬ日に。4月号)

▶あー言えたね。前衛だもん、ぜんえー。(EBIくんが大衆がUNICORNの曲に追いくつのにあと15年かかると言ったのを受けて。6月号)

▶もうバンドは終わりですよ、ソロでいきましょう、みんな。

▶ギャルなんだから。アイドルか、女優になるか、モデルになる。(バンドのすすめ。以上7月号)

▶……聞くなっつーの!!(笑)(ノリPとユニコーンと、どっちのレコーディングが面白いかきかれて。8月号)

▶コレ聞いてEBIを好きになって、その好きになったEBIクンのバンドだからっつって……(全員が「ユニコーン買う」と続ける。『MUSÉE』のすすめ。9月号)

▶なんかやるためのテーマ・ソングみたいになってったよ、なんかね。(笑)

▶ない。だってあれ以上インパクトのある曲、ないですよー。(ワタシの名曲をテーマに「人生は上々だ」を語って。以上、12月号)

▶Q・尊敬する人は誰ですか？
手島　嫁さん。
▶Q・どうしたら、いい曲が書けるのでしょうか？
手島・断食をする。お祈りをする。
▶Q・楽器の選び方を教えて下さい。
手島・いいのは、初めにピンとくる。(以上Q&A。2月号)
▶嫁さんたって、昔から兄弟のように育ってたわけじゃないから、ひとつひとつ発見であり、わかってない未知数の部分があるわけで。そこでやっぱりときめいたりするんですよ。(バレンタイン・デーをテーマに。3月号)
▶いや、(UNICORNの曲は) 気軽に口ずさむことができない。(笑)
▶当時者としては「大迷惑」なんか、〝なんで売れないんだ!?〟っていう気がするけどね。(UNICORNにヒットは出るか？　について。以上6月号)
▶人間、生活が基盤ですから、生活を犠牲にしてまで、やるようなことならやめなさいっていう。
▶んー、〝モテる〟とかいうけどモテないしねぇ、〝なんかちやほやされてるな〟っていう感じもないしねぇ。だからあくまでも自己満足の世界でしかないですよ。(バンドのすすめ。以上、7月号)
▶〝自分の手を離れた〟って感じがあるからね。バンドのもとに行ったんだなって感じですよ。(自分の曲がレコーディングされる様子について。8月号)
▶レッド・ツェッペリンのようなもんなんですよ。(『MUSÉ E』のおすすめ。ユニコーン・サウンドの拡がりについて。9月号)
▶ホントに自分が出してる音をそのまま録ってくれたっていうか。やっぱり加工して録ると、もちろんその良さもあるんだけど、ツヤの部分は死んじゃうんですね。
▶ただワタシを見て下さいって、ひたむきなミュージシャンですって感じが、やっぱり出てますよね。(ギター・プレイについて)
▶そういう新鮮さでいえばね。ぎこちなさが自分でいじらしいですよ。(笑)(ボーカルについて)(以上『ヒゲとボイン』をテーマに。10月号)
▶時間はそんなにかからなかったんだけど、人生最大の悩みってくらい悩んだよね。
▶そう、出来上がってから悩んだの。(以上「自転車泥棒」の歌詞について)
▶「ザ・マン・アイ・ラブ」のプレイに関してだけど、アレは短い間だけど、ホントに充実したプレイができたって気がしましたね。(以上〝ワタシの名曲〟。12月号)

広形東洋年鑑'91年版 大スゴロクゲーム

遊び方

サイコロを用意します。そして、好きなコマを切り取って、自分のコマとしましょう。お友だちと好きなコマが重なった場合は、サイコロを振って、出た目の数が多い方の人がコマを勝ち取ります。最初はサイコロの数どおり進みます。その後は文章の終わりの方にある指示に従って進んで下さい。何も指示が無い場合は、次の順番を待ってサイコロを振り、目の数だけ進みます。もちろん、ゴールに最初に飛び込んだ人が勝ち。行ってみよー。（オクダくんのモノマネで口に出す）

コマ

START ① 明けましてオメデテト!!

「1991年、明けましてオメデトー!!」

というオメデタイあいさつをユニコーンさんがかましたのは、新宿コマ劇場でのこと。恒例の〝バチバチ・トマト〟のイベントさんした。ちょうどゴーバンズのステージのときに1990年は去り、1991年が訪れるというあんばいで、カウント・ダウンのために集合したのは、ジュンスカ、ブーム、ユニコーンさんの面々。日本のロックをになっていると言っても過言ではない(?)ゴーカなメンツによる「5・4・3・2・1!!」のかけ声が、新宿にとどろいた。

ヒマなアタクシは、年の暮れ、年の明けにすることもなくフラフラと新宿コマに出向き、アメフトの選手に変身した阿部さんのハシャぐ様子を伺いながら、なんとなくこの人の来たる1年を見たような気がしたもんです。

〝1年の計は元旦にあり〟——まさしくね。昔の人は鋭いこと言う。〈とりあえずメデタイので4コ進むのだ〉

⑥ うれしいお休み!!

●超久しぶりのオフ、というわけで、みなさんゴキゲン。バリ島へ行った奥田さんを除いては、みなさん国内で骨を休めた。いかった。んにゃ、いくない！といのは、奥さんと仲よく京都方面に旅行したテッシーさん。修学旅行の学生達に発見され

⑦ 最後のニュースを歌う男

●1991年の奥田さんはギャルにモテモテ、ではなく、オジサンにもモテモテであった。憧れの矢沢永吉さんに会い、井上陽水さんに会い、仲井戸〝チャボ〟麗市氏に「奥田タミオ、スーパラシーミュージシャン!!」と絶賛され、暮れには忌野キヨシローさんとの対談も予定。

これはどういうことか。オジサンに好かれるタイプの顔をしているのか。それともオジサンに好かれやすいタイプの音をやっているのか。いずれにしろ人気者であるのは確か。

はてさて、江戸っ子連合でついうっかり井上陽水さんの「最後のニュース」「傘がない」の2曲をカバーしてしまった奥田さん。そのウワサを聞いた井上陽水さんが「テメー顔見せろ!!」じゃない「どんな人なの?」と興味を持って、御自分のFMの番組にゲストに招いて下さった。光栄である。恐縮である。アタクシが言うのもなんだが、アレは〝カバー〟というより〝物真似〟であったというのに。

しかも!! そのスタジオにはギターが用意され「歌ってみて」とねだられた。何を? そりゃ「最後のニュース」に決まってるだろー。残念ながら、アタクシはその番組を聴いてない。なので、井上陽水ファンクラブ会長、(※ウソ)㊑吉田好見にその様子を詳しくレポートしてもらおう。

㊑このたび発売になった陽水さまの全曲集、『NO SELECTION』を予約して買った㊑です。ところで、この日も陽水さまは、あの甘く優しい声で、「ボクの事務所の女の子たちがあなたのファンなんですよ」と緊張しまくる奥田くんに話しかけられ、まずはビートルズナンバーをセッション。陽水さまは途中から一緒にお歌いになった。江戸っ子連合の時は「のおお〜ん」と思いっきり真似してた奥田くんは「の」とおとなしく歌っていた。ぜんぜんちがってた。

そういうことらしい。後日、奥田さんはくよくよしながらこう言った。「あんな展開になるとは、まさか!! もうまいったですよ。本人前にして〝のお〜ん〟やったですからね」〈〝のお〜ん〟と言いつつダイスをふる〉

イラスト●浅見カヨコ　文●宇都宮美穂

② アベB脱臼!!

●ホラ、ね。ハシャぎすぎて阿部さんが脱臼。救急車で病院にかつがれたのは1月8日、宇都宮市文化会館のステージで。

いったん幕を降ろし、楽屋で救急車が来るのを待っているそのとき、阿部さんが言ったのは「痛~~いっ、う、う、生まれる~~」というギャグ。笑うというより、こんなときにまでギャグでフォローする性格に、悲しくなったメンバーであった。

〈ケガしたので2回休む〉

③ 謎の江戸っ子連合現わる

●2月14日、神戸チキンジョージで江戸っ子連合という名前で、ユニコーンさんがシークレット・ギグ。アリスのカバー、井上陽水のカバーなどして盛り上がったのはいいけれど。

その9か月後、再びチキンジョージにササジーズのゲストとして訪れた奥田さんと阿部さん。↑特にこの人がハシャギすぎてササジーズのメンバーをムッとさせたのはインタビューを読んでいただければよくわかる。さあてここからがお立ち合い。ムッとさせて大ピンシュクの中、楽屋へ戻ったお二人。

「怒ってたかなぁ」「どうしようかなぁ」とアセッているところへマイケルさんが心配してかけつけてくれた。そうして言うには「大丈夫だよ。前にここでやった江戸っ子連合ってバンドがいて、もっとヒドかったって言ってたよ」

奥田「それはオレらだって」(笑)

阿部「全ッ然シャレになりません」(笑)

④ ダウンタウンと仲よし

●ユニコーンさんの1991年において、もっとも華やかだった活動、それはライブでもなく、レコーディングでもなく、〝夢で逢えたら〟のタイトル・ソングに2回連続して使用されたことだった。(断言) それとともに毎週ブラウン管に映ったことは偉大な功績を残し、以来お茶の間の〝ちょっとした〟人気者に。アリガトー〝夢で逢えたら〟。

そういうわけで、本誌4月号で、ダウンタウンのお二人と奥田さんが対談を。ダウンタウンのアルバムに曲を提供するなどして、交流をあたためたのであーる。

〈もう1回ダイスを振れ!〉

⑤ 人生はビンゴだ!!

●〝嵐のケダモノTOUR〟最終日、札幌厚生年金会館でのライブが終わり、一同は打ち上げ会場に。それで行われた大ビンゴゲームで、奥田さんはメンバーの中で唯一賞品を獲得したはいいが、その賞品は生卵300個。いきなり300個の卵持ちになった奥田さん、「卵プロに入っちゃうもんね」とヤケクソなのだった。

〈1コ進む。その場で「メイビーブルー」を歌ったら5コ進む〉

囲まれて……気づくとチャックが開いてた。

〈オフなので1回休む。テッシーさんファンの人はチャックを開けた状態で1回休む〉

⑧ ジュンスカと仲よし

●そういやあ、ジュンスカとの合同取材なんつーのもありましたっけかねい。今となってはおぼろな記憶、アレは夢かうつつか幻かってなもんで、あれ以来とんとお会いしませんよ。フン。いーのさ、いーのさ、グレてやるー。

余談ざんした。その合同取材をはじめ、'91年、ジュンスカさんとユニコーンさんはホントーに仲よくあちらこちらでジョイントした。特に夏のイベントでは数ケ所一緒に出演、あたかも修学旅行のような楽しさだったとか。

宮田「最後に別れるときはなんか淋しくてね。来年も一緒にいっぱい出たいですね」

こういう立派な発言をする人がジュンスカさんにはいると。

奥田「東京に帰った日、そのまま呼人とディスコに行って……」うんぬんかんぬん。

こういう立派でない発言をする人がユニコーンさんにはいると。

〈ジュンスカ・ファンの人はGOALに行っていいよーん〉

⑨レコーディング開始

●みなさん、ゲームは楽しいですか? しかしスゴロクなんてやる人いるんですかね、いまどきの若い人たちに。書きながら、アタクシそろそろうたがってまいりました。関係ないですが。

さて、ゲーム。ユニコーンさんの『ヒゲとボイン』のレコーディングは野外録音という画期的な方法が取られたのであるが、それは音のためというより、むしろゲームのためと言ったほうがいいのかもしれない。河口湖のスタジオに出向き、ユニコーンさんがしていたことは、①戦争ごっこ②キャンプ③犬とたわむれるの3点を主流として、亜流としてレコーディングをするという点だった。

レコーディングと聞くと、シロートのアタクシなどは、それはそれはストイックにしてシビアな状況を想像するのであるが、ユニコーンさんのレコーディングはなーんか違っていた。どことなーく違っていた。何がどう違うとはあえて言いませんけどね。

⑩ブルースなキャンペーン

「ブルース」、ああ名曲の「ブルース」。涙なくして聞けないとまで言われるメロウな名曲。なのに、それなのに、なぜ売れない。売れないと思っていたが、ホントーに売れなかった。

6月某日、シングル「ブルース」を掲げて、ユニコーンさん、及びスタッフはT-MERSをほうふつとさせる土木建築関係者の装いで、朝も早よからソニーミュージックエンターテイメントより出動。都内をめぐり、たどり着いたのは、池袋サンシャイン。池袋というアンダーグラウンドな

⑮ロスの日本人

●もはや懐しい、あのロサンゼルスの日々。あー、ヒマでヒマでヒマでよかったにゃー。

それというのも、ユニコーンさんはPeeWee誌のファンとの集いで日々忙しかったため、カンケーないアタクシは毎日ボーッと過ごしていた。ビデオ撮りのその日までは。ビデオについては⑱を読んでいただくとして、束の間あったオフにメンバーが何をしていたかここに書く。奥田さん→スケボーショップで買い占め。阿部さん→デート。テッシーさん→ブーツ屋を買い占め。EBIくん→"ROPPONGI"を買い占め。西川クン→韓国料理で焼き肉を食い占め。

〈2回ダイスをふれ!〉

⑭ヒゲとボイン発売

●そんなこんなで『ヒゲとボイン』がとうとう完成。阿部さんを除くメンバーの大自信作……のわりに賛否両論うず巻いたりなんかして、あーいやいや、生きるって辛いわんって感じでしょうか。

奥田「レコード大賞、今年もいただきですかね」

阿部「なわけないって(笑)」

そうして今やレコード大賞の時節柄になったわけですが、現在アタクシの耳元に『ヒゲとボイン』がレコ大ノミネートというウワサはまったく届いておりませんっ。

〈『ヒゲとボイン』を買った人は⑪に。買わなかった人は①に〉

⑯バリの日本人

●ロスから帰ってきたかと思ったら、今度はバリに。覚えていらっしゃる方もいるかと思いますが、広形東洋月報最終号に載せた、福岡空港での奥田さんの写真。アレは福岡空港からバリへ向かうときに撮った写真さんした。我々は'92年発売になる(あくまで予定だが)奥田さんの単行本『奥田民生ショー』の撮影のため、バリに向かった。奥田さんが「バリに行かないと写真撮らせない」とゴネたからである。

で、要するに左のような写真が撮れたと。どーです、スバラシーでしょー。単行本には水着ピンナップがつきものというではないですか。㊓はその因習に従って、奥田民生水着スナップを重点的に撮るように、三浦憲治カメラマンにお願いしていたようだった。それはウソだが、まぁいつかはこの本もできる。現在予約受付け中だそうなので、気が向けば予約してみてくれたまいー。

⑰チャンガラな本

●皆さまのお手元に今現在『チャンガラ』はあるだろうか。そしてそのCDを聞いてみただろうか。アタクシはあのCDを録音する際、インタビュアーとして同席していた。笑った。ヒジョーに笑った。涙さえ流した。これはこのCDだけで充分価値があると思った。なのに。編集されたソレは意外に地味だった。アタクシとしては文章で全編載せたいのだがいかがだろう。㊓がそれをさせないと言うのでガマンしているのだが。見たいと思わないかい。

土地がまた泣かせるが、ここでなんと握手会を敢行。総勢3千名ものファンが集キャンペーンは大成功かと思われたが、売り上げにはなんの影響もなかったのがまた泣ける。
〈「ブルース」を歌え！

⑪西川くんコケる!!

●そうして、再びレコーディングに帰り咲いたユニコーンさん。順調に進んですでに中盤を過ぎたあたり、西川さんがズッコケて腕の骨にヒビが入るというアクシデントが。その口惜しさはインタビューを読んでいただくとおわかりになるだろう。しかし'91年のユニコーンさんはケガ人続出の血まみれ。
〈コケたので⑥に戻る。戻りたくない人はその場でコケる〉

⑫イベント王決定!!

●それは1990年暮れのことであった。ワッツイン誌の命令を受けて、アタクシはあるコメントをいただきに奥田さんのところへ出向いた。あるコメントとは、"今年のイベント最多出場バンドとして"というもので、それを告げると奥田さんは「イイ〜〜ッ!?」と実に心外そうな声をもらした。
奥田「ウソーッ。オレらあれでも減らしたんだよー!?」
中堅バンドらしく、貫録を見せようと減らした本数はしかし、ジュンスカよりも、レピッシュよりも、多かった。
奥田「こうなったら来年も最多出場を狙います。売れなくなっても出続けます」
そうコメントして、この1991年。オメデトーございます。やはりユニコーンさんが最多出場バンドとなりました。
奥田「狙いどおりとはまさにこのことですね、ハッハッ」
なぜか虚しく響く笑い声を聞きながら、ついもらい泣きしてしまいそうになるアタクシだった。
〈⑱に進め〉

⑬MUSÉE大ヒット

●すべてのソロ活動を終えて、今や余裕のEBIくんである。——
「ま、一応大成功だったことで。ありがたいですねぇ」
ホント、アタクシもありがたい。そう、EBIくんのソロ・アルバム『MUSÉE』の売り上げ枚数で、アタクシと原田さんは賭けをした。常日頃から賭けには強いアタクシ、「10万枚!!」と宣言して、見事に勝ったのだった。おかげさまで高価な高価な高価すぎるクリスタルを原田さんより与えられ、アタクシの胸元のなんとまぶしいこと。
〈大成功だったので、「8月の漂流者」を行進しながら⑮へ進む〉

⑱大失敗!!

●苦労したよ…って、まぁアタクシは見てただけだけどね。「ヒゲとボイン」そして「日本へ行くの巻」のビデオ・シューティングはそれはそれは辛かったのだ。しかしながら3Dという画期的なビデオが完成するのを夢見て頑張ったというのに——。
ある日原田さんが言った。
「あのビデオね、飛び出すはずがひっこんじゃったよ」
そのときの気持ちをこの広告のなんと的確に表現していることよ。
〈STARTに戻れー!!〉

GOAL!! '91年最もハゲカツラの似合う男

●暮れになっても、いまひとつパッとした話題に欠けるユニコーンさん。あれやこれや忙しくしているわりに妙に地味なのはどういうことだ？
と思っていたら、パチパチR&Rで"1991年最もハゲカツラの似合う男"に奥田さんが選ばれた。スバラシー。ユニコーンさんにふさわしすぎる話題。奥田さんのコメントをここに載せよう。
奥田「光栄です。全国ネットのTVで3年連続被ってますからねえ。これで本当のハゲになってもみんなは見放さないでくれるというコトなので安心しましたオメデトーございまーす!!」

UNICORN

Photographs by Takeo Ogiso

大反省。
1991

'92 もヨロシク

おもな内容

BALI島ロケ写真
広島ロケ写真
超ロング・インタビュー
青春プレイバックin広島
ウッツー宇都宮とのトークバトル
PHOTO日記
名物、奥田民生作文

●「BALI島でロケするちゅーことで」
「ワーイ！」
てなノリで始まりました『奥田民生ショー』。著者はもちろん、あウッツー宇都宮女史。写真はもちろん、あの三浦憲治巨匠。面白くて、キレーで、タメになり（？）そして、やっぱりイナゲな1冊になるに違いないこの一冊。なんたって、第1の故郷、広島と第2の故郷BALI島を結ぶ国際的な一冊でもあるのです。（どこが！）ま、ともあれ、BALI島ロケも無事修了。あとは発売を待つだけなのだが……、さて。

予約者全員に
BALI島ロケ生写真
プレゼント!!

●そして、上にもデーンと書いてあるが、予約者には全員にそのBALI島ロケの生写真をプレゼント。撮影した全カットの中から1枚サービス判プリントにしてさしあげます。ただし全カットなので、民生のいい顔もあれば、ヘンな顔もあり、風景だけかもしれないし、ハラダさんのかも？　どれがもらえるかは……お楽しみに。

⊙四六判ハードカバー上製本⊙304ページ⊙予価1500円（税込）

▶予約＆予約特典応募方法

●左の注文伝票に必要事項を記入してお近くの書店で通常の予約手続きをして下さい。▶その際、この欄の右側の申し込み用紙に書店印を押してもらって下さい。▶この申し込み用紙は書店に渡さずに持ち帰り、住所、氏名、郵便番号を明記して、返信用の62円切手と一緒に、封書で次のあて先に送って下さい。▶〒156-91　東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号　ソニー・マガジンズ　パチ▶パチ編集部「奥田民生ショー」係。締め切りは2月14日消印有効です。▶返信用封筒は必要ありません。▶予約特典を応募するのはお1人様1回しかできません。▶問い合わせ☎03-3234-7906　パチ▶パチ編集部まで。
▶発売後、すぐの品切れが予想されますので、予約をおすすめします。

申込用紙

奥田民生ショー
応募カード

書店印

□□□-□□

住所

氏名

様

予約特典応募締切りは2月14日!

「奥田民生ショー」(仮)

'92年春、発売予定!!

Sony Magazines Inc.

書店（番線）印	●注文伝票（注文は書店で）		
	UNICORN奥田民生「奥田民生ショー」		'92年3月中旬 ●予価1500円(税込)
	●住所		●TEL
	●お名前	●年齢	●職業
書籍扱い	〒102 東京都千代田区五番町6-2 TEL03-3234-5811 ソニー・マガジンズ		

※書店様へ:このカードがまいりましたら、台帳にお控えの上、お取引の販売会社へお早めにご注文ください。

▶この注文書は切り取らないで、コピーして使ってくれてもOKだ。お友達にもあげよう。

●7月号で一緒に表紙を飾っていただきましたJ(S)Wさんと、UNICORNさんのみなさん。演っている音楽はちがうけれど、御存知のとーり、仲良しさんです。どっちのバンドも大好きっていう人たちも多いしね。'92年もその仲の良さは続きそうですゆえ、ここらでちょっと、再び不徹底比較などをやってみたりして。分析者はもちろん、ウッツー宇都宮女史ざんす。

撮影●小木曽威夫　文●宇都宮美穂　イラスト●浅見カヨコ

公開質問大会

UNICORNからJ(S)Wへの質問

答える人：J(S)Wのみなさん

奥田→宮田
奥田　コカンにくつ下をかぶせて、コカンが水虫になりませんでしたか？
宮田　大丈夫です。僕、水虫じゃないですから。

奥田→小林
奥田　小林くんは実はいくつなんですか？
小林　タミオくんよりは歳下ですよ。見かけで言えば、タミオくんよりも下。

西川→小林
西川　作曲するときはどうやって作曲するんですか？
小林　西川くんを思い浮かべて。

手島→森
手島　僕は弦はめったに変えませんが、どのくらいの割合で変えますか？
森　ワンステージごとに変えます。

EBI→森
EBI　純太くんの高校時代のビデオ見たんですけど、昔からそんなにひょーきんだったんですか？
森　昔から、ギターとかを持てばバカになっていました。

EBI→小林
EBI　この間、小林くんはカッコいい車に乗ってたけど、真っ赤なGTRはどうしたんですか？
小林　入院してます。

西川→呼人
西川　ディスコくんって呼ばれているらしいんですけど、どうしてですか？
森　名前そのままです。
宮田　行きまくり。
呼人　ユニコーンに教えられたんです。

阿部→全員
阿部　好きな食べ物は何ですか？
呼人　カレー。
小林　スパゲティミートソース。
宮田　桂花ラーメン。
森　卵焼き。

阿部→全員
阿部　UNICORNと一緒にされてイヤじゃないですか？
宮田　たいへんイヤです。
小林　イヤでーす。
森　ちょっとイヤです。
呼人　……言えない。

阿部→全員
阿部　ライブをそんなにやってて飽きませんか？
森　ぜんぜん飽きない。
宮田　大丈夫、大丈夫。
小林　大丈夫、OK。
呼人　大丈夫。

阿部→全員
阿部　最近J(S)Wは夜遊びがひどいと聞いたんですけど、本当ですか？
宮田、森、小林　呼人だけです、呼人だけ。
呼人　僕を隠れミノにして、みんないろいろやってます。

●仲がいいゆえに、「聞きたいことがあったら直接聞いた方が早い」などという声もあがりましたが、〝ま、そうおっしゃらずに〟とお互いにQ&Aしてもらった素朴な質問であります。

J(S)WからUNICORNへの質問

答える人：UNICORNのみなさん

宮田→手島
宮田　原田さんと飲んだときに、「運が悪くないと手島じゃない」発言がありましたが、車のトラブルを始めとし、自分の運の悪さをどう思いますか？
手島　実をいうと、私の身に起こるであろう災難は、すべて車が身変わりになってくれているのであーる。その証拠に、私の身の回りにはケガもないし、トラブルもな〜い。実は私は強運なのである。

森→手島
森　ブーツでのステージは疲れませんか？
手島　ブーツというのはすごく合理的にできているのです。牛の革だけあって、保温はバッチリ、湿気は逃げるし、はけばはく程馴染みます。私の足は、運がいいことに、形がピッタリくるようです。だから、ライフスタイルとしてのブーツなので、疲れたりしないのです。まあエアジョーダンの方が楽なのでしょうけど。

宮田→阿部
宮田　この間、学園祭ライブで自分はオイシイところをかっさらっていったと思いますか？
阿部　お世話になりました。ギャラはCSAを通さず私にヨロシク。

宮田→阿部
宮田　最近、カラダの具合はどうですか？
阿部　おかげさまで。今度、飲みにいきましょう。

小林→阿部
小林　全国で何人いるんですか？
阿部　今度会ったら話します。

宮田→EBI
宮田　『MUSÉE』を出した今、ソロシンガーとしても評価されたと思いますが、UNICORNに対するヤル気はどうですか？
EBI　ヤル気は変わりません。以前よりあるかもしれません。

呼人→EBI
呼人　昔からそんなに変わってたんですか？
EBI　今度じっくりお話しましょう。

小林→EBI
小林　たまに発狂すると聞いたんですけど、それはどんなときですか？
EBI　原宿の竹下通りの出口の交差点でタクシーを待っていて、車でやって来たヤンキーに声をかけられたとき。うそだよ〜〜ん。

宮田→奥田
宮田　オレと一緒に植木等Delaxに出るつもりはあるのか？
奥田　もちろん。でもあの番組も長続きしないんじゃないか？

呼人→奥田
呼人　なんでそんなに東京に友だちがいないんですか？
奥田　憶病だから。曲を作ってるから。

宮田→西川
宮田　アメリカからＶ８が無くなるそうですが、どう思いますか？
西川　バカですね。まったく。かなしい。

小林→西川
小林　昔ゼツリンだったというのは本当ですか？
西川　うそに決まってます。それは、小林君でしょ。

森→EBI、西川
森　ツアーに出ているときに、子供に会いたいと思いませんか？
EBI　思います。電話をしたら、必ず声をきいています。
西川　思いまくり。
森　いづれ僕に子育ての秘訣を教えてください。
EBI　僕はほとんど何もしていません。早くジュンタの子供が見たい今日この頃です。
西川　いいとも。

呼人→全員
呼人　バンド持続の秘訣を。
手島　これは、まだこのバンドは5年程しかたってませんので、何とも言いようがないのですが、強いて言うなら、メンバー、スタッフ、レコード会社、すべてがうまくかみ合っているからではないでしょうか。どれが欠けてもうまくいきませんからね〜。
阿部　知ってたら教えてほしい。でも持続しようと考えないことかもしれません。
EBI　それはジュンスカにききたいことです。ジュンスカがうらやましい今日この頃です。
奥田　J(S)Wからノウハウを学ぶ。
西川　持続しようと思わないこと。

ツアー徹底比較

ジュンスカを追うユニコーンさん

1 ツアーは続くよ

以前の対談で、カズヤクンに「小さいところまで廻るとレコード売れるよ」とアドバイスされ、それを真に受けたかユニコーン、なんと50ヶ所70本の超ロングツアーを敢行中。対するジュンスカも、61ヶ所65本の（彼らにしては）普通のツアーを敢行しており、日本全国津々浦々をユニコーンが、ジュンスカが、ぐるぐる廻る今日この頃だ。

そのツアータイトルといえば、ジュンスカが『TOO BAD』と、シンプルにして勢いがあるのに、こちらユニコーン『舞監なき戦い』と、内輪ウケにしてワビしさ溢れ、内容を見るまでもなく勝敗は明らか。

噂によれば、メニューは「すてきな夜空」が入っているとかで、敵に塩を送っているつもりかもしれないが、そこでいちばん盛り上がってどうするユニコーン。

はてさてそんな日々、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

Q 現在のツアーの状況を教えて下さい。

「普通」（宮田）「今日で2本目です」（小林）「良い」（森）「サイコー」（寺岡）で、「まだ前半なので飽きてません」（EBI）「調子いい」（奥田）「そろそろ仕込み、バラシ共に慣れてきたけど、スーパーJメンは目が三角です」（西川）「少し慣れてきたかな」（阿部）「大変良好。なにせ大名ツアーですから」（手島）

なのだった。状況をたずねられ、本数を書く人、スタッフのことを書く人などがいて、アンケートを回収する意義もあるというもの。（ちゃんと質問を読めーっっ）

ところで「大名ツアー」とはどういうツアーなのだろう。荷物を自分で配ぶことか？金満ホテルに泊まれないことか？エコノミーシートに座ることか？シーン。

2 わたしはコレで行く

Q あなたの理想のツアーライフは？

「♪貸し切りジェットでツアーは続く…」

わざわざユニコーンの歌詞でお答え下さり、サーンキュッ、小林クーン。でも「飛行機コワイ」んだそうで。しかしながら、ツアーに飛行機は欠かせない。これがあればこその全国ツアー。落ちたら死ぬとわかっているが、事故死亡率は車に較べてとこと ん低い。安心しなはれ。車で都内を走っているほうが、ホントーはよっぽど危いんです。

しかし飛行機＝スチュワーデスと、イメージが直結している人のなんと多いことよ。情けない。あまりに情けない代表的な回答をここに集計しよう。

Q 好きな航空会社は？ その理由は？

「ANA国際線。きれいな人が多い」（宮田）「ロンドン行きのある一人のスチュワーデスは俺と気が合った。連絡下さい」（森）「JAL、ANA。スチュワーデスがきれい」（寺岡）「ANA。スチュワーデスがGOOD」（阿部）

このような人々に較べ、「AIR NEW ZEALAND。パンをいくらでも食べさせてくれるから」と書いた小林クンのなんとラブリーなことよ。「ANA。があったら入りたいから」と書いた奥田モーンのなんとくだらない冗談なことよ。

この質問はどうだ。

Q スチュワーデスに求めることは？

「優しさ」（宮田）「でけぇ態度はやめて欲しいと思う」（小林）「プライドが高すぎるよ、キミィ！」（寺岡）「えがお」（奥田）「普段から制服を着ていてほしい」（EBI）「チュウのサービス」（阿部）

あーわかったわかった。

ユニコーンさんに追われるジュンスカさん

マネージャーバトルトーク 原田VS田沼

田沼　こないだ、阿部さんに突然出てもらいまして。

原田　あ、学園祭？

田沼　そうなんですよ。

原田　どうでした？　アイツ、ブチ壊しませんでした？

田沼　いやいや。（笑）ちゃんと来る前にリハをしといたんでバッチリでした。「CSA」やっときましたから。

原田　あ、ありがとうございました。

田沼　で、「すてきな夜空」もちゃんとはさんでですね。

原田　ああ。ウチのステージでも「すてきな夜空」はちゃんとやってますんで。

田沼　ありがとうございます。

原田　ツアーはどうですか？

田沼　スタッフが大変みたいですね。

原田　なんで？

田沼　セットが結構巨大なものがあって、トラックが3台になったんですよ、今回は。それで3台満載だからなかなか大変で。

原田　ウチもね、今回から3台になったんだけどスカスカ。

田沼　スカスカですかぁ。じゃ、今度ちょっと載せて下さい。

原田　スタッフの人の人数、何人いるの？

田沼　23人ですか。

原田　あー、負けたっ。ウチ22人なんだな、

ツアーバックの中身、それが問題だ。ついこないだ、二ノ宮金二郎のごときスタイルでバックパックをしょった奥田モーンにその内容をたずねて驚いた。というか、あきれた。

いわく「ラジカセでしょー、ファミコンでしょー、ビートルズの本でしょー、etc」

重いわけだ。あげく手にはゾーサンギター。オモチャがないとそんなに淋しいかねと、また嫌味が口をついて出る。

Q 必ずツアーバッグに入れるアイテムは?

「CD」(宮田)「へちまコロン、エロ本」(小林)「ドライヤー、パンツ、岡本理研」(森)「CD」(寺岡)「ひげそり、下着、くつ下、Tシャツ」(EBI)「パンツ、服、洗面道具、彼女の写真」(阿部)「パンツ」(手島)「CDラジオ」(西川)

Q 常備する薬は何ですか?

「パブロンS」(宮田)「そんなのはあなた、ないです」(小林)「なし」(森)「ないです」(寺岡)「なし」(EBI)「腰の薬と太田胃散」(奥田)「ビタミンB系」(西川)「ソルマック…etc」(阿部)「セデスです～」(手島)

唯一、風邪薬を持ち歩くカズヤクンを除いて、ジュンスカは健康そのもの。なのにユニコーン、やっぱりユニコーン、EBIクンを除いて全員がドラッグ漬けとは…。

5 ライブはファッション

ジュンスカ、ユニコーン、いずれも衣装がないバンドではありますが、ツアーの際「長く歩くと疲れるから切大だけはやめるようにしている」という小林クンの心配りがあるように、普段のファッションとは若干の違いがあるはず。

さぁて、どんなファッションでステージに立っているのか、残念ながらアタクシ、両者ともに今回のステージを見ていませんので、各担当㊞に教えて頂きましょう。

「普段着!! ふだん着!! フダン着～!!…だと思うんですが、違うのかなあ。でも一応ステージに出る用の服はあるみたいですよ。開演時間になると着換えてるし。そういや小林くんが本番直前、それまでよりボロイ服に着換えるの見たことあります」

というのは、カラダは大っきいのに病弱で有名なジュンスカ担当㊞の芳賀さん。この人がリードを書くと、愛あるあまりどんなバンドも〝世界一〟になります。今度ユニコーンのも書いてくれ。

「みなさんだいたいいつもと同じなのですが、(つまりほとんど普段着なステージ衣装。ちなみに衣装係は原田さん)よく着替えます。特筆すべきは黒い細身のスーツのアベくんの足元が赤いタビックスであること」

というのは、ルックスはグーなのに男運が悪いことで有名な担当㊞の吉田さん。

BAAN

楽屋での素行というのも、ファンには気になるところ。気にしたところで大したことをしているわけではないからガックリするが、どれくらい大したことをしていないか、ここに大露出。

Q 楽屋に入ってあなたがまずすることは?

「納豆食い」(宮田)「荷物を置く」(小林)「自分の座る席を確保する」(森)「弁当食べる」(寺岡)「キウイ食う」(奥田)「果物を食べる」(EBI)「ケーター(飲食物のケータリング)のチェック」(阿部)「別に」(手島)「荷物を置く」(西川)

ま、座るか食べるかということだ。そんなバカなと思うかもしれない。が、恐ろしいことにホントーで、それがプリンセスであろうと、チェッカーズであろうと、みーんな楽屋に入ると座るか食べるかしている。業界の長いアタクシが言うのだから嘘ではない。みんな食べる。そして座る。

Q 本番前、楽屋での過ごし方を教えて下さい。

「寝る」(宮田)「うろうろする」(小林)「歯磨きする」(森)「弁当食べる」(寺岡)「えがお」(奥田)「準備体操」(EBI)「たのしく遊ぶ」(阿部)「バカになる」(手島)「ブラブラする」(西川)

そうすると呼人クンは、楽屋に入って本番までずうっと弁当食べてるってか!?

ローディーというのは、ミュージシャンについて楽器のお世話をする人のこと。セッティングしのの、チューニングしのの、楽器の命はローディーの人次第。ローディーに恵まれるバンドは幸せ、ローディーに恵まれないバンドは不幸せ。ジュンスカ、ユニコーンのみなさんはどんなローディーを抱え、日々なぶって、じゃない、可愛がっていらっしゃるのだろう。

Q あなたはローディーに恵まれていますか?

おおよその人が「はい」と答えているなかで「こっちから恵まれさすわい」と、ローディーにとって恵まれたバンドであることを強調したのは奥田モーン。そういえばユニコーンはローディーに命令されてチューニングしていた。(ウソ)

Q あなたのローディーはどんな人ですか?

「ゴキゲンなヤツら」(宮田)「モヒカンにした人とゲータンくん」(小林)「背が高い」(森)「女みたいなルックスの人とモヒカン」(寺岡)「Jメン」(奥田)「ビンボー」(EBI)「下手人」(阿部)「CASでたらいまわし」(手島)「ジョーといって完璧です」(西川)

〝どんな人〟と聞かれて即座に〝ビンボー〟と答えるEBIクンて…。ちなみにジュンスカはローディー募集中だそう。

最高のときで。

田沼　ちょっとの違いじゃないですかぁ。

原田　だってアナタ達、メンバー一人少ないじゃないよ。わぁー、優雅なツアーやってるんだねぇ。

田沼　そんな。(笑)余分な人数はいないですよ。

原田　警備は?

田沼　警備はあんまりやんないですね。最近はもう警備っていうような問題じゃない状態なんで。お客さんがそんなに激しくないという。

原田　ホント? ジュンスカもついにソフト・ロック化めざしているのかな? (笑)

田沼　(笑)でも結構バラードとかで座る人が目立つようになったんですよ。冷めてるんだかなんだか、初めから最後まで座ってる人とかいるし。

原田　永ちゃんのコンサートみたいだね。移動はあれですか? やっぱり追っかけのみなさんとかが登場しちゃって。

田沼　あ、でもね、前より減りましたよ。前だと駅行くとですね、ホームだけには来るって人いるんだけど、電車には乗らないじゃないですか。そういう人がだいぶ減って、あんまり大変じゃなくなりました。

原田　とりあえず駅に来るのはいいんだけど、一般市民をこかしたりっていうのはマズイよね。

田沼　なんか物くれたりするんですけど、持ちきれなくて歩いたところ、ズーッと落とし物が続いてたり。

原田　あれはやめてほしいよね。

田沼　だいぶそういうひどいことをする人はいなくなりましたけどね。

原田　ウチは全然変わんないですよ。そういうのは。ところで、呼人クンの夜の動きとか、そういうのはどうなってます?

田沼　寺岡クンは夜はですね、今は近郊ツアーで全部日帰りなんで、単独行動をとってると思われます。ちょっと調査不可能って感じですね。

原田　田沼クンの単独行動はどうなんですか?

田沼　僕はもう仕事してますから。

原田　ウソつけー!!

田沼　してますよぉ。忙しいんですから、こんな身でも。僕っていうのはいっつもそういうレッテル貼られ……。

原田　レッテルじゃない、ブランドなんだ

UNICORN&JUN SKY WALKER(S)

ありがたきはファン 7

♪ファンからの贈り物〜、どうもありがとう〜

©bYイマーノキヨシローさんざんしたー。でもこの贈り物、彼女にあげちゃうって歌なんだなー。さすがイマーノ、痛いとこ突くっ。

てなわけで、ステージ側から見たみなさんの様子をうかがおう。

Q あなたは観客のルックスが気になりますか?

「一応」(宮田)「どうでもいいと思います」(小林)「ちょっと」(森)「まぁ、多少…」(寺岡)なぜかこの質問、ユニコーンにはされていない。なのでアタクシがメンバーになり替わりお答えしよう。

「こっつい美人なら気になるぜ。でもそんなのは見たことないぜ」(ニセ奥田)「お客さんはみんなステキです」(ニセEBI)「気にしてはいけないと思うとよけい気になる●●気なります」(ニセ阿部)「別に」(ニセ手島)「関係ないです」(ニセ西川)

Q 黄色い歓声をウルサイと感じることは?

「まぁまぁ」(宮田)「どうもごくろうさまです」(小林)「大体ない」(森)「全然思いません。もっと言って下さい」(寺岡)「しょっちゅう」(奥田)「ない」(EBI)「ありません」(阿部)「いいえ」(手島)「時々あります」(西川)

ステージでワタシは… 8

ステージでの高揚感、これはかりはステージに立った人でないとわかりません。スーパラシー曲を演奏しながら、ジュンスカのみなさんは何を思っているのか。スリッパで頭を殴り合いながら、ユニコーンのみなさんは何を思っているのか。

Q ステージに出た瞬間の感動をお伝え下さい。

「人が変わり俺じゃなくなるような感じ」(宮田)「緊張とのバランス」(小林)「おどりゃー」(森)「はずかしー!!」(寺岡)「うれしい←オガタケン口調」(奥田)「鳥肌が立ちます」(EBI)「すばらしいよ」(阿部)「お客はいつもありがたい」(手島)「言葉では言い尽くせません」(西川)

さてMCタイム。MC聞きながら(やりながら)何をもの思う。

こちらジュンスカ。

「ヘタクソ」(宮田)「よく喋ると思うよく」(小林)「いいじゃん、大体」(森)「50秒前に聞いた話をさも!! 60年くらい前から知ってたように喋るところがすごい」(寺岡)

こちらユニコーン

「めんどっさい」(奥田)「その場で考えてる感じです」(EBI)「いいんじゃない」(阿部)「ま、天才っていうんですか?」(手島)「長いね。彼を〝語る語るマン〟と呼ぼう」(西川)

アフターステージ 9

ステージのその後、これも問題だ。アタクシ、ユニコーンにおいては大体の察しはつきますが、ジュンスカにおいては皆目見当がつきませんっ。真面目な方だとばかり思っていた呼人クンが、アワアワアワワ……

(以下言葉にできず)

Q アフターステージの過ごし方を教えて下さい。

「ひみつ」(宮田)「帰る」(小林)「ロッケンロー!」(森)「大ヒミツ!!」(寺岡)「いやじゃ」(奥田)「ドライブ」(EBI)「楽しく遊ぶ」(阿部)「寝ます」(手島)「フロ、メシ、ベッド」(西川)

ひみつのアッコちゃんが多いですなー。とか思っていて、ふと目に止まった呼人クンのこの回答。

Q 終演後、楽屋に戻ってあなたが考えることは?

「弁当」会場にいる限り弁当を食べ続けようというのか。

Q ツアー先でのオフの過ごし方は?

「ひみつ」(宮田)「年賀状を書こうと思っちゃいるけど…」(小林)「フラッとしたり、ボーッとしたり」(森)「映画」(寺岡)「プロレス見たい」(奥田)「なぜかカメラに目覚めたので写真を撮っています」(EBI)「個人練習」(西川)「買い物」(阿部)「名物ツアー」(手島)

ツアーの意味とは? 10

Q あなたにとってツアーの意味は?

「辞書で引け」(宮田)「やりたいことをやってる」(小林)「ロッケンロ〜!!」(森)「客との音でのコミュニケーション」(寺田)「全国のファンのみなさんに生のユニコーンを見て頂く」(EBI)「大きな意味」(奥田)「生きてるってことかな? なんちゃって」(西川)「友達を増やす」(阿部)「国内旅行」(手島)

Q あなたにとって最高のライブとは?

「俺がしびれたとき」(宮田)「サイクォ〜」(小林)「ロッケンロ〜!!」(森)「長く感じない。体にリズムが乗る」(寺岡)「いろいろハプニングがあったほうが良いライブになったりします」(EBI)「友達が来てくれる」(奥田)「最高と最低のバランスがギリギリのところでやっている」(西川)「自分が楽しくやれる」(阿部)「いつも最高。みんな天才だから」(手島)

Q あと何年、現在のようなツアーを続けられる(続けたい)と思いますか?

「ずっと続けたい」(宮田)「いやになるまで」(小林)「50才まで」(森)「ずっと続けたいです」(寺岡)「30才までは続けたいです」(EBI)「わからん」(奥田)「あと、じゅ〜〜ねんやります。←矢沢口調」(西川)「わがまま言えば大都市ツアーがいい」(阿部)「10年くらいは大丈夫だと思う。(思うだけ)」(手島)

ユニコーンさんたら弱気ねぇ。トホホ…。

な。田沼ブランドだもんな。

田沼　いや、そういうことにされちゃうんですよ、いっつも。ホラ、民生クンが言うから間違いないとか、そういうノリで思われてるだけで、真の僕を知らないんです。

原田　カズヤクンが言ったから間違いないですよ。

田沼　いーや!! 宮田クンはひどいですよ……(以下エンエン続く)

原田　そういえば、ウチのローディーの送別会に突然カズヤクンと呼人クンが来てくれて……。

田沼　あの、ラジオの帰りのとき。

原田　いきなりカラオケ屋に来たんで、2人ともビックリしてましたね、ものすごい盛り上がりで。

田沼　歌ってました?

原田　歌わずに別のお店に飲みに行った。

田沼　あの2人は歌わすとしつこいからやめたほうがいいですよ。

原田　僕もそういう気がしました。で、ステージは今どんなふうですか?

田沼「白いクリスマス」をしょうこりもなくまた……。

原田　いいねぇ。そういうタイムリーな曲があって。

田沼　(笑) ステージで雪降らしてます。

原田　ウチないよ、そういうの。西部劇だからなぁ。ちょっとなぁ。

田沼　(笑) 物に頼るしかないんですよ、僕ら。前のツアーのビデオもらったじゃないですか。あれはスゴイ!! と思いましたよ。あれはウチにはできない。

原田　どこがすごいんじゃあ。そりゃできないよ、あんなコミックなことは。ジュンスカがやったらファン怒っちゃうよ。

田沼　噂に聞いてますよ。チケットの売れ行きのスゴさは。

原田　オッ、徳山の2階席が空いとったこともかぁ!?

田沼　空いてたんですか?

原田　ポッカリ空いてましたよ。山口市民会館でまたポコンと席が空いてたことをお聞きになってますか? ハイィ。

田沼　ウチ四国が大変なことになってます。

原田　じゃあ、ジュンスカファンは四国に結集すると面白いことがあるって書こう。

田沼　よろしくお願いします。(笑)

原田　ウチも青森地区に来ると面白いって書こうかな。(笑)

▶田沼さんより入院中のおばあさまへメッセージ「早く良くなってくださいね」とのことです。

KOBAYASHI × NISHIKAWA

K A Z Y A × T A M I O

A B E × J (S) W

J U N T A × T E S S Y

E B I × Y O H I T O

KAZYA MIYATA
JUNTA MORI

年末にあたり お報せすること

YOHITO TERAOKA
MASAYUKI KOBAYASHI

★そうなんです。年末にあたり、お報らせしたいことが4つもあるんですよジュンスカは。なんたってその1番目は「だから自由はここにある」のシングル・カット。タイトル曲の他に、未発表チューンが2曲プラスされた超お得な3曲入りシングルです。彼らのファンなら絶対手に入れなきゃなんない92年の基本アイテム第1弾です。その他、ここでは3つの事柄を取り上げてます。さあさ、こたつの中でじっくり楽しんでください。

PHOTO／YUKIO FUKUZATO　INTERVIEW／EI-ICHI YOSHIMURA

緊急リリース!!

「だから自由はここにある」

●JUN SKY WALKER(S) NEWEST SINGLE●

★みなさん待ってましたね、この「だから自由はここにある」のシングル・カットを!! しかも、予想してましたね、未発表曲がカップリングされるであろうことを!! それにしてもこんなに早いとは思いませんでしたね。「つめこんだHAPPY」もますます絶好調な今だし、それに未発表曲を2曲も追加してリリースしてくれるなんて…。ああジュンスカさんありがとう。92年もアナタたちについていくわ。

だから自由は ここにある

●JUN SKY WALKER(S) NEWSET SINGLE●

これがどれもいい曲なんですよ。これはいいって大きく書いといてください。(笑)

——なんでも新しいシングル曲が決定したそうで。(笑)

森　「だから自由はここにある」です。リリースは1月15日、成人の日。(笑)

——で、なぜこの曲がシングルに選ばれたんですか。

宮田　いまだから言えるんだけど、前から「つめこんだHAPPY」と「だから自由はここにある」の、どちらを先行シングルにしようかと悩んでたんですよ。で、どちらがシングルになろうとも、アルバムからのシングル・カットもしようと思ってた。で、先行を「…HAPPY」にしたんで、じゃあ今度は「だから自由…」と。

——すると、「…HAPPY」が先行シングルになった時点で、もう「だから自由…」がシングルになることも決まっていた。

宮田　そう。だからそのプロモーション・ビデオの撮影のためにロンドンに行ってたんですよ、10月の時点で。

——だけどなんで「だから自由…」は「…HAPPY」の後になったんですかね。

宮田　企業秘密です。(笑)まあ、とくに理由はないんですけどね。(笑)

森　あえて言えば曲ができた順番かなあ。

——「だから自由…」はアルバムの中でいちばん最後にできた曲ですよね。

森　そうです。

——で、あの曲が入ったことによってアルバムが締まったって話があったでしょ。

宮田　ああ、そうそう。

——でもべつにシングルにしようとして作った曲でもない?

森　ちがいます。

——とすると、どうしてシングル曲として候補に上がってきたんですか。

宮田　やはりできてから聞いてみると、ジュンスカらしさとテンポのよさ、そのあたりでシングルとしての的を得ている曲だったからじゃないかな。そういう印象、メンバーみんなの心の中に自然とあったと思う。

森　そのへんは「…HAPPY」と一緒で、ジュンスカのいろんな要素がまんべんなく入っているという。みんなで歌えて、テンポもよくて、しかもシャープな曲。

——それはよくわかる。でもあえてこれまであまりしてないシングル・カットを…。

宮田　してないですよねえ。

——そう。今回、シングル・カットをしようと思った動機というのは?

宮田　まあねえ、いままでは、おれらメンバーも、あるいは事務所も、シングルを切ることにどんな意味があるんだろう、果たしてシングル・カットというのは必要なのかって疑問があったんですよ。シングルを切って、それがバッとヒットすればそれでいいのかって言えば、そうじゃない。やっぱりアルバムを聞いてもらうんだって気持ちが強かったから、シングル・カットっていうのはそれほど必要じゃないと思ってた。

——それが今回は?

宮田　そう。最近はシングルの持つ意味っていうのを考えてて、ジュンスカなりのシングルの切り方もできるんじゃないか、と。ジュンスカってこれまで、カップリング曲にアルバム未収録の曲を入れてきてるんですよ。で、今回も未収録を含むシングル・カットをするんだけど、アナログのA面に当たるメインの曲だけが輝いてて、あとの曲は適当っていうんじゃなく、それもいい曲にした。シングルだけれども、ジュンスカにとってはこれまでのアルバムと同じ気持ちで捕らえてるっていうのかな。そういう出し方をやってみようという気持ちで、今回シングル・カットをすることに決めたんですよ。

——タイトル・ソングだけが聞かれればいいんじゃなしに、カップリング曲も含めたトータルな作品として捕らえてほしい、と。

宮田　そうそう。ただヒットすればいいっていう商業的な考えじゃなくて。

——ぼくはもうひとつ理由があるんじゃないか、と思ってたんですよ。

森　というと?

——ジュンスカってバンドのイメージが、昔のビート・パンクってイメージで固まっちゃってるところがあるから、近作でこれだけ音楽的にも変化してることだし、積極的にシングルを切ってみんなに聞かせて、そうした世間の思い込みを打ち破っていこうという意図かなあ、と。

森　なるほどねえ。(笑)

宮田　これからその理由を使わせてもらいますよ。(笑)

森　だけど、確かにそういう手段にも使えるよな。(笑)

——やはりアルバム1枚ドンと出すよりも、シングルとして1曲づつ呈示していったほうが、より多くの人の耳に触れるでしょ。

森　それはそうだ。じゃあ、第3弾シングルは「超満天国」にしよう。(笑)

——こんな変化してるぞ、と。(笑)で、あと未収録曲についてなんですけど。

宮田　まず呼人の歌う「ハロー!! レッテル」って曲、あと「その日まで」のバラード・バージョン。これがどれもいい曲なんですよ。これはいいって大きく書いておいてください。(笑)

——では、作曲者の呼人さんから、こういう曲なんだってことを。

寺岡　「ハロー!! レッテル」は、前にヒズ・フレンズのライブでも歌ってた曲なんですよ。そのジュンスカ・バージョン。

——「…HAPPY」にしろ「だから自由…」にしろ、今回シングルのB面は全部呼人さんの曲でいこうって決めてたんですか。

寺岡　いや、たまたまです。べつに決まってたわけじゃない。

宮田　なんか自然にこうなったって感じだよね。

——では、もう1曲の「その日まで」のバラード・バージョンについて。

宮田　このバラード・バージョンを入れるきっかけとしては、前からジュンスカはバラードとして演奏できるようなメロディのきれいな曲を、テンポを早くしてロックっぽくしたり、あるいはそのままバラードにしてきたりってやり方をしてきた。ライブなんかではその実践としてみんなで座って「明日がこなくても」のスロー・バージョンをやったり、「遠くへ行かないで」をアコースティックでやったり。今回の「その日まで」は、ライブの場だけじゃなくて、録音した作品としてもそういう、曲のべつの顔をみせることができるって意味で、アルバムでは早いバージョンでやってた曲をスローにして収録する、と。

——ああ、なるほど。

宮田　そういうことをやろうっていう意思をはっきりさせて切るシングルなんですよ。だからこそ、ぜひ期待してもらっていいんじゃないかな、と思います。

——「だから自由…」自体は、アルバムと同じバージョンなんですか。

森　アルバムで入ってる最初のSEがなくて、唐突に変拍子から入るようになってる。

——あとは基本的にアルバムと同じバージョンと。

森　そうですね。

——あと、ロンドンで収録したこの曲のプロモ・ビデオですけど、どういうビデオになってるんですか。

宮田　これがまたかっこいいんだ。(笑)まあ、見てのお楽しみなんですけど…。

小林　走ったり跳んだりしています。(笑)完成したやつはまだ2回ぐらいしか見てないんですけど、ほんと、よかった。なんか「…HAPPY」のビデオとは対照的なんですよ。

——なんといっても、ビートルズが演奏したロンドン、アップル・レコードの屋上で撮った。

小林　そう。それとロンドンの他の場所や東京で撮ったシーンもあるし。

森　そう。モノレールの中で撮ったり。

宮田　今回は絵コンテをきちっと用意して、1本の映画を撮ってるつもりでやりたいって監督の人が言っててね。だからいままでの「歩いていこう」とかのようにノリ1発的なよさとはまたべつの、ひとつの映画を見てるような感じの仕上がりになってるんですよ。

——え〜と、ロンドンで撮ったのはアップルの屋上とモノレールと…。

宮田　クラッシュの「ロンドン・コーリング」に出てきた波止場、あと不景気でほとんどゴーストタウンとなったドックランドっていう場所。ロンドンっていっても観光名所的なところ以外で撮って、最後に東京・芝浦で撮ったワンシーンが入るんです。

森　ロンドン収録にかかった日数は4日ほどだけど、それ以外を含めるとひと月以上かかってますよ。小林なんか髪型がちがうっていう。(笑)

小林　そう。最後のカットではそれまでと髪型がちがう。(笑)

森　これ以上は見てのお楽しみ。(笑)

——わかりました。楽しみにしてます。

その2 宮田和弥編

●1991年を振り返るJ(S)W●

やっぱりケガ。もうそのひと言につきるなって1年だった。

—「'91年あんなこと、こんなこと」の時間です。（笑）

宮田　やっぱりケガ。もうそのひと言につきるなって1年だった。オフィシャルな面でもプライベートな面でも大きかったですよ。コンサートを飛ばすっていうのはねえ、罪悪感はあるんだけど休まなきゃいけないしの葛藤もあったし。

—葛藤。

宮田　そう。休めることに心地良さみたいなものもあったから。

—ああ。でもそのケガが結果として災い転じて、みたいなとこもあったでしょ。

宮田　そうですよね。「つめこんだHAPPY」ができたりとか。

—ケガしたとこも含めて、トータルで見ると'91年はいい年でした？　悪い年でした？

宮田　いい年だったんじゃないかなあ。おれ、いままで悪い年ってのはないから。だって1年間つまらないことばかりって年はまずないからね。

—だけどその中では当然つらいことやイヤだったこともあるでしょ。今年の場合はやはりケガ？

宮田　ですよね。

—それを除くと、けっこういつもの年と同じって感覚ですか。

宮田　そういう意味じゃそうかもしれないな。

—それでもこれは心に残ったってことはありますか。

宮田　やっぱりケガ。（笑）いろんなことがあったけど、やっぱりケガに尽きるんじゃないかなあ。（笑）

—そのケガはこれまでの生涯のなかで、（笑）いちばん大きなケガですか。

宮田　そうです。1週間入院したわけだし。あ、あと犬を飼い始めたってのは大きい出来事かもしれない。その犬って、おれがケガをした4月2日に生まれたんですよ。なんかおれの生まれ変わりのような…。（笑）

—生まれ変わりってこたあないでしょ。（笑）

宮田　いやいや。（爆笑）あのう、おれの飼った犬ってのは、魔除けの犬なんですよ。ペキニーズっていう、中国では昔から魔除けになっている犬。神社なんかにいる狛犬の原型だと思うんだけど。

—あの犬を飼ってからはケガもないことだし。

宮田　そんなしょっちゅうケガしないですよ。（笑）でも、あのケガをしたことによって、いろんな人がおれのことを心配してくれた。そういう人たちの愛情を感じたし、その数の多さにあらためて気づいたんですよ。おれはこれまで、人の手は借りずにここまでやってきたっていう気持ちがなくもなかった。でもケガをしてコンサートが飛んだりすると、みんなが見舞いに来てくれたり、全国で多くの人が復帰を待ってくれているのを感じたし、そういうみんなの愛情とか優しさとかをあらためて知るいい機会だったんです。

—なるほどねえ。するとトータルで考えるとケガをしたこともよかった。

宮田　ですね。

—あと、いいことにロンドン行きは入らないですか。

宮田　ま、あれはいいことだったけど、バンドの活動の流れのなかのことなんで。あ、でもロンドンかあ。半年や1年住めって言われりゃ喜んでハイというほど好きになりましたよ。皿洗いをして暮らすんでもいいから、しばらく外国に行きたいというのは感じました。音楽とかには関係なく、向こうに住んでそこの習慣ってのを感じてみたいなあと思いましたね、ほんと。

—じゃあ来年は突如失踪して、みんなで探し回ったらロンドンにいた、とか。（笑）

宮田　いや、ビザ取ったりでバレるからそれは無理。（笑）だけどそれで思ったのは、外人のアーティストっていいなあってこと。おれたちツアーでいろんなことへ行くっていっても日本国内だけでしょ。英語圏のアーティストは有名になる—世界ツアーを回れるってのがある。ジーザス・ジョーンズのビデオって見ました？

—「ビッグ・イン・アラスカ」？

宮田　そう。あれっていろんな所が出てくるでしょ。日本も出てくるけど、そのビデオのひとコマでしかない日本しかおれらは感じられない。でも彼らはいろんな土地を感じることができる。アメリカからイギリスからオーストラリアからあちこち。あれっていうのはうらやましいですよね。外国に行って帰ってきたときにいつも思うんだけど、ああ、外国でもコンサートができたらいいなあって。ツアーしたいなあっていつも思う。

—日本のミュージシャンだったら誰でも思うことなんでしょうねえ。

宮田　かもしれない。

—で、'91年を振り返ってみると、じゃあ忙しい年だったとは思わない？

宮田　忙しくないことはなかったんだけど、ここ3年はいつも同じペースで、もう慣れたってとこはあるから。この忙しさってのはもう当たり前の忙しさ。（笑）

—でも毎回60本だ90本だってライブやってると、各地の個々の印象ってのは薄くなるもんですか。それとも強くなる。

宮田　う〜ん、どっちとも言えないんだよなあ。どこも全部印象が強かったって言えばそれはウソになるし。印象全然ないよってこともないし。どこにしろ、そこでおれは2時間たしかに歌ってるわけだから、その事実っていうのは消えない。

—では'91年、いちばん印象に残ったステージってどこでした？

宮田　やっぱり福島。ケガから復帰して最初からやり直した福島の2回目。ケガしたときは2曲目でステージから落っこちて中断したんだけど、落っこちた席にいた人はやはり2回目に来てなかった。やっぱり足を引っ張っておれをケガさせたって罪悪感があったんだろうなあ、と。

—あ、そうか。チケットはそのまま有効だったんだ。

宮田　そう。そこの席がぽっかり空いているわけ。他の観客も、どうも申しわけないって顔つきで2回目に来てたんだよね。MCをしても、普通はざわざわするのに、ピタッと静かになったりとかね。（笑）べつにおれもムカついたりは全然しなくて、あれは単なる事故なんだって割り切ってた。そうMCしたらワーッと拍手が起こったりしてすごく気持ちよかったんですよ。あれはすごく不思議な雰囲気だった。これからも福島のあそこのステージに立つたびにそういう雰囲気になるだろうなあ。いちばん印象的なステージはそれ。

森純太編

●1991年を振り返るJ(S)W●

セッション、酒、水泳、ギター、焼肉。盛りだくさんな1年。

—「ズバリ語ろう'91年」です。(笑)

森　なんだそれ。(笑)

—'91年はいい年だったって実感、あるんじゃないですか。

森　いっやあ、ほんと充実してましたよお。

—それはやはり『TOO BAD』という作品ができたってところから?

森　それに尽きますよ。今年の充実した活動っていうのは、すべて『TOO BAD』につながるプロセスなんですけど、たとえばウィルコ・ジョンソンに会って対談したりとか、元・子供バンドのユカワトーベンさんに呼ばれてセッションしたりとか、麗蘭と対談したりとか。小山卓治さんとも一緒にステージに立てたし。

—盛りだくさんな'91年。

森　その通り。

—外国に行ったことなんかは?

森　ロンドンですか。おれはあんまり感慨はないなあ。なにしろあの時期、ほんとに眠かったんですよ。

—眠かった?

森　そう。ロンドンでは思いっ切り寝てました。(笑)みんなが買い物行ってる間も寝てたし、体が疲れたっていうか、ここで絶対に体を休めておかないと、今後がヤバいって踏んだんですよ。

—行ってたのは4日間でしたっけ。

森　そう。その間、遊んだっていうのはタワーレコードに行ったぐらい。

—あのロンドン行きって、『TOO BAD』を完成させた直後だったじゃないですか。

森　ええ。

—やっぱり『TOO BAD』を作ってる間に疲れやストレスが自然とたまってってたんですかね。

森　それはないんじゃないかな。だって毎日嬉しいことの連続だったから。

—でも、思い切り好きなことして遊ぶとかえって疲れるってのもあるじゃないですか。

森　ああ。やっぱり張り詰めてたものもあったのかな。そうかもしんないですね。後、6月からずっとツアーがなかったから、毎日酒飲んで夜更かしして、それで翌日プール行って泳いで、で、また酒のんでって生活してましたからね。(笑)毎日体に無理させてたのかもしれない。

—毎日泳いでた?

森　レコーディング中は泳いでなかったけど。(笑)とにかくロンドン行ってたときは、ここで体を休めておけば、また『TOO BAD』ツアーに備えられるな、と。

—また全力で走る前の休憩。

森　そう。

—で、'91年を振り返ると、忙しい年だったという実感はありますか。

森　う〜ん、どうだろう。でも忙しいって言えば忙しい年でしたよね。なにせ1月2月はツアーをやって、片や『START』のプロモーションをやってって時期……。

—あ。『START』って今年出たアルバムだった。

森　そうなんですよ。(笑)あれのプロモーションをびんびんにやってましたからね。で、やっと3月に入って九州ツアーだけで穏やかにコトは進んで(笑)それが4月になると今度はああいう事故でツアーが延期になった。

—ライブが何本か飛んだ。

森　そう。5月いっぱいまでツアーがかかっちゃいましたからね。それで4月からは、毎日曲を書くって体制で過ごしてたし、それが9月の中旬ぐらいまで続いたでしょ。

—毎日ってのはでも、大変だったでしょ。

森　一瞬たりとも気は抜かなかった。(笑)いいフレーズが浮かべば、すぐにカセットテープに吹き込んだり歌詞を付けてたりしてたから。そういう意味では忙しかったなあ。

—だけど「いい忙しさ」。

森　そうそうそうそう。(笑)そういう時期があって、並行してレコーディングを続けて、いい作品を残せたってホッとする間もなく、今度は『TOO BAD』のプロモーションにまた。(笑)

—ビデオの撮影もあるし。

森　そう。ツアー以外での忙しい日々が続いた年だった。でも、プロモーションにしたって、自分の好きな音楽を作って、それについていろんな話をするってことですからね。

—'91年、心に決めて実行できたことっていうとなんですか。

森　やっぱりまた泳ぎ出したってことと、あとギターをちゃんと弾こうと決心して…。それぐらいかな。

—泳いだってことなんですけど、'91年1年でどのぐらいの距離を泳ぎました?

森　う〜ん。30日間、毎日平均500メートル泳いだとすると…。

—15キロ!!

森　ああ、そんなに泳いだかあ。

—筋肉ついたでしょ。

森　なんかね、夏のイベントのときの写真とか見ると、腕のあたりなんか、すごい筋肉ついてるんですよ。(笑)

—え? じゃあいまは落ちちゃった?

森　それ、わかんないですよ。だけど、泳いだりして運動したから、体温上がってるんですよ。だから寒くても薄着で平気。(笑)

—……体温って上がったりするもんなんですか?

森　そう。風の子になったんですよ。(笑)子供は風の子。

—26歳にして風の子に。(笑)

森　そう。けっこう寒がりなんですよ。でも'91年は寒さも平気になって、しかも食い物まで変わってきた。

—どう変わったんです?

森　運動もしてることだしと、焼肉定食を食ったり。(笑)カレーライスはいまだに食わないですけど。(笑)

—酒量方面はどうですか。

森　それがヤバいんですよお。また最近増えちゃった。(泣)一晩でボトル半分って日がここんとこ続いたんですよ。(泣)春先に、ジャック・ダニエルズとワイルド・ターキーが合わせて50本はあったんだけど、いまそれが4本ぐらいしか残ってないんですよ。(泣)

—うわあ。なおかつ外でも飲んでるわけでしょう。(笑)

森　なんですよ。(泣)まあ、ツアー中だったらこんな減り方はしなかったんだろうけど。

—だけどその分外で…。(笑)

森　そうなんです。(泣)飲む量は結局変わらない。(泣)人間、酒の飲みすぎはいかんですよ。(泣)

その2

1991年を振り返るJ(S)W
寺岡呼人編

"ビズ・フレンズ"そしてウイスキーの水割り。酒豪誕生!?

—ええと、毎年恒例の「ルック・バック'91」の時間です。(笑)

寺岡 はい。(笑)

—'91年という年を振り返ってみると、いい年でした? 悪い年でした?

寺岡 いい年ですよ。

—どういうところが。

寺岡 ぼくは、なんでもいいことって思うようにしてるんですよ。だって、物事悪いことはないって思ったほうが、ポジティブじゃないですか。

—なるほど。じゃあ、いい年だった'91年の、なかでも心に残る出来事っていったらなんですか。

寺岡 やっぱりヒズ・フレンズかな。ふだん定期的にツアーやレコーディングをやってるうちに、1度やってみたいと思ってたことが実現したんで。

—ああ、ヒズ・フレンズ。

寺岡 やっぱり楽しかったですよ。

—それは、ソロ活動をやることによってリフレッシュしたってこともありますか。

寺岡 う〜ん、リフレッシュとかじゃないですね。ようするにいつでも自分で感動できることをしていたいから、そのなかのひとつって感覚なんですよね。

—ヒズ・フレンズは春でしたよね。

寺岡 そう。5月かな。

—全部で何回ライブをやりましたっけ。

寺岡 全部で7回、ホコ天もいれると8回。

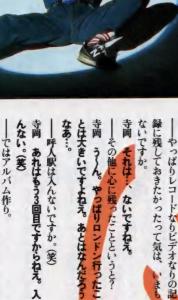
—やっぱりレコードなりビデオなりの記録に残しておきたかったって気は、いまもないですか。

寺岡 それは…、ないですねえ。

—その他に心に残ったことというと?

寺岡 う〜ん。やっぱりロンドン行ったことは大きいですよねえ。あとはなんだろうなあ…。

—呼人駅は入んないですか。(笑)

寺岡 あれはもう3回目ですからねえ。入んない。(笑)

—ではアルバム作り。

寺岡 まあ、それは入るだろうけど、とくに'91年だけのことじゃなくて、毎年やってることですからね。あとは…、'91年はけっこうイベントとかで出かけたこと、かな。

—出かけたというと。

寺岡 こないだも伊勢のほうに行ったとき、レンタカーを借りて小林君と鳥羽水族館までドライブしたとか。

—へえ。

寺岡 そう。スカイラインを走って。あれは楽しかったなあ。(笑)そうそう、空いた時間を有効に使って楽しむことをしてきたつもりなんですよ。

—その他に大きな出来事というと?

寺岡 あ。あとお酒を飲むようになったっていうのは大きい。

—それは量を飲むようになったってことですか。

寺岡 いやいや。自分は水割りを飲めるんだっていうことに気がついた年なんですよ、'91年は。(爆笑)

—(笑)、それはまたいったいどういうきっかけで?

寺岡 いやあ、どういうきっかけとかないんですよ。(笑)これまでって、お酒はそんなに飲めなかったんですよ。

—ところが…。

寺岡 実はお酒を飲めないんじゃなくて、自分はビールを飲めないだけだってことにようやく気がついた。(笑)

—あ、ビールが飲めない。

寺岡 そうなんですよ。水割りだったらわりと底無し状態までいけちゃう。(笑)それに気がついた日からしばらく、ずっと朝まで飲み続けの日が…。(笑)

—続いた。(笑)だけど朝まで飲んだりすると、翌日というかその当日とかはどうなるんですか。二日酔いとかひどいでしょ。

寺岡 それが残らないんですよねえ、また。(笑)

—いいな、それ。(笑)

寺岡 次の日に頭が痛いとかって、経験ないんですよ。

—気持ち悪いことは?

寺岡 ない。

—いいな、それ。(笑)

寺岡 ま、たまにはあるけど、ほとんど大丈夫ですね。

—いいなあ、ほんとに。でもそうすると、いままで飲まなかっただけで、基本的には酒に強いんですよ。

寺岡 かもしれないですよね。ただ、飲んでると顔が真っ赤になりますよ。

—真っ赤になるかならないかは、あんまり関係ないみたいですよ。家の人とかって飲むほうなんですか。

寺岡 いや、そうでも。だけど飲むとやっぱり真っ赤になりますけど。(笑)

—真っ赤になる家系。(笑)

寺岡 (笑)

—いま飲むのは、じゃあ水割り専門。

寺岡 そうです。バーボンが多い。でもぼく、1人じゃ飲まないんですよ。友達が遊びに来たり、逆に友達のところに遊びに行ったり。あと、一緒に飲みに行ったりするときだけ。

—その、人と飲むときまでの底無し状態だと、どれぐらい飲むんですか。

寺岡 そうだなあ。ボトルを1本空けちゃうとこまではいかないけど、水割りから途中でカクテルに変えて、その後でまた水割りにしたりするからなあ。トータルでは量がいってるんじゃないかなあ。(笑)

—ほう。(笑)

寺岡 飲んでるあいだってのは、酒が止まることはない。(笑)

—ジュンスカにまたひとり酒豪誕生!?

寺岡 いやあ、ほんとに飲む人と比べたら、そんな量はいかないですよ、きっと。

—ほんとに飲む人といえば森さん?

寺岡 いや、そんなガボガボ飲むって印象はないんですけどねえ。(笑)

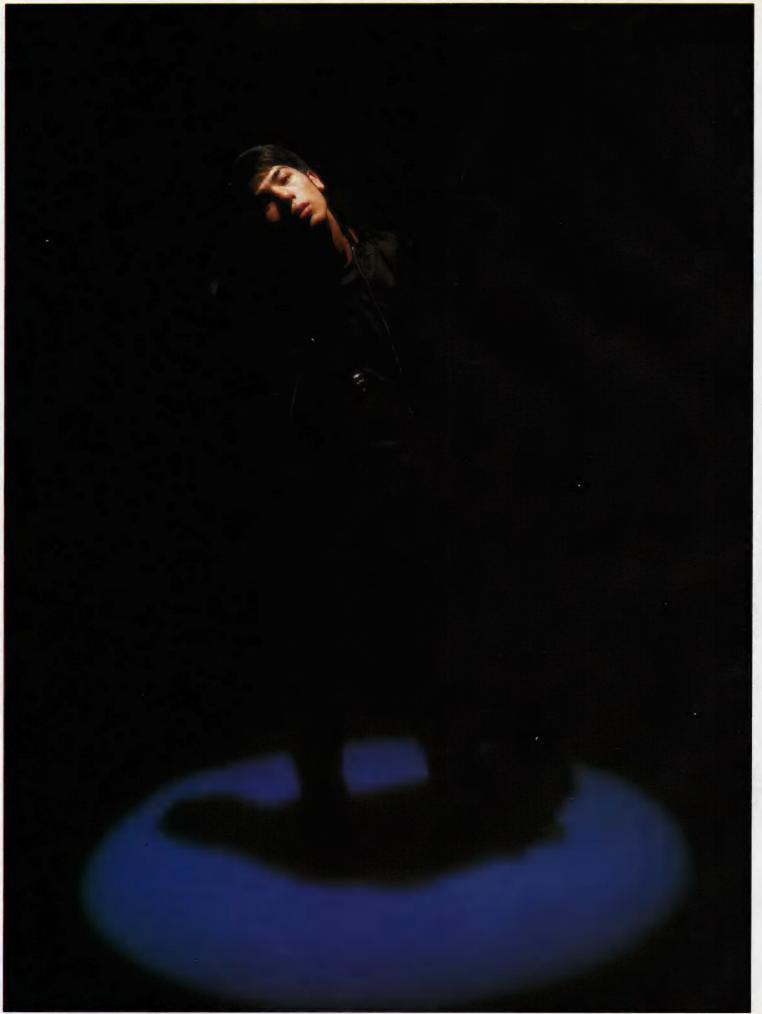
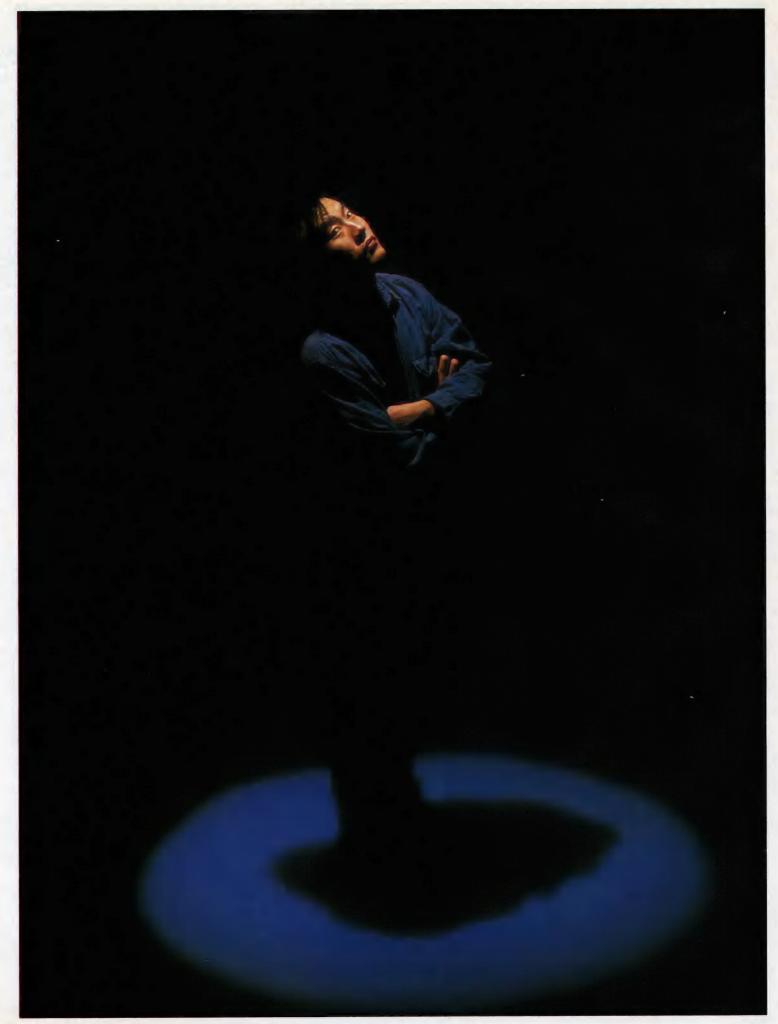
—そうですかあ。(笑)では、'91年はウィスキーの水割りのうまさに気がついた年だった、と。(笑)

寺岡 そうです。(笑)

—最後に、映画ファン寺岡呼人の挙げる'91年のベスト・ワン・ムービーは?

寺岡 『羊たちの沈黙』。ああいうヒーローとヒロインの関係を描く映画をアメリカは作れるんだなってのが、すごく印象的でしたね。

—ヒーロー?

寺岡 そう。あのアンソニー・ホプキンスが演じた博士もすごく男っぽく感じられたし、登場人物がやたらセクシーなのがカッコよかった。すごくスマートなセクシーさがあってびっくりしたんです。あれはいい映画でしたねえ。

その2

小林雅之編

●1991年を振り返るJ(S)W●

いい人にたくさん会えた。楽しく前向きに生きたからこそ。

―毎年恒例「'91年を振り返る」の時間です。(笑)
小林　そうかあ、そういう季節かあ。
―今年も残すところあと僅か。
小林　総決算ですねえ。(笑)
―どうでした、'91年?
小林　いい1年でしたよ。
―どうよかったんですか。
小林　正月に初もうでに行ったとき、'91年は楽しく暮らすようにしようって思ったんですよ。
―で、そう願をかけた。
小林　そう。けっこう軽い気持ちでそう拝んできたんですけど、まあ、そういう願をかけたぶんいい年になったんじゃないですかね。
―たとえば?
小林　う～ん、たとえば、'91年1年って、これまで以上に多くの人に会ったんですよ。『TOO BAD』にゲストで来てくれた新井田さんなんかもそうだし、いい人にたくさん会えた。それも、楽しく過ごそうと前向きに生きたからこそ、じゃないかな。
―言葉で前向きに生きようって言うのは簡単だと思うんですけど、実際はやはりそううまくいかないでしょ。それが願い通り前向きに暮らせた秘訣みたいなのはありますか。
小林　なるべくクヨクヨしないことですね。(笑)そりゃ、クヨクヨするときもあったけど、それを長引かせない。おれ、基本的にクヨクヨする人間なんですよ。(笑)いやなことがあるとウジウジして口をきかなかったりしちゃうタイプ。(笑)
―'91年はそういうことがないように、と。
小林　そう。せっかくいろんなことしてるんだから、できるだけ楽しく生きたいと。ヤなことがあっても、「こういうこともあるさ」ぐらいの感じで、ヤなことを逆にいいほうに持っていきたいなあって思ってたんですよ。
―その精神って、たとえば「どうかな」の歌詞にもよく表れてますよね。(笑)
小林　だっはっはっは。(爆笑)そうだそうだ、言われてみりゃその通り。(笑)イヤでどうしようもないことでも、そこで「イヤなこと」だってあきらめるか、楽しい方向になんとか持ってくか。
―ちなみに初もうではどこへ?
小林　明治神宮です。
―ということは、明治神宮に願をかけて正解だった、と。実に霊験あらたかな神社。
小林　そうです。(笑)
―ところで'91年は忙しかったなって実感はあります?
小林　いや、けっこう忙しくない年だったと思うな。
―へえ。
小林　やっぱり宮田のケガがあって、それで休んでた期間ってのもあったから。
―ああ、そうか。
小林　あれでひと月休んだようなもんだし。'90年や'89年なんかと比べればすごい休みが多かったですよ。
―それはやっぱり、単純にツアーの本数が減ったから?
小林　そうですよね。でも、ツアーの本数よりも、東京にいれた期間が長くて、家で過ごした時間が多かったからそう思うんじゃないかな。
―ただ、アルバム作りがいちからあったわけで、それは忙しいという印象はなかったですか。
小林　いや、自分たちのペースでやれたから、そんなに忙しいということはなかった。
―すると、忙しくなかったという'91年、いちばんハードだったことってなんですか。
小林　なんだろう。やはりですね、'92年の仕事始めが1月4日だと聞いたときにそうとうムッと…。(笑)うそうそ。(笑)ハードだったことかあ。それほどハードだと思ったことはないですねえ。細々したことはいっぱいあったような気はするけど、なかでとくにあれ、っていうのはないんじゃないかなあ。
―ところで、3大ニュースには入ってないけど、モヒカンにして、それを切ったってのは'91年の重大事件じゃないんですか。(笑)
小林　あれは、(笑)自分としてはそれほど感慨はない。(笑)
―でも、いきなりでしたからね。(笑)
小林　いやいや。そうだ、あと、やっぱり歌うのは楽しいということに気がついた年だった。歌っていいなあ、と。
―それは自分で歌うってことに対してそう思ったんですか。
小林　いや、それがいちばん大きいかもしれないけど、リード・ボーカルを取るってことだけじゃなしに…。
―とにかく声を出す気持ちよさってところですか。
小林　そう。これから何10年もかけてもっと好きになりたいと思いますね。
―「どうかな」を歌ってからは、ひとりでこっそりカラオケに行ってるとかはないですか。(笑)
小林　(爆笑)いやあ、「どうかな」よりも前に渋谷公会堂でアンジーの藤井君とやったイベントとか、有山じゅんじさんのライブに出してもらったりの、すごくいろんなことから触発されたことなんですよ。
―でもカラオケは行かない。
小林　行かないけど、よくクルマのなかでは歌ってますよ。(笑)
―たとえば?
小林　こないだはブルーハーツの豊島公会堂のライブを全曲歌いましたよ。(笑)MCまで全部合わせて。(爆笑)運転中に、となりのクルマの人と目が合って恥ずかしかった。
(笑)
―窓はしめて?
小林　あたりまえでしょ。(笑)でも、なにしろこの髪型で声張り上げてんですから、となりのクルマの人もけっこうジロジロ見ますからねえ。(笑)
―じゃあ、'91年は本当にいい年だったということで。
小林　そうですねえ。だけど、そんなこと言っちゃうと'92年がロクでもない年になりそうだから、'91年はほどほどだったと思ってないと。(笑)
―'92年の元旦の初もうでで頼むことってもう決めてます?
小林　う～ん。やっぱり、自分も含めて知ってる人全部が健康でいられるように。それから、バンドがどんどんいい方向に進んでいけるようにってことです。
―ほう。(笑)
小林　こういう気持ち悪いことを、毎年けっこうまじめに祈ってます。(笑)

1

『TOO BAD』完成

やはり『TOO BAD』ができたことにつきるなあ。この他にはあんまりないかもしれないぐらいですよ。

2

ケガをしたこと

これはいまになって思えばってことですけど、ケガをして入院したことによってできた歌が「つめこんだHAPPY」だったし、トータルで見ればって意味で。やっぱり人生、楽しいことやうれしいことだけでは「HAPPY」って言葉は生まれないと思うんですよ。つらいことや悲しいことがあるから、その対極としての「HAPPY」が存在する、それに気づくことができるんだ、と。ケガをしたことによって隣に存在してた「HAPPY」に気がつくことができたってのは大きかったですよ。

3

なし

もちろんいろんないいことはあったけど、それは毎年あることだったりするし、プライベートなこともあるし…。

91年の3大ニュース その3 JUNTA MORI

1 『TOO BAD』ができた

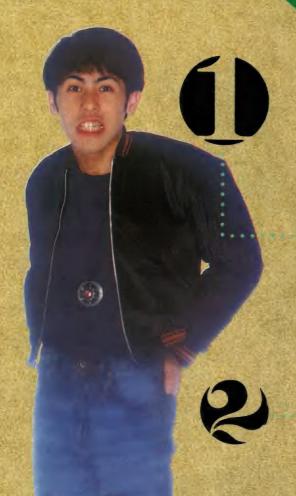
このアルバムができたことには、本当に満足してるんですよ。これが出たことによって、ジュンスカってバンドがまたひとつガッチリ固まったって気がするぐらいで。もちろん、と、いってもみんなには以前からガッチリ固まってたじゃないかって言われそうなんだけど。(笑)個人的には、今年『START』を出して、ツアーを続けて、このアルバムをレコーディングした。このことによって、以前よりもツーカーな部分が増えたと思ってるんですよ。とにかく『TOO BAD』を作れたことが今年のベスト1ですね。

2 憧れてたいろんな人に会えた

これは実に個人的ないいことなんだけど、やっぱりうれしかったですよ。対談したイギリス人のウィルコ・ジョンソン、小さなとこだったけど、一緒にセッションできたユカワトーベンさん、対談、っていうかインタビューアーをさせてもらった麗蘭のお2人、ついに同じステージに立つことができた小山卓治さん、どうもありがとうございました、いい思い出になりましたって感じですよね。これからもよろしくお願いしますってとこかな。来年も機会さえあればまたいろんな人と会ってみたいな。

3 また泳ぎ出した

夏の間に余裕で15キロは泳ぎましたからね。(笑)レコーディングの合間あいまにプールに出かけてたんだけど、こんなにまとまった距離を泳いだのって、ずいぶん久しぶりなんですよ。泳ぎ出した最初は、ほんと筋肉が落ちてすぐ疲れちゃってたんだけど、夏の半ばには筋肉が復活してきましたよ。ただ、泳いだぶん、カロリーのある物を食ったから体重はそんなに変わらなかったけど、脂肪は筋肉になりました。(笑)夏のイベントのときなんか、あらためてそれを認識したなあ。やっぱり泳ぐって体にいいですよ。(笑)

91年の3大ニュース その3 YOHITO TERAOKA

1 ヒズ・フレンズのライブ

全部で7回ライブをやって各地を回ったんですけど、どこもよかった。もちろん、そのライブ・ツアーの中でもとくに満足できたライブというのがあって、ツアーが終わったあとで「どこがいちばんよかったかな」ってバンドのみんなと話したんですよ。で、やっぱり大阪のライブがみんなよかったと。ただ、いちばん最初にやった仙台のライブも、わりとグループ感というか、最初のライブだってことで印象に残ってるな。とにかく今年いちばんの思いでっていえばヒズ・フレンズにつきるんですよ。

2 あっちこっち出かけたこと

これまではイベントなんかに行っても、ホテルとライブ会場以外の場所へは、ほんと、打ち上げのときに出かけるぐらいだったんですよ。それが今年はレンタカーを借りて小林君とドライブしたりとか、空いた時間を有効に使えたなって気がします。まあ、これはイベントだからできたことで、ツアーだと移動なんかがあってスケジュール的にはつらいかもしれないな。でも、あちこち出かけたことはいい気分転換になったし、これからもそういうことはできればやっていきたいですよね。

3 酒を飲めるようになった

自分でもびっくりしてるんですけど。(笑)けっこう底無し状態で飲んだ日も多いし、二日酔いになった覚えもないし、よかったことです。(詳細はインタビュー参照)

91年の3大ニュース

ASAYUKI KOBAYASHI

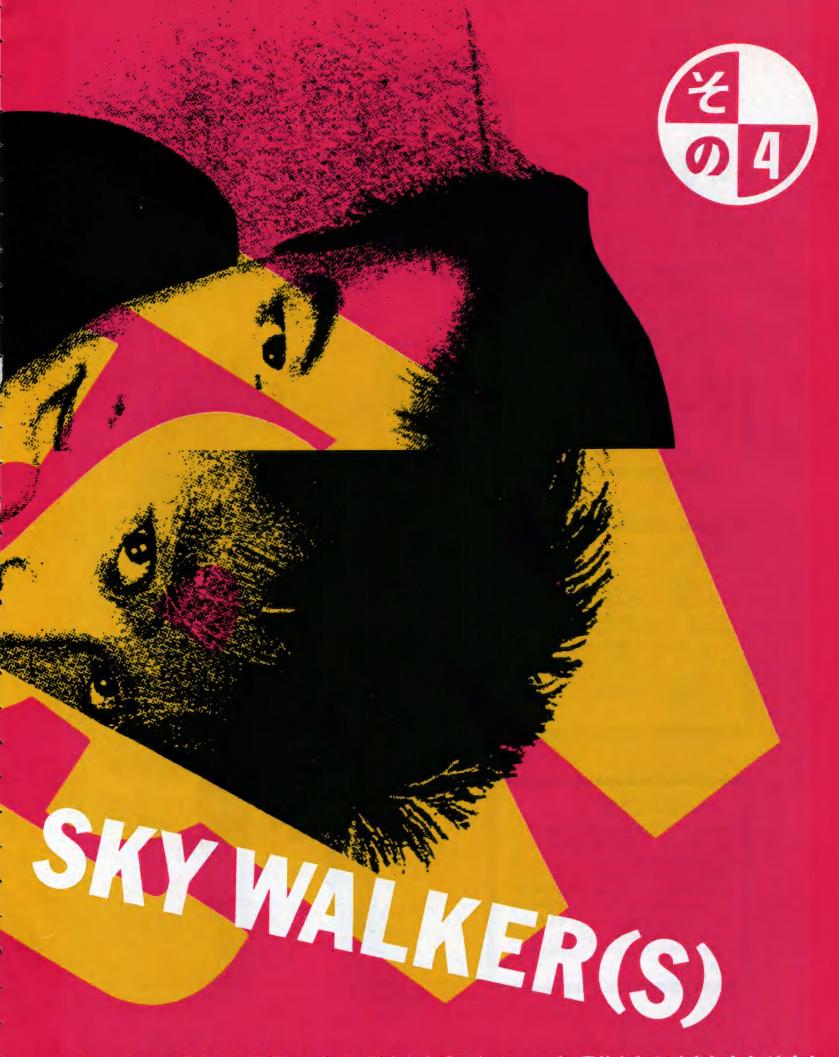
新井田耕三との出会い

やはり1位は、いろんな意味で元RCの新井田さんと知り合えたということ。ちょっと近づけたかな、と。これまでは単に「憧れの存在」みたいな感じだったけど、セッションもできたし、『TOO BAD』の中でおれが歌った「どうかな」にパーカッションで参加してもらった。うれしかったなあ。これからは「声をかけやすい存在」になったというか。(笑)マブダチ？　いや、そんな畏れ多いですよ。街で出会ったときなんかに、「よお、小林」って声をかけてもらえればそれでいいんです。(笑)

けっこう家にいれた(笑)

え？　小さいいいことですか？　(笑)そうかなあ。やっぱり宮田のケガとかあってオフが取れたのと、ずっと東京に居座って『TOO BAD』のレコーディングをしてましたからね。基本的に家にいるのって好きなんですよ。ツアーはツアーでまたべつのよさもあるけど、あんまり家にいる期間が少なすぎるのはちょっとイヤですよね。それが今年は、初夏から秋までのあいだ、たまにイベントに出たりしたぐらいであとは家でしょ。プールへ行ったりで、家にいるよさを満喫しましたよ。(笑)

シャチに乗れたこと

実をいうと、3位を決めるのってすごい難しいんですよ。このシャチに乗っただとか、香港に行ったのとかって、仕事の延長線上じゃないですか。シャチは単行本用だし。そういう仕事の流れの上での「いいこと」は全部一直線上に並んでるって感じですねぇ。(笑)他にも『TOO BAD』を完成させたとか、その中で自分で歌ったとか、まだまだいろんないいこともあったんですよ。で、それらの中でシャチに乗ったことをあえて3位にした理由、あれはパチ▶パチの企画だったってことで。(笑)

★発売と同時に品切れが予想されます。確実な入手のために、ぜひ予約なさることをおすすめします。

RECOLLECTIONS 1991

★91年のB-Tは、まさしく『狂った太陽』という巨大なテーマー色だったように思う。アルバムからの先行シングル「スピード」に始まり、彼らとしては異例のシングル・カット「MAD」そして「JUPITER」。アルバムをひっさげてのツアーを経て初の長期オフ。何もかもが『狂った太陽』という自信あふれる作品を世に提示できたからに他ならない。そういったB-Tの91年を、9項目に渡って検証してみよう。彼ら自身が振り返るこの1年間は、いったいどのような色に彩られていたのだろうか……。

PHOTO／KAZUHIRO KITAOKA INTERVIEW／DAI ONOJIMA

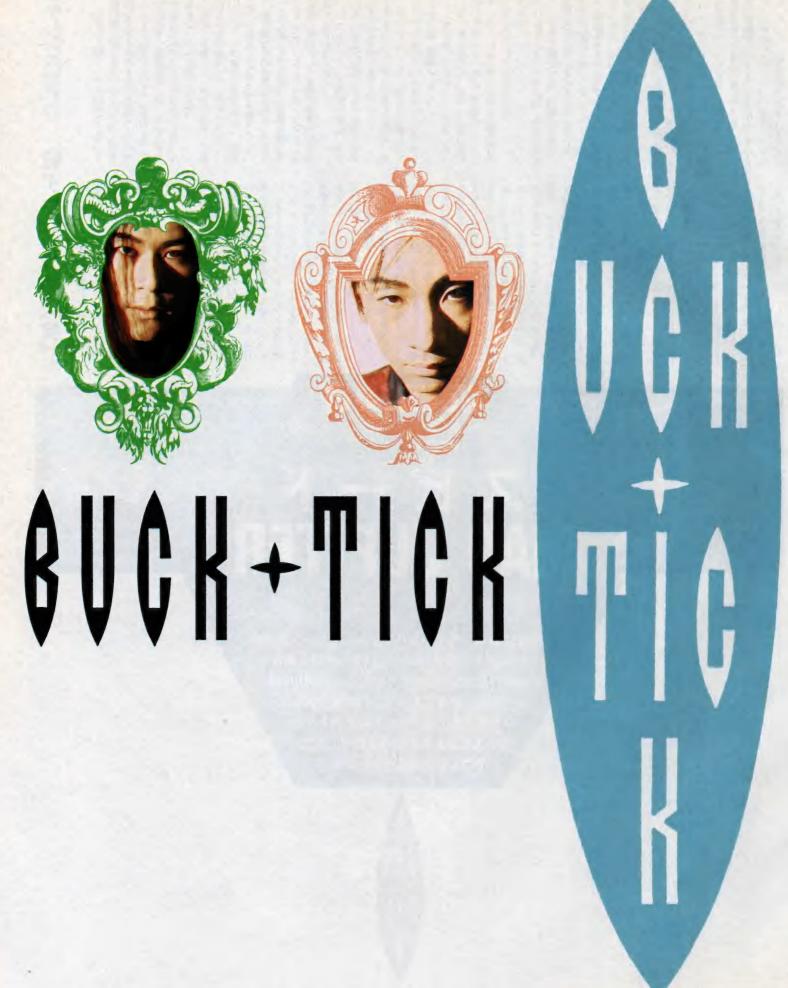
BUCK+TICK
BUCK+TICK

WE HEARD OF

スピード MAD JUPITER

★B-Tは91年、同一アルバムから3曲という異例のシングル・カットを行なっている。その3作各々に異なった意味が含まれていたことは周知のとおりだが、彼らにとって、いま振り返るシングル3作には、いったいどのような思い入れがあるのだろうか!? また、その本意は達成されたのか!?

●テレビCF!? 恥ずかしいです。(笑)

「スピード」

櫻井　自分たちのシングルの中で1番バンドっぽい感じがします。シングルって特別な気持ちがあるんですよ。本当に、今の状態をベストで出すっていう。音的にも、アレンジ的にも、全部変わったっていうのを知ってもらうメリットがあるかなと思って、あの曲をシングルに選びました。

今井　初めてああいう、ハヤリもの、これから来そうなのをやってみたんですけど。ああいうビートは単純に好きなんで、ああいうビートをB-Tでやっちゃおうと。

星野　最先端なものを取り入れるって形でやってると思うんですけど、新鮮な感じを受けたし、それでいてB-Tのノリみたいなものは失ってないし。自分とはまったく違う作風だと思いますけど。

樋口　いつもシングルを出すときは、今までとはちいっとだけ違ったような感じの曲でいつも出してたと思うんですけど、これは今までまったくなかった感じの曲で。面白かったですよ。リズムのノリが難しくて。弾き方によっちゃアメリカンになっちゃうんですよ。(笑)泥臭いノリに。

ヤガミ　最初聴いたとき、ジーザス・ジョーンズって知らなくて、グラムっぽい曲だと思ったんですよ。だから機械的というよりは、もっとヒューマンなノリに変えちゃったというか。好きな曲ですね。

「MAD」

櫻井　メロディアスですよね。あと、「スピード」はすごく弾けてて、元気をオモテに出す曲だったんで、それとの兼ね合いで、リズムが一定のパターーンでカチカチとなってて、構成もカチッとして……って曲を選んだというか。歌の部分で言うと、ナイーブな心情の描写を、ストーリーっぽくわかってもらえればと。

今井　すごく好きな、思い入れのある曲なんです。バンドの曲なのに、テクノ・ビートみたいな、ああいう雰囲気が出せたという。カクカクしてるイメージ。それはアルバム全体のテーマでもあったんですけど、それを象徴してるって感じですね。

星野　仮題が「テクノ」だったんですけど、ギターとかカチカチしてて、エフェクト処理してあって。曲自体はメロディアスでコード進行とかもあまり複雑じゃないんで、弾きやすいです。

樋口　すごい難しかったんですよ。タタタタ……って感じの機械的なノリで、初め、わーすげーやだな、手が疲れてやだなって思いましたけど、だんだん、今までとは違うベースで面白くなってきましたね。

ヤガミ　タイトな感じでやろうと思ったんですけど、アルバムの音はアンビエンスの音で、あまりタイトじゃないんですよ。それがずっと気になってたんだけど、アルバム・トータルのことを考えると、そこだけ変えられないですからね。だからシングルはどタイトにして、アンビエンスも全部切って、オン・マイクのタイコの音だけにして、やっぱそっちの方が合ったっていう。演奏も、ジャストに叩くって意識があったから、すげー時間かかって、苦労しました。

「JUPITER」

櫻井　あの曲は……CMにするの、もったいなかったかなあ。(笑)すごく貴重な曲なんで、バンドにとっても、俺個人にとっても。B面が「さくら」ですからね。ヘビィですよね。これからの季節に1枚どうぞ。(笑)色々な面を知ってもらおうってとこで、あの曲をシングルにしました。テレビCFですか? 恥ずかしいです。(笑)

今井　すごくシンプルで、きれいな曲だなあって。ぼくもああいうアコースティックな、シンプルな曲は好きなんですけど、どうしてもどっかヒネっちゃうんですよね。

星野　シングルのリミックスは、とりあえず聴きやすさを考えて。ストリングスを入れてギター・ソロをとりました。どっちが愛着あるかって言えば、アルバムの方かなあ。

樋口　今まで、アルバムには、こういう聴かせるタイプの曲って入ってましたけど、シングルでは珍しかったですから。でもシングルの方が聴きやすいですからね。俺たちの面を見せられたっていうか。

ヤガミ　個人的意見では、シングルはもう少しアッちゃんのボーカルを前面に出しても良かったかなと思いますね。楽曲がいいから、主旋律を出したいから。ボーカルがアルバムよりもなんか、聴こえなくなった気がするんですよね。

●もっとも満足感が大きかったですね。

『狂った太陽』

樋口　むかしはヘンテコリンだって言われて、小さくなってましたけど、今回はなんか、結構イイとか言われて。今まで、自分ではすごい手応えあっても、外から見ればカラ回り的な言われ方されてましたからね。だから、自分たちが予想してたよりはるかに高い評価だったです。でも、決して過大評価じゃないですよ。(笑)正当な評価です。

ヤガミ　評価って、自分たちじゃわからないですからね。でも今回、雑誌をはじめ、あちこちのメディアなんかが、初めて音楽的に認めたとか、コメント出したでしょう。そういう違う色の人が等しく認めてくれたってことは、間口が広がったのかなと思いますけど。いつも自分たちとしてはベストを尽くしてやってましたけどね。ようやく認められて、ホント生きてて良かったですよ。(笑)

櫻井　1曲1曲できてく毎に、今までとは違う満足感がじわじわ来ましたね。個人的にはすごくこもってた部分があって、周りのことをまったく意識してなかったっていうとおおげさだけど……これを聴くことによって、聴いた人の感情がこう、良かれ悪しかれ、なんかおこれば、いいなあって思いますね。

自分なりの声の出し方とか、その時点ですごく満足いってたんですけど、そこでまた葛藤があって。こんなこと別に人に向かって歌わなくてもいいだろう、こんなの俺が他人に言われたらイヤな感じするのに、みたいな。でも、そのへん気にしてたら何もできなくなる。そういうことで開き直ったのが、いい風に感じてもらえたかなと。

もし、このアルバムが評価されてなかったら……もう、どんどん拒絶してたでしょうね、周りを。それほど情熱的になるのもバカらしいって感じになって、ヒネくれてたんじゃないかと。(笑)

星野　1番満足感が大きかったですね。作曲にしてもギターにしてもアレンジにしても、すごい、トータル的に見て1番よく出来てて、満足できるというか。今までの延長線上とはまた一味違ったようなことができて、そこからまた、次のアルバムに繋げられるかなと。今までのアルバムとは全然差がありますね。やっぱり。

今井　今まで、曲作りにかかると、必ず1曲目にすごい凝っちゃって。このアルバムでは「Brain……」ですね。この曲に、このアルバムでやろうとしたアイディアみたいなものが出てますね。電気的でありながら、人間の肉体的なところを出せたらなと。ほとんど思ってた通りに出来ましたね。

出来映えとは逆に、『悪の華』よりセールス的には落ちましたけど、全然気にしてません。『悪の華』で増えて、今回減った人は、本当のぼくたちの音楽のこと好きじゃなかったんだと思いますから。

『BUCK-TICK／VIDEO』

今井　恥ずかしいですね。(笑)やっぱ、むかしの映像は恥ずかしいですよ。なんでこんなことやったんだろうって。(笑)やってるときはカッコいいと思ってやってるんですけどね。その直後に見たら、もう恥ずかしかったから、今だともっと恥ずかしいでしょうね。(笑)

樋口　だんだんとこう、眉毛が伸びてきた奴とか(笑)全然変わってない奴とか。そういう、俺たちがやってきたことを見てみたいって人が、買えばいいんじゃないですか。映像って面白いですからね。CD聴いてて、つまんない曲だと思ってても、ビデオ見て、あ、こんなイイ曲だったんだ、とか気付くことが今まですごくあったから。

ヤガミ　ファンは楽しいでしょう。1番喜ぶよ。最初のころ俺たちがどんなだったか知らない人なんて、面白いんじゃないですか。やせましたね、みんな、あの頃は、群馬の暴走族じゃねえのってとこもある。(笑)アッちゃんなんか、ウンコ座りしてタバコ吸ってるし。(笑)今井なんか、年中体重も髪型も髪の色も違う。(笑)

星野　過去は過去として見てもらえればいいです。あの頃の自分は作ってた部分もありましたからね。今の自分の方が普通ですよね。(笑)

櫻井　恥ずかしいです。プロモーションの意味とか、全然わかってないという。(笑)何をすべきかわかってないんですよ。ただ顔を出せばいいと思ってるから。ただ、あのころの情熱みたいなものは、今はないと言えばないですけどね。

WE HEARD OF

狂った太陽
BUCK-TICK

★なんといっても91年のB-Tは『狂った太陽』であろう。いや、もしかすると彼らの歴史の中で最も重要な作品となるかもしれない。その大傑作アルバムの他に、ヒストリー・ビデオ・クリップ集『BUCK-TICK』をリリースした彼ら。2つのヘビィ・パッケージについて訊いてみた。

●働きすぎ、日本人気質ですかね。(笑)

樋口　バンドやってて1番充実してた年でしたからね。ツアーも、後半ちょっと日程的に無理があったけど、前半はいいペースでできました。自分の演奏も、今までにない感触で、いい感じでしたね。

オフはもう、オフって感じでゆっくりしました。友達のライブ行ったり、今井くんと酒を呑んだり……ふだんと変わらないって話もありますけど。(笑)マネージャーが朝起こしに来ないというのがウレシかったですね。(笑)やる気が出てきましたね。ずーっとやってて、ハイ休み／ってやられると、ああ早くライブとかやりたいなあって思いますね。働きすぎですかね、日本人気質なんですかね。(笑)ライブはああいう風にしたいなあとか、こういう音が面白そうだなとか、いろんなこと考えて。

今井　ツアーは……思ってた通り……できて、すごい疲れたけど、充実してました。

ツアーまえ考えてたことは……ギターの絡みの部分とか、結構複雑なのが多くなってきたから、そこを気をつけるということと、あとはギター・シンセ……の部分を、ややこしいとこがあるから、そういうこと考えて……。全体のバランスを考え出したのはここ何年かですけど、今回は特に神経を使いましたね。

オフは……呑みに行ったり……呑みに行ったり……(笑)仕事もしましたけど、ホントに最後の何日かぐらいしか動いてませんから、ほとんど休みでしたね。……もっと休んでいたかったけど。(笑)

櫻井　ツアーは……疲れました。(笑)……体力と精神と同じぐらい……上へ上へもっていこうとしてた毎日で……すごく疲れました、今までになく。でも楽しいですね。そういう風に自分を苛めるのが。(笑)

……自分の言葉があったから、むかしのツアーよりは、自分の方向とか見せ方がわかったんで……気合が入ったかな。自分の中では、あの時点で思ってたことが半分以上できたかなと。

オフは……酒を呑む……だけですね。(笑)他にやりたいことはいっぱいあるんだけど……クルマ乗ってどっか行くぐらいです。休めたかな……よけい疲れたかも知れない。(笑)

星野　ツアーは……満足のいくものができました。自分自身で落ち着いてステージができたというか……。アルバムの音とか、カチッと作ってやってた分、忠実にできたかなと。今までだと、結構あやふやなとこがあって……ディストーションとかでガーッと弾いて、フレーズとかもあんまり決めないでステージに立っちゃったりとか、あったんだけど、……今回はカチッと、ギターでできたから。

ステージ上で、自分自身が見れるようになったというのが、1番大きな成長かな。

オフは……『DANCE2NOISE』とかやったりして……すごく充実してました。それ以外に充実してたことは……休んでたことです。(笑)あと、TVドラマの知識をバッチリ得ました。(笑)

結構長い休みでしたからね。ゆっくりできましたね。

ヤガミ　なんスか？　(笑)いやいや、チャンと聞いてましたよ。(笑)

ツアーは……今までのツアーで1番波がなかったですねえ。ご意見番の人がついてたから。ドラム・チューナーの人。その人と話して、〝今日のテーマ〟とか決めて、毎日ステージに立ってましたね。その人もドラマーですからね。ドラマーが2人ツアーに出てるみたいなもんで。いろいろなこと話して、すごく勉強になりました。客観的に見てくれるから。

全コンサート、ビデオに撮ったんですけど、波がなかったかなと。悪いときでも、そんなにひどくないし、いいときはホントに素晴らしいという。

成長してますよね。オフの後の最初のリハのときなんか、自分でもそれをすごく感じました。

オフですか？　酒呑んでました、実は。(笑)今井とアッちゃんの気持ちを知ろうと思って。(笑)その境地を。(笑)その地獄の一端は見えましたね。(笑)群馬に友達が店出してて、朝までやってるんですよ。今日は体調悪いからやめとこうかとか思っても、つい電話して「今日やってる？」って。(笑)呑みすぎて自律神経失調症になっちゃいました。(笑)適度に呑めば百薬の長なんですけどね。この人たち(今井と櫻井)はダメです。(笑)

WE HEARD OF

狂った太陽ツアー～OFF

★アルバム『狂った太陽』をひっさげてのツアーは、まさに自信あふれるものだった。ステージというのはバンドの状態がよく分かる。91年のB-Tは、確実にいままでとは違った表情をステージで見せてくれた。そして待望の長期オフ。いま振り返るこの2つの事柄はどんなものだろうか!?

独特の匂い。やっぱり懐かしいですよ。

今井　なぜやろうと思ったかというと……狭い、目の前にお客さんがガーッといるような……ライブハウスみたいなとこで、普通に、気軽に演りたくて。

別に急に思い立ったわけじゃなくて……ちょっと前から演りたいと思ってました。初心に帰るというか、そういう、ライブハウスのあのワクワクした感じをもう1度、また自分たちが味わいたいなと。

でも、別に、ホールでやってて物足りないってことはないです。

ホールだと、ステージのセットとか、音だけじゃない、ビジュアルの見せ方とか、色々考えなきゃならないですよね。照明とか、ステージの立ち位置とか、キッチリ決まってるわけだから。

けど、ライブハウスだと音だけに専念できるし、ガンガン動き廻っても関係ないし、ギターをガーン！　とやれば、それでそのまんま客席に伝わるような、そんな感じがするから。

ホールもライブハウスも好きだし、自分に合ってると思いますよ。

ただ……ホールでやるようになってから……もしかしたら、愛想がなくなったかなと。(笑)

ギター弾いてステージの前に行っても、ノリが悪かったらフテくされてそのまま帰ってきちゃったりとか。(笑)そういうのもときどきあるから、今は。

ライブハウスでやってたころは、ノラせようノラせようって気持ちでやってましたからね。とにかく無理矢理強引に、って感じだったから。そういうのがなくなったかなと。

だから、そういう感じを今回のライブで取り戻したかったというのが、大きいですね。ガムシャラな熱意というか。

具体的に何ができたとか……全然考えてないですけど、(笑)少しアレンジを変えたり、ギター・シンセを大幅に入れてみたりとか、その程度ですね。

ヤガミ　ライブハウスの匂いとか、味わってみたかったですね、独特の。やっぱり、懐かしいですよ。

とにかく客が目の前にいますからね。イケイケのノリじゃないと、体力持たないですよ。(笑)

だから曲もね、できればイケイケで。バラードなしのブッチギリで行きたかったですけどね。

樋口　客と勝負って感じで。向こうが目そらすまで負けねーぞって、ケンカじゃないんだから。(笑)

でも、バラードかなんかやってミスしても"エヘヘ……失敗しちゃったよお"って、(笑)そういうリラックスした、自然のノリに近い感じで。

初心に戻りたいというのは当然ありますけど、それだけじゃない、経験積んだなりのものを出して、またむかしとは違うノリでやれたかなっていう。

櫻井　最近はあんまり、他の人のクラブ・ギグとか、全然行かなくなっちゃったんですけど……。

こないだMORRIE（元DEAD END のボーカリスト）のクラブ・チッタのヤツを見に行ったんですよ。後半しか見れなかったんですけど、異様な感じで面白かったですね。結構素直っていうか、会話を楽しむようなとこもあって、かつ客とは一定の距離を保っているという。

ソロと、バンドの一員って違いがありますからね。おれの表現方法とは違いますけど……。MORRIEの場合、個人の世界観を見せていくわけですからね。こっちはメンバー同士のうねりみたいなものを出していくわけだから。

でも、別にバンドを気にして自己制御したってことはないですよ。もう、出せるだけ出すって感じで。どうせ後ろ見えないですから。(笑)そのへんの4人の景色っていうのは、チャンとアタマの中に入ってますからね。

もう、カッチリ決められたものなんて、なにもないですからね。なんでもアリっていうか……見る側の意識もたぶん、変わってくると思うけど。

星野　むかしは大変でしたからね。いろいろトラブルがあって、その対処の仕方がわからなくて。今考えるとそれがすごく刺激的で、面白かったんですけど。

だから、適当にたのしみました。その場になってみないとわかんないような。(笑)

WE HEARD OF CLUB CIRCUIT

★91年後半、B-T最大のニュースといえばこのクラブ・サーキットだろう。諸々の事情により東京・名古屋・大阪の3ヶ所のみであったのは残念だが、狂った太陽ツアー以降、一切のステージ活動を行なっていなかった彼らだけに、本人たちにとっても非常に大きな意味があったのでは。

●予想してたよりはるかに大変な作業。

ヤガミ　ニュー・アルバムかベスト盤か、って話だったんですけど、ニュー・アルバムはまだ早いかなと。でも、ただのベストとか寄せ集めじゃ、当時納得できなかったのもあるから、そういうのをベストな状態で出そうかと。特にドラムなんかに関しては、録る人（エンジニア）によって、全然音が違うでしょ。本当はこういう音なのに、こうなっちゃうのか、みたいな。

樋口　自分の場合はそういうんじゃなくて、あれはあれで当時の自分たちの姿なんで、今回のコレに関しては、ライブでの手助けになるようなアルバムを作りたいっていうのがあって。曲の雰囲気からしてもコレすごくいい曲なのに、どうしてもライブの1曲目と3曲目の間に入らない、っていうのがありますよね。そのトーンを統一できるというのがあるし。あと、自分たちがマンネリに陥る前に新鮮な気持ちで演奏できるっていうのもあるし。お気に入りのナンバーを新しいアレンジでっていう。“なんだこの曲？　あーあれだったんだ！”みたいな、新鮮な驚きをお客さんにも味わってもらいたいという。

むかしのと比べれば、絶対良くなってますよ。音だけ録り直すんだったらわかんないけど、アレンジまで全部変えちゃうから。

星野　むかしを否定してるわけじゃないんですけど、取り直したいとは思ってたし、どうせやるんだったら今時点のベストの音でやってみたいし、アレンジとかも変えるとそれなりの音になるだろうし。ライブで毎日同じ曲を同じアレンジで演奏するのって、やっぱりマンネリになりますからね。

櫻井　やっぱり、曲を生かしきってなかったですね、当時のレコードでは。満足してないものばかりでしたから。デビュー・アルバムとか、すごく曲はいいのに、歌い方にはすごく不満があるし。あのとき、今みたいな歌い方ができればって思ってて、そういう機会があればってずっと思ってたんですけど、今回ようやく実現できて。

今後のライブに関して、このアレンジで行くかどうかは、わからないですけど。

今井　1度出来上がった曲をアレンジし直すというのは……予想してたよりはるかに大変な作業ですね。やってて初めて気付きました。（笑）新曲作るより全然大変だなあと。前のアレンジがあって、そのイメージがアタマにこびりついてるから、新しいアレンジにしても、この曲にこのアレンジでいいのかなあって迷っちゃって。なんか、ヘンな……ムスメいないけど、ムスメをヨメにやるような（笑）……どこのウマのホネかわかんないようなアレンジになっちゃうような感じになって。（笑）1曲で3パターンぐらいアレンジ考えて、アレコレと。メンバーの反応は……まあ、普通じゃないですか。（笑）複雑すぎるって意見もあったし、カッコいいって意見もあったし、曲によっても反応がバラバラだったから、まあ良かったかなと。自分としても、満足の行くアレンジになりました。

アルバムとしては、むかしの曲なんかはすごく健康的な感じがあるから、もっとすごくサイケデリックな要素を、全体に取り入れようかと。むかしからそういう指向はあったんですけど、技術的にできなかったという。（笑）

むかしはすごくポップでしたよね。それは俺の指向が変わってきたということもあるけど、メロディの作り方が変わってきたんですよ。むかしは、とにかくメロディをアタマからサビまで考えて、後からアレンジをくっつけるっていう、すごくカッチリと決まった作り方だったんだけど、今は、途中から作ったり、メロディから作ったり、ベース・ラインから作ったりとか、フリのパターンからとか、バラバラな……そういうやり方になってきたから。メロディはもちろん重視してるけど、曲全体の雰囲気とかアレンジ重視の考え方に、だんだん変わってきたというのがあって。

ヒデと俺の作る曲の違いは……もちろん違いはあるけど、どういう気持ちで作ったのかわかりますよ。ライバル意識とか……あんまりないですね。多少は……それとは多少違うけど。ヒデが、いつまでたってもヘンなギターばっかり弾いてたら困っちゃうし。（笑）やっぱりギタリストとしてどんどん成長してきて……むかしよりセンスとか上がってきたんで、ギターの方は大幅に任せて、俺はギター・シンセの方に徹しようかなとか、そういう曲もあるし。

WE HEARD OF BEST SELECTION ALBUM

★バチ▶バチ誌上でも既にお伝えしたとおり、92年春、B-Tはリメイクによるベスト・アルバム発表を予定している。過去の楽曲を現在のセンスで再演したい、という本人たちの純粋な希望から実現をみたものだ。リリースはまだ先だが、それらの作品群はどのような表情を見せるのだろうか!?

正気か!?　狂気か!?

B-Tの92年はこうだ!?

インスピレーター／美堀真利

★1992年、B－Tの運命はどう転がっていくのだろうか!?　その疑問をズバリ占ったのがインスピレーター・美堀真利!! 彼女は我々取材班が要求する無理難題に心良く応えてくれた。まず「水晶」でメンバー個人の「仕事運」を「ペンジュラム」でバンドの「全体運」をそして「タロット・カード」で個人の「プライベート運」を占ってもらった。さあ行くぜ。

1992年。個人の仕事運はズバリこうなる

櫻井敦司

自分自身の意思を強く出していくといい年になります。ただ、自分の個性を出しながらも協調性を重んじていかないと、バンドのバランスが崩れるので気をつけてください。

今井寿

この人がいることによってバンドのバランスが取れています。「和」の力が非常に強く感じられますが、92年は逆に周りの人が彼に配慮してあげれれば充実した年になります。

星野英彦

92年、とくに問題となるようなことは出てきません。ただ、非常にシャープで繊細な人だけに、仕事面で神経質になりすぎないよう気をつけてください。

ヤガミトール

彼の持つ生来の頑固さが気になります。周囲の影響を受けにくい人なので、もう少し柔軟性を持って活動していかないと壁につき当たり、バンドの中で浮く可能性もあります。

樋口豊

はっきり言って軽い人。(笑) でも、いい遊び感覚を持ってマイ・ペースで楽しんでいけばいい年になります。このままのやんちゃ坊やでいれば、とくに問題はありません。

1992年。バンドの運勢はズバリこうなる

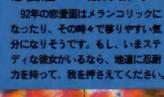
92年は、バンドのメンバー全員がメンタルな部分での充電を必要としています。と言っても、運勢的には決して悪くはないので、活動はどんどんして下さい。そうやって仕事で忙しくしていても、決して中身がからっぽになってしまうようなことはありません。ただし、92年のどこかで1度「壁」を感じる時期があるはずです。メンタルな部分での充電はそのときに備えてのこと。いろんなものを見たり、いろんなものを聞いて、たくさんのものを自分に受け入れていけば「壁」を容易に乗り越えることができ、92年の終わりにはバンドはすごく良い方に動いていきます。

92年を前半、中盤、後半に分けて運勢を見てみますと、前半にひとつの山があります。これはメンバーそれぞれの誰かかあるいはバンド全体の将来への別れ道のように見えます。それを見据えてバンドを進めていけば、中盤にはバンドは安定します。そして後半はすごくいい。

前半期に注意をしてメンバーそれぞれがお互いを認めあって、メンタルな部分での充電を。これは旅行に行くのもいいでしょうし、英語の勉強、映画の鑑賞など音楽以外の分野での充電をしていきさえすればあとは順調な1年になるでしょう。創作面でも中盤から後半にかけて盛り上がっていきますので、92年暮れにアルバムを作れば必ず成功します。

1992年。彼らの私生活はズバリこうなる

恋愛運……櫻井敦司

92年の恋愛面はメランコリックになったり、その時々で移りやすい気分になりそうです。もし、いまステディな彼女がいるなら、地道に忍耐力を持って、我を押さえてください。

健康運……今井寿

苛酷なことを肉体に課して平気な人なので、オーバー・ヒートしすぎないように。ハード・スケジュールにならないよう大事をとって、精神面も休養しながら過ごしてください。

旅行運……星野英彦

92年の旅行運は悪くはありません。が、あまり遠方に行くより、近場の温泉などへの旅行がいい結果を生みます。ツアーなどの仕事関係の旅行はとくに問題ありません。

金運……ヤガミトール

92年は一獲千金を狙ってもうまくいきません。むしろ新しい何かを始めることが、将来金運を伸ばすきっかけになります。株や宝クジ、ギャンブルは避けてください。

対人運……樋口豊

誰とも仲よくできる素質を持っています。91年うまくいかなかった人がいても、思い悩まず割り切れば92年は交遊関係が復活します。いい人と会う機会も多いでしょう。

PHOTO/YOUSUKE KOMATSU KAZUHIRO KITAOKA TEXT/EIICHI YOSHIMURA HAIR & MAKE-UP/TAKAYUKI TANIZAKI SPECIAL THANKS/YUKA KAYAMA

緊急特別インタビュー

8次元からのメッセンジャー

美堀　インスピレーター　真利

★人生の30%は努力によって変わる。

—プロフィールによると、美堀先生は、占いに関してほとんどオールマイティなんですね。

美堀　そうですねえ。一応なんでもできるんですけど、基本的に私は占い師ではなく、インスピレーターなんです。

—インスピレーター？

美堀　インスピレーションを受ける存在です。たとえば水晶占いの場合ですと、水晶玉をアンテナにして、受けたインスピレーションの映像を写すとか、波長を受け取るといった占い方なんです。

—水晶はインスピレーションを写す触媒ということですか。

美堀　そうです。

—すると、他のタロット占いなんかはどうなるんでしょう。

美堀　タロットですと、カードのめくられ方というのは偶然に左右されますよね。

—ええ。

美堀　でも逆に言えば、誰が引いても同じカードは出ないわけです。これも私がインスピレーションを受けているからこそ、そのカードがめくられる、と考えてください。

—そういったインスピレーションを受ける力というのは、なんでも8歳の頃からおありだと聞きましたけど。

美堀　ええ。基本的には生まれたときにすでに持っていた能力だと思うんですけど、その力があると自覚したのは8歳の頃ですね。でも、その後大学に入学した時分までは普通に生きてきましたよ。(笑)

—すると18歳あたり。

美堀　そうです。それまではやっぱり普通の生き方みたいなものを望んでいたんでしょうね。(笑)でもそのうちに、ごく自然に、それでも強引にこの世界に引きずりこまれたって感覚です。

—それからインドやその他の国でいわゆる修行をした。

美堀　ですね。いったんこの世界に入ってしまうともうやめられなくなる。(笑)

—あのう、占いをやってると、どうしても悪い結果というのも出ますよね。そういう芳しくない結果を人に伝えるときには、どのような表現をなさるんですか。

美堀　ええとねえ、たとえば結果だけを伝えるって考えはないんですよ。占いに出る結果というものはたしかに存在しますけれど、では何故人は生きているのかという話になったときに、人生が全部定められているなら、なにも人は努力する必要はないんです。定められてさえいれば、勉強しなくても東大に入れちゃうってことになりますよね。確かに一人の人生の60～70%は決まっているのかも知れない。だけど残りの部分というのは努力次第で変えられると思っているんです。

—ああ、なるほど。

美堀　人の人生を川の流れに例えたときに、たとえば川の右のほうに圧力をかければ川の流れの方向って変わっていきますよね。その圧力というのが努力ですから、どんなに結果が悪く出ても、じゃあどうすればよくなっていくのかをアドバイスする。それが自分の仕事だと思っています。私は、占いの力はもちろんあるんですけど、テレパシーや超能力の力もありますから、人の意識や物事を動かす力も含まれているんです。それらの力を使って、悪い結果が出ても対応策を取ることができるんです。

—うまく対応すれば結果を変えるのは不可能ではない？

美堀　そうです。単に結果を占うのではなくて、むしろ対応策のアドバイスに重点を置いた仕事だと言えるかもしれませんね。

—今日はBUCK-TICKというバンドの今後を教えていただいたんですけど、もし仮にバンドにとって悪い結果が出てもそれは可変だと。

美堀　そうなんです。充分変更可能な未来ですから。

★自分の力を知ったのは8歳。でも、18歳まで普通に生きてきましたよ。(笑)

8次元との交信
インスピレーター
美堀真利

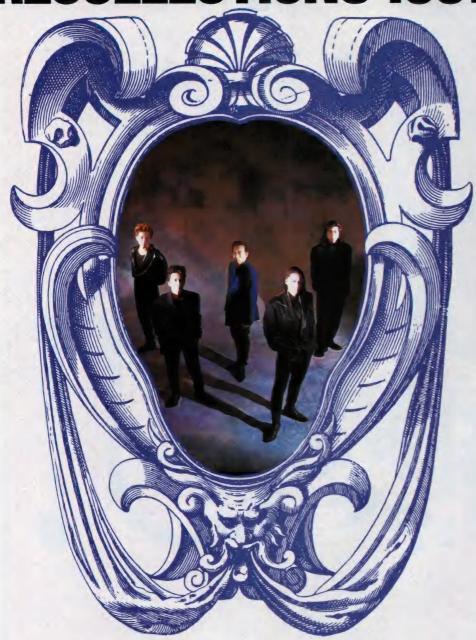
ジェームス・ディーンも
アドルフ・ヒットラーも
「主」のパワーを受けていた……。

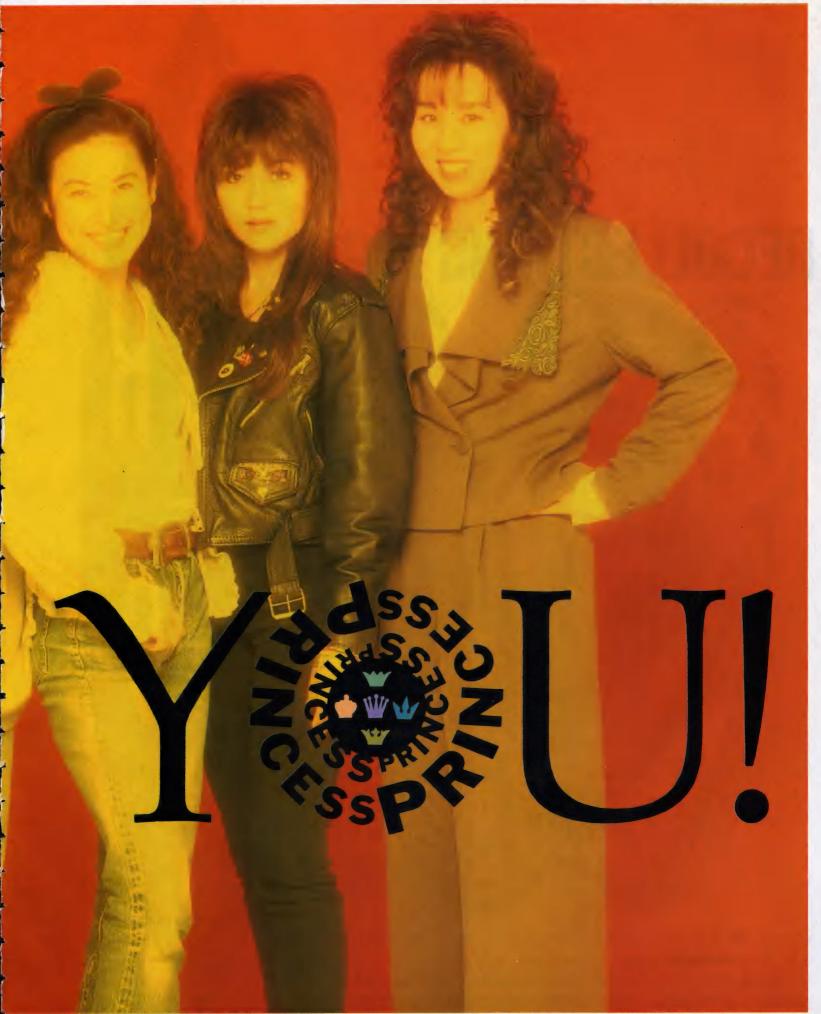
『インスピレーター』(美堀真利・著／廣済堂出版)
●超能力・霊能力・魔法を駆使し、愛と希望のメッセージを放つインスピレーター・美堀真利の初エッセイ集。8次元の「主」と交信し、そのメッセージと共に自らの生いたちをつづったものです。読者が生きる喜びや自分の使命を感じとってもらえたら、という美堀真利の思いが伝わる一冊です。

『ムーンパワー開運術』(美堀真利・著／グリーンアロー出版)
●月には不思議で神秘的なパワーがあります。この本は、形が異なる月を28枚の「ムーンパワー・カード」に分け、各々のカードの意味から実際の使い方までを分かりやすく紹介したものです。カードを用いて月の魔法を使えば、あなたの願望や希望をかなえる手助けとなります。

⬆上で紹介した本を、読者のみなさんに各5冊ずつプレゼントします。詳しくは334ページを見てね。

RECOLLECTIONS 1991

BUCK-TICK

★みなさん憶えてますか!?　11月号のパチ▶パチランド。あそこにナニゲで書いた『幻の表紙を見せろ』署名運動募集のいっ件。こんなにも反響が大きいとは思いませんでした。約束どおり『幻の表紙』をポストカードにしました(巻末・P.342だよ)。どっかで見たことあるって!?　よく見なさい、B-Tが木星(ジュピター)と共演した世界に1枚しかない写真です。

Y
PRINCESS PRINCESS
U!

PRINCESS PRINCESS

KISS

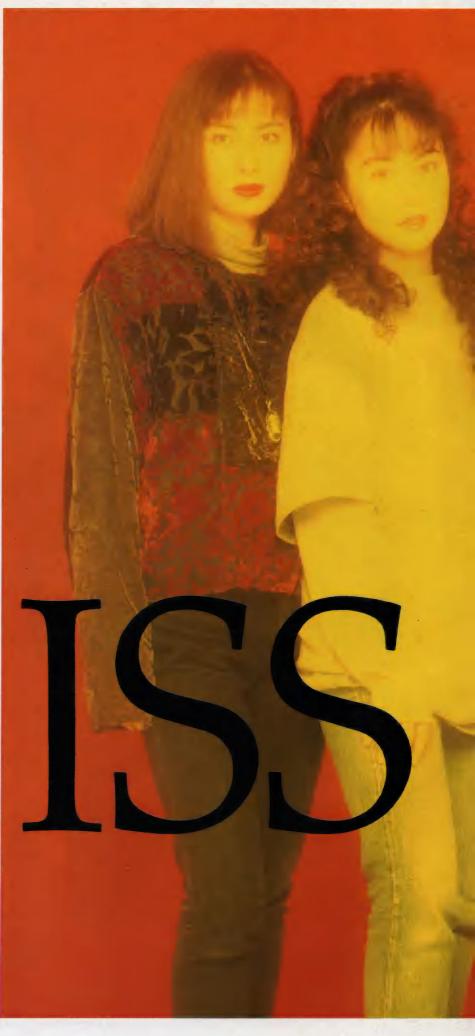
●'91年も、やっぱりライブバンドでした。大好きなライブを思いっ切りやって身につけた様々なものたちを、新しいアルバム、『DOLLS IN ACTION』に託しました。そんな1年の10大ニュースと、図解プリンセス^{2}の人となりを、別冊『KISS』に来たお便りと共にお届けします。

撮影●杉山芳明　文●宇都宮美穂　イラスト●チャーリー
ヘアメイク●吉川清美、田中裕子　スタイリング●前原都子

PRINCESS
PRINCESS
KAORI OKUI

TOMOKO KONNO
PRINCESS
PRINCESS

PRINCESS
PRINCESS
KANAKO
NAKAYAMA

KYOKO TOMITA
PRINCESS
PRINCESS

PRINCESS
PRINCESS
ATSUKO
WATANABE

PRINCESS²
NEWS TOP 10 '91

①学園祭ライブを演った

「学祭は'91年２本だったんだけど、この前のツアーが終わってから、３か月ぶりのライブで、すごく新鮮だったのね。ずっとレコーディングで密室作業だったから、感覚が違うところに行ってて、久々にライブってホント楽しかった。５人で音を出すのはこんなに楽しいんだ！　って実感したっていうかね。やっぱりコレがいちばんだって実感しましたね」(渡辺)

②'92年でなんとバンド結成10年め!!

「'92年４月がきたら、バンドを始めて10年目に入るんですよ。数字だけ見ればすごいよね。でも、このままでいくと、あっという間に15年とか(笑)いってるような気がしちゃいますけど……すごい好きでやってることだから、長く続いてるのがホンとに嬉しいですよね。何もかもが楽しくて、このままいくと、平気で20年いけるんじゃないかなぁ」(渡辺)

③NAONのYAONでセッションバンドに挑戦

「"NAONのYAON"で、みんな一緒にセッション・バンドやったのは楽しかったですねぇ。練習の具合いとかもね、みんなで話したりとか、"ウチのはどうのこうのだよ"とか言ったりしてね、面白かった。メンバーがやってるの見るのってあんまりないじゃない？　袖から見ててドキドキしたなぁ。みんな"ウチがいちばんだった"ってイバってたけど」(富田)

④５人のアイドル、憧れの森高千里さんと共演

「クリスマスのNHKの番組で、憧れの森高千里さんと共演できることになりまして(笑)よかった、よかった。２曲のうち１曲は、ウチのを森高さんに選んでもらってやるんですけど、楽しみなんですよ。'91年はそういうの多かったですね。中森明菜さんと共演もしたし。前はそういうことやらなかったけど、自信がついて、素晴らしい人を招くことができました」(富田)

⑤久しぶりのライブハウスが楽しかった

「久しぶりにライブハウスでやったのが面白かったな。大阪のバナナホールと、名古屋のハートランドと、東京のパワーステーションの３ヶ所。まあ、パワステはイベントとかで出てるけど、あとは３、４年ぶりで、特にバナナは楽しかった。ライブハウスってグチャグチャの中でやるからさ、あの混乱した感じが楽しいよね。"恋のバランスシート"もやった」(奥居)

⑥ラスベガスで遊んじゃえ

「ビデオ撮りで12月にラスベガスに行くんです。まだ行ってないからわかんないけど、みんなで"カジノに行こう！"って言ってんの。(笑)でねぇ、カジノってちゃんと正装してかなきゃいけないじゃない？　だからヘア・メイクの人とスタイリストの人にちゃんとしてもらって出向くっていう。(笑)一生のうちにいっぺんはやってみたいよね」(奥居)

⑦インドに行けたことはとても大きかった

「インドに行けたことは、人生でも10大ニュースに入るほどのものでしたねぇ。長年行きたくて、行きたくて、なぜか５人でそろって行きたくて、で、行けたっていうのがよかった。ロンドンとかアメリカとかとは別の意味で憧れの土地だったからね、あそこに行けたっていうのはすごい嬉しいことだった」(中山)

⑧Only We Can Kiss You Tour

「'91年の春のツアーはよかったなぁ。全部で38本で、小さいところばっかりだったでしょ？　アリーナクラスじゃなかったから。'90年の全県ツアーとはまた違ったよさがあったというか。初めて行けたところもあったし、最後はサウンド・コニファーで終わったという。野外でやるのが久ぶりだったし、アタシはすごく感激しました」(中山)

⑨『DOLLS IN ACTION』のレコーディング

「やっぱり『DOLLS　IN　ACTION』のレコーディング。１年に１回の大きなことですよね。これがないと'92年なんにもない、みたいな。すべての活動の素でしょ。で、特に今回はいろんな意味で大変で、もしかしたら延期になるかもしれなかったのが、みんなの頑張りでちゃんと間に合って、よかったですね」(今野)

⑩ニューヨークに行ったのも面白かった

「ニューヨークに行ったんですけど、カオリ以外は全員初めてで。なんとなく"都会"ってイメージがあったから、ビル街しか想像つかなかったね。で、そんなに楽しみじゃないなぁとか思ったら、意外と面白いところでね。夜景はキレイだったし、ミュージカルは面白かったし。危ないところも行ったんだけど、そこがよくて、そこだけでもまた行きたい」(今野)

「KISS」への手紙

●7月の終わりに発売された、1冊全部プリンセス²だけの雑誌『KISS』。プリンセス²のいろんな表情が詰め込まれている、盛りだくさんの内容が好評でした。『KISS』を読んでくれたみなさんから届いたおハガキを感謝を込めて、ここで紹介します。

Poto●YOSHIAKI SUGIYAMA, MIHOKO ISHIGURO, MARIKO MIURA

▲この写真は『KISS』の中にはないけれど、ステッカーになった。

▲くすぐりっこが始まって……

▲キョンちゃんの百面相の1つ。

▲ライブの写真はカッコイイ！

▲ロケの写真は表情が自然です。

▲自然にしていてもロックっぽくなってしまう。さすがです、5人とも。

▲ホントは天気が悪っかった。

▲天使。悪魔バージョンもある。

▲バックとイスが色ちがいの写真もあります。

☆まずは熱烈なファンの言葉から。

●オレはプリプリを命の次に大事にしてる男だ。（山形県　佐々木智行）

●プリンセス・プリンセスと同じ時代に生まれて、プリンセス・プリンセスを知った自分が本当に幸せものだと思う。（兵庫県　クリニーク　21歳）

●突然ですが、プリプリの皆さん、これから先いつまでもバンドを続けてって下さい！　ストーンズの様なオジさんバンドはよく聞きますが、オバサン？　バンドっていうのは聞いたことがありません。ですから、ずっとずっと頑張って下さい。（岩手県　後藤善彦　17歳）

●私はプリプリが大好きです♡　VERYVERRY大好きで、お姉ちゃんのように思っています。実をいうと私は、この前大好きな人と別れてしまいました。とても悲しかったけど、プリプリの歌で励まされました。プリプリのことを、いちばん好きだって自信あります。（熊本県　かなちゃんの妹　15歳）

●中山さん大阪（関西）好きや言うてはったの見て、なんかすごい嬉しなった。よし、うちは大学（もち関西のや）行くぞ！　と決心してしまった。中山さん、もしプライベートで大阪遊びに来ることがあったら、ぜひうちに大阪中案内さして欲しいなあ。けっこう方向オンチやけど、直しとくからよろしくね。（笑）（大阪府　チェリーボンブ！　15歳）

☆今度はちょっと年上のファンの人たちのエピソード。

●うちのおばあちゃんは、プリプリのファンだが、1度もプリンセスプリンセスと言えたことはなく、〝プリンちゃん〟と呼んでいる。（神奈川県HumptyーDumptY　14歳）

●私の友だちの独身42歳のおじさんが、実は〝プリプリ〟ファンだというのをこの前知った。42歳のおじさんがプリプリファンだっていうことがすごく恥ずかしくて、誰にも言えなかったんだってー！　8月4日のコンサートの話をしてあげたら、すごく行きたがってた。だから今度の武道館のコンサートを一緒に行きます。（埼玉県　チチクリマンボーキュー　16歳）

☆次は〝良かったねぇ〟っていうハッピーなお話などを……

●8月3日のコニファーフォレストでのプリプリのコンサートで、隣の席の女の子と話が盛り上がって、今つきあっている。（静岡県　SENNAが1番　18歳）

●忘れもしない6月4日、その日にキョンちゃんに僕が手渡したプレゼントに入れていたゲゲゲの鬼太郎ファミリーのマスコットが、6月13日の神戸からずっとドラムにぶら下がっていたのは、本当に感動でした。（大阪府　小林竜也　18歳）

●加奈ちゃんて、笑ったときの写真をめったに見ることができなかったから、この本を見て、とても嬉しかった。（長野県　市川洋典　18歳）

●僕はホテルに務めているのですが、この間プリプリの仕事をしているという人に出会い、〝その人がプリプリはものすごくファンを大事にするから、ファンレターを送れば、絶対読んでくれるよ、と言ってくれました。絶対に書きます。（神奈川　田原富実雄　19歳）

●「KISS」といってもいろいろあると思います。自分はまだ経験していませんが、（!?）思い出に残る「KISS」を経験したいです。（宮城県　キョンちゃんの歌　16歳）

☆ではプリンセス² マガジン『KISS』にまつわるおたよりを。

●『KISS』は今まで買った物の中で、〝いちばん買ってよかった〟と思ったほど、楽しく読ませてもらいました。PRINCESSの皆さん、これからも、ガンバッテ最高のステージを見せてください。（愛知県　井沢敦　17歳）

●私は書店でバイトしていますが、この『KISS』が売れるたびに、ニマニマしています。（神奈川県　オリちゃん大好き　20歳）

●『KISS』に対する感想は、プリプリの意外な一面が見れて本当に良かった、ということです。この内容でこの値段は安すぎると思った。

▲コスチューム・アーティスト、内藤こづえさんの帽子。色っぽい。

▲サイケデリックな衣裳も着こなしてしまいます。ポーズも決まる。

▲マニッシュなスーツに身を包んで。え？　酔っぱらいみたいですか？

▲5人が別々のお花と。力強い、それでいてフェミニンな写真でした。

▲あでやかな着物姿。ステージでの姿とは、ずいぶんちがうでしょ？

▲2人と3人に分かれて撮った。カオリちゃんのパーカーが効果的。

▲蝶々と一緒の5人は、妖精のよう。けれども個性が表われていました。

最近、彼女にふられてしまって落ち込んでいたが、『KISS』の中のプリプリの笑顔を見て、大変勇気づけられた。（宮城県　塩田敬　18歳）

☆では、人気のあった企画に寄せられたおハガキを。宣伝しちゃおっかなーっ。まずは美しいと大評判だったメンバーの着物姿の写真から。

●いつも派手な衣裳の5人が、日本人の心をくすぐる和服で出てきて、また大人の魅力を感じた。（神奈川県・シルビー！　18歳）

●みんなとっても似合うのにびっくりしました。（京都府　三枡順子）

☆次はツアーの追っかけレポートをした企画。ホテルの部屋や楽屋へもカメラを入れました。もちろんカッコいいライブの写真もあったよ。

●PRINCESSのみんなのふだんの様子が見れてとっても嬉しい。（三重県　たろちゃん　14歳）

●ホテルの中とか、楽屋での普段の5人の表情や、性格が見れて、面白かった。（福井県　づか　16歳）

●1人1人のベース、ドラム、キーボードなど見れるし、ふつうの楽屋での様子などたくさん書かれていてとても良かった。（福岡県　梶原英子）

●メンバーのライブに対する思いがよくわかった。（埼玉県　野島めぐみ）

☆プリンセス²の結成からこれまでのストーリ。「WILLPOWER」に寄せられたハガキには……

●読みながら感動しまくりました。やっぱりプリプリはでっかい存在だと思う。プリプリのようになりたいと、まじで思った。（福島県　Kisses　17歳）

●プリプリの知らなかったことがわかったし、読んでいてジーンとする場面もあったからです。ますますプリプリが好きになりました。（神奈川県　西海誠一　15歳）

●言葉に言い表せられない程良かった。（東京都　まゆげボーン　14歳）

☆喜国雅彦さんのマンガ「まんが王女」にはメンバーも爆笑。ちなみに、〝かわいそう〟という声があがっていた香ちゃんの〝ガキデカ〟と〝ヌード〟は打ち合せ中に出た本人の希望だったのです。

●面白かった記事はやっぱりこれでしょう。あのマンガのアッコちゃんと香ちゃんはたまらない。何度見ても笑える。喜国さん、またかいてね。（福岡県　吉岡富喜　16歳）

☆そしてメンバーが書き、トモちゃんがイラストを付けた、リレー小説「プリンセスプリンセスを守れ!!」はもちろん大人気。

●少しにおいのしそうな話だったけど、すごくおもしろく笑った。（愛知県　豊田哲也　20歳）

●全部面白かったけど、特にこれはおなかをかかえて笑ったから。こんな面白い小説が売っているなら、ぜひ購入したいと思うほど良かった。（愛媛県　きょんダック　16歳）

●読んでいてほんまに幸せだった。あらためてホレた。（京都府　かおりちゃんとパン　15歳）

☆笑う、といえば、これも笑っていただきました、百面相。

●いちばん左下のかなちゃん、もう最高！「よっ日本一！」って感じです。（神奈川県　神明亜里　15歳）

●電車の中で読んでいて、思わず笑ってしまった。隣に座っていたおばちゃんに変な顔で見られたけど……（京都府　しょうちゃん　18歳）

☆'87年の初登場から最近までのパチパチの写真と、メンバーの言葉の抜粋、BEST OF PATi²も好評。

●昔の写真が見れて嬉しい。昔のみんなもきれい。（東京都　原田陽子）

●すごいなつかしい気分で見れた。（愛知県　豊田奈美　17歳）

☆おタクな企画、DATA ON PARADEもなかなかウケが良かったようです。

●VIDEOやオフィシャルグッズで見たことないのが載ってたから。（福岡県　KyoNちゃん　16歳）

●今までのライブ衣裳が全部まとめて見れてしまうというコスチュームのコーナーが面白いなと思いました。（愛知県　第2のきょんちゃん）

☆他にもたくさん感想が寄せられていたのですが、紹介しきれなくて残念です。ありがとうございました。

▶パチ▶パチ別冊「KISS」はA4判変型、200ページ、PIN-UP付。定価1650円（税込）です。書店にない場合は「ソニーマガジンズのパチ▶パチ別冊プリンセス・プリンセスの「KISS」を取り寄せて下さい」と御注文して下さい。

中山加奈子 その人となり

KANAKO NAKAYAMA

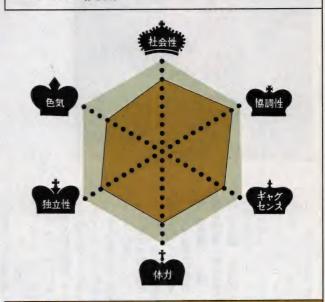
中山加奈子▶なかやまかなこ　'64年11月2日生　さそり座　B型
神奈川県出身　身長156cm　ニックネームはケラマン、またはカナちゃん

▼メンバーからのおことば

魅力的なお姉さん（今野）
水・乾いた土などをいつも潤おす（渡辺）
別れた昔の女・青春期に非常に影響を与えた（富田）
コショウ（奥居）

PRINCESS PRINCESS

識者の見解

芳賀「カナちゃんはですね、不思議なくらい怖がりだなっていうのにビックリしたんですけど（笑）怖がりっていうか、心配症なのかな？　あとは義理人情の人ですよね」

市村「芳賀さんが言ったとおりで、すっごく義理人情っていうか、口だけっていうのが嫌いなタイプだよね。〝今度飲みに行こうねぇ〟っていう、いわゆる業界の、その気もないのに言うっていうことは絶対しないから。〝飲みに行きましょう〟って言ったら〝ハイ、わかりました。絶対行きましょう〟って言って、いついつ行くってすぐにも日にちを出すし、ちゃんとそれを守る子だよね」

芳賀「そうそうそう」

市村「だからそれだけに……この人はいい人だと思って、カナちゃんが〝今度飲みに行きましょう〟って言ったのに、向こうがいわゆるいつものノリの〝飲みに行きましょうね〟を返してくると、私は逆にカナちゃんがかわいそうになるときがあるのね」

芳賀「なんか、自分が言ったことって絶対責任持つっていうか。だから相手にもそれを望むんだろうなって思う」

市村「でもね、もしそうなって、まあ思ったとおりの人じゃなかったとしても、その人のことを絶対悪く言わないんだよね。〝それは偉いよね。しょうがないよね。なんか用があったんじゃない？〟って、逆にその人をかばってあげる、みたいなね」

芳賀「そういう意味では、すごく幸せな考え方をする人だなっていう。心が広いんでしょうね」

市村「すごく考えるタイプだから、ファンレターとか読んでてもホントに真剣にその人のことを考えちゃうっていうかね。真面目なんだろうね、根が。嘘はつけないっていうタイプ。あと、あまりにも心配症なのはちょっと…（笑）」

芳賀「謙虚なのかなぁ」

市村「絶対大丈夫！　っていうときにまで心配してるよね（笑）」

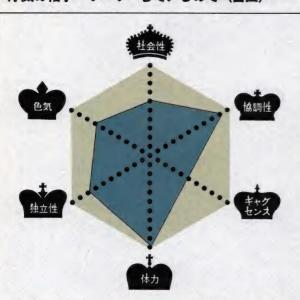
▶イラストは、最も典型的なスタイルを描いたものです。もちろんいつもこうだというわけではないし厳密にいうと違う部分もあったりします。

奥居香 その人となり

KAORI OKUI

奥居香▶おくいかおり　'67年2月17日生　水がめ座　O型
東京都出身　身長157cm　ニックネームはカオリ、またはオリちゃん

▼メンバーからのおことば

世話の焼ける妹（今野）
ひみつのアッコちゃんのチカちゃん（中山）
太陽・いつも100%輝いている（渡辺）
浮気の相手・サバサバしているので（富田）

PRINCESS PRINCESS

識者の見解

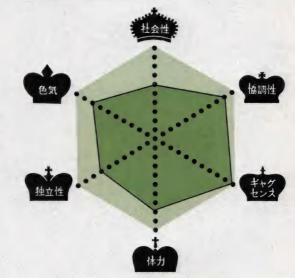
芳賀「香ちゃんは細やかな神経の持ち主。気を使う人だなと」
市村「そうは見えないんだけどね」
芳賀「だから……んー、強い面と弱い面と、両極端かなっていうときもある。とっても強いイメージってあると思うんですよ、香ちゃんて。元気で明るくて、ひまわりのような感じ？　それは彼女なんだけど、そこにちょっと違う色合いが隠されてるような気がする。それが細やかさだったり、女の子らしさだったりっていう……考えすぎですかね(笑)」
市村「芳賀さんと私は立場が違うから見え方が違ってあたりまえなんだけど、私はなんか、すごく子供に見えちゃうところがあるのね」
芳賀「ああ」
市村「考えることはすごくしっかりしてるし、もうボンボンボン、私なんかよりも頭の回転速いし。で、〝どうしようかな〟ってときあるじゃん。そういうときはすぐにも自分で言っちゃうし、すごいんだけど、なんにしても目が一生懸命なのね。だから一生懸命の目でなんでもやるから、パッと遠目でそれを見ると、小っちゃい子が一心になってなんかやる表情があるじゃない？　そういうふうに見える。たとえば〝ピザが来た！　ピザ食べよう！〟ってときにも、〝どれがいいかなぁ〟って、自分が食べたいピザを選ぶのにも一生懸命。(笑)あと私が思うのは、不思議な力を持ってるよね。なんか、あの子がいると楽しい、みたいな、そういう雰囲気を作っちゃう。生意気なことも言ったりしながらもね、カーッと思ったこともあるけど(笑)……そういう子だね」
芳賀「(笑)ポリシーがある人ですよね。コロッケひとつ食べるのでも、自分にとってのおいしい食べ方がある。香ちゃんのお母さん見ても思ったんだけど(笑)」
市村「あと、部屋の掃除はしたほうがいいんじゃないの？　っていう(笑)前から思ってることですね」

渡辺敦子 その人となり

ATSUKO WATANABE

渡辺敦子▶わたなべあつこ '64年10月26日生 さそり座 B型
千葉県出身 163cm ニックネームはアッコちゃん、またはナベちゃん

▼メンバーからのおことば

気のいいお姉さん（今野）
サザエさんのマスオさん（中山）
結婚相手・家事や子育てをちゃんとやる（富田）
ほんだし（奥居）

PRINCESS PRINCESS 識者の見解

芳賀「アッコちゃんは人がいいですよねぇ。(笑)リーダーだけど、それをあんまり表に出さない人。でもすごく微妙なエッセンスを持ってて、なごやかな感じ？ で、たまに〝やってくれる！〟みたいな、面白いことを言ったつもりじゃなくて言っちゃうっていう。(笑)たとえばピーンと張りつめてるところでも、一瞬の安らぎみたいなものをくれる人です。すごく普通感覚の人でもあるから」

市村「そうだね、まあ、雰囲気をやわらげるっていうか、なんかホッとさせる部分を持ってる人だね。で、たいていのことでは怒らない」

芳賀「怒ったところを見たことがない(笑)」

市村「だけど、怒ると怖いよってところもあるし」

芳賀「そうそうそう」

市村「怖いっていうか……まあ、誰でも怒ると怖いけど、ホントにめったに怒らないから、アッコちゃんを怒らせるようなことをするのは、相当のことをする人だなと思うけどね(笑)」

芳賀「でもアッコちゃんはB型なんですよね？」

市村「そうそう」

芳賀「不思議。そういうふうに血液型だけで考えると」

市村「Oが強いんじゃないの？」

芳賀「(笑)」

市村「とにかく、なんか人間味溢(あふ)れるっていうかね、そういう感じがするよね。スレてないっていうか、都会ズレしてないっていうか。青山とか、あんまり都会を知らないっていうの？ (一同笑い) 何度言っても場所がわからないんだから。とにかくまぁ、あの人はいい味出してるなぁっていう。それも自分が出そうとして出してるんじゃなくて、なんとなく出てるっていうのがまたいいんだろうね」

芳賀「アッコちゃんに言うことって…」

市村「ギャンブルをやめて欲しいとかね。(笑)ゲーセンの女王〟って言われるくらい天才的に上手いみたい」

今野登茂子 その人となり

TOMOKO KONNO

今野登茂子▶こんのともこ '65年7月15日生 かに座 O型
埼玉県出身 164cm ニックネームはトモちゃん、パン、またはコンちゃん

▼メンバーからのおことば

Dr.スランプアラレちゃんの山吹先生（中山）
月・満月だったり三日月だったり形を変える（渡辺）
初恋の人・思い出として美しい感じ（富田）
しょうゆ（奥居）

PRINCESS PRINCESS

識者の見解

芳賀「トモちゃんは不思議な人ですね。まだ多分つかみきれてないと思うんですよ。みんなが思ってる、おとなしそうだけどとっても活発で、スポーツはなんでもやるしっていうイメージ……うらやましいですね……（笑）」

市村「一見、一見、見た部分で判断されちゃうと、ちょっと違うよっていうのはあるよね。いろんな面持ってるから。でも基本的には甘えん坊かな!? お母さんに優しく育てられせたんだなぁっていう、ほんわかしてるとこあるよね。だからすごく素直で、曲がってない！ みたいなさ」

芳賀「ひねくれたところないですよね」

市村「うん。ストレートっていうか、意外とさ、小っちゃい子でも物真似が好きで、オチャメで、すぐに真似して歌っちゃう、みたいな子っているでしょ？ ああいうタイプかもしれないね。けっこうみんなの前でおどけてやったりするんだよ。そういうチャメっ気のある面が、そろそろ出てくるんじゃないかなっていう」

芳賀「とっても女性っぽい顔立ちで、雰囲気もあるんだけど、でも活発な面とかね。性格的にも男の子っぽいかもしれない」

市村「あんまりくよくよしないタイプだよね。グチグチ言ったりしないもんね」

芳賀「あえて言うところがあるとすれば…（笑）」

市村「そうねぇ……集合場所はよく覚えておいて下さい（笑）」

芳賀「それはある（笑）」

市村「寝る前に明日はどこどこで、どういう仕事だっていうのをもう1回確認して欲しい（笑）」

芳賀「おおらかなのはすごくいいんですけど（笑）」

市村「そういう部分があるから（笑）ビックリしちゃうようなね」

芳賀「仕事面だけですけどね。時間と場所っていうような（笑）」

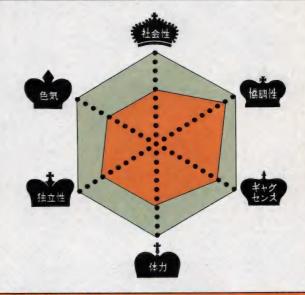
市村「O型の典型的なおおらかさを出しちゃってるもんね（笑）」

富田京子 その人となり

KYOKO TOMITA

富田京子▶とみたきょうこ　'65年6月2日生　双子座　B型
神奈川県出身　156cm　ニックネームはキョンちゃん

▼メンバーからのおことば

頼りがいのある同級生（今野）
キテレツ大百科のコロスケ（中山）
星・自分の中でのアイドル（渡辺）
味の素（奥居）

PRINCESS PRINCESS

←識者の見解

芳賀「キョンちゃんは……動物好きの愛くるしい感じの人で……そうだな、人に言えない――なんか詞の世界っていうのを持ってて、小説とかもよく読んでいて、だから文字にすごく意識がいってる人って、ある種表面では見えない部分っていうのを持ってるって思うから――それは何かな？　っていつも見てるんですけど、まだよくわかってないんですよ（笑）」

市村「すごく発想が豊かっていうかね、キョンちゃんとカナちゃんが2人でいるとよけいそうなんですけど、あの2人って、感覚が似てるらしいんですよ。で、特にキョンちゃんっていうのは、いろんなところに発想を持ってって話をする人だなっていうかね。いわゆるユーモア？　すごい面白いセンスを持ってるんだよね。それで、それを言い出したら、笑っちゃうなってぐらいオカシイよね。だからたとえば、あるひとつの事柄が、もしもこうなって、こうなったら、どうしよう！　みたいな、すごく考えるタイプだよね。で、ほとんどそうやって〝キョンちゃんはねぇ〟って（真似る）言ってこう（笑）想像したりしてるみたいね。詞の世界でも自分の世界をちゃんと持ってるし、すごい詩人の面がある人だよね」

芳賀「あと賢い人ですよね」

市村「うん。想像力もあるけど、逆に現実的なところもちゃんと持ってる。こういう世界になってきちゃうと、お金の感覚なんかでも普通の人と違ってきちゃうところあるけど、〝10円でも安く買えるんならそっちのほうが得じゃない！〟って考えもあるし、一般感覚から離れてくってことはないよね。ルミネのバーゲンだから行こう〟とかね（笑）」

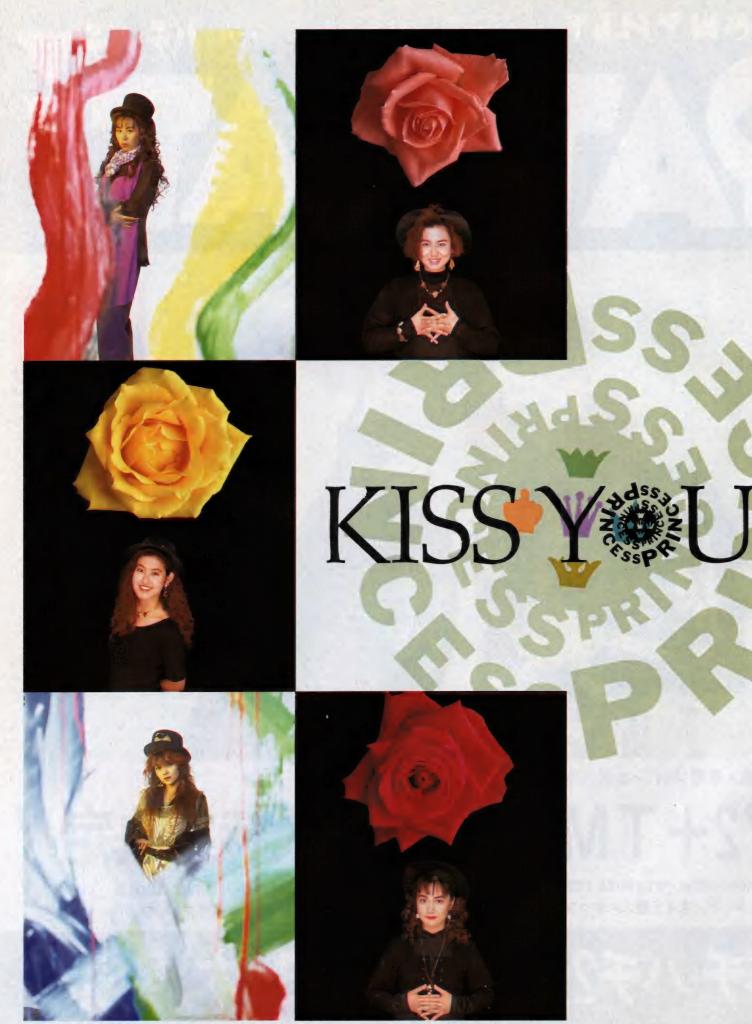
芳賀「あえて言うなら……（笑）〝新し者〟って番組やってるから、そこでいつものキョンちゃんをもうちょっと出して欲しいかな？」

市村「もっと突っ込みの鋭さを持ってる子なんだから、もっと突っ込めばいいと思うよねぇ」

KISS YOU!
PRINCESS PRINCESS

MONTHLY

おもしろ六気ヤング・ミュ～ジック・マガジン パチ・パチ

PATi-PATi

●表紙・巻頭ジョイント企画＆ポスター

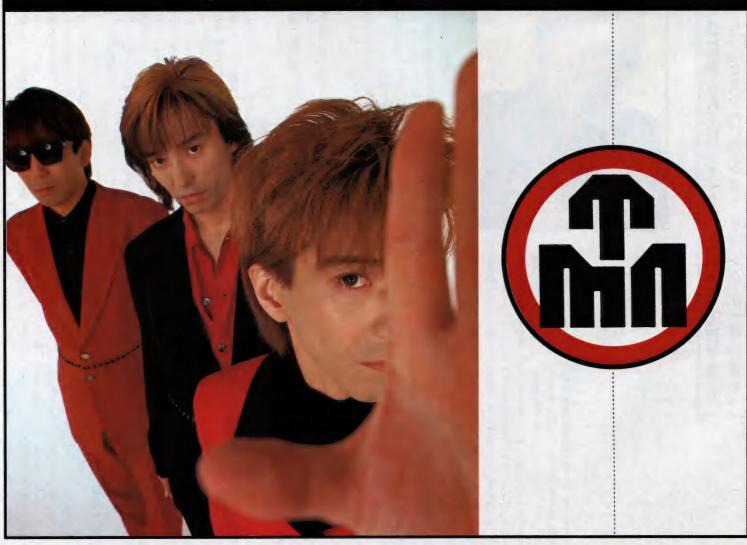
V2＋TMN30ページ大特集決定!!

UNICORN／J(S)W／B'z／BUCK-TICK／BAKU／プリンセスプリンセス／THE BOOM／BY-SEXUAL／福山雅治
チェッカーズ／大江千里／米米クラブ／松岡英明／布袋寅泰／吉川晃司／リンドバーグ／電気グルーヴ／レピッシュetc.

パチ・パチ2月号は1月9日（木）発売！

EXPO'91

●'91年。TMNという新しい名前をリズムレッドTMNツアーで確立させたと思ったとたん、今度は"月とピアノ"というコンセプトのもとに、EXPO（万国博覧会）を開催してしまった3人。傍ら、小室哲哉はミュージカルに、V2にとソロワークでも新境地を拓き続ける。相変わらず息つく暇を与えてくれないまま'92年へ突入する彼らだ。

撮影●新山健次　文●今津甲、三浦雅子　スタイリング●岩瀬朱実　ヘアメイク●横原義雄

'90年代の到来と共にTMNへとリニューアルした彼ら。21世紀へのカウントダウン第2段階の、1991年、宇都宮隆の1年は、かつてよりさらにハードでめまぐるしい日々だったという。しかしマイペースな彼はどんな状況下でも自分を見失うことはない。極めてストイックに1日1食。主にしゃぶしゃぶ、焼肉、あるいは“ファミリーレストランのハンバーグ”を食して頑張り抜いたという。(!?)

以下は、そんな多忙だけどどこかチャーミングな、宇都宮さんの'91年の回想談です。

宇都宮 真面目に働いたな……身を粉にして。

——そうですか、毎年のことながら。

宇都宮 いや、でも'91年は特に。毎年まあすごい勢いでやってるけど、でも必ず何かインターバルを置いてたはずなのね。例えばツアー前とかに僕だったらニューヨークに行ったりして、リフレッシュしてからツアーに入るとか。それが'91年は何もなくそのまんま。前回のツアーが終わったらそのまんまレコーディング入って、そのままたツアーのリハーサルに入ってという。なんかずっとツアーとレコーディングだけで終わっちゃったような。終わっちゃったってまだ終わってないけど。もう、音楽だけの1年だった。

——どうしてそうなっちゃったんです?

宇都宮 TMNになってからさらに加速が付いたって感じかな? スピード感っていうか。TMNを作った時にコンセプトじゃないけど、新しい2000年に向けてのカウントダウンが始まる……とかって言ってたような気がするんだけどね、遠い昔に。

——遠い昔?(笑)だから'91年はその通りになっちゃったんですか、自分の意志じゃなくて?

宇都宮 というのはいちばん頭である、小室自体が今そういう方向に頭がいってるんで。TMNになってからとりあえず、なんでもあり。自分たちの音楽だけじゃなく個人個人でも。だから小室もTMNと並行していろんなことやってるわけで。次元が違うけど木根も僕とサッカー・チームを作ったりとかね。自由にやりだしてる。

——だから休んでる暇がないってことですね? 常に活動的にいようと。

宇都宮 うーん、でもどうだろうね。さすがに続けてここまでやっちゃうと'92年あたり、しんどいんじゃないかな。精神的にも体力的にも。

——さすがにちょっとお休みしたいって本音もあるんだ。

宇都宮 そうですね。(笑)

——で、そのサッカー・チームはいつ作ったんです?

宇都宮 夏ぐらいでしたね。前回のツアーでほら、ボールを蹴ってたでしょ? あそこからだんだん発展していって。木根と葛城は学生時代サッカーやってたからね、で、どうせならっていう木根の要望で。なんか最近はいろんな人たちが野球チームを作ったりしてたけど、あれちょっと下火になってきてるよね、もう。プロ野球も相撲に負けてるし。(笑)その点サッカーは今日本で盛り上がってきてるし、観戦人口とかも増えてる。だから今はサッカーかなってところで、思い切ってチーム作っちゃったわけ、“ユンカース”っていう。

——時代を読んでるんだ。

宇都宮 でもまだ練習とかは3回ぐらいしかやってないんだけど。2か月に1回ぐらいの感じで。

——メンバーって、他は?

宇都宮 コンサート・スタッフとか、まだ1回も「参加する」っつって現われてないあのフェンスのワタルとかね、いるんですけど。あとB'zの稲葉とか、まだ1回も来てくんないんだけどもね。

——試合はないんですか?

宇都宮 この間練習試合みたいのはやって……負けたけど。で次の練習が12月にあるんだけど、木根なんてもう「それを納会にしよう」とか言って。完全そっちに頭がいってるみたいですね。

——他に、個人的に、楽しかったな、ってこととかは?

宇都宮 個人的にはないけど。やっぱり『EXPO』のレコーディング? がすごく印象に残ってますね。今までの作り方とは違ってたから。なんか、こんなに楽しんで作っちゃっていいのかなって作り方したから。

——ベース弾いたり。

宇都宮 そ、ベース弾いたり生ギター弾いたり、いつの間にか遊んでたらできちゃったという感じだったよね。

——それで楽器に目覚めたりはなかった?

宇都宮 なかった、やっぱり。(笑)あれはやっぱり遊びだけみたい。今もツアーで弾いてるけど、ベースがすごい楽しいとかいう感じでやってるわけじゃないし。

——そうですか、でもツアーも今回はレコーディングと同じで、いつになくラフに楽しんでるみたいですね。

宇都宮 あの今回の超目玉。TMネットワークから考えたら絶対あり得なかったステージのMC、しかもアドリブのね、しかもフォークでっての。

——秋雨前線でしたっけ? 変なバンド名。

宇都宮 あれ毎回違うんですよ。全部で60何本あるから全部で60何バンドになるわけ。曲も毎回違うしね。

——あ、そう! じゃその中でヒットのバンド名はなんでした?

宇都宮 長崎だったかな“路面電車”ってのがすごい、みんな気に入ってますね。

——アハハ、笑える。

宇都宮 あとゲストも入れたりしたんですよ、東京は。某有名俳優に出てもらって、彼のデビュー曲が昔のフォークだったから、それを生ギターで歌ってもらって。ま、最終的には木根と僕が考えてるのはあそこでその本物というかね、拓郎さんクラスの人が出て来てくれるともうフォーク・パビリオンも極め付けだなと。

——ところで、'91年もう少し時間があればやりたかった、というようなことなどは?

宇都宮 うーん、別にないかな。

——仕事オンリーでも充実してたんですね。

宇都宮 そうね。とりあえずTMNになる前1年間を個人的にやってたでしょ? そこで歌とかコンサートにすごく飢えてたから、その分TMNでこんなにレコーディングだコンサートだって続いても、楽しかったような気がするんだよね。とりあえず今は。'92年はわかんないけど?

——そろそろ問題意識? っていうのかな。

宇都宮 ……。

——でも、なんかこういう風に歳をとっていいなあ、って感じですね、常に全力疾走で満たされて。

宇都宮 うん、今のところはね。いい歳のとり方してるんじゃないかな。これを上手く、そのまんま、あと何年かそういう風にやっていけたら、いいですよね、うん。でもちょっと自分たちの周りとか、この業界だからみんなも、歳とってても若いでしょ? だから普段はあんまりそういうことって思わないけど、なんかの拍子で自分の年齢感じることがあると愕然となるよね。

——でも“路面電車”とかのバンドの時にはわざと言ってません?

宇都宮 まあ、年齢をギャグに使えるようになってきてるよね。

——いい傾向というか。

宇都宮 そんな、年齢じゃないからね人は。

——という感じでハードな1年を頑張り抜く秘訣とは。

宇都宮 普段はあんまり食べないよね。そんなにハードな仕事してない時は。だからオフとかは、1日1食くらいしか。

——コンサートの時は?

宇都宮 コンサートの時は1回やっただけで2~3キロ落ちるからね、終わった後なんてもうすごい勢いで食べる。それでとりあえず維持してるって感じで。

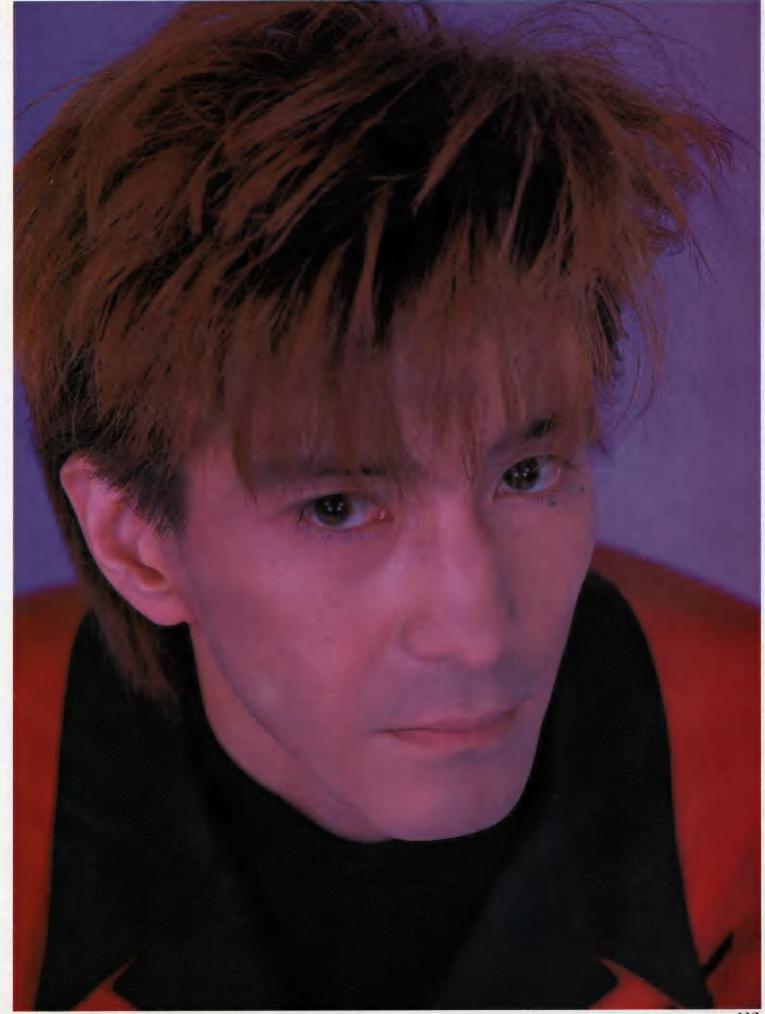
——3キロの汗!? そんなツアーがこの後'92年の春まで続くんですよね、す、すごい。

EXPO'91

TAKASHI UTSUNOMIYA ●

こんなに楽しんで作っててていいのかなって作り方したから、『EXPO』のレコーディングが一番印象的。

インタビュー・文●三浦雅子

TETSUYA KOMURO ▼▼

遊ぶ時間もまるでないほど、'91年は今までと比べると音楽に使ってる時間が圧倒的に多いね。

——'91年という年はどんなくくり方が出来る？

小室　そのくくり方はけっこうむずかしいよね。今はまだ「TMNというグループを軌道にのせないといけない」っていうのがあるから。まだわかんないけど今回の〝EXPO〟ツアーが終って、そこでようやくひと区切りつくような気がするなあ。

——TMNとしての1年目はまだ終わってない、って感じ？

小室　うん。今は春が終わって夏ぐらいの感じ。（笑）グループとしてのサイクルでいうとね。最近ほんと、世の中の季節感とは関係ないところで動いてるから。世間じゃ夏前と冬のボーナス商戦で盛り上がったりするけど、こっちの夏前は『EXPO』のレコーディングしてたし、今はツアーだからね。もう、なんか「我関せず」ってなもんで。（笑）

——小室クン個人の中のサイクルはどうなってるの？

小室　いつもにも増して夜も昼もない、って感じ。今はその極致だね。それでいてなんか、アマチュアの頃に近い感覚があったりして。

——というと？

小室　ヒマさえあればデモ・テープを作って、作品をためてる、みたいな。

——実際、そういうことをしてるの？

小室　いや、作ったものはどんどん発表してるんだけど、それが自分のバンクの中に収まっていってる感じなんだよね。

——それは'90年とかにはなかった感覚？'90年も〝天と地と〟の音楽があったり、いろんな人に作品を提供したりしてたわけだけど。

小室　なんだけど、イベント性は今年の方が低いと思う。

——イベント性？

小室　たとえば〝天と地と〟だったら、アレだけの話題性があって、そこにこっちがのっかったわけだけど、今つくってるものに関してはクリエイティブな気持ちの方が先にあったりするんだよね。あとから話題がついてくる、みたいな。モーツァルトにしてもそう。話自体は先方から来たわけだけど、それにも増して「自分が作りたい」っていう気持ちが大きくて。その〝作りたい〟っていうのも、「完成させたい」ってことではなかったりするの。どっちかっていうと「形にしたい」って感じなんだよね。

『EXPO』なんか、まさにそうでね。そこが「完結させなきゃ」と思って作った『RHYTHM RED』とは違う。

——完成ではなく形にする。というのはまだ先がある、ということなのかな？

小室　そうそう。もちろん作品として発表された以上それが長く残っていく場合もあるわけだけど、それよりそこで使われた手法みたいなものがいずれアップ・グレードする、といったことを考えてるわけ。一時人に曲を提供することに関して、手法が見えてた時期があった。「こうやってこうすればみんなが使いたがる」みたいな。今はそういうのとは違うんだよね。曲を依頼されても、いつもとはちょっと違うモノを作ってみたりして。観月ありさの曲とか、ね。

——人に依頼された曲でも、それを自分に向けたトライとして消化してる、といった感じなのかな？

小室　自分で自分に学ぼうとしてるところがあるかもしれない。今のツアーでターンテーブルを使ってるのもそういうことだし、V2にしても同じ。人のメロディーを歌ったのは初めてのことで、それはすごい新鮮な経験だった。歌い方自体、変わったと思ったし。といって今は全面勝負には出たくない時期でもあってね。そこに至るまでにいろんなことをしておきたい、っていう期間なわけ。

——次の展開のために貯金してる、みたいな？

小室　うん。そういうのって、みんなからしっかり支持されるようになったから出来ること、なんだけどね。とりあえず「前と同じことをしないとダメだ」とか「次で失敗したら終わりだ」とか考えないでトライすることが出来る。これって幸せな状況だよね。

——確かに今の小室哲哉はそういうポジションにいる。これでさらに大ヒットを飛ばしたら……、とか考えたりしない？

小室　そういうときのための準備はしときたいよね。そのためにも、色んなことを試しておきたいわけ。同じ大ヒットするんだったら、それをキッカケにシーン全体の質が上がらざるを得ないようなもの、作りたいから。

——それにしても1年間の間に2つのツアーをして、2枚のアルバムを作って、V2もやって、他の人にも曲を書いて……。ほんとにハードなスケジュールをこなしてるよね。

小室　確かに今までと比べると音楽に使ってる時間は圧倒的に多いね。遊ぶ時間もまるでないままで。以前はレコーディングの直前まで遊んで、終わったあとも遊んだりしてたんだけど。今は遊ぶ時間があるならもっと演りたいって思う。レコーディングに倍かけたり、それが終わったあとで別のことにトライしたり……。使う時間の内訳は色々なんだけどね。

——自由な時間がたっぷりある中でないと創作できない、っていうタイプの人も多い。でも、小室クンは逆のタイプのようにも見えるなあ。タイトな時間割の中でかえって力を発揮する、みたいな……。

小室　そうでもないけど……。これは時期の問題なんじゃないかな？　今は時間があろうがなかろうが作品作りには関係ない時期だという。もし、もっと時間があったらその分もっと大きなプロジェクトに時間をかけてると思うし。少なくとも今はね。この状態が'92年も続くのかどうかはわからないけど。

——'92年、TMNの方はどうなっていくのかなあ？　たとえば新しいツアーが始まった時はまたタイトなステージングに戻ってるとか。

小室　たぶんソレはないんじゃないかな？　木根とか見てるとそんな気がする。（笑）ソロの部分ではわからないけどね。

——ソロ・ワークでタイトな世界が展開される、とか？

小室　かもしれない。

——グループとソロでは方向が異なってた方が楽かもね。

小室　そうだね。いつも冗談で引き合いに出すのはフィル・コリンズとジェネシスの関係でさァ——ジェネシスもフィルを含めてるんだし。フィル・コリンズの場合、ソロが〝自由〟って感じだよね。ポップで、コミカルで。一方、ジェネシスは適度にプログレッシブで、ドラマーとしてのフィルも高尚なレベルで叩いていたりする。その辺、『CAROL』とボクのソロは同じような関係だったかもしれない。『CAROL』はすごくカチッとした作りで『digitalian……』はかなりポップな内容で。今後はその逆の方向に行くのかもね。TMNは楽しく、ハッピーな感じで進んで、ソロの方がすごく計算された方向になる、とか。

——すでにモーツァルトのアルバムがそうなんじゃない？　芸術度とかからいっても。

小室　うん。あの作品のカセットを聴いた木根が言ってたよ。「音楽学校も行ってないのに、よくここまでらしくやるよなあ」って。（笑）

——クラシック、特にフル・オーケストラを使ったようなものって、えらくシステマティックでもあるし。

小室　そうね。あのニュアンスって、打ち込み以上に計算されつくされてるもんね。ま、モーツァルトのアルバムは〝天と地と〟に続くインスト・アルバムとして考えたもの。僕のソロ・ワークに関してはもっと別の形でもやってきたいと思ってる。V2も思ってた以上に充実した内容になりそうだしね。プロでないと出来ないシングルになると思うよ。

インタビュー・文●今津甲

EXPO'91

バンドの活動と並行して個人的なことも色々とやっていきたい。'92年はソロを出そうかなと思ってる。

木根 '91年を振り返って……かあ。僕ら、一般の人たちみたいに1月1日に何かを念頭において1年を始める、みたいなのがないからねぇ。いつも年末から年始にツアーがかかってるし。だから、1年の始まりというなら"RHYTHM RED"ツアーが終って『EXPO』のレコーディングがスタートした4月からが今年、って感じだったね。そんで9月からはまた"EXPO"のツアーが始まった、と。

——アルバム→ツアー、という流れの部分においては例年と同じ、か。

木根 うん。ただ今回のツアーって、メンバーの意見がすごく反映してたっていうところでいつもとは違ってたかもね。3人各々の「僕はこうしたい」っていう希望が通って。

——たとえば？

木根 小室は「F1の日はスケジュール入れないでくれ」って言ったり、ウツもウツで、何だかアイツらしい希望を出したりしてたみたいだし。（笑）

——木根君は？

木根 僕は、ライブの本数はたくさんあってもいいけど、それを「3か月で60本」とかいう風に集中させないでくれ、って言ったの。アルフィーとかハウンドドッグみたいに気合で本数をこなしていくやり方もあるとは思うんだけど、僕の場合それってむずかしいんだよね。1本、1本のステージを大事にしていくには、何本かやったらいったん休みを入れてみたいな方法の方がベター。ちょっと間隔をおいてまた演ると「アレ、ここはどうやるんだっけ？」っていう緊張感がわいたりする。それがライブの新鮮さを保つもとになったりする、という。

——実際、そういうスケジュールを組んでもらって正解だった？

木根 個人的にはすごくやりやすいよね。葛城みたいな人間は「また間が空いちゃうのかー」とか言ってるけど。あいうミュージシャン肌の人にはやりにくいのかもね、というと、じゃオレはなんなんだ？ ってことになるけど、（笑）ま、話は戻るけど、『EXPO』のレコーディングを始める時、「今度はもっと自由にやろう」っていうのがあったわけ。『RHYTHM RED』でひと区切りつけたところでさあ。おのおのが自由にやる。その意識は今回のツアーにも共通するテーマだったのかもしれないね。で、ボクにとっての自由に、っていうのは"ゆとり"ということだったりする。僕、ゆとりがないとなんにも出来ないタイプなんだよね。今までずっと見てきて、ゆとりの中でやった時に結果いいモノが出来ていたような気がするし、小室とか詰め込むだけ詰め込んだ中から何かを生むタイプのように見えるけど。

——その"ゆとり"というのはTM NETWORKやTMN内でのこと？

木根 ソロ活動も含めて、だね。最近、バンドの活動と並行して個人的なことも色々とやっていきたいって思ってるの。『CAROL』を終えたあとの1年間とかはバンドとしての活動を休止してそういうことをやってみたけど、またいちいち休止するわけにはいかないじゃない？ いま必要なのはTMNをやりつつ自分のやりたいこともやれる時間の使い方なわけ。それを可能にするためにツアー・スケジュールにすきまを作ってもらったっていうのもあるんだよね。

——ツアー中のソロ・ワーク。具体的にはどんなことをやってるの？

木根 '92年あたり自分のソロを出そうかな？って思ってたりするの。で、そのための曲作りとかをしてる。家で曲を書いたり、スタジオに入ったりしながら。まだ全体像は見えてないんだけど、これで'92年に形になれば今やってることにも意味が出てくるでしょ？ そうやって、常に"次の何かのための今年"にしていたいわけ。これが常に「今年は120本ライブをやる」みたいな時間の使い方だと、それは消化であって創造じゃないと思うんだよね。

——そういう本数は今回のステージングのことを考えてもなじまないだろうね。年に120回、ステージで喋る、なんてねぇ？

木根 それはつらい。（笑）アレ、前もって考えたことを毎回同じように喋ってるわけじゃないからね。当日のステージが始まって、小室がピアノを弾いてるときに考えてるんだから。

——エッ、そうなの？

木根 うん。バンド名とかまで含めてね。だからステージの本数だけバンド名があるわけ。（笑）

——当日のレパートリーに関しては？

木根 その日、楽屋でウツに選んでもらってる。アイツが歌うわけだからね。'60年代からの歌を網羅した上・下2巻の歌本を使って。そういえば2週間あけて名古屋で計4回のステージがあったことがあってね。それだけやると当然お客さんもダブってくる。で、「この間やった曲はやめた方がいいな」って考えたわけ。だけど、前に何をやったか、どうしても思い出せなくってさぁ。メンバーに聞いても、みんな違うこと言うし。（笑）それでライターの藤井徹貫さんに「悪いんだけど表に行ってファンに聞いてきてくれない？」って言って。（笑）

——で、判明した？

木根 うん。やっぱファンの情報ってすごいよね。で、「これを機会に今までやった曲名、全部チェックしとこう」と思ってラジオで問いかけたら、全曲のリストを書いたファンレターが届いて。

——すごーい！

木根 書いた人が全六公演を見たとは思えないけど、きっと全国の情報網を通じてまとめてくれたんだろうね。

——それにしてもフォーク・コーナーってほんと気軽なスタンスなんだね。

木根 うん。TMNになった時、それまでのワクをとっぱらった、って言ってたよね？ だけどRHYTHM REDに関しては「'70年代のハードロックをやろう」っていうテーマがあった。あの時のツアーって音もパフォーマンスもかなり自由な内容だったけど、それでも「'70年代の…」っていうワクはあったと思うんだよね。それと比べると、今回のステージングは本当に自由。といっても僕は一般的な考え方をする人だから最初、「月の河／I HATE FOLK」はライブじゃムリだと思ってたの。そしたら鬼才の小室哲哉が——というより自分がドラム叩きたかった小室哲哉が、アレをやるべきだって。（笑）そこで、「じゃ、こっちも楽しませてもらいましょう」ってなったわけ。とりあえずお遊びで始まったことなんだけど、今はあそこがいちばん楽しいね。なぜかっていうと毎回やってることが違うし、そのことで緊張感もあるから。たしかにあそこまでやることに対しては色んな意見があると思う。中には昔のTMみたいにカッチリしたステージを望む人がいるかもしれない。それは今だってやろうと思えば出来ることなんだけどね。CAROL風のステージだとか、FANKS風のステージだとか。そう。でも、もしその方向で行ったとしたら僕らの顔に「どっか違うなぁ？」って表情が出てくると思うんだよね。そうするとステージもこなしてるって感じになっていく。そういうのってお客さんにもわかっちゃうものじゃない？ そうなるぐらいだったら、ちょっと未完成でも色んなことにトライして、そこで楽しんでる姿をみんなに見せた方が伝わると思うんだよね。

——じゃ、当分は今回のような自由な路線が続くわけだね。

木根 自由さの中にTMNとしてのトライがある限りは、ね。たとえば今回のツアーでは小室がターンテーブルを使うといったトライがある、みたいな。そういう部分がなくて1時間半お喋りしてたら金返せコールがおこるだろうし、（笑）ま、ツアーのあと、フォークとヘビメタをライブハウスで2DAYSって話もあるんで、そこでケジメをつけようかな？ って。（笑）

インタビュー・文●今津甲

月とピアノストーリー。

COPY●KOU IMAZU

●"月とピアノ"というキーワードが小室哲哉の頭に浮かんでから、"EXPO"ツアーのステージで具体的な形をとって現れるまでを、パチ▼パチでは7回のシリーズで追ってきました。これは"月とピアノ"シリーズの総集編です。どこからその発想が生まれたか、そして次はどこへ向かっているのか、少しでも理解できるといいのだけれど——。

PHOTO/YORIHITO YAMAUCHI

1 [KEY WORD]

▲Rthythm Redツアーの際中にインタビューした小室哲哉から出てきた新たなキーワード。ゆえに髪はまだ長い。

TMNが登場した時、何回となく聞かされたのは"リニューアル"と"世紀末"という2つの言葉だった。

TM NETWORKをリニューアルしてTMN。と言うと、リニューアル=改名orイメージチェンジといったぐらいのモノに思えたりするけど、実際にはもう少し深い意味があったような気がする。もし、単に印象を一新するというんならTMNではなく、ぜんぜん別のネーミングにした方が、「変わったなァ」って感じがする。そこを、TM+NETWORKのN程度にとどめたっていうのは、決してグループの過去を切り捨てて再出発、とかいうものではなかったという気がする。

もうひとつ。世紀末というキーワード。この言葉について小室哲哉は「誰もが『何かをしなくちゃ』って考え出す時期」のことだ。と言った。誰もが、という中には当然彼とウツと木根のことも含まれる。彼らも世紀末のラスト10年を目の前に、何かをしようと考えた。まず、グループ名を少し変化させた。その上でやろうとしたことというのは、自分達の過去も含めてひとつの総集編を作る、といったことだったと思う。それが3人にとってのリニューアルの意味であり、3人なりの世紀末への接し方だったのではないだろうか?

TMNはそういう意味で始まり、まず『RHYTHM RED』というアルバムを発表して、同名のツアーを展開した。共に、メンバーがかつて体験したハードロックを'90年代風にまとめる、という方法をとりながら。やがてツアーは終り、ひとつの感想がもたらされた。

「今はこれしかない、と思ってツアーに出たんだけど、やってゆくうちに『これもありだ』『これもやってない』って感じになってきたんだよね」そう思ったことからTMNとしての次のステップが形をとり始めた。

「僕たちが今までかかわってきたあらゆるジャンルの音楽を、一挙に形にしてみたい」

『RHYTHM RED』が３人のルーツの一部分に当てられたスポット・ライトだとしたら、次はルーツを照らし出す色とりどりの照明。そんな光の当て方のもとTMNとしての２ndアルバムは像を結んでいった。その過程で、新たなキーワードとして出てきたのが“ピアノ”と“月”だ。「あらゆるジャンルの音楽の目撃者で、300年の歴史を持っていて、これからの時代にも通用する。といったらピアノしかなかったんだよね」

自分達がかかわってきたあらゆるジャンルを形にするにあたって、様々な音楽とかかわることでは大先輩にあたる“ピアノ”という存在をひっぱりだし、それを新作のまとめ役に起用することが決まった。

「月は空を見上げるとそこにいる。でも、いなくても気にならない」

まるで空気のような、でもいつもどこかで人間達を見守っている“月”その、大きなふところを持ったスタンスも新作のお目付け役にはピッタリだったようだ。そして、

「地球が弾き手だとしたら月がピアノになんない かな？」

TMNのイメージの中で２つのキーワードは、“月とピアノ”として１組のペアに昇格した。宇宙と地球上に置かれた１対のまとめ役。その間に広がる余裕タップリの空間は、あらゆるジャンルの音楽を収めるのに十分な広さを提供した。

'91年５月22日。『RHYTHM RED』以降のTMNを紹介する１枚のシングルがリリースされた。「LOVE TRAIN/WE LOVE THE EARTH」

「TM NETWORKからTMNまで含めたボクらの元の部分をとらえたって感じかな？　こういうサウンドって」

「LOVE TRAIN」について、彼らはそんな言い方をした。言い換えれば、TM～TMNというグループの音をルーツとしてとらえたようなナンバー。それは今まで以上に多くの音楽ファンの耳もとらえて、３人にとって最大のシングル・ヒットにもなった。

一方、「WE LOVE THE EARTH」はそのタイトルが示すように、世の中の環境への向け方とも重なる歌。

「この曲を使ったカメリアのCFにしてもそうだけど、ここんところ色んな企業が“エコロジー”ってことを言い始めてるよね。みんなが自分たちの住んでる場所のことを考え出した。僕らが言ってる“ピアノ”とか“月”っていうのも自然のモノだし」

「LOVE TRAIN」が音楽的にTM～TMNをとらえたものだとしたら、「WE LOVE THE EARTH」はみんなのルーツである地球をとらえつつ、ニューアルバムのキーワードをかすめたナンバーと言えるかもしれない。

シングルの発売と同じ頃、３人はニュー・アルバムのためのレコーディングに入っていた。スタジオは「空（月）が見えやすい所」という条件の中から選ばれた、ギタリストCHARのスタジオ。プライベート・スタジオ的な作りの場所だけに、ハードなイメージの録音スタジオとは違う、アットホームな雰囲気のあふれる所だったらしい。というところで３人を含め、TMN関係者一同はスタジオに入りびたり。連日みんなのたまり場状態で、

2 [LOVE TRAIN]

▼シングル“LOVE TRAIN”をテーマにした撮影は久々のロケ。某私鉄沿線の踏み切りで撮ったのです実は。

PHOTO/YORIHITO YAMAUCHI

PHOTO/TAKASHI HONMA

3 [EXPO 完成!!]

▲早々と完成してしまったニューアルバム。この写真はヘアメイクの横原さんの車の中。ハンバーガー噛りつつ。

4 [E X P O]

▼"月とピアノ"を徹底的にコンセプトにしたから。ページのあちこちに宇宙や自然やピアノが登場しました。

PHOTO/KENJI MIURA

PHOTO/AOI TSUTSUMI

5 [TOUR TMN EXPO START!]

▲"EXPO"ツアーのリハーサル中にインタビュー。練習嫌いで有名な3人の口から次々に飛び出した楽しい話。

ほとんどパーティー会場のような光景が繰り広げられていたとか。

「その感じが音にもあらわれているんじゃないかな？　だから、ひとりだけで楽しむアルバムじゃないかもしれない。どっちかっていうとみんながいる場所で流す、みたいな……」

誰もが自由で、ワイワイ・ガヤガヤとした雰囲気。それはTM NETWORK時代も含めて、前面に押し出されたことがなかった類のモノ。そこに、TMNとしての新たな1歩が感じられた。

「今はひとつのことにガチガチになるんじゃなくて、自分なりの生活の中で"それなりに"関わっていく時代。新作はそういうことを作品にした、って感じだね」

時代を読むことにかけては超ベテランの彼らはそう語りつつ、自分達も毎日を思いっきり楽しみながら1枚のアルバムを作り上げた。「すごく色んな種類のパビリオンが入った」作品、『EXPO』を。そこでEXPO会場は宇宙船の形をして、月のように星空に浮いていた。

'91年9月5日。アルバム『EXPO』がリリースされた。かねてからメンバー達が予告していたとおり、自分たちがかかわってきたジャンルを一気に放出したような、思いっきりニギヤカな博覧会アルバム。そこには、彼らのディスコグラフィー上、一度も耳にしたことがないような"初物"がぎっしりつまっていた。

オープニングの「EXPO」では、'60～'70年代ロックのマスト・アイテムだった逆回転サウンドがポイントになっている。

「レコードだったら逆さにまわせば逆回転のところで何を言ってるのか、わかるじゃない？　でもCDでソレをやるのはむずかしい。この部分っていうのは時代がフタをしてしまった部分でもあるんだよね」

TMNというグループの性格を、かなりヒネッたカタチで表現した1曲目。あなどれない始まり方だ。

4曲目「JUST LIKE PARADISE」では、全編が英語で歌われている。これも勿論はじめての試み。しかもリードをとっているのは黒人の男性と女性。2人がかわす愛の歌に、メンバーは"JUST LIKE PARADISE（天国のようじゃないか）"とコーラスを入れる。試みとして新しいだけでなく、やり口もオシャレだ。

これが「CRAZY FOR YOU」となると、ほとんど誰もやってないぐらいのトライまで行っている。ウツと女の子のセリフのみでつづられて丸々1曲。その会話も随所に業界クン物語って感じのノリがあって、色んな意味でキワドイ。ここでは小室君が自らドラムを叩いた、というオマケまでついている。

続いて「月の河／I HATE FOLK」。左と右のスピーカーからフォークとメタルが同時に聴こえてくる、というとんでもなさがパンクだ。こういうことにした動機が、録音した曲が多過ぎてそのままじゃCDに入り切らなかったから、というのもとんでもない。ウツがベースを担当している、というのにも驚かされた。

アルバム『EXPO』の正体を知って思ったのは、TMNというグループの世紀末に向けての進化のスピードだ。こういう時期だから何かをやらなくちゃと思って、アルバム1枚を使って自分達のルーツを放出する。それだけなら容易に納得がいく。実際、新作が完成する前は、そこまでの内容

になると思っていた。けれどもその実体は様々なジャンルの音楽を披露した上で、各々のナンバーに対して未体験のトライが加えられてたりしたのだ。１枚前のアルバム『RHYTHM RED』が往年のハードロックをリニューアルするという所にとどまっていたことを思うと、そこから新作でのハジケに至る加速ぶりには、ちょっとおどろいてしまった。

アルバムとして大きな爆発を見せた上で、"EXPO"はツアーに移っていく。アルバム・リリースを受けてツアーが始まる。このパターンは今やあらゆるバンド内で公式化されてるものだけど、今回のTMNのツアーはあのアルバムにしてこのツアー、というぐらいの内容を持っていた。

最近、木根君が「まさか『月の河／I HATE FOLK』をライブでやるとは思ってなかった」と告白してたけど、その"まさか"がまかり通ってしまうプログラムが組まれていたのだから。

あの曲に限定して言えば、'60年代日本のフォークの雰囲気を今に伝えるとしたら、ライブでのしゃべりの部分というのは欠かすことが出来ない。だからといってソレを自分達のライブでやる、というのは話が別。ふつうのバンドならそう考えるだろう。そこをTMNは、ごていねいにも衣裳まで当時っぽくよそおって再現してしまった。しかもおシャベリの内容も選曲もステージ毎に変える、といった念の入れよう。さらに会場によってゲストも登場する。一方でヘビメタ軍団の乱入もある。かつてはほとんどMCもなく、アンコールもなく、秒単位でコントロールされたステージを展開していた男達が今や、だ。

初めて彼等の口から「次のテーマは"月とピアノ"です」って聞いたときには"月"や"ピアノ"という言葉が持つイメージからそれこそ『CAROL』のようにリリカルでコンセプチャルな展開を想い描いていた。それが実際には、予想もしなかった方向からのアプローチをつきつけられて…。正直言って、最初は心底おどろいてしまった。

けれども、しばらくして、いくつか思い当たるフシが出てきた。

「ピアノって本当はすごい芸術性を持ったモノなんだけど、６畳間の置き物になってたりもするじゃない？　それでいて主役は弾く人、っていうわきまえた所も持っている。ピアノのそういう所にすごく興味をひかれるんだよね。大衆芸術の大事なキャストなんだね。アレは」

"RHYTHM RED"ツアーが終ったころ、小室哲哉はそんな話をしてくれた。ピアノというと芸術と直結したハイレベルのイメージがあるけど、言われてみれば御家庭の置き物であるぐらいにポップな存在だったりもする。だとすると、そういう存在にひかれるという彼らもまた。ポップな存在にひかれるという彼らもまた、ポップな芸術家でありたいと思ってるんじゃないだろうか？　いみじくも例のフォーク・ソングというのは日常のポップなジャンルであったし、あのオシャベリも、ウツのセリフも日常に限りなく近い類のものだ。一方で木根くんや小室くんが真剣にピアノに向うコーナーや、TM以来の多くのマジなナンバーもある。そこをベースに身近かな日常にも切り込むことで芸術に大衆を加え、加えた分、より自由な活動範囲をモノにする。今のTMNはそういう所にさしかかっているのかもしれない。そして理想は月のような存在になること、かな？

6 ［INTO THE PAVILLION］

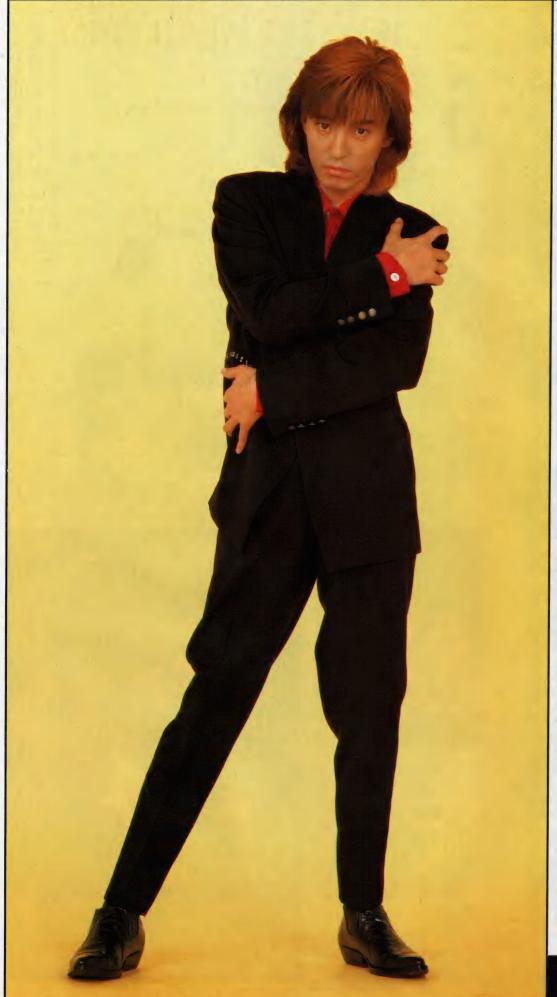
PHOTO/KENJI NIIYAMA

◀そして開催されたEXPOには個性的で自由なパビリオンが一杯。写真も3人3様のテーマで作り込まれました。

PHOTO/MAKOTO UEDA

7 ［THE LIVE!］

▶実際に"EXPO"の内部に入って見た月とピアノ。想像以上にそれらは堂々と力強く美しかったのです。

◀自分にとってINなものに○を付けてもらいました。○がついてないものは、OUTです。

音楽を聞く場所　○部屋　車の中
部屋でウニウニウダウダしいるのが好きだから。猫のようにゴロゴロして時間を過ごすのも悪くない。

空の色　○明け方　夕暮れ
夕暮れをまじまじ見ることなどなくなっしまった。明け方はレコーディングの帰りなどにときどきぼんやりと眺めたりする。オレンジやパープルやブルーの空はきれい。

観るスポーツ　F1　○相撲
エキセントリックな存在だと思う。きっとNHKの相撲中継を始まりから終わりまでずっと見ることはないだろう。

TV番組　ニュース　○ドラマ
男が女に〝君から好き〟と言ってもニュースにはならないが、ドラマにはなる。

本　○SF　ミステリー
映画でもSFものは大好き。あり得ないものや、あり得ないと思っているものを見せられたりするショックは快感。

受け手として　○ラブコール　ラブレター
後に残らないものだから、正直に素直になれる気がする。〝その時だけ〟という感覚っていいと思う。

ツアーの移動　○飛行機　新幹線
速い。この前、ドラムの阿部薫が飛行機に酔って吐いたときはビックリした。ちなみに木根は逃げた。

ペット　リスザル　カメレオン
やっぱり猫が好き

映画を観るとき　○映画館　カウチポテト
あの映画館の雰囲気が好き。子供のころからそうだった。暗くて、広くて、迫力ある音で大きなスクリーンがあって……

女性の服　ショートパンツ　○ミニスカート
ノーコメント。

贈る花　○バラ　ガーベラ
気品を感じるから。

女性の髪　ショート　○ロング
好きです。

漫画　○火の鳥　アキラ
手塚治虫ものには凝ったこともあります。あのSF感覚は僕のSF原体験かも。

年中行事　○クリスマス　バレンタイン
「Dream of Christmas」(TMN) きいてもらえましたか？

窓辺　カーテン　○ブラインド
指でブラインドを少し開け、目だけで外を見る。どこかの映画にそんなシーンがあった気がする。

TAKASHI UTSUNOMIYA

音楽を聞く場所　○部屋　○車の中
誰の何をきくかで大きく分かれると思う。風景が静止しいる部屋と、それが動く車では違ってくるから。

空の色　○明け方　○夕暮れ
明け方の青、夕暮れの赤。明け方の寒、夕暮れの暖。明け方の別れ、夕暮れの出会い。明けの明星、宵の明星。

観るスポーツ　○ＦＩ　○相撲
Ｆ－１は世界一制作費の高いエンタテイメントであり、相撲は世界に誇れる様式美、儀式性のあるエンタテイメントだから。

ＴＶ番組　○ニュース　○ドラマ
ニュースとドラマの区別がつかない時代だ。本来相反すると思われているものが、同じ枠の中で平然と同居し両立する時代だ。

本　○ＳＦ　　ミステリー
ＳＦがScience Fictionだから。

受け手として　○ラブコール　○ラブレター
直接聞きたいこともあれば、手紙でしか言えない気持ちもわかるので。

ツアーの移動　○飛行機　○新幹線
基本的に乗り物は好き。が人力車と牛車はまだ乗ったことがない。

都市　○バルセロナ　○香港
オリンピックを機会に飛躍しようとする未来と、1991年に大陸へ吸収される未来──答は21世紀で待っているようだ。

ペット　リスザル　カメレオン
やっぱり犬が好き

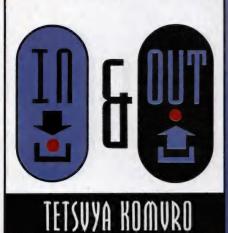
女性の服　○ミニスカート○ショートパンツ
それは着る人が決めることだろう。ただし“それは似合わないよ”とアドバイスしたくなる子もいなくはない、自分の良い点を見つけるのも才能だろうか。

贈る花　バラ　ガーベラ
草が好き。緑が好き。赤や黄の花も緑の草の中にあってこそ映える。

漫画　妻をめとらば　○課長島耕作
世の中のサラリーマンの人たちには多少なりともリアリティーのある漫画なのだろうか。僕には全く別の世界。ＳＦチックですらある。

年中行事　　クリスマス　　バレンタイン
それをエンジョイする暇がないので、選ぶだけむなしいので、選ばない。

窓辺　○カーテン　○ブラインド
月夜にはカーテンで、眠い午前中はブラインド。

TETSUYA KOMURO

音楽を聞く場所　部屋　○車の中
車での移動が多いので、自然とそこで聞くことに慣れてきた。思わぬ発見もある。聞くぞ！　と身構えないのがよいのだと思う。

空の色　明け方　○夕暮れ
夕暮れ時はさびしそうby N.S.P

観るスポーツ　○F I　相撲
派手でいいじゃないですか。好きな派手さ。

本　○SF　ミステリー
読者としてはとても興味がある。書く側としてはまだまだものにできない世界。

受け手として　○ラブコール　ラブレター
相手の声をききたい。その抑揚やトーンで気持ちは大きく変わる。沈黙があってドキドキするのもいいじゃないですか。

ツアーの移動　飛行機　○新幹線
飛行機が苦手という消去法から。

都市　○バルセロナ　香港
オリンピックも近いことだし、御祝儀がわりに○を付けてみました。

ペット　○リスザル　カメレオン
単純に可愛らしいので。爬虫類のペットには僕たちはちょっと……。熱帯魚くらいならわかる気もするけど、飼うと小室哲哉が遊びに来なくなるのでやめておいてあげよう。

映画を観るとき　○映画館　カウチポテト
映画（スクリーン）が大きいのが何よりも魅力。

女性の服　○ミニスカート　ショートパンツ
ショートパンツをホットパンツと言ってたのはいつのことだったろうか。

贈る花　○バラ　ガーベラ
刺があるのがいい。もしバラに刺がなければ、これほどポピュラーな花にはならなかったと思う。

女性の髪　ショート　○ロング
長い髪が風にそよぐさまは、いつの時代も男にとって魅力的なのでは。清潔な色気を感じる。

漫画　○火の鳥　アキラ
原点です！

年中行事　○クリスマス　バレンタイン
人並みにはウキウキするので。あの街中がうかれている様子も嫌いではない。すべての人が幸せそうに見える1日があってもいいはず。

窓辺　○カーテン　ブラインド
日光をさえぎるのではなく、弱めて、丸みを出すのがカーテンだから。

NAOTO KINE

EXPO'91

s Of You

●「一瞬の夏の奇跡」として伝説になっていった彼ら。
彼らの業績を称え・惜別の言葉で涙にくれて終わるのも、
らしくないんで、ゆかりの人々を訪ねて、バカ話しなが
ら楽しかったあの日々の想い出を語りあって終わりに。

PHOTO●KAZUHIRO KITAOKA　MOMOTARO　COPY●MISATO KONDA

Memorie

最後のフリッパーズ

FLIPPER'S GUITAR

文豪と編集者　パチパチ読本 3

熊のような犬　'91年⑪月号

BOØWY-T?　パチパチ読本 4

牛、牧場にて　'91年⑧月号

かぶりものの気持ちは、かぶったものにしかわからない……

「俺、カメラマンとしてのこの企画に参加しようとは思ってないもん」という北岡さん。今、かぶりものを撮らせたら日本一と言われるだけに、ここは「かぶりもののフェチ」として参加するのだろうかと思いきや「同じ穴のムジナとして参加する」と宣言。さて「同じ穴のムジナ」とは？

北岡　初めてフリッパーズに会った時、小沢がいきなり「そういえば知ってますか？ルイ・フィリップがきてたんですよ」って。おまえ、初対面の人にその会話はないだろうって思ったんだけど、「えっ、ホント」って言っちゃう俺も俺だよな。（笑）で、その後小山田が、俺が書いたエル特集の「NEWS WAVE」を見せるんだ。なんでそんなもの持ち歩いてるんだよ。（笑）

担当Ⓕ　北岡さんに会うからって持ってきたんだろうな。

北岡　うん、そうじゃない？でもね、バンドの取材で音楽の話ができるのは、フリッパーズ・ギターだけだったっていう、この哀しい事実。

担当Ⓕ　取材中、ちょっとしたなごみの時間があると、すぐ3人で三角形作っちゃって話し込んでたよね。もう、誰もその中に入れないの。どマイナーな話して。

北岡　トライアングルって呼ばれてたよね。

担当Ⓕ　でも、会う前はキライだって言ってたじゃん。

北岡　だからそれは、近親憎悪だったと。でも、そんなにヒネくれてなかったのが意外だった。写真の顔つきとか、結構ふてしかったでしょ。

担当Ⓕ　初めて写真撮った時、「これですよこれ」って言ってたね、小沢君。

北岡　ホラ見て、「俺達の欲しかったのは、これだったんです！」って。

担当Ⓕ　人を転がすのがうまいよね。（笑）

北岡　やっぱあいつは、電通の営業だ。

担当Ⓕ　かぶりもののカメラマンとして評価されてきた矢先にねえ…

北岡　そんなもんで評価されたくねえよッ。でも撮影の時は、当日使うカブリものを自分で確かめてから、あいつらにかぶせてた。かぶりものの気持ちは、かぶったものにしかわからないからねえ。（しみじみ）

担当Ⓕ　北岡さん、他のカメラマンがフリッパーズ撮るのってイヤがってたよね？

北岡　他の人には渡したくなかったなあ…。

Memories Of You

FLIPPER'S GUITAR

Beach Boys? パチパチ別冊『New Artist特集号』

50'S風ロックンローラー　パチパチ読本 4

クールなスパイ　'90年⑩月号

M・Cハマー改めハマー　'91年⑪月号

これからは"正ちゃん帽"にしようって言っていたのに……

ああ、ニクジュバン肉じゅばん。スタイリストの梅山さんは、お相撲姿のフリッパーズに"ベニエスb"のまわしをあしらったという輝かしい経験を持つ。そんな離れ技ができたのは、彼らに信頼されているからこそ。「これから、かぶりものを極めよう！っていうところだったのに」とくやしがる彼女と担当Ⓕの次なる野望は…。

担当Ⓕ　フリッパーズって、撮影用の服も普段着も区別ないでしょ。

梅山　うん。私の持ってった服と混ぜて使ったりとかしてた。なんか"着せちゃう"みたいなのはイヤだったし。でも、彼らはいっぱい梅山商店から買い取ってくれたんだけど、まだお金を払ってくれないの。早く支払いしろよォ。小沢君は一度払ったんだけど、最後に買い取った皮ジャンまだ払ってないし、小山田なんか1回も払ってない。もう7、8万円ぐらいになっているよ。

担当Ⓕ　（笑）でも、2人共オシャレだよね。

梅山　うん。小山田は流行ものも好きだし定番ものも好きだしっていう、オシャレ少年だったからね。着こなしが、すごく上手だったな。小沢は細いから、ブカッとしたものより細身のものが似合ってたし。本人も好きだったな。自分達に似合うものよく知ってたよね、彼らは。

担当Ⓕ　小山田って、月星シューズはいてたんでしょ。デッドストックとかいって（笑）

梅山　大阪で見つけてきたんだって。

担当Ⓕ　エア・ジョーダンとか絶対はかないんだよね。結構はいてるヤツ、バカにしてるしさ。（笑）某バンドのボーカルとか。

梅山　ああ、あの人でしょ。

担当Ⓕ　小山田君がかぶってたゴルフ帽って、はやってたの？

梅山　一時フリッパーズのライブって、ベレー帽人口が多かったけど、今年の夏はゴルフ帽人口がかなり高かったですね。

担当Ⓕ　ベレー帽がイヤでゴルフ帽にしたんでしょ、あれって。

梅山　イメージがついちゃったからね。

担当Ⓕ　最後の方は、ゴルフ帽もやめようって言ってたんだよね。

梅山　これからは正ちゃん帽にしようって言ってたんだよね。（注今かぶってます）

担当Ⓕ　あの2人、アタマが大きいんだよね、実は。（笑）

梅山　たくさん脳ミソ詰まってるのよ（笑）

高校球児と応援団員　'91年⑨月号

トントン相撲　'91年③月号

ビート・パンク　'90年9月号

あの二人って、ただ曲作って演奏するだけじゃないから……

〝『ダイヤモンド』を50万円で買った〟〝ソフト・バレエはオカマ〟

東スポの見出し以上に大胆な発言がポンポン飛び出す「ビバデス」。これは『POPEYE』で連載していたフリッパーズのカルト・コーナーだったわけだが、おかげで編集担当の岡田さんは、音楽誌関係者にああ、あのビバデスの」と言われるようになってしまったとか。火に油を注いでた(?)彼女は、当時の思い出をこう語ってくれた。

担当Ⓕ　衝撃受けましたよ、あれには。

岡田　そうらしいですね。でも、どのへんがそうだったんですか？ 今もってよくわからないんですけど。

担当Ⓕ　音楽誌って、みんな知ってたんだけど言っちゃいけないっていう暗黙の了解があったりするんだ。でも、あのコーナーには、それがなかったでしょ。結構勇気つけられたなあ、俺。

岡田　知らなかっただけなんです。(笑)

担当Ⓕ　今考えると恐ろしいですね。(笑)

岡田　何にも知らない担当者を操っていたとも言えますね。知らないと思って、はけ口にしてたらしいですから、彼らは。

担当Ⓕ　欲求不満の？

岡田　そう。だって『宝島』とかだと、原稿チェックが入って何も言えないから。「やっぱり『POPEYE』はいいわ」とか言ってたもん。「もう大通したもんな」って。

担当Ⓕ　大通し。(笑)

岡田　でも、彼らの連載は面白かったな。第一回のやつとか、なんか全然わからないんだけど、おかしかった。『POPEYE』っていうのを全く無視してたでしょ。

担当Ⓕ　そうですよね。

岡田　本当に振り回されましたよ。(笑)

担当Ⓕ　あっ、そうなんだ。

岡田　あの二人って、ただ曲作って演奏するだけじゃないでしょ。もう、全部でしょ。

担当Ⓕ　ビジュアルから文章から…

岡田　そう。全部自分たちでプロデュースしてたでしょ。すごいよね。

担当Ⓕ　なんか一貫性ありましたよね。

岡田　うん。そういう人っていないでしょ。だから、すごく面白かった。随分と二人に振り回されたところもあったけど。

担当Ⓕ　どこでもそうなんだ。俺だけじゃなかったんだ。なんか安心したなあ。

Memories Of You

FLIPPER'S GUITAR

サンタクロース '91年①月号

恥美派メタル '90年⑨月号

トナカイ '91年①月号

ヤンキー パチパチ読本4

かわいこぶる力士 '91年③月号

彼らは全く違う存在。ああいう感性が主流になっていく……

「ねえ小野島さん、フリッパーズが解散しちゃって、淋しい？」

「……淋しい」

ワタシはこの時ほど、あの大きなモアイのような（©小沢健二）小野島大をカワイイと思ったことはナイ。この企画を締めくくるのは、やはり彼しかいないだろう。

担当Ⓕ 『ミュージックマガジン』とかで、なにかにつけてフリッパーズの名前を出してたでしょ。他のアーティストに関する原稿なのに、どうしてなんですか？

小野島 それまでの日本のロックとは全然違う存在だったからこそじゃないですか？ これまでBOØWY中心に回ってたとしたら、これからはフリッパーズとか電気グルーヴ、スチャダラとか、ああいう感性が主流になっていくはずだし。

担当Ⓕ どう違うんですか？

小野島 感覚的なものとしか言いようがないんだけど、BOØWYはニューウェイブの日本的な誤解の上に成り立ってた。で、フリッパーズとかは、ポストニューウェイブ、ポスト・パンクの日本的な誤解の上に成り立ってるっていう。その橋渡しになってんのが、カステラとかビーズかな。それで、その違いっていうのは、歌詞やインタビューを含めた彼らの表現、メディアへの露出の仕方なんだよね。

例えばフリッパーズの歌詞に絞って言うと、彼らの歌詞って完璧に論理的に成り立ってる。だから一字一句説明できると思う。そういうやり方をとったミュージシャンって過去にはいなかっただろうしね。気分で歌詞書く人、すごい多いから。

それに、フリッパーズはリアルだったね。彼らって全然生活かかってないからこそ、音楽に対してすごくリアルになれたっていうか、切実になれたのかもしれない。例えば生活がかかってたりすると、消費されるための音楽を考えなきゃいけないと思うんだ。でも、彼らはそういうところがなかった。だからこそ音楽がピュアなものになれたのかもしれないし、逆説的な言い方だけど。なーんて、そこまでカッコイイもんじゃないか。でも、そんなことより、これをヘラヘラニタニタ笑いながら読んでる彼らの顔が浮かんでくるというもんじゃないですか。（笑）

担当Ⓕ 読んでほしくないな。（笑）

ああ、こんな時にフリッパーズさえいてくれたなら……
他のアーティストの企画で煮詰まるたびにそう思ってしまう。
かぶりもの
着せたいときに
フリはいいぬ

フリッパーズ・ギター
あんな奴ら
もう二度と、出て来ないだろう。

Memories Of You

FLIPPER'S GUITAR

dokuhon
日本唯一の音楽文芸誌

B'z50ページ総力特集!!

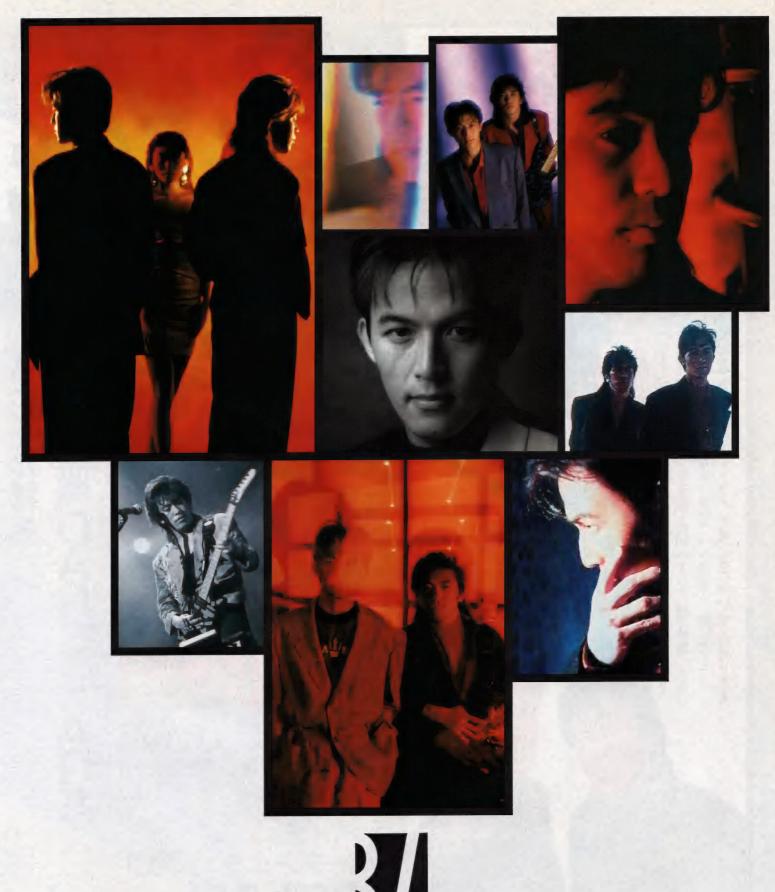
[IN THE LIFE]

▼またまた発売日が遅れてしまって、ゴメン。(いつも謝ってばかりだなあ)その分、大充実の内容なのです。そう、ニュー・アルバム『IN THE LIFE』発売のB'zにスポットをあてた50ページの強力特集。アルバム徹底分析はもちろん、パーソナル・インタビュー、ピンナップなどなど、B'zファン待望の一冊。そして、『パチ・パチ読本』も第5号となりました。1992年も、ヨ・ロ・シ・ク! 発売が遅れないよう頑張ります。

[スペシャル特集]
音楽講座「DANCE AGE」

[踊る人々
スペシャル・インタビュー]

L・Lブラザーズ
ラッキィ池田
シュークリームシュ(K2C)
宇都宮隆(TMN)
森岡賢(ソフトバレエ)

第5号・定価680円(税込)

Ä YEAR IN THE LIFE

●２枚のシングル、ミニ・アルバム、アルバム、ビデオをリリース。３回に渡る全国ツアーの敢行と'91年も大忙しだった彼ら。そして、ニュー・アルバムも大望のミリオン・セラーを記録し、いよいよトップ・グループで揺るぎない地位を築いた彼ら。そんな彼らが'91年を振り返って、現在の位置、作品、ライブについて語ってくれました。それぞれが挙げてくれた'91年の10大ニュースは、キャラクターが出てて、御愛敬かな!?

PHOTO●KAZUHIKO KITAOKA SHINJI HOSONO
COPY●YUMIKO YAMASHITA RYUICHI TAKAHASHI

KOHSHI INABA'S SELECTION

1 病気がちだった。

2 鳥羽行きのフェリーを乗り遅れて、1日に630㎞走った。

3 『IN THE LIFE』を作った。

4 自分のラジオ番組（Wave Gym）が密かに始まった。

5 たばこをとりあえずやめてみた。

6 兄が結婚した。

7 引越した。

8 ハワイで歌詞を作った。

9 NYでロング・ビーチに行って貝がらを拾った。

10 フレディ・マーキュリーが亡くなった。

B'z

Ä YEAR
IN THE LIFE
B'z

K ツアーって生で伝わるものだし、一番誤解が少ないと思う。確認の意味もあるし。

——もう、一年を振り返る時期になってしまいましたが。

「充実してたよね、B'zは」

——「B'z」は、強調されているような…。

「うん。(笑)B'zの活動は充実していたけど、とにかく体と頭をずいぶん使って、その分、どこかが摩耗しているような気がしたときがあった。具体的には、声が出なくなったことだったり それに、ボーッとしていたい～と思ったときもあったし」

——そういえば、デビュー直後のプロフィルに『ボーッと過ごすこと』というのがあったね。

「『五日に一日のわりでボーッと過ごすこと』……あれ、今でも僕の理想。松本さんは、確か『B'zでトップになること』って言ってた」

——(笑)

「でも、声が出なくなったときにはアセリましたよ」

——それは、レコーディングのとき?

「レコーディングが始まって、しばらくしてから。突然、声が続かなくなっちゃった。すぐに、かれちゃう。『ALONE』なんかは順調に録っていたんだけれど。それで、ハワイに行ったり、ニューヨークに行ったり、約二週間はかり歌を歌わない時期があったんだけど、帰ってきて、サァ歌おうというときになっても変わってなくて、『ナンジャ?』って」

——驚くより、呆れた?

「ホントに、で、初めの頃に、坪倉さんとかに話したんだけど、ベテラン人は『そういうことはあるよ』とか軽く言うの。(近藤)房之助さんなんて『そうなってからが勝負だよ』って」

——(笑)あの声だものね。

「でも、励みになりましたよ。結果的には、体がちょっと疲れていて、治りにくい状態になってたみたいで。それと、筋肉トレーニングを、やりすぎると良くないみたい。上半身の筋肉が張ったままの状態だったらしくて。タバコを止めて、筋力トレーニングを始めて、完璧だなんて思っていたら、そうなって。(笑)もとの不健康な生活に戻ろうかなって思ったり」

——そこをグッとこらえて、タバコは止めたまま、と。

「うん。最近、なんとか調子が出てきたし。ZBというハード・ロック・バンドもできたし」

——?

「知らない? やったんですよ、遊びで。11月中旬に。ZBという名前で、ホワイト・スネイクとか、カヴァーばっかり。まるでツアーのメンバーで」

——また、どうして、もうすぐツアーが始まるっていう忙しい時期に?

「たまたま、まえのツアーが終わる頃に、飲み屋で話していて盛り上がったの。だけど、そのリハーサルが意外に大変で。どうしてあんなことを言っちゃったんだろうって。(笑)でも、楽しかった。全部で4本。大宮フリークス、神戸チキン・ジョージ、名古屋ハートランド、札幌ベニー・レインと……」

——まるっきりのライヴ・ハウス・ツアーだ。楽器車で移動したりして。

「(笑)そうそう、メンバーが交代で運転して行ったんですよ!?」

——そういえば、そういう遊びっぽい部分って、これまでにはなかったですね。ライヴで、カヴァー曲を披露するということもなかったし。

「うん。余裕があったら、今度のツアーでも遊びでやろうかなと思って」

——そのほかに、今年のことで印象に残っているのは?

「『IN THE LIFE』を作ったことと、ツアーをいっぱいやったことかな」

——ツアーが多かったですね、確かに。去年からの"RISKY"ツアーが2月まであって、5月から8月までが"Pleasure"で、そして、今度は"IN THE LIFE"が12月から4月まである。

「去年の"RISKY"ツアーの終わりぐらいから、『91年はライヴをいっぱいやります』って宣言していたし、実際に、たくさんの本数が組めたので、みんなに感謝したいですね。みんなの協力がないとできないからね。本当に幸せなことだなと思いますよ。でも、ツアーって、恐ろしい。ヘラヘラしていると、そのお返しが必ず来るし。いいことも悪いことも、いろんな波が、ちゃんと来る。人生の縮図みたいな」

——訊くのが悪いような、すごく訊きたいような。

「(笑)いや、全然かまわない。やっぱり、あるんですよ。訳もなく浮かれているときもあるし、なんとなく気分が重いときもあるし。沈みそうなときには、マネージャーに話す。電話して『相談したいことがあるんだけど』って」

——ずいぶん、きちんとした手順ですね。いったい何が起こったのだろうってビックリするでしょ?

「でも、一緒にまわっているから、なんとなく察するみたいで。"Pleasure"のときに、一度、何のためにやってるのかわかんなくなって、そういう話をしたときに、『EASY COME EASY GO』で客電がついて、みんなが一緒に歌っているのが見えるでしょ、あの顔を見るためにやっているんじゃないかと言われて、ハッとしたんですね。自分のためにやっているんだけれど、あの笑顔が必要だし、そのためには、スタッフもそうだし、お客さんも含めて、みんなが満足できるようにしないと……とか思ったり」

——『IN THE LIFE』という作品も、音楽的なことに限らず、B'zの活動にとって大きいし。今が転換期かもしれない?

「……なのかな。今は、まだよくわからない。作っているときに、松本さんが、どんどん抜けてゆく感じはわかったんだけれど。一枚づつ皮が剝けてゆくみたいな感じで。すげぇな～って思って。でも、僕は、どうなんだろう。全然意識しなかった」

——今年は、ヒットの勢いに乗りつつ「B'zは、こうなんです」というところを見せたという感じもある。

「そうですね。そのためにも、たくさんツアーをやって、それが大正解だったと思う。ツアーって生で伝わるものだし、一番誤解が少ないと思う。あと、確認っていう意味もあるんじゃないかな。CDが売れているとか、チケットが売れているとか、情報では入ってくるけど、ツアーがないと確かめられないっていうか。ツアーをしていて、『ここにも、これだけファンがいるんだ』というのがわかるから」

——今のB'zにとっては、一年というよりも、ツアーがひとくぎりという感じかな。

「そうなのかな。ただ、今度のツアーが終わるまでは、91年というのは終わらないかもしれない」

——4月まで91年?

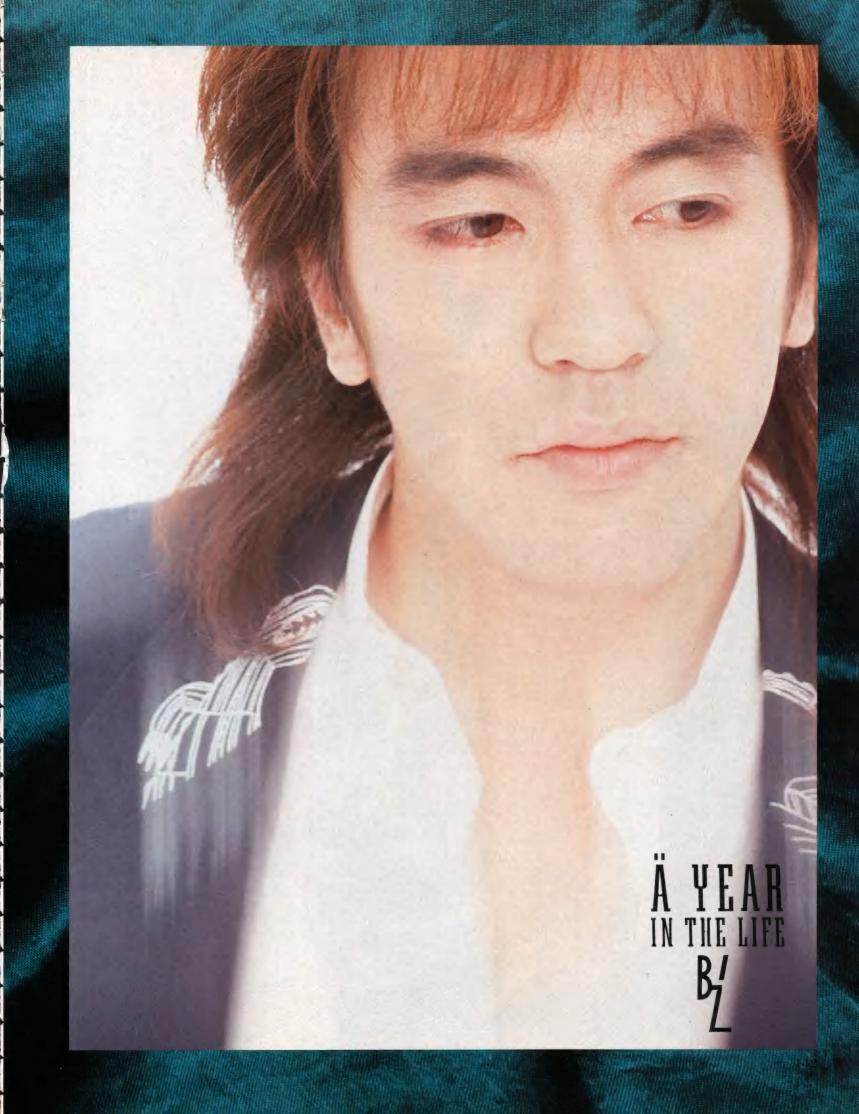
「うん。気持ちの上では、4月まで続くっていう感じですね」

(インタビュー●高橋竜一)

TAKAHIRO MATSUMOTO'S SELECTION

1. '54年製フェンダー・ストラトキャスターを購入した。
2. 『IN THE LIFE』という良いアルバムができた。
3. 約束どおり、ツアー中心の1年をおくることができた。
4. キャンペーン中に過労の為、仙台でダウンしてしまった。
5. ソロ・シングルが初登場で6位になった。
6. フェリーに乗り遅れて1日に630km走るハメになった。
7. Solo Flexを購入した。
8. 引越した。
9. 石原裕二郎記念館に行った。
10. HAWAIIでOFFを過ごせた。

B'z

Ä YEAR
IN THE LIFE
B'z

T.まだまだ諸先輩と同じチームに入れたとは思えないけど……

──さて、松本さんの'91年は？

「仕事中心の1年だったけどね。僕のプライベート時間って稲葉もそうだけど、仕事終わって家帰ってから寝るまでの間だけだもん。(笑)テレビ見ながら、ビール飲んでるくらいだよね。それで寝て起きたら、支度して出かけて。その繰り返し(笑)」

──その分、今年は個人でもソロ・シングルを出したり、充実してたんじゃない？

「そうだね。あの仕事はやれてよかったと思うよ。また気張ってアルバムにしないでよかったなとも思う。時間がなかったし、2曲の作品に集中して凝縮出来たっていうのは、正解だった。それに、インストゥルメンタルであれだけのチャート(初登場6位)に入れたっていうのは快挙ことだからね。だから、すごい嬉しかったよ」

──CMでもいい感じで流れてたしね。

「映像にからめてインストゥルメンタルを作れたっていうのは新鮮だったよ。で、ビデオも作れたから。ホント面白かった」

──B'zで誰かに曲を提供したとかは？

「今年、中山美穂をやった。次出るシングルになるんじゃないかな。曲調は春っぽい感じ、ミディアム。中山美穂、工藤静香ってアイドルでも唯一売れるシンガーだからね。作品のクオリティーも毎回見ててもすごく高いし。だから彼女にって話が来た時は、僕はすぐやりたいって思ったから」

──充実してますね、個人的にも。そういえば今年は楽譜類も充実したし(笑)。

「楽器もそうだし、車もそうだけどさ。改めて言うのも何だけど、人間、物欲って必要だよね。(笑)それを公的な場で露骨に言うと、日本人って嫌がるじゃない？ だけど男はよし、オレもいつか絶対コルベット乗ってやるぞーとかさ、絶対思うと思うんだよな。僕だってずっとそう思ってたし。こう言うと誤解されるかもしれないけど、物質に関しては今年はいくつも手に入れたよ。それによってすごい励みにもなったし。でも、まだまだ欲しい物ってたくさんあるし。それは物だけじゃなくてさ……」

──力で手に入れる。それは征服欲だから。

「うん、そうだね。でも、こんなこと正面切って言えるのって、やっぱり『裕次郎記念館』での衝撃が大きいのかもしれない」

──ああ、小樽に出来た？

「そう。あれは見たほうがいいよ。スターってこういうモノなんだ、っていうのがわかるから。車に船に家その他いろいろ。物欲のケタが違うっていうか……スゴイ！ そのひと言に尽きるね。いや、僕があぁなりたいってことじゃないんだけどさ。(笑)欲しい物手に入れるためには、仕事しかない気がしたよね。愛情とかにしても、仕事を一生懸命やってるから自分に自信が出来て、人に優しく出来たりもするんだろうし。逆に余裕がない生活してると、他人に対してもせせこましくなる気がしてね」

──松本さんが言いたいことはわかる気がする。それって、自信をつけた上で手に入れられる心の余裕ってことでしょ？

「そう。でも、それって自分が〝仕事大好き人間〟であることへの自己弁護かもしれないけどさ(苦笑)」

──それと今年は人との出会いも一杯あったとか。いい影響受けたんじゃない？

「そうだね。さっきも言ったけど、ラジオ番組のゲストに来てくれたいろんな人と話する機会が多かった。南こうせつさん、飛鳥さん、五十嵐浩晃さん、スタレビの根本さん、崎谷健次郎さん、チェッカーズetc。まだまだ諸先輩方と同じチームに入れたとは思えないけど……やっぱり、みなさんと話せるようになったのも、B'zのおかげだよね。去年だと、オッ、B'zってのはけっこう売れてるみたいじゃん、ぐらいの存在だったろうけど、少し認めてもらえるまでのキャリアを作るうえではいい1年だったと思うよ。そして、来年またそこに上乗せしなきゃいけないよね。いや、ここからが本当のキャリアかもしれない」

──今年っていいことばっかりじゃない？

「いやー、でもいろんなことあったし。個人的にはあんまりいい1年じゃなかったんだよ。(笑)げんに心労が重なってダウンしちゃったんだしさ。今はわりと復活してきたけどね」

──いったい何があったんですか！

「教えないよ～(笑)」

──まあいいけど。(笑)でも痛みや機微もわかった分、いい曲書けるかもよ。

「書けると思うよ。音楽って美しくなきゃいけないから醜い部分は排除したいし、ドロドロしたくない分、その渦中にいると書けないんだけど。もう少し時間が経ったら辛かったことも楽しかったことも、綺麗に書けるんじゃないかな。作品と生きざまはクロスするもんだしさ。僕自身、そういうところから曲を生み出したりするし。この経験、きっと生かせると思うな」

──不吉なこと言っていい？ '92年がまた波乱万丈だったらどうします？

「それでもいいよ、別に。(苦笑)人間ってたまには辛い思いしたほうがいいんだよ、ホントに。調子にノリやすいからさ(笑)。いい時も悪い時もあって、それでバランス取れるんじゃないの？ しかし30歳になった今年って、心情的にはすごい嬉しかったんだけど。来年31になるでしょ？ 31っていうと中途半端でヤだよな～。数字の響きがなんかイマイチだよね(笑)」

──30歳ってそんなにいいのかな～。

「いいよー。もう29の時から早く30になりたかったしさ。30歳になってからの自分を振り返って、すごいいいなと思うワケよ。この1年いろんなことも考えられたしね」

──あ、それで思い出したんですけど、今年の冒頭に、松本さん「占いで見たら今年は僕が最高の年で、稲葉が最悪の年」って言ってましたよね。「だから、自分の運でB'zをリードしてけばうまくゆく」って。

「あぁ、言った言った。でも、そう感じられる部分もけっこうあるよな～。うん、心当たりある。(笑)12年に一度のいい年だったらしいけど、ホントそうだったもん。でも来年は2人とも(運勢が)よくないんだよ。あんまり余計なことしないでジッとしておこうかと思ってて。ハハハッ。まあしか、結局はたかだか占いだからさ」

──来年もいい年になればいいですね。

「そうだね。いい年にしたい」

──個人的に何かやりたいことある？

「そうだな。ツアー終了したら、またハワイに行きたいな。ハワイ大好きなんだよね。すごく落ち着く。あと日本だと温泉なんかも行きたいし。そういうノンビリした時間を出来るかぎり持ちたいね、来年は」

──じゃあ、来年欲しい物は？

「来年1年に限らず、すごい強い意志が欲しいな。それと人のことを思いやれる心、余裕が欲しいね。30になってから心掛けてるんだけど、やっぱりイライラする時もあるし、頭にくることだってあるじゃない？ でもそれをさ、自分の中でいったん消化してから外に出したい。そういう大人の部分が必要だよね。何があっても寛大な心を持てる人間になりたい。……でも、コレって永遠のテーマかもしれないけどね」

(インタビュー●山下由美子)

T.
MAT
SUM
OTO

Ä YEAR IN THE LIFE B'z

Ä YEARIN THE LIFE

A YEAR IN THE LIFE

——恒例の"今年1年を振り返る"ってテーマなんですけど。(笑)

松本 '91年はもう、コンサートづくめの年だよね。今年からまたがってた"RISKY"ツアーを2月に終了して、"Pleasure"ツアーが40本で、12月4日から始まった"IN THE LIFE"ツアーに入って。とにかく本数が多かったな。

——ツアーの間にレコーディングも……。

松本 そう。(笑)もう全然休んでないよ。

稲葉 走りっぱなし。

松本 ホント音楽づくめの1年。

稲葉 だからこの1年はツアーが軸にあって、ツアーやりながら、身の回りにいろんな出来事が起こったって感じがするよ。

——思い出はツアーがらみ。(笑)

稲葉 か、多いかな。10大ニュース書いてるとそうでもないけど、でも、兄貴が結婚した時もツアーの合間をぬって博多から岡山に駆けつけたし、病気がちだったことにしても、ツアー先で病院に行ってたし。

——それ、何の病気で?

稲葉 風邪とか、歯医者で親知らずも抜いたし。左の上下、2本。眼医者も行った。コンタクトレンズ入れてる人がなりやすいアレルギー性なんとかって症状で。あとその他いろいろ。

松本 僕もついこないだ、あれ10月だったっけな。「ALONE」のキャンペーンで仙台に行った時にダウンしてしまった。原因は過労とか精神的なストレスだろうね。けっこうたまってたみたい。

——忙しすぎて?

松本 それもあるし……まぁいろいろ。公私ともどもね、大変だったんですよ。

——1年のバイオリズムを口頭で言うと?

稲葉 1〜4月とグングン上がってたのが、5月にガクンと下がって。下のほうをずっと低迷してた。(笑)でも、いろいろ混じってるからなー。例えば、声が出なくて大変だったけど、"IN THE LIFE"は完成したし、ツアーがうまくいってる時でも、個人的には問題が起こったりね。

松本 僕はこの業界で何年もやってきて、自分なりに波風も立たず順調にやってたつもりだったけど…今年は山あり谷ありだったね。とくについ最近はスゴかった。やっぱり疲れたよ、スゴイ。B'zとしては波風なかったけど、松本孝宏としては……いろいろとナーバスにならざるをえない状況に追い込まれたりもしたし。

——そちらはパーソナル・インタビューで聞きますから。(笑)でもまあ、B'zとしてはツアー三昧で実り多い年でした?

稲葉 うん。去年もそうだったけど、実りは多かったですね。とりあえず『IN THE LIFE』が完成したことは、その中でも一番嬉しかったかな。

——反省点は?

稲葉 さっきの話の続きじゃないけど、人間バイオリズムが上がると、次は絶対下がるようになってんだなというのが今年はすごく感じた。なんかあるんですよ、なんかね。

——ハイになったらダウンしちゃうのかな。

稲葉 そう。絶対そういう作用があるような気がする。プラス、マイナスがちょうどうまく取れて、最終的にトントンになってんじゃないかな。それすごく感じた。

稲葉 でも、その後遺症ですごい楽しいことがあっても、"あー、この後きっと何か悪いことあるよなー"。そういう風に疑うようになってしまった、最近。(苦笑)

——ボーカリストとしてなんか辛いこともあったんじゃないですか。(笑)

稲葉 うん、辛かった、個人的に今年は。だって声が出なくなったからね。いろんな人(ボーカリスト)に相談したんですよ。どうしてダメなんだろうって。もう、ずっと悩んでたからね、声。病院も通ったし、十分静養もしたんだけど、ただ休んでるだけじゃダメみたい。薬とかも試したけど、治らなくて。治ったのはつい最近ですよ。

——理由は何?声の使いすぎ?

稲葉 いや。僕らよりもツアーやってる人も一杯いるから、そんなことないと思うけど。でもベテランの人に聞くと、よくあることだって。多分、疲れてたのと…さっきある人に聞いたんだけど、精神的にストレスがたまってると治らないこともあるって言われた。しかし、とりあえず不安になったなー。どうしよう?って青ざめた。こういう経験も大事なんだろうけどねぇ。

松本 今年はでも、去年より忙しかったって感じするよ。稲葉も大変だったからな。

——ハイペースで走ってきた分、いろんなモノが今"きてる"のかな。

松本 うーん、何だろうねぇ。ただ僕が思うに、状況は変わっても、自分はそう簡単に変わらないからさ。周りに押しつぶされそうになっちゃう時ってあるんだよね。

——圧力やプレッシャーって、去年通り過ぎてきたんだとばっかり思ってたけど。

松本 いや、今年だよね、きたのは。

稲葉 うん、きたきた。

松本 去年はね、今から思えばバンドの状況もよくなってルンルンだったと思うんだ。(笑)もう、ルンルンしか感じてなかった。そういう意味でも、今年のほうがそういうのはあったよ。やっぱりきたか、と。

——さけて通れない何か?

松本 うん。僕、ラジオ番組持ってて、いろんな大先輩がゲストで来てくれるんだけどさ。南こうせつさん、飛鳥さん、高見沢俊彦さん。みんな同じこと言ってたもんね。

——例えば、どういうこと?

松本 「すごい忙しいでしょー」って言われるひと言でも、渦中にいたことのある人の言葉は、自分が経験した精神状態とか肉体的なこと、全部含んで言ってるんだよね、きっと。やっぱしこういうことなんだな、とすごい思ったよ。でもアレだよね。今の状況を辛いって思わないほうがいい。忙しさも楽しんでいきたいけど。

稲葉 そうだよね。(考えてる)でもホント、今年はいろんなことを経験したよ。

松本 お互い(笑)いろいろと経験出来たよ。でも、いいことはもちろんたくさん経験出来ればいいけど……根が楽天家なのかもしれないけど、悪いことも知ってよかったなと思うんだよね。結局、時間が立たないと解決しないことは、この年になればわかるからさ。その間、多少シンドイ思いしても、最終的には知っててよかったなと思える自分になるだろうと思って過ごしてるよね。まあでも、今年1年を振り返れば、B'zにとってはいい年だったよね。

稲葉 いい年でしたね。

松本 僕ら、去年もそう言ってたよね?

——うん、言ってた言ってた。

松本 そして「来年もそう言いたい」って言ってたけど、今年もまた言えて嬉しいよ。

稲葉 来年も言いたいよね。

松本 うん。しかし水商売だからこの世界(笑)、明日はわからない身の上だもんなー。

稲葉 来年のB'zにはこんな取材なんて来なかったりしてね。どうする?(笑)

松本 僕らの1年を知りたい人がいるってことはさ、すごいありがたいことだし。来年もこうやって10大ニュース書いて、取材受けたいよね。頑張らなきゃな!

B'z

文●山下由美子
写真協力●B'z PARTY

B'z

1992 CALENDAR

PATi▸PATi STYLE

1992 CALENDAR
JANUARY
FEBRUARY
MARCH
APRIL
MAY
JUNE
JULY
AUGUST
SEPTEMBER
OCTOBER
NOVEMBER
DECEMBER

1 JANUARY

Date	Day
1	WED
2	THU
3	FRI
4	SAT
5	SUN
6	MON
7	TUE
8	WED
9	THU
10	FRI
11	SAT
12	SUN
13	MON
14	TUE
15	WED
16	THU
17	FRI
18	SAT
19	SUN
20	MON
21	TUE
22	WED
23	THU
24	FRI
25	SAT
26	SUN
27	MON
28	TUE
29	WED
30	THU
31	FRI

FEBRUARY 2

Date	Day
1	SAT
2	SUN
3	MON
4	TUE
5	WED
6	THU
7	FRI
8	SAT
9	SUN
10	MON
11	TUE
12	WED
13	THU
14	FRI
15	SAT
16	SUN
17	MON
18	TUE
19	WED
20	THU
21	FRI
22	SAT
23	SUN
24	MON
25	TUE
26	WED
27	THU
28	FRI
29	SAT

PHOTO●KATSUMI OHMORI ACTOR●SOICHI TANIGUCHI／KOJI KURUMATANI／HIDEYUKI KATO

1 JANUARY

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED

23	24	25	26	27	28	29	30	31
THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI

2 FEBRUARY

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT

23	24	25	26	27	28	29
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT

3 MARCH

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

23	24	25	26	27	28	29	30	31
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE

4 APRIL

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED

23	24	25	26	27	28	29	30
THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU

5 MAY

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI

23	24	25	26	27	28	29	30	31
SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

6 JUNE

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON

23	24	25	26	27	28	29	30
TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE

7 JULY

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED

23	24	25	26	27	28	29	30	31
THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI

8 AUGUST

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT

23	24	25	26	27	28	29	30	31
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON

9 SEPTEMBER

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	THU

23	24	25	26	27	28	29	30
WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED

10 OCTOBER

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU

23	24	25	26	27	28	29	30	31
FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT

11 NOVEMBER

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

23	24	25	26	27	28	29	30
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON

12 DECEMBER

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE

23	24	25	26	27	28	29	30	31
WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU

MAKI WATASE

プレッシャーに対して"見とってみぃ"っていうのはあった(笑)

いよいよ4年目の活動へと突入。そんなリンドバーグにとって、春に発表した『LINDBERG Ⅳ』は、ある挑戦だった。

「世間ではアルバム『Ⅳ』が、本当の勝負や、みたいに言われていたの。『Ⅲ』にはヒット曲も入ってるから、売れて当然みたいに。でも、うちらの中では『Ⅲ』までできて、リンドバーグの音楽性は固まった気がしていたから。『Ⅳ』ではそれをベースに、ちょっと違ったこともやってみようって」

『Ⅳ』では初めてのアカペラやラップまで取り入れて、私たちに、まったく新しいリンドバーグ像を示してくれた。この思いきったトライは、春から夏のツアーで、おおいにむくわれることになる。

「やっぱり周囲の"『Ⅳ』が勝負!"的なプレッシャーに対して"見とってみぃ"っていうのはあったよ(笑)。でも、私らが何をやっても、リンドバーグの音楽になるんやって思っていたから。で、実際に"えっ、これがリンドバーグ!?"っていう曲が、ライブをやってみたら、いちばんの核になったりした。じゃ、私たち、こういうのも行けるんや、みたいのはすごいあった」

と、いまでは余裕で、微笑んでみせる渡瀬マキである。「私たちがやれば、どんな曲でも、リンドバーグになる」って、いい言葉だ。実績も、自信もなければ、絶対に生まれてこない実感が、こめられている。

そうして春のツアーが終わり、夏のイベントを越えて、11月1日ミニアルバム『EXTRA FLIGHT』を発表。

「今回は、音楽的な細かいことより、もっとみんなの気持ちを、メンタルな部分を、優先したかった。それでよけい、勢いとか、ライブっぽさが出たのかもしれへん」

メンバー各自の、ミュージシャンとしての充実ぶりや、渡瀬の人間的な成長が、音になって聞こえてくる1枚だ。ちなみに、映像で確認したいのなら、11月2日の代々木第一体育館におけるライブビデオ『FLIGHT 002』の方を、観てほしい。

最後にリンドバーグの1992年を、ちょっと予測してもらおう。

「秋のレコーディングの最中に、来年の春に出す『Ⅴ』に関する意欲が、すごくわいたの。あっ、すぐに曲が書けそうな気がするなあって。こんなこと、初めてやったんけど。他のメンバーも、みんな言っとる」

上昇気流に乗り続けるリンドバーグの、'92年の華麗なフライトにも期待したい。

体を元どりにしたいですね。療養生活をしたいな(笑)

ステージを観ている限りでは、常に冷静な視点で音楽に取り組んでいる寡黙な(?)ギタリスト・平川達也。最近は彼のギター目当てでやってくる、男の子のファンが増えて、プレイにも熱が入る、といったうれしい反響も。

●今年最も印象深いライヴ

「鈴鹿サーキットで演った時。メイン・スタンドの所にステージ組んで演ったですけど、何万て人がバーッといてね。雨がすごい降ってたんだけど、異様に盛り上がったんですよ。あれはスゴかったなあ。要するに、みんなレース観に来てるんだけど、雨降ってるから"どうでもいいやー"みたいなノリで。(笑) ただのお祭り騒ぎだったんですけどね。」

●ミュージシャンとして成長したな、と思う部分はありますか

「わかんないですよね、自分では。もしかしたら後退してんのかもしんないし。いいと思ってやってることが、実はマイナスになっていることもあったり。でも、そのつど自分で思いながら演ってるんで。ま〜、そういうことやってるから、考えてるっていう、それだけでも、ね。」

●今年の反省点

「みんなと同じようなことだと思うんだけどね。その時は一生懸命やってるつもりでも、改めて考えてみると、やっぱり流されてたかな、忙しさにね。という部分がありますよ。」

●バンド活動の中で思うこと

「スタッフがね、すごい忙しいのに、ずっと辞めずにやってくれてるんですよ。俺だったら辞めるもんね。あんなに忙しかったらさ。ありがたいことです。」

●来年はしたい、今年できなかったこと

「体を…体をちょっと元どおりにしたいですね。(笑) 療養生活をしたいな、と。ウソ、ウソ。(笑) だけどね、ほんとに少し休暇をもらって、精神的にも肉体的にもね休みたいなー、と。」

——やっぱり、温泉で療養ですか。(笑)

「いや、温泉に行っちゃうと、呑みすぎて太ってブクブクになる。(笑) 逆に体に悪いですよね。」

●今年いちばんうれしかったこと

「考えると、いろいろありますね。だけど、出したアルバム(『LINDBERG Ⅳ』『EXTRA FRIGHT』)が1位になったのは、嬉しかったですね。やっぱ、一部では"もう落ちる"って思われてたし、"次はどうだろう"って言われてただろうしね。それを跳ね返したっていうんじゃないけど、嬉しかったですよね、やっぱり。」

TATSUYA HIRAKAWA

めでたくフロ付きの部屋に住めるようになった

リンドバーグを思う時、とても楽しそうにドラムを叩く、CHERRYの顔が浮かんでくるのは、私だけじゃないはずだ。今年はバンドだけじゃなく、プライベートでも飛躍(?)したみたいだね。

●最も印象深いツアー中のエピソード

「やっぱ青森だなあ。あのね、海岸線をずっと走ってる電車があるんですよ。それにずっと乗って、十二湖って湖があるんだけど、1日かけてそこへ行ったの。旅先で旅行しちゃったという。(笑)」

●プライベートを振り返って

「フロ付きの部屋に住めるようになりました。この10月に。めでたくね、もう毎日フロに入ってますよ。(爆笑)」

——人間らしい生活ができるようになったんですね。

「うん、ごく普通の生活。だけど、前の部屋も、好きで住んでたようなもんだけどね。(笑)」

●ミュージシャンとして成長したな、と思う部分はありますか

「ほんとにミストーンとか減りましたね。たまに曲順間違えたりするけど、フォローできるようになったし、もうみんなも動じないしね。ただ、照明のスタッフとかが大変ですけど。(笑)」

●今年してしまった悪いことを、この場を借りて懺悔しましょう

「バンドではそういう問題とか、悪いことってないなあ。あ、去年もしてないよ。何かあったっけ?マネージャー。(笑)」

「…… (苦笑するマネージャー)」

●今年の反省点

「やっぱ個人個人、ミュージシャンとして確立していかなきゃなんないっていうのがあって、まだまだ今年の段階では十分じゃないんで、それを徐々にやってかなきゃなんないなー、と。だってほら、ライヴのなんかでも、バンドやってる風の子が増えてきたでしょ、最近。達也の前なんかでさ、ギターとかじっと見てる子とかいるし。そういうの嬉しいから、余計にそう思うよね。」

●今年いちばんうれしかったこと

「いろいろあるんですけど、強いて言えば、ミニ・アルバムのドラムの音が良かったんですよ。今まででいちばん良くて。これはドラマーとして、すごく嬉しいことだなと。」

●来年はしたい、今年できなかったこと

「来年は休みを利用して、ちゃんとした旅行がしたいですね。」

——旅行好きなんですね。

「あのね、すごい好きなんだけど、したことないんですよ。(笑)」

MASANORI KOYANAGI

“どうやってやるか” “何が大事なのか” のノウハウを覚えた

ステージ上での走行距離は、たぶんバンドでいちばん長かっただろうこの人。来年は、何やら秘密プロジェクトの活動をスタートするとか、しないとか。

●今年のリンドバーグ

「今年と比べると去年はね、メンバーもスタッフも全員がパワーで押し切ってるみたいなところがあって、それはそれで良かったんだけど、今年は余裕をもってやれて、わりと楽だったよね。ほんとスケジュール開けてみて、“どこが楽なの”って言われそうだけど、やりやすくなった。それによって、なんつうかな、みんなが“どうやればいいか”とか“何が大事なのか”っていうノウハウを覚えて、まとまってきたっていうかさ。」

●今年の反省点

「曲とか出すの遅れてたから、もう少しストックしとけばよかったな、と。時間がないっていうのを、言い訳にしてたところがあったから、そこを自分なりにね、時間をうまく使おうかなと。」

●ミュージシャンとして成長したな、と思う部分はありますか

「毎年演ってるからわかんない。悪いところなおすのが精一杯だからね。でも、改めてビデオとか観ると、プロっぽいよね、なんか。(笑)」

―プロじゃないですか。(笑)

「そうなんですけど(笑)、観てて、どっしりしてきたなあとか思うよ。昔はドキドキしながら観てたんだけど。まあ、安心して聴けるようになったよね。(笑) 動きを犠牲にした部分も前はあったし。それがやっと魅せられるようになってきたね。最近、やっぱ練習しなきゃって思うもん。」

●今年してしまった悪いことを、この場を借りて懺悔しましょう

「そんなことしたら、大変なことになっちゃうからね。(笑) でも、今年は(メンバー間で)熱い戦いが2、3回あった。ダンッーって立ち上がって、“俺、帰る”、みたいな。でも正当に理由があるからね。まあ、人に迷惑はかけなくなったよねえ。あとはライヴでいうとさ、ステージでめげちゃったり、つまんなそうに弾いてたり、そりゃもう観てて、いちばん腹立つよね。やったつもりないんだけど、ファンにそう見えたこともあるかもしんないじゃん。あったら悪いことしたなって。」

●今年、いちばん嬉しかったこと

「ウチにね、猫が2匹いるんだけど、そいつらが仲よくなったことかな。あの感動は忘れられないですね。スミマセンね、音楽に関係なくて。(笑)」

TOMOHISA KAWAZOE

91'S FLIGHT RECORD

3月27日 シングル「GLORY DAYS」リリース
4月8日 “RAINBOW CHASER”ツアー!
初日 旭川市公会堂
9日 室蘭市文化センター
11日 札幌市民会館
19日 アルバム『LINDBERG Ⅳ』リリース。
25日 四日市市文化会館
26日 岐阜市民会館
5月3日 静岡市民文化会館中ホール
4日 京都会館第1ホール
6日 舞鶴市総合文化会館
8日 福岡市民会館
9日 メルパルクホール熊本
11日 長崎平和会館
13日 鹿児島市民文化ホール第2
28日 新潟市音楽文化会館
30日 富山県民会館
31日 金沢市文化ホール
6月5日 前橋市民文化会館
6日 浦和市文化センター
8日 牛久市民センター
10日 水戸市民会館
11日 栃木会館大ホール
13日 千葉県文化会館
16日 青森市文化会館
17日 秋田市文化会館
19日 仙台市民会館大ホール
20日 郡山市民文化センター中ホール
25日 大阪厚生年金会館大ホール
26日 大阪厚生年金会館大ホール
28日 岡山市民会館
7月1日 広島アステールプラザ
2日 高松市民会館
3日 シングル『BELIEVE IN LOVE』リリース
3日 愛媛県民文化会館サブホール
5日 名古屋市民会館大ホール
8月1日 富士急コニファーフォレスト・イベント
4日 愛媛県松野町イベント
7日 函館港祭りコンサート
11日 金沢ポップビル・イベント
17日 広島県三沢市イベント
19日 東京・日本武道館・文化放送イベント
21日 岩手市民会館 J-ROCKイベント
24日 青森市文化会館 J-ROCKイベント
10月18日 シングル「I MISS YOU」リリース
11月1日 ミニ・アルバム『EXTRA FLIGHT』リリース
2日 “EXTRA FLIGHT TOUR”
初日 国立代々木競技場 第一体育館
8日 長野県民文化会館
11日 新潟県民会館
17日 札幌市民会館
20日 石川厚生年金会館
25日 仙台市民会館
27日 八戸市公会堂
29日 新庄市民文化会館
30日 郡山市民文化センター
12月3日 二宮町民会館
5日 静岡市民文化会館
7日 名古屋レインボーホール
9日 神奈川県民ホール
10日 鹿児島市民文化ホール
17日 広島アステールプラザ
18日 福岡市民会館
20日 長崎市公会堂
21日 ビデオ『FLGHT-002』リリース
24日 大阪厚生年金会館
25日 大阪厚生年金会館
※“リンドバーグの一週間'91
4月14日 渋谷公会堂
18日 中野サンプラザ
20日 日比谷野外音楽堂

MUSIC MAGAZINE for BAD BOYS & GIRLS パチパチ・ロックンロール

ROCK'N'ROLL

●表紙・巻頭20ページ特集&POSTER

J(S)W

大特集!!
ニューシングル発売
徹底分析

●特集
UNICORN/16TONS/LÄ-PPISCH/すかんち/BUCK-TICK
X/THE BLANKEY JET CTTY/スカパラ/BY-SEXUAL
電気GROOVE &スチャダラパー/SOFT BALLET etc.

1

▶B4WIDE▶600円(税込)

ロックンロール1月号
NOW ON SALE

●表紙・巻頭16ページ特集

すかんち ブランキージェットシティ

祝!
初の両面表紙巻頭
総力特集!?

●特集
X/BUCK-TICK/UNICORN/16TONS/LÄ-PPISCH
J(S)W/THE BOOM/BY-SEXUAL/スカパラ
the PILLOWS/SOFT BALLET/電気GROOVE etc.

▶B4WIDE▶600円(税込)

ロックンロール2月号
12月27日(金)発売!!

2

ROCK'N'ROLL RISKY

ロックンロールリスキーNo. 4

大特集
X
60ページ

▶A4ワイド・160ページ・680円(税込)

●特集
LADIES ROOM/BY-SEXUAL/BUCK-TICK
すかんち/Zi÷Kill/SOFT BALLET/筋肉少女帯 etc.

12月19日発売

rock'n'roll COLLECTION

ロックンロールコレクション
シリーズ第1回ついに発売!
まったく新しい単行本シリーズ!!

1 すかんち
恋の謎謎
変人図鑑

笑いあり涙ありホラーあり。
すかんちヒストリー、一大絵巻!

2 ANGIE
ファーブリ
昆虫記

聞くも涙、語るも涙の制作秘話。
ANGIEのすべてが、この1冊に結集!

3 KUSUKUSU
サルの卵

KUSUKUSU初の単行本!
ポストカード付、内容盛りだくさん!!

4 カステラ
つれづれ
ライブ日記

連載ライブ日記＝小説ついに単行本に。
書きおろしイラストもありの第1弾!

5 SPARKS GO GO
GRIP!

スパゴー初の単行本。
スパゴーのすべて。

6 AURA
TOKIO
ラビリンズ

TOKIOを舞台に繰りひろげられる
AURAのSFファンタジー!

7 COLLECTORS
AMAZING
STREET

連載ライブ日記＝小説ついに単行本に。
書きおろしイラストもありの第1弾!

全7冊同時発売
NOW ON SALE

●ALL PRICE 980 YEN

●B6判●ペーパーバックサイズ●240ページ

●おなじみ㊢Y田Y見は「ワタクシはただ今自分にとっての最後のスタイルを作り終えました」と申しております。御参考までに、Y田は90年も同じことを言いました。しかしBUHi^{2}は90年、Y田は91年もスタイルを作ることを予言、見事に的中しています。さぁ、92年もY田はスタイルを作っているか!? 作っている方に3億点！ など92年まで楽しめるBUHi^{2}の始まり〜!!

スタイル特別企画 ふつかものでございますが……

タイトルは、変われど中味は例年通り、しかしゆく河の流れは絶えずしてしかも元の水にあらず鴨長明。

と古典文学的に幕を開けました恒例編集部座談会。今年は内容を一新しようとスタイルも変えてみたのですが結局いつもと全く同じことをやることになりました。しかしゆく河の流れは絶えずしてしかも元の水にあらず鴨長明春はあけぼの清少納言。

まずはやはり今年も何かと話題の絶えなかった藤本さん。氏は91年もおし迫った12月某日、男子トイレでゲ○をはいたまま仮眠室で寝てしまい、これが高校だったら翌日からアダナは〝ゲ○〟になってしまうところですが、一応我々も大人でありますので藤本ゲ○俊さんとお呼びするにとどめていますその藤本さんです。

——今年はやはり……。

藤本「フリッパーズの解散ですね。あらゆる意味において印象的でした」

——今の心境は。

藤本「Should I Stay or Should I go ?といったところです」

——92年は会社でゲ○しない、というのはどうでしょう?

藤本「(聞いてない)Starless and Bible Blackって感じかな」

藤本さんに贈る言葉。〝吐くは別れの始めなり〟。

おおっとここで編集部の大黒柱、かつきれいどころの後藤さまをキャッチ。さぁゲ○は水に流して。

——後藤様の91年について一言!

後藤「渋谷のON AIRで会ったマグミくんは、えがちゃんに〝ただの酔っ払い〟と言われても、縞々のセーターに短パン姿でも、カッコよかったです」

——ふむふむ。92年については?

後藤「大殺界のド真ん中で……。友達は2組も結婚したのになぁ…。宝くじを当てて引越でもしたいです」

でも後藤様が嫁に行ったら編集部は崩壊です。(困)

その後藤様と謎の合言葉を持つという江頭さん、合言葉教えて下さい。

江頭「〝やっぱ野音でビールよね〟これでしょう。ライブ+お酒、これは夢のような快楽だということを発見しました。

——ぐふふ。大人ですね。

江頭「92年は髪も伸ばしてアダルトを目指します。ヘッヘッへ。年相応にみられることが目標です。それとヒロウズの上田さんのいぢめに負けないようにしたいです(泣)」

ファイトです。(体育会風に)

髪といえば、91年、腰近くまであった髪をショートにしてしまった霜田さん……。

霜田「奥田民生さんのBIRTHDAYに切りました。それだけです。はやくのびてほしいです。あと、もっとおりこうさんになりたいもんですわ」

ファイトです。(握りこぶしで)

髪といえば忘れてはならない、嗚呼忘れたくても忘れられない村田先生は。

村田「91年は髪がのびた。これですね。ドレッドもしましたし」

——(おそるおそる)それではやはり92年も……。

村田「まだまだ伸ばしますよ。脱毛予防だ、ハッハッハッ」

——嗚呼……。90年STYLE 352ページ(90年STYLE)左上の写真の人物がこのページの写真のどこにいるか見つけていただきたい。先着発見者10名様に村田のロングヘアープレゼント。(お手紙付き)ウソ。

村田「あ、7周年記念メモリアルカードが激しく遅れたことを、この場を借りてお詫びします。」

遅れて本当にゴメンナサイ!!

髪といえばその長さはスーパーロング。他の追随(ついずい)を許さない黒木さんでありますが、91年については何か?

黒木「'83ファミリア(赤)を直しに行くつもりが、つい'87ファミリア(ガンメタ)を買って帰ってきてしまったことが不覚。92年こそは、とりあえずホンダの車に乗りかえる」

私たちは92年こそ髪型を変えた黒木さんを見てみたい! そうだ黒木さん、92年はショートのヅラをかぶってヅラリンピックはどうでしょう!!(意味不明)

おや、芳賀さんの姿が見あたりません。しかし謎のメモが1枚。

〝1月 パチトマ、ØKIと行ったジャパン女子/2月 B-T26時間取材/3月 KATZE最後の取材/4月免許更新/5月 KATZE解散&LOVE/6月 魔の大分→高知 but 大阪→東京/7月 新入社員面接/8月 GN'R at L.A. FORUM/9月 プレスト2万円請求書&引越/10月 エブリバ in LONDON、小松&北島H・W/11月 年末進行/12月 体調良し。92年は年2回のLA、LONDON、マニラ〟

このメモを400字詰めの原稿用紙8枚程度で文章化し、芳賀宛に送って下さい。正しく解説できた方5名に芳賀よりLots of Loveをプレゼント。ウソクソブー——ー。

そして91年芳賀さんに以上に忙しかったのではないかと思われるイトウアキさん、91年を思う存分語って下さい。

伊藤「印象に残ったのは入院と救急車。サンフランシスコ、単行本、表紙……それとシークレットゴールドフィッシュです」

イトウさんは体調のせいか、やせてしまって、しんどそうだけれどちょっぴりうらやましい。ブクブクむくんでゆく自分がうらめしやー。(嘆)やはり、いろんなものがそぎ落とされていってこそ、女はきれいになれるのですね……。ではイトウさん、92年へ向けては。

伊藤「もっと勉強して、嫁に行く」

はっ、嫁。嫁。この昂然(こうぜん)と光り輝く言葉はっ。ここですかさず吉田さんにふりたいところですが、グッとこらえて若さで輝くマゴ隊3連発と行きやしょう!!

細谷「91年は何だか淋しかったですね…。あっ、スキマ風が…⤵ ヒュルル……」

KATZE解散に涙してましたね。で92年は。

細谷「頑張ります…。もうすぐ20歳(ハタチ)ですのでいいコトがありますように」

20歳の若さを持ちながらいいことを望んではいけません。(キッパリ)

鈴木「私の91年は、あらゆる面において勉強になった1年でした……。(しみじみ)——92年はいろんなことに体当たります」

最近〝ブー〟というニックネームがついた鈴木ちゃん。カタカナで書いちゃいました。へへへ。

千葉「91年、体力の著(いちじる)しい衰えを感じました。92年、もっと体力を!!」

編集部に精気を吸いあげられてしまっているのね……。頑張れ千葉ちゃん、千葉ちゃんに体力を! そして吉田様に男運を!! ということで、お待たせいたしました、吉田様でーす。

さあ今、大奥の襖(ふすま)が厳(おごそ)かに開き……。

吉田「91年印象に残ったこと? お答えしてもよくってよ。そうね、まず千脇の奇行。BALIロケ。プリンセスの着物。そして自分にとって最後のSTYLEの編集って感じかしら」

案の定言ってます。最後のフレーズは去年も聞きました。おととしも聞きました。322ページのリードにも書きましたが、92年年末が楽しみです。ウシシシシ。で、聞くまでもなく、吉田様としては、92年は……。

吉田「会社やめたい。しかもできるだけ早く」

——吉田さんの居場所はここ編集部しかないって、90年のSTYLEにも書いてあったじゃないですか。

吉田「(意に介さず)あぁ早く自分の送別会に出たい!! 株上がれ」

言い続けてはや5年。人生あきらめが肝腎(かんじん)です、吉田さん。さぁ、6年目へ向けてGO!!

申し遅れましたワタクシ千脇でございます。

千脇「91年は普通です。私は普通です。92年も普通です。もちろんです」

それでは最後になりましたが、吾郷さん、よろしくお願いします。

吾郷「うん、今度みんなにフグでもおごってやろう」

本当ですねっ、吾郷さん!! 全国200万人の読者の皆さまが証人です。フーグーオゴリーお願いします。一同礼。

※お断り……このコーナーは飛ばして読んだ方がいいんじゃない？ 読んで不愉快になっても知らないもんね。いちおう「お断り」まで書いてたんだから、読んだ方が悪い！と思う。あ、まだ読んでる。悪いこと言わないから、やめなってば……。本誌でも大悪評のこのコーナー。早くやめろと非難ゴーゴー。私もやめたいんですけど、千脇がやめさせてくんない。あまつさえ、スペシャルまで……。「毒喰わば皿まで」つうことで、"年間嫌い度ワースト10"をアンケートの集計を基に構成してみました。それでは、今年の第10位は！ バタバタバタ…（古い）

●第10位「BAKU」

ヨッ、91年の出世頭。と言うもののこれは90年と比べると明らかなダウンです。90年なんて、憎いワースト3には絶対入ってたはず。"理由 ガキだから"っていうハガキばっかだったもんね。91年は大人になって、力でそんな意見をねじ伏せたって感じでしょう。ガンバレ、BAKU、嫌われてこそロックだ。来年は、年齢じゃなく、実力で嫌われろ。（なんのこっちゃい）

●第9位「大江千里」

主な理由"じじぃの若作り"何を言う！ 若作りしてこそ、ロック！ 見よ、かのストーンズのミックだってもう50近いのにあんなに派手だぞ。いまや国民的キャラクターになった千ちゃん、是非嫌われ度も国民的に。

●第8位「福山雅治」

主な理由"（ドラマで）いやな奴"

私も中島朋子ファンとして、彼女とチューした（福山的言語感覚）福山は許せん。とは言え本当はいい人なんすよ、これが。しかぁしぃ、そんなことで嫌われるようではまだまだ甘いっ。実像も嫌われてこそスター。追いつけ追いこせ、吉田栄作！

●第7位「BY-SEXUAL」

●第6位「BUCK-TICK」

主な理由"生理的に受けつけない"……。耽美派といわれる人々は、カルト的人気がある反面、一般ピーポーから拒絶される傾向があるようです。まぁ、"くさやのひもの"みたいなもんですか？

●第5位「KAN」

主な理由"一発屋"←これは嫌いな理由というより"やっかみ"と思うのだが……。

●第4位「詩人の血」

主な理由"名前がわけわかめ"ワケワカメ…本題と関係ないが91年少し流行って、消えてゆく言葉（これは完全な死語）であろう。ウーム、感慨深い。バイザウエイ、訳わかんないバンド名なら「トゥ・ビィ・コンティニュード」の方が訳わかんないと思うけど。さらに言えば「ゲロゲリゲゲゲ」とか「不失者」とかはどうだ？ 誰もしらないって。

●第3位「電気グルーヴ」

主な理由"うさん臭いから"

売りがそうだから、これは仕方ない。狙いがあたったってこと。来年の1位まで最短距離だ。あと少し！

●第2位「ソフトバレエ」

主な理由"気持ち悪い"

ソフトバの方々は隅々までバチ▼バチを御覧になるそうで。特に森岡氏はこのコーナーを気にかけていらっしゃるそうで……。ありがとうございます。…すいません。

●第1位「フリッパーズ・ギター」

フリッパーズのために作ったこのコーナー。しめるのは、やっぱり彼ら。主な理由"態度がデカイ、悪口を言う"だったけど、彼らだけにはその権利があった。さようなら、フリッパーズ、君らみたいに嫌われたアーティストはいなかった。私はそれを誇りに思う。ありがとう、私の青春。みんな君たちのことが大嫌いだった……？

＊　＊

しかぁしぃ、1位から3位までは、某ライター・小野島大（仮名←どこがっ）が推薦する、アフターBOØWY世代のアーティストなんですけど。やはり彼らは現在のシーンにおけるパンク的な衝撃だったんかな。なぁんて、ちったぁマジに考察してみたりして。でも、真に新しい物って初めは広く受け入れられないってのは真理。新しい物を受け入れられないのは年寄りの証拠。ロックは年寄りに嫌われてこそロック。なんちゃって。

おまえのココが嫌いじゃ。編集部VERSION

てな訳で、アーティストのことだけクソミソ言うのも良心が咎めるんで、編集部も自己批判してみよー!!

A（ハチ▼バチ唯一の食人族編集者。最近は魚類にも酷似しているという噂。あくまでも噂）「まず、良きにつけ悪きにつけ、編集部で注目度No.1の彼についていってみましょう」

B（ある動物に酷似している。最近ショックな出来事に遭い現在錯乱中）「私ですか？ 嫌いなトコ？ まぁ誰よりも自分が嫌いだからさ。ヘッ。ブツブツブツ……」

A「好きな女の子が自分のことを好きになると"俺を好きになる女なんて信じられない"と言って嫌いになってしまうそうですね」

B「まぁ卑屈で自虐的だからね…。でも自分よりも嫌いな奴いた。あいつあいつ、H氏！」

A「とりあえず女のコ関係は何とかした方が……………」

B「でも本当はいい人なんですよ」

A「では噂の美人編集者（←本人はこれを書くとイヤがる）Y[2]さんに良縁がなかなか訪れないのはどうしてだと思いますか？」

B「甘い、甘いわっ！ あの方は、女かまきりやっ」

A「ええっ。（絶句）…そ、それはどういう意味ですか？」

B「寄ってくる男を喰らっては、芸（ヘンシュウ）の肥やしにする。死体の上に狂い咲く桜や。そんな素振りは微塵も見せず、男を蟻地獄のように待っとる」

A「でも本当はいい人なんですよね」

B「ええ、それ以外の点では…。あついはどう思う、あのM田」

A「とりあえず女のコ関係は何とかした方が……………」

B「ホント獣ばっかで動物園のような編集部。M田の髪も獣だよね」

A「本人は江口洋介のつもりらしい」

B「落武者みたい」

A「全くいいヤツなんですけどね」

B「K木さんは？ 変わってるよね」

A「K木さんのショートカットを何とか見たいもんです」

B「K木さんのきれいな机と壁も見てみたいねぇ」

A「いい人なんですけどね―」

B「あっ、あれもいやだなー。I藤A希、あいつあいつ」

A「I藤さんも動物似」

B「アライグマ。清潔なのかな？」

A「その質問にはどういう意味が…」

B「なんか風呂に入ってなさそうだから。顔てかってるし」

A「てかってませんよ」

B「ま、悪い人じゃないからね」

A「そういえば編集部内でただ1人アッシー（危険語）を持ち、他の女子のそねみを買っているH谷さんはどんなもんですか」

B「あのコ、東池袋に住んでるんだぜ。山手線の内側だよ、内側」

A「それは総武線終点に住む私への挑戦と受けとっていいんでしょうか」

B「うん。バカにしてたよ。通勤時間往復5時間かかってるから、会社に住んでやんのって」

A「ムン」

B「まっ金持ちのお嬢さまだから。悪い人ではないよね」

A「じゃあ中国の壁なし便所で用を足す女S木嬢はどうですか」

B「嫌いなトコじゃないけど、あの人って瞬きしないよね。いっつもライブ中の和弥みたいに目ぇむいてる」

A「ま、いい子なんですけどね……」

B「あれも恐いよね、C葉。いつも怒ってない？」

A「不敵な笑いをしてますね」

B「あれさえなけりゃ、かわいいのにねぇ」

A「年齢不詳の頂点をいくE頭さんはどうでしょう」

B「よく言えばベビーフェイス、悪く言えばゴマアザラシ」

A「いや、いい子なんですよ、本当」

B「あれいたよね。でかい人」

A「それは元祖会社が自宅のS田さん？」

B「夜中に会社を徘徊する姿は、カナダの森で撮影に成功したビッグフットって感じ」

A「人はいいんですけどねぇ」

B「あの熊本の田舎娘G藤さんは？」

A「Bさんそれは墓穴です」

B「いんや、高森と市内とは違う」

A「レビッシュ好きで」

B「フリッパーズとかも好きになったら都会人になれるのに……」

A「（え？）…そういえばまだCさんに触れてませんでした。あの人はいい人ですよね」

B「いい人というより、善良な動物友好的な異星人って感じ」

A「…………」

B「締めはあのモグモグって感じの人いましたねぇ、A郷さん」

A「あ、モグモグですか、モグモグはモグモグですよね、あ、ハムハムかもしれないけど」

（終）

▲91年中に撮ったソフトバレエの写真のうち、これがいちばん怖い!! という担当㊵ハガお墨付きの1枚。さぁ感じよ、この彼らの怒りを!!

森岡「街歩いてると"踊って下さい"って言われるの（笑）」

さて、総決算ってなことで、なんと今回はソフトバレエのメンバー全員集合（←笑え）でございます。いつものように冷静かつ人間味溢れる（笑）分析をなさって下さる藤井先生をはじめ、なぜかテンションの高い森岡先生、ほとんど口をお開きにならない（笑）遠藤先生がみんなの怒りを受けとめて下さいました。

※

—某S社から出ている『YOUNG YOU』という雑誌に載っていた『愛と平和』のレコ評を、沖縄県の佐鳩晶ちゃんが送ってくれました。"おしゃれなピコピコサウンド"。

一同「（爆笑）」

森岡「最高ですね。もう狙いどおりですね」

藤井「涙がチョチョぎれちゃいます」

—"湾岸戦争などを訴える詞にはドキリ"……どうですか。

森岡「その頃、オン・タイムだったからってだけなんですけど（笑）」

—しかも同じ雑誌の中のビデオ評も送ってくれまして……有明コロシアムのときのものですね。"赤い薔薇くわえて踊る森岡さん"（笑）

森岡「ええ、私はもうみなさんのオモチャですから」

—このハガキには"んなことやってねぇーっつーの!!"と書いてありますが、やってましたよねぇ。（笑）

一同「してた」

森岡「最近ね、街歩いてると"踊ってください"って言われるの」

一同「（爆笑）」

—では、別のおハガキにいってみます。ペンネーム・うしゃしゃGIRLSさんから。『私の学校は地方にあるためか、S・Bを知っている人はクラスで半分いません。友人に、切り抜きを下じきにはさんで持っていって見せてあげたら、見たとたん、"何これ"のひと言。ちょうどそのときの藤井さんはスキンヘッドで、それ以来"はげ"って言われ、森岡さんは"アミタイツ"、遠藤さんは"さやえんどう"。しかもバ・レ・エなのに、バレーとのばされ、"バンドバレー"、"バレーボール"とまで言われ、その場で殴りたくなりました』

藤井「クラスの半分も知ってたらかなり上等だと思いますが」

—まぁ、そうですねぇ。でも、それは置いといて、"ハゲ"と言われることに関してはどうですか。

藤井「客席からもハゲって言われたことありますよ、どこかの」

—さ、さぞやお怒りになられたんでしょうねぇ……

藤井「いや、あのォ、常に怒っているので……」

一同「（爆笑）」

藤井「あまり態度にはでないんです」

—森岡さんは"アミタイツ"と、言われているそうですが。

森岡「慣れてますから」

—（笑）

森岡「あの、ちょっと話は逸れますが、僕だって怒ることあるですよ、ステージ上なんかでも」

—（笑）森岡さんが怒ると、どのようになられるんですか。

森岡「我慢しちゃうの」

一同「（笑）」

森岡「で、ホテルの部屋なんかで一人になると、部屋をグチャグチャにしたりして（笑）」

—さて、遠藤さん、"さやえんどう"ですが、子供の頃、よく言われませんでした？

遠藤「いや、なかったですね」

森岡「でも最近、"ジャック"（おなじみの、えんどう豆のお菓子ね）って、よく言われるよね」

遠藤「ああ、言われる。好きなだけ、なんとでも言って下さい。"あなたのオモチャ"ですから」

—（笑）じゃ、次のおハガキ。"怖い顔シリーズ"ってのがありましてねぇ、その中からひとつ。石川県のペンネーム寺子屋さんから。『1ケ月程前までバイトしていたんですけど、（ショッピング店のレジ）私の顔、普通のときでも、すごく怖いんです。怒ってる顔に見えるそうです。お客さんが私のレジに来て、私がレジを打とうとしてたら、そのお客さん、"何だかイヤそうな顔されたから、やっぱりいいわ"と言って、別のレジに行っちゃったり……。店長にも"もうちょっと愛想よくできない？"って言われるし。授業中だって、先生の言うことを真剣に聞こうと、先生の顔を見てたら"おい、ニラむなよ"だって。ふざけんな！』どうですか、藤井先生。いつも怒ってる怒ってると言われている身としては。

藤井「男だからいいのであってですねぇ、女でそんな顔してるのは周りに置いておきたくないですね」

—（笑）それはフォローになってないですよォ。森岡先生、いかがですか。

森岡「整形するってのはどうですか」

—そこまで言う。（笑）

森岡「メイクでカバーするとかね。あんまり上のほうにアイラインを引かずに、下のほうを強調したり、眉毛をやさしげに描いたり」

藤井「どんなに怖い顔をしててもですね、ニコニコしていれば、雰囲気でこう……。"私は怖い顔なんだ"と思いこんでると、本当に怖い顔になっていくもんなんですよ」

森岡「恋をしたらいいんじゃないですかね」

—藤井さんはい頃から怖いと言われているんですか。

藤井「デビューしてからですよ」

—誰のせいですか。

藤井「雑誌のせいでしょう（笑）」

—じゃあ、最後のおハガキ。ペンネーム・湖美さんより。『家のネコ"クロ"は、ソフトバレエが苦手らしく、ソフトバレエの曲を私が流していると、私の部屋に近づかないんです。それだけでもムっとしていたのに、クロの奴、私の部屋に勝手に入り、なんと『愛と平和』の上に飛び乗って、ケースをバキッと折ったんです!!（ちなみにクロは体重が5kgもあります）今までは見逃してきましたが、今度ばかりは許せない!! どうか仕返しの方法を教えて下さい』ということなんですが……ネコには難しいんですかね、ソフトバレエは。

藤井「いや、家のネコは僕が曲を作ってると喜んでヒザの上に乗ってきますよ。地方のネコなんじゃないですか？」

—福島県ですね。（笑）

藤井「やっぱり。東北周辺のネコはダメですね。ソフトバレエを受けつけない。でも、動物に仕返しをしてはいけません」

—いやぁ、さすが。おやさしいお言葉。えー、ではそろそろ締めにいきたいと思いますが、日頃、このコーナーには登場するチャンスのない御二方、この機会に何か。遠藤先生、いかがですか。

遠藤「……（しばし続く沈黙）……（さらに続く沈黙）……いや」

—は、はぁ。

森岡「じゃあ、僕、いいですか。僕がステージで前に行ったときにイヤな顔するのやめて下さい」

一同「（爆笑）」

森岡「ものすごく淋しくなります。特に藤井麻輝ファン!!」

—（笑）では最後に藤井先生。

藤井「あのですねぇ、ライブ中、ずーっとつまんなそうにしててですね、人の顔をずーっとニラんでで、"Needle"になると突然イスの上に立ち上がって踊るバカ女がいてですねぇ、」

一同「いるいる!!」

藤井「僕が喜んでると錯覚されてると困るんで言っておきます。あれは男がやってこそいいのであって、女がやったら一生結婚できません」

—（笑）

森岡「"僕はキライです"って書いておいて下さい。ちょっとキツ目に書いといて下さいね（笑）」

—（笑）

BY-SEXUALの今年のGOISU SPECIAL クイズの王様

●さて、この1年、BY-SEXUALの懇切丁寧な指導にもかかわらず、GOISU的センスの実力がいまいちUPしない読者様に対して、親心の"クイズの王様"だっ!! 出題のテーマも、"GOISUな人名"に統一されている。いつかのクイズと違って、今回は正式な解答がある。全問正解者全員に、GOISUくんステッカーを、更にメンバーから、それぞれ1名づつに、手づくりの"クイズ王の冠"が与えられる。各々方心して受けられよっ!

▶これこれ。(笑)きれいに色をぬって、ハサミで切って、ゴムでとめて——と、みんなが楽しめるように、2分で書いてくれた冠をめざして、(笑)以下の要領で応募して下さい。

●下の解答用紙に、答えと、住所・氏名、そして必ず、誰の冠が欲しいかを記入し、キリトリセンからきれいに切りとってください。

●官製ハガキに、しっかりとのりづけして下さい。(この紙、かなりはがれやすいので注意)

●解答用紙、コピー不可。

●しめきりは、'92年2月8日、消印有効です。

●解答は、パチ▼パチ'92年4月号(3月9日発売)の"今月のGOISUくんコーナー"に掲載予定。

●あて先は、〒102 千代田区五番町6-2 ソニー・マガジンズ・パチ▼パチ「クイズの王様」係。

●このページの冠の写真を画用紙に拡大コピーし、無断で冠をつくり、それをかぶってお正月に街中を歩くことを——禁止しません。

'92年度「クイズの王様」の解答用紙

Q1	銀蝿一家の中で、いちばんリーゼントの大きい人は誰でしょう?(出題SHO)
A	
Q2	RYÖの好きな、パチスロの機種の名前は、次の3つのうち、どれでしょう。丸をつけてください。(出題RYÖ)
A	①アラジンⅡ ②スーパー・プラネット ③コンチネンタル
Q3	牛乳ビンがぬけなくなったので有名な、関西系の落語家は誰でしょう?(出題DEN)
A	
Q4	伝説のクイズ番組王"クイズ・タイムショック"の伝説の司会者は誰でしょう?(出題DEN)
A	
Q5	韓国のラウドネスといえばバクドウザンですが、香港の少年隊と呼ばれるトリオとは誰でしょう?(出題NAO)
A	
だれの冠を希望しますか?▶	賞
住所	
名	(歳)

◀SHO賞

▲RYÖ賞

▲DEN賞

▲NAO賞

そうです、この取材のとき私の前髪は長さが違いました。だからってそんなに大きい声で「ねー、長さが違うよ」なんて言わなくてもいいじゃない、車谷くん♪ というわけで、みなさんお待たせしました、大人気コーナー「ちくっちゃえ」特大号の時間がやってまいりました。今年のゲストはBAKUの谷口くんです。フッフッフッ。本人の登場の前に今年の谷口くん活躍の歴史を簡単に振り返ってみましょう。

●8月号 尼崎をしりざきと読む。
●9月号 江東区をえとうくと読む。
●10月号 MCで「長崎の女性は足が……足が……たくましい!」と言ってしまう。
●11月号 尼崎のことをまたしりざきと読む。
●12月号 MCで通路という言葉をド忘れして「ほら、横ンとこの赤いじゅうたんのとこ」と言った。

こんな感じで8月号から毎月レギュラーなんですけど。

「俺、毎月出てるの? けっこう読んでるんだけど、そんなに!……ホントに? うそだー(笑)」

だって本当だもん。ほら見てよ。(と今までの掲載記事を渡す。フムフム……と読む)

「一番納得できるのは、これ、(長崎のMC)これはもー忘れもしないよ。あせったもん、すごく。でもね長崎の人って足きれいなんですよ。どう間違ったのか覚えてないけど……緊張してたのかなぁ。だから太いとは言ってないんだよ。長崎は坂が多いから、あの……たくましいですね、って。(笑)これはキテるよね。ちょっと失礼だったかなって思ったんだけど」

ちなみに冬のツアーで長崎に行ったとき、谷口くんはMCで「アレ足が引き締まっていいという意味です」と言い訳していたらしいが。(笑)

〔ネタ提供・長崎県 一生BAKUよっ〕

「でもねMCっていうのは難しいんだよ」

うん、うん。でもMCよりもラジオで漢字が読めなかったっていうほうが多いよ。

「……。これ、なんて読むの?」

アマガサキだよ。

「そうかぁ。(笑)……これはコウトウクでしょ、知ってるもん」

イバらなくてもいいじゃんかー。(笑)

それじゃ最近送られてきたネタがたくさん(本当に)あるから、コメントをつけてくださいよ。

●ラジオでそうちゃんは曲の途中なのにもう終わったと思って曲目を言ってしまった。後で照れながら「恥ずかしいな」と言っていた。(熊本県SOちゃん大好き)

「これはよくあるんだよ。フィッシュボーンとかって途中で一度終わってもう一度バーンッと始まったりするでしょ。あれで『ハイッこの曲は』とか言っちゃって、あーーッ(笑)ってなる」

某名古屋でやってる番組でのお話でした。じゃあ次は同じネタがたくさんきてるんだけど。

●BAKUのそうちゃんは「様々」よ『ようよう』と読み車谷くんにつっこまれていた。(新潟県 BAKU PROJECT/東京都 のせてーのせてー/神奈川県 ちくったのは私です/他多数)

「これはいいんですよっ。もうさんざん言われたから」

なーんだ、そうなのか。

「俺も迷ったんですよ。サマザマかヨウヨウか。2分の1の確率じゃない。いーんですよ、こんなことは」

確率の問題じゃないと思うがね、私は。ちなみにその番組内でやった心理テストで『空という言葉で思い浮かぶ人』という問題があって車谷くんは谷口宗一と答えそうな。その答えは好きな人を表わすんだって。男の子に好かれた心境は?

「えへへへっ……いやー、メンバーですからお互いに信頼しあってないとまぁね。関係があるとか?

「それはないでしょ(笑)」

よかった。←なんてことを聞いているんだ、まったく。(笑)

●宗ちゃんは広島女子大学の学園祭ライブで西武の帽子を床に叩きつけ、その後カープの帽子を取り出しかぶった。あとでくるちゃんとケンカにならなかったのか、心配。(広島県 潜水艦じゃないよ、宗ちゃん)

「あー、これ。アハハッ……(しばらく笑う)

……この日は日本シリーズの3戦目だったかなぁ。ま、ファンサービスですね。アンコールで西武の帽子をかぶっていったらブーイングが起きたという。(笑)で、広島の帽子をかぶった。大丈夫、ケンカにはなりませんでした」

別に西武のファンだ、というわけではないそうですよ。

そうですか、こんなにたくさんちくられて。

「あ、光栄です。(中村)敦さんの次なんて光栄ですよ。最高じゃあないですか。(笑)ねぇねぇ、他にはだれが多かったの?」

数が多かったのはね、J(S)Wの純太とか。UNICORNモノとか。でもたとえば「この間、渋谷で純太さんに会って、握手してもらいました。カッコよかった♡」っていうのが多いのね。谷口くんネタはそうじゃなくて、笑えるのが多いからさぁ。

「そうかー。(笑)敦さんの後釜なんて……俺、敦さんに言っておこう。『今度ちくっちゃえのKINGになるかもしれないですよ。2代目ですよ、どうしましょう』って」

去年はネタのおもしろさによって座布団が増えたり減ったりするルールがあったのね。で、KINGの中村敦さんが座蒲団100枚になったら羽織・袴を作って白い扇子を持って写真を撮ろうっていう企画があったんだけど。

「(爆笑)あ、俺も座布団ためる。で、その上に乗って写真を撮る」

じゃ、来年のSTYLEまでに用意しときます。

「がんばります。ちゃんと羽織・袴着て、扇子持つから」

本当にそんなことやってくれるの?

「やりますよ、絶対」

絶対だなー。(笑)よし、わかった、覚えておくからね。みんなも忘れないように。それじゃ、谷口くんの座布団の数は㊓担当のイトウアキと相談の結果20枚と決めました。谷口くん2代目KING目指してがんばっておくれや。う〜ん楽しみ♡

〔番外編〕

●下北沢で加藤くんが女の子と手をつないで歩いていたらしい。それを見た女の子が「BAKUの加藤くんじゃない」といったら「しーっ」と言って逃げていったそうだ。(岐阜県 KURUちゃんと噂になりたい)

加藤くんどーしましょう。(笑)

「ざけんなよっ……いや、すいませんでした。今後気をつけます。(笑)でもまだ女の子と2人でいるときに見つかったことないもん。それに会ってもシーッなんてやらないよ。俺の彼女かわいいでしょって言う」

……だって。強気なんだから、もう。

ええいっ、こうなったらSTYLEは全部BAKUネタだっ。

●くるちゃんはラジオでカルチャーショックと言おうとしたのに、気合を入れて「カルチョー!」と言っていました。くるちゃんはけっこうファイヤーしていた。(兵庫県 ファイヤーしていたくるちゃんも大好き)

●くるちゃんは岡崎女子短大の学園祭ライブで、バラードのとき手拍子をし始めたファンがいたため、激怒して演奏を途中でやめてしまった。そのあとなんだかすごくやる気なさそうだった。(岐阜県 渡辺たきこ)

車谷くんは「そんなことないよ!」と言っていたから、きっとそんなことなかったんだよ。心配しなくて大丈夫。

●『元気が出るテレビ』である女の子が好きなタレントを聞かれて「車谷くん」と答えたら、周りから「だれ?」の嵐。しまいには「車谷浩司気になる人物」とまでいわれていた。(岐阜県 KURUは私の彼氏)

そうそう。髪の毛をのばしていた車谷くん。観月ありさに会うというのでタンタンみたいな髪型にして、その上1万円分の花束を抱えて行ったんだって。そしたら「どうもありがとう」それだけだったんだって。なんだかねー。(笑)

2月号からはまた通常のコーナーに戻ります。ネタ提供よろしくねっ。

この人に歴史あり

●91年師走のクソ忙しい中、ライターの皆様原稿ありがとうございました。『STYLE』に執筆したがために、語るはめになった自らのプロフィール。"この人に歴史あり"ときたもんだ。目からウロコと涙がボロボロボロ……。

今津甲
TMN／赤城真琴

今津甲（本名）・東京都渋谷区生まれ。"人並み"という言葉が死ぬほどキライで、自由が死ぬほど好き。だからカタギにならずにフリーの道を選んだ。ちなみに元グラム小僧。当時の対バン仲間にパーソンズのJILLが、在籍してたバンドのボクの後任ギタリストにZIGGYの松尾宗仁がいた。現在は自称・音楽業界一のナイトクラバー。毎週金曜日はYELLOWで、土曜日はCAVE、JAM SID、ラズルダズル等でトランスしてます。

宇都宮美穂
UNICORN/PRINCESS²

宇都宮美穂は、23歳で上京した。最初に住んだところが六本木だったので、銀行口座がいまだに六本木にある。以来10年間、銀行を移すこともままならず、通帳切り替えをすることもままならず、ヒジョーに不便している。カードを紛失したときも六本木まで行かねばならなかった。大枚をおろすときも六本木まで行かねばならなかった。銀行口座を近所に移したいが、そうすると各社に"振り込み先変更届け"を出さねばならない。銀行が遠い、それが悩みである。

小野島大
BUCK-TICK

①朝10時頃起きる②シャワー浴びる③新聞読む④牛乳飲む⑤着替える⑥出掛ける⑦電車乗る⑧事務所着く⑨留守電チェックする⑩郵便物チェックする⑪電話かける⑫資料雑誌読む⑬原稿書く⑭食事する⑮原稿書く⑯出掛ける⑰取材するor打ち合わせする⑱事務所帰る⑲留守電チェックする⑳電話かける㉑原稿書く㉓食事する㉔原稿書く㉕終電で帰るor徹夜して原稿書く㉖寝る……これがワタシのプロフィールです。こんなもん、なにが面白いんですか。

根田美聡
FLIPPER'S GUITAR/(チ)藤井浩之

ワタシがこれまで夢中になった人。●日本人編●野口五郎、郷ひろみ、ジュリー、草刈正雄、清水健太郎、(中略)キヨシロー、チャボ、花田さん、うじき、晃司、フミヤ、マグミくん、モックん、岡本健一、本城和彦、平尾誠似、寺尾、千代の富士、小沢くんと小山田くん、永瀬正敏、倉持くん、所ジョージ、いとうせいこう、大竹まこと、吉田栄作。(中略)ここ最近特に夢中なのは、ヒナぺの沖野クン、SMAPの木村拓也、コートの中にいるときの中垣内選手♡

佐々木美夏
LÄ-PPISCH/吉川晃司

湘南の片隅で生まれ、内気な優等生→バリバリの洋楽少女→同性にばかりモテるバスケ部主将→通俗的な女子大生→いきなり浮草稼業、と転落の一途をたどりつつ職歴は早7年目。トラ年の獅子座という豪快さとは裏腹に、A型ならではの気の小ささで"切り"をぶっちぎれないため今ひとつ貫禄がない。仕事をしていないときは本を読んでいるか、映画を観ているか、学生時代の友だちとダラダラ遊んでいるかの享楽的な生活を愛好している。宝物は丈夫な肝臓。

佐野郷子
米米CLUB/(チ)鳥久政治

けっこうイイ歳のわりに、イマヒトツ遅咲きともいえない半端な主婦ライター。家事と夫の世話に追われ原稿がはかどらないのが悩みだが、『ツイン・ピークス』完全録画を誇るのはナゼか。米米CLUB『罪と罰』『車輪の上』の文・構成、近著には『恋の謎謎変人図鑑』があるが、印税生活には到らないのはすかんちのソニー・マガジンズ系のつらさ。最近のお気に入り→織田裕二（マジ）、ビブラストーン、ガンズ&ローゼス、EBI。

――成田にて。

高山真由美
LINDBERG/(チ)大土井裕二

『パチ▼パチ』には創刊期から育てて頂いて、ほんと感謝です。あっ、実は私、この"BUHi♡BUHi"っていうネーミングの、発案者のひとりでもあるんですよっ。(笑)なんでこの名前をつけたのかなあ。忘れちゃった。(笑)いまはねえ、いろんな人にインタビューして、いろんな雑誌に書いてます。まあ、どこかで名前を見かけたら、このマジメっぽくふるまってる人が、あのBUHi♡BUHiの名づけ親ねえと思って、笑ってやってください。(談)

能地祐子
松岡英明

締め切りを破らせたら日本で5本の指に入る、極悪ライターと呼ばれている。でも本当は花と動物を愛する、心優しい女の子。現在の活動範囲は音楽雑誌全般。アイドルからカントリーまで、何でも聴いちゃう無秩序さが自慢だが、それは生活の中に音楽以外の楽しみが何もないから。けっこう悲しいでしょ。取材の機会が多いのは、最近だとユニコーン、松岡英明、KAN、オリジナル・ラブ、スチャダラパー、森高千里……といった方々かしらん。たぶん。

鉄石美保子
BY-SEXUAL

61年5月2日、広島市生まれ。地下鉄に乗ればどのポケットに切符を入れたか忘れちゃう、ユニットバスのお湯・満杯御礼1階の部屋であぁ良かったってことも、コンタクト1ヵ月に5回は行方不明ってこともあんなコトもこんなコトもオモシロイくらいにかなりの頻度でワタシの日常を襲う。やっぱりこのへんで人格を省みた方が良いのかしらん、と思いつつも、スクッとワタシをヘルプしてくれる素敵な人々が周りにいる限り、きっとこの調子。ラッキー。

野中ともそ
(チ)高野寛

今までの自分のあだ名でいちばん情けなかったのは「ともそ」と「オジサン」というのだったが、今では両方ともすっかり慣れて愛着さえ感じるほど。「ともそ」は思わずペンネームに使うぐらいだし、道端で「オジサン」って呼ばれて本当のおじさんと一緒に振り返ることもはずかしくなくなった。慣れってコワイ。でも今だにあるアーティストに言われた「野中さんて牛みたい」（意図不明）はひっかかっていて街で牛柄の小物を見るとわけもなくムッとしたりします。

広瀬充
SOFT BALLET

本誌では、夏頃からソフトバを担当してますが、私の本職はライターではなく編集プロダクションの社員です。固定給で生きていけるという利点を活かし、本当に興味のある原稿だけを書いているので、ライターとしての精神状態は健康です。28歳ですが、高卒なので業界歴は長いかも。職歴はパス。ソフトバ好きということでお判りのとおりテクノ世代ですが、嫌いなテクノもあります。はっきり言ってデブなのでテクノが似合わないのですが、妻はカワイイです。

松浦靖恵
(チ)徳永英明

早いもので"ライター"になって、10年目に突入しようとしております。見た目には若いが実は歳くってるライターとは私のことです。しかも、人妻だぞ!! う～んと年下のミュージシャンたちに、○○歳には見えなぁ～いと言われ、ホントに結婚してるのォと驚かれる子供あつかいの日々。ええい、覚えてろよ。ペンの暴力を使ってやる!! とは言え、取材中&原稿では"(笑)"印が多すぎるのも玉にキズ。大興奮のインタビューをあのB十でもやってしまう私デス。

三浦雅子
(チ)武内享

そんな!? 私が人さまにお聞かせできるような歴史を持ってるとすればですね、引っ越し歴くらいなもん。ここ1年間は深沢だけど、その前が代官山、その前が神楽坂、三軒茶屋、代田橋、笹塚、目黒、町田。想えば22歳で上京して8回も不動産屋さんの世話になってる。これじゃお金たまりませんよね。でも同時に物も増えないからいつも身ギレイ(笑)地理にも詳しい。けど自慢にゃなんないわね、物件探しが趣味なんて。いっそ不動産屋になれば良かったのか!?

山下由美子
B'z

名前／本名 年齢／えらいくってる 出身地／九州（肥後もっこす） 出身校／見かけによらず、お嬢さんコース 特技／惰眠 趣味／美形チェック。注：鑑賞のみ 今、一番好きな男の人／中垣一祐一（全日本バレー選手） 将来の夢／結婚すること。で、専業主婦になってかわいい子供を生む。女ならアイドル、男ならバンドマンにするの。目指せ脱ライター！ まあ、どうせ無理だけどね。……スイマセン。私ってホント、たいした人間じゃないんです。(笑)

吉村栄一
J(S)W /BUCK-TICK

66年1月23日福井市生まれ。大学中退後、製本工場や弁当工場、宅配会社などでのつらいつらあいバイトを経て、さすがにちょっとは楽しい仕事をしようなどとエッチ本専門の編集プロダクションでバイト。しかしこれにもすぐ飽き、今度は月刊『広告批評』誌の編集者としてマドラ出版㈱に正式就職。同社退職後はフリーとしてコピーライター、編集者、ライターなどで口に糊している。東京コピーライターズ・クラブ（TCC）新人賞ノミネートが唯一の自慢。

【1年間お疲れさまでしたのお手紙を出すと来年は大吉に違いない】▶各ライターの方に手紙を出したい人は［〒102 東京都千代田区五番町6－2 ソニー・マガジンズ 「パチ▶パチ」編集部 ○○○○（各ライターさんの名前）様あて］で出してください。ご本人に担当者がお渡しします。（注▶ライターの方自身が編集部にいるわけではないので、電話の受け付けは一切してません。また、ライターの方本人の手元へ届くのに多少時間がかかる場合もありますので、あらかじめご了承ください）

イトウアキ走るSPECIAL（恒例）

コンナンデマシタケド

23歳にもなってこんなことをしてていいのか?!（笑）

髪がはねてるぞ。

LIVE★OPENIG★SE特集だよ～ん。

- ☆J(S)W　Opening theme（JUN SKY WALKER(S)）
- ・THE BOOM　Stets A Sonic（Albert Colling）
- ・UNICORN　ファミコンのスーパーマリオのテーマ。

事務所のみな様。御協力ありがとうございました。来年もよろしくお願いします。

やっぱりはねてる。

- ☆BAKU　Sheriff Fatman（CARTER THE UNSTOPPABLE SEX MACHINE）長い名前だなーっ→
- ♡Dreams Come True　祝・ミリオンセラー　Open sesame（Dreams Come True）
- ▼BY-SEXUAL　いつもは自作の曲。今回はなし。そのかわり…女性のアナウンスが。　NAOちゃんとSHOやんは、私が仕事してたら、手伝ってくれた。
- ○吉川晃司　VOICE OF MOON（晃司）
- □LSDP　詩人の血　オリジナル（辻睦詞・渡辺善太郎・中武敬文）
- ♡PTON!　SHE IS WAITING（エリック・クラプトン）
- △LÄ-PPISCH　①ミスター・クロック（LÄ-PPISCH）②コンポステラというAlbumの中の楽曲。
- ○KAN　マーチ（MUTE BEAT）　ちなみにENDINGはチキンシャックだって。おもしろい選曲!!
- ☆To be Continued　ラジオパレード（To be Continued）
- ・スピッツ　オリジナル（草野マサムネ・田村アキヒロ・三輪テツヤ・崎山龍男）
- ・THE CHECKERS　星空の下で7人のアカペラ
- ▼フリッパーズ・ギター　瀧見憲司さんのDJ。日によって違うさ。・プライマルスクリーム・ジェームス etc.
- ☆LINDBERG　ビギン・ザ・ビギン（ベニー・グッドマン）
- △福山雅治　オリジナル（Guitar 中村修二）
- ・SOFT BALLET　オリジナル（藤井麻輝大先生）
- ▼電気GROOVE　荒野の7人（サントラ）
- ・the PILLOWS　オーシャンゼリゼ（旧バージョン）（ダニエル・ビダル）　札幌時代に、Voの山中くんがおばーーーちゃんちで録音してきたものをそのまま使ってるらしい。

この格好をしてたらBAKUの3人に「今日はさわやかだよね」と言われた。私はいつもさわやかなつもりなのに……。

この内、砂漠で…

ノドが乾いて　ノドが乾いて

もう死ぬ……

さようなら

と思ったら、口を開けてヨダレたらして寝てただけだった。

情けない…。我ながら

あ、忘れたっ。

質問大募集ー!

・官製ハガキで応募してね。

〒102 東京都千代田区5番町6－2
ソニー・マガジンズ
PATi▶PATi
イトウアキ走る!!まで。

来年もよろしくね。

91年は現実がとても身にしみる1年だったなぁ。全部自分の身になってんのかなぁなんて考えるけど。とりあえず、イトウアキの10大ニュース書いてみよっと。

10・みなさんからのお便りが90年の何10倍にも増えた。いつもどうもありがとう。ちゃんと全部読んで、大事にとってあるよ。

9・救急車に乗った。

8・入院した。

7・シークレット・ゴールド・フィッシュがカッコ良かった。

6・読本で初めて小説っぽいものにチャレンジさせてもらった。

5・卒業できた。東海大学の板垣先生どうもありがとうございました。

4・単行本を作らせてもらった。

3・初めて担当したアーティストが初めて本誌の表紙をやった。

2・サンフランシスコに行った。

1・91年も本当にいろいろな人に逢えた。

91年もどうぞよろしく。

Q **HEAVENのことについてどんな小さいことでもいいので教えてください。一生のお願いです。イトウアキさんだけが頼りなんです。**（大阪府　近藤未知香）

A **はい。早速リサーチさせていただきました。ライブハウスなどでコンスタントに活動を続けているHEAVENですが、そろそろレコーディングに入るという噂がチラホラ。春から本格的に活動を開始しそうです。加えて！　ファンクラブも発足しそうな気配。問い合わせは☎03-3780-0504まで。ここにきて、やっと重い腰（失礼）をあげたという感じのHEAVENに要注意ですかね。もちろん私も含めて。**

●それにしても読者のみなさん。この頃、私のコントロール方法を把握してきましたね。（笑）そうだす。私はオダテに弱い。アライグマもおだてりゃ木に登るっていう諺もあるとーり（ないない）私はオダテに弱いのであった。つまり単純だってことなんだろうなぁ……。ということで次の質問です。

Q **ライターと編集の違いについて教えてください。**（茨城県高校3年生）

A **ライターと編集の違い、ですか。まず、編集というのはですね、そのページを企画して実際に作る人です。で、ライターさんというのは、その編集の立てた企画にそって文章を書く人。わかりやすい例で説明すると、私の場合BAKUなんかは編集とライター両方やってるけど、電気GROOVEは編集オンリー。例えば編集の場合、アルバムのことについて、ページを作るとするでしょ。全部でページは7ページあるとして、2ページは3人の写真でその後ろに1ページずつメンバーのパーソナルをつけて、そして残りの2ページは「ばくしん」かな、とか。カメラマンは誰にしようかなとか、ツアーに出てて時間がないからスタジオじゃなくてロケにしようとか。細かいことをいろいろ決めてカメラマンのスケジュールなり、ライターのスケジュールなりを調整して取材の時間を出す。これをブッキングというんですが、これがまたなかなかめんどくさーい。（笑）私なんて毎回テンパってるもん。で、取材して、ライターさんはインタビューして原稿書くわけでしょ。編集はそっからがまたひと仕事。あがってきた写真を選んで、どういう感じのページにするか絵に描いて、デザイン事務所に出します。（これをラフをわるというのさ）で、ライターさんから原稿をもらって印刷会社に送る、これを入稿という。さらには文字の間違いがないか、写真は綺麗に印刷されているか刷り上がってきた物をチェックする作業もある。そして、その頃には次のブッキングや取材がもう始まっている——という、エンドレスな作業なのですよん。つまり、私もこうやって〝ダヨォーン〟だの〝ざんす〟だの書いてる時間より、はるかーに、入稿したり、文字をチェックしたりする時間が多いんすー。みなさん、それでもこの会社に入りたいというのかい？（笑）**

●あー91年も終わった。暮れも押し迫り、編集部も超忙しくなった11月中旬。私はテレビに釘付けだった。それはなぜか。ワールドカップをやってたから。きっと、今、日本中の女の子は〝やっぱりナカガイチよねー〟だの〝アオヤマがかっこいい〟だの言ってるんでしょう。（12月上旬現在）そんなことを言っているうちに今年も終わりました。あ、正月早々、レピッシュにライブアルバムが出るので、今はそれが楽しみ。92年は年女だよー。やだよー。92年もよろしくねー。

宛先は〒102　東京都千代田区五番町6-2　ソニー・マガジンズ　パチ▼パチ編集部「イトウアキ走る」係まで。パーソナル攻撃もOK。ハガキに書いて送ってね。バイバイ。

QUIZ DE 100 NO MON 攻撃!!!

プレゼント付

●応募方法等詳細は次のページだ! さあ、めくってめくって!!

Q1 '91年パチ▼パチは創刊何周年を迎えたでしょう。
①5周年 ②7周年 ③10周年

Q2 ソニー・マガジンズにある打ちあわせコーナーの数は?
①5個 ②7個 ③35個

Q3 ユニコーンの『チャンガラ』の表紙は何色?
①赤 ②緑 ③オレンジ

Q4 プリンセスの曲でキョンちゃんが友をしのんで書いた曲の名は?
①友達のまま ②DIAMONDS ③SHE

Q5 5月号の表紙で氷室京介は何を3つしているでしょう。
①鼻輪 ②くしゃみ ③指輪

Q6 B'zの稲葉さんは教員免許を持っていますが科目は何でしょう。
①体育 ②数学 ③理科

Q7 吉川晃司の91年ツアーメンバーのギタリストは、何というバンドに所属している?
①デル・ジベット ②ストロベリー・フィールズ ③ジキル

Q8 ジュンスカとユニコーンのジョイントライブの楽屋で、ライターの吉村栄一さんが純太くんにすすめられた食べ物は何?
①手羽先 ②天むす ③スシ

Q9 今井寿が曲を提供したアーティストは?
①金子美香 ②メスカリン・ドライヴ ③美川憲一

Q10 10月号のユニコーンアルバムビジュアル化〃開店休業〃でタミオが持ってるビールは何?
①アサヒドライ ②エビス ③キリンラガー

Q11 〃HURRY UP MODE〃でヒデが演っているギター奏法は?
①カッティング ②チョーキング ③ライトハンド

Q12 スカパラが銭湯で撮影したのは何月号?
①1月号 ②3月号 ③5月号

Q13 ホルスタインズの〃乳牛なんて〃のビデオが撮影されたのはどこ?
①高井牧場 ②小岩井牧場 ③マザー牧場

Q14 B'zの松本さんの誕生日に発売されたシングルは何?
①レディ・ナビゲイション ②アローン ③RISKY

Q15 小林くんの座右の名は何?
①ここ掘れワンワン ②出前来れば皆黙る ③先祖命

Q16 KANくんが入りたいと熱望しているバンドは?
①ユニコーン ②ソフトバレエ ③ジュンスカ

Q17 B'zの稲葉さんが詞を書くときに飲むとはかどるというビールの名柄は?
①ほろにが ②一番搾り ③冬物語

Q18 THE BOOM初の単行本『君がいっぱい!』の発売日は?
①1月20日 ②2月20日 ③3月30日

Q19 真心ブラザーズの倉持くんがスーツを着て登場したのは何月号?
①3月号 ②4月号 ③6月号

Q20 千里くんが美里ちゃんに提供した一番初めの曲は?
①すき ②10Years ③悲しいボーイフレンド

Q21 美里ちゃんが始めて西武球場でライブを行ったのは?
①'86年8月1日 ②'86年8月8日 ③'87年8月8日

Q22 大事にしていたピアノを壊されてしまったのは次のうち誰でしょう?
①小室 ②木根 ③宇都宮

Q23 平成3年3月3日で30歳になったリチギな人は誰?
①手島いさむ ②高杢禎彦 ③上田現

Q24 〃ボクのパンツの中で泳ぎたい?〃という名言を吐いたのは誰?
①マグミ ②桜井敦司 ③岡村靖幸

Q25 超ラッキー同盟。嵐丸くんのパパは誰?
①西川幸一 ②堀内一史 ③手島イサム

Q26 KANくんは何の予定もない状態を何にたとえてる?
①サナギ ②蚕 ③ミノムシ

Q27 すかんちのローリーの好きな女性タレントは誰?
①可愛かずみ ②白石まるみ ③甲斐ちえみ

Q28 パチ▼パチ11月号一流絵画教室で大賞をとったのは誰の似顔絵だったでしょう。
①川村かおり ②永井真理子 ③渡辺美里

Q29 去年のスタイル、チェッカーズのパーソナルインタビューの3番めは誰?
①藤井尚之 ②鶴久政治 ③武内享

Q30 1月号ユニコーン表紙で自転車に乗ってないのは誰?
①アベB ②EBI ③タミオ

Q31 スピッツのボーカル草野くんの下の名前は何?
①トキムネ ②マサムネ ③テツオ

Q32 小林くんがモヒカンでパチ▼パチに初めて載ったのは何月号でしょう?
①4月号 ②5月号 ③6月号

Q33 3年前の自分の写真を見てハガは何と言った?
①男前 ②ヤング!! ③可愛い

Q34 いつも素敵な歌声をきかせてくれる和弥。指輪をしてるのはどの指?
①右中指 ②左中指 ③左薬指

Q35 プライベーツの延ちゃんの息子の名前は?
①竜太 ②賢治 ③祭治

Q36 BUH-I♡BUH-IにあるBY-SEXUALのコーナー・タイトルは?
①今週のBYちゃん ②今月のBYちゃん ③今月のGO-ISUくん

Q37 新春スペシャル〃パチ▼パチ帝国の謎〃が載ったのは何月号?
①2月号 ②1月号 ③4月号

Q38 呼人と仲良しバンドのボニーダック?ボーカルは?
①川井健 ②しばでん ③パパ

Q39 テッシーがロスで買った気持ち悪い、いやっ、めずらしいブーツは何でできてる?
①ワニ ②魚 ③アルマジロ

Q40 変装が得意なフリッパーズでしたが、牛になったのは何月号?
①3月号 ②5月号 ③8月号

Q41 詩人の血〃ギスの意味〃のビデオクリップで辻くんがキスをしたのは誰?
①渡辺 ②中武 ③モデルの人

Q42 ソフトバレエの藤井さんのコーナー〃まきチャンの怒ってるんだよぉ〃が始まったのは?
①4月号 ②5月号 ③7月号

Q43 ヒロウズのシンちゃんがHGZで持ち歌にしていた泣かしバラードは?
①また逢う日まで ②メリージェーン ③嘆きのボイン

Q44 BAKUのクルちゃんが大好きなアーティストは?
①エルビス・プレスリー ②オジー・オズボーン ③アースウィンド・アンド・ファイアー

Q45 この中でCMに使われていない曲は?
①パラダイス ②浪漫飛行 ③SHAKE HIP

Q46 レピッシュの〃ジャケット・ブギ〃で主人公の欲しかったジャケットの色は?
①緑 ②白 ③赤

Q47 今年1月～12月号で編集後記を一番多く書いた人はだれ?
①吉田 ②芳賀 ③藤本

Q48 チェッカーズのナンバーが全員ジーンズをはいている号は?
①1月号 ②12月号 ③4月号

Q49 いつも神出鬼没な電気グルーヴ。次のうちまだワンマンでライブをしていないのは?
①クラブチッタ川崎 ②渋谷公会堂 ③東京タワー

Q50 B'zの松本さんが苦手な野菜は何でしょう。
①ピーマン ②大根 ③セロリ

Q51 今年、悲しくも木根さんが病欠してしまったのは何月号でしょう?
①3月号 ②6月号 ③9月号

Q52 11月号B-T特集の最初のページでメンバーは?
①とび箱している ②宙づりになっている ③ねている

Q53 布袋モデルのギターはどんな機種?
①レスポール ②テレキャスター ③ストラトキャスター

Q54 プリンセス・プリンセスが出たCMの清涼飲料水でないものは?
①もも紅茶 ②ゆず紅茶 ③マンゴー紅茶

Q55 "ツアージャパネスカ"を終えたタカシくんはこのツアーを何とたとえたでしょう?
①ブームの個展 ②ブームの美術館 ③ブームの診療所

Q56 納涼千里天国。今まで何回行われたでしょう?
①6回 ②4回 ③5回

Q57 ファミコンのマスターズでジャック・ニクラウスと戦って優勝したのは誰?
①小室 ②木根 ③宇都宮

Q58 4月号の写真で櫻井敦司が入っているものは?
①オリ ②卵のカラ ③お風呂

Q59 イトウアキがある動物になってBAKUマガジンに登場、その動物は?
①ネズミ ②タヌキ ③アライグマ

Q60 B-Tの"スピード"の仮題は何だった?
①ACID ②INSANITY ③CHAOS

Q61 小山田くんのグラッチェ・ランチャー(グレッチのにせものギター)は何色?
①茶色 ②オレンジ ③黒

Q62 スカパラが吉本新喜劇にゲスト出演したとき、珠美嬢にマジでせまられたのは誰?
①谷中 ②冷牟田 ③名古屋

Q63 ソフトバレエのアルバムの中で、仮タイトルが"グッパでポン"だったのは何でしょう。
①DOCUMENT ②3 ③[dra-i] ③愛と平和

Q64 パチ▼パチ6月号の表紙はだれ?
①ユニコーン ②プリンセス・プリンセス ③TMN

Q65 マゴがよく行く市ヶ谷食堂のコロッケ定食はいくら?
①560円 ②650円 ③700円

Q66 フッチーに泣かされたマゴ(読者スタッフ)は誰?
①チバ ②スズキ ③ホソヤ

Q67 次のうち、オフロ怪獣でないのは誰?
①上田現 ②中谷ブースカ ③狂市

Q68 時人の血のメンバーで料理が下手なのは誰?
①渡辺 ②辻 ③中武

Q69 松BOWがどうしても嘘のつけない3人とは、神さま、自分自身、そしてもう1つは?
①音楽 ②両親 ③ハニー

Q70 ソロで再スタートした吉川晃司の5/28の武道館でアンコールを飾った曲は何?
①ラビアン・ローズ ②バージン・ムーン ③モニカ

Q71 パチ▼パチ7年間の表紙中バービーボーイズは何回?
①3回 ②4回 ③6回

●さぁ―――――て、みなさんっ、またもややってまいりました。パチ▶パチ恒例100問クイズ。パチ▶パチマゴ隊がただでさえ弱っている身体にムチを打ち、総力をあげて作った問題でございます。どうかみなさんもぜひパワー全開でトライしてみて下さい。輝け!パチ▶パチオタクへの道!?!?

●応募方法
▶まず、解答用紙は必ず331ページの用紙を使用して下さい。コピーでもOKです。▶応募は1人1通のみ有効。2通以上の応募は失格になります。御注意を。▶わからない問題はバックナンバーを参考にして下さい。編集部およびレコード会社、アーティスト事務所への問い合わせは絶対にしないで下さい。問題はパチ▶パチをじっくり読めばわかるはず。あとはカンで勝負!! です。▶厳正な採点の結果、高得点上位10名の方に(同点多数の場合は抽選)、335〜337ページの中からお好きなCDをプレゼント致します。▶締切は1月31日必着。▶発表は春ごろのパチ▶パチ誌上で行う予定。▶詳しい解答方法は331ページを見て下さい。▶健闘を祈る!!

Q72 "みんなの歌"で流れたTHE BOOMの曲は何?
①ルティカ ②なし ③恐怖の昼休み

Q73 シュークリームシュは自分たちの歌を何のようだと?
①WINK ②ピンクレディー ③ゴーゴーズ

Q74 B'z担当編集者は一体誰なんでしょう。
①藤本 ②村田 ③吾郷

Q75 1月号のBAKUのインタビュー中、3人は何を食べていた?
①天丼 ②うな重 ③玉子丼

Q76 松岡英明曰(いわ)く、人の心に不可欠な素敵な言葉分とは?
①ビタミンI ②ビタミンW ③C

Q77 一〇〇〇タケダスパゴーのセカンドアルバムの選考会。一度は落選したものの見事に復活した曲は何?
①オオカミが来た ②MONEY HONEY ③テ・レ・ビ

Q78 奥居香ちゃんが演った"ビートルズ・ユニット"のメンバーでないのは?
①仙波さとみ ②シマチャン ③CHIEちゃん

Q79 BAKUのサンフランシスコレコーディングで加藤くんが叩いたドラムは何色?
①白 ②黒 ③赤

Q80 BYちゃんが無料ライブをやったのは早稲田のどこ?
①16号館508教室 ②大隈講堂前 ③記念会堂前

Q81 ライターの吉村さんはKATZEの"LOVE IS HERE"を何と名訳した?
①愛はココ ②愛よここにあれ ③愛はここにあり

Q82 編集部にある公衆電話は何色でしょう。
①緑 ②赤 ③ピンク

Q83 BAKUの初武道館、記念すべきその日は?
①'92年3月3日 ②'91年12月31日 ③'92年1月4日

Q84 マゴの強い味方!倉庫のおじさんの名前は何?
①森さん ②御道さん ③桂川さん

Q85 マサハルさんはリナさんとのデュエットを平成の何と言った?
①ピンキーとキラーズ ②ヒデとロザンナ ③カーペンターズ

Q86 2月号でハリーと蘭丸は何と一緒にうつってる?
①犬 ②看護婦 ③ピエロ

Q87 ソニー・マガジンズの受付のお姉さんの制服は何色?
①赤 ②紺 ③ピンク

Q88 イトウアキのデスクには、ある二枚目俳優の写真が貼ってありますが、さて誰?
①加勢大周 ②萩原聖人 ③吉田栄作

Q89 5月号氷室京介特集。表紙の字の色は?
①紫 ②赤 ③青

Q90 7月号でウツが着ていたスーツは何色でしょう?
①赤 ②紫 ③黄

Q91 ユニコーンとジュンスカとB-Tがパチ▼パチの表紙になった回数を足すといくつ?
①8回 ②11回 ③14回

Q92 編集部内で若いのは誰でしょう。
①ホソヤ ②ハガ ③チバ

Q93 森岡賢ちゃんはソフトバレエに何をそえている?
①花 ②団子 ③福神漬

Q94 編集部に常備していない飲物はどれでしょう。
①紅茶 ②麦茶 ③コーヒー

Q95 今年パチ▼パチの表紙を飾ったアーティスト合同表紙。全部で何人出た?
①11人 ②9人 ③2人

Q96 91年9月号プレゼント当選者のところにはなんて書いてあったカナ?
①まじかいやー ②や、オメデトウ ③幸先ええでー

Q97 コンサート・スケジュールのページの担当者は?
①稲田 ②伊藤 ③江頭

Q98 去年のパチ▼パチトマトに出演していないのは?
①シェイディ・ドールズ ②レディス・ルーム ③ジキル

Q99 一流絵画展、1月号の今月の課題は?
①ソフトバレエ ②ジュンスカ ③ユニコーン

Q100 今年1年続いたBUH-i♡BUH-iのコーナーは?
①フッチーホラーショー ②ちくっちゃえ ③まきチャンの怒ってるんだよぉ

QUIZ DE 100 MON 攻撃!!! プレゼント付

ANSWER SEAT

●解答方法　▶これはみなさま御存知のマークシート方式。正しい答えはコレダッ!!　という番号を1つ、黒くぬりつぶして下さい。×印や√印などはNG。きれいに黒くぬりつぶして下さいね。▶高得点者にはプレゼントを用意してございますもんですから下欄の住所等々しっかり御記入下さい。▶応募は封書で、〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱25号　ソニー・マガジンズ　パチ▶パチ編集部「クイズで100問」係まで。▶どしどし答えてチョボヒゲ——。

								47	①	②	③	74	①	②	③
								48	①	②	③	75	①	②	③
								49	①	②	③	76	①	②	③
								50	①	②	③	77	①	②	③
1	①	②	③	24	①	②	③	51	①	②	③	78	①	②	③
2	①	②	③	25	①	②	③	52	①	②	③	79	①	②	③
3	①	②	③	26	①	②	③	53	①	②	③	80	①	②	③
4	①	②	③	27	①	②	③	54	①	②	③	81	①	②	③
5	①	②	③	28	①	②	③	55	①	②	③	82	①	②	③
6	①	②	③	29	①	②	③	56	①	②	③	83	①	②	③
7	①	②	③	30	①	②	③	57	①	②	③	84	①	②	③
8	①	②	③	31	①	②	③	58	①	②	③	85	①	②	③
9	①	②	③	32	①	②	③	59	①	②	③	86	①	②	③
10	①	②	③	33	①	②	③	60	①	②	③	87	①	②	③
11	①	②	③	34	①	②	③	61	①	②	③	88	①	②	③
12	①	②	③	35	①	②	③	62	①	②	③	89	①	②	③
13	①	②	③	36	①	②	③	63	①	②	③	90	①	②	③
14	①	②	③	37	①	②	③	64	①	②	③	91	①	②	③
15	①	②	③	38	①	②	③	65	①	②	③	92	①	②	③
16	①	②	③	39	①	②	③	66	①	②	③	93	①	②	③
17	①	②	③	40	①	②	③	67	①	②	③	94	①	②	③
18	①	②	③	41	①	②	③	68	①	②	③	95	①	②	③
19	①	②	③	42	①	②	③	69	①	②	③	96	①	②	③
20	①	②	③	43	①	②	③	70	①	②	③	97	①	②	③
21	①	②	③	44	①	②	③	71	①	②	③	98	①	②	③
22	①	②	③	45	①	②	③	72	①	②	③	99	①	②	③
23	①	②	③	46	①	②	③	73	①	②	③	100	①	②	③

名前	年齢	住所	欲しいCD!
男 女		〒 Tel.	

PATi▶PATi ENCORE PRESENT

●あなたはもう忘れたかしら〜、こんなプレゼントがあったことを〜。というわけで、倉庫で眠っていたプレゼントをここぞとばかりに大放出。だから数はまちまちだけど、種類だけはあるよんよん。加えて、単行本ラッシュ——ッ！ だった今年のパチ▶パチ編集部を象徴するかのように、単行本の特典もこっそり、こぉ——っそり、私が毎回くすねておきました。それにしても…プレゼント担当になって10か月。毎月、誤植にびびりまくりぶー、だったけど、今回こそは誤植なしのページをめざしたいな、と。それにしても長いぞこのリード。応募は付いているハガキで。1月末日〆切。

松岡英明

20名

●⑦ポストカード3種、(提供・パチ▼パチ編集部)これも松岡くんの単行本の予約特典。キレイな写真でしよ? どう

B'z

30名

●⑧腕時計(提供・パチ▼パチ編集部)前作2作が100万枚を超えるミリオン・セラーになったB'z。始まったばかりのツアーも、全国満員御礼状態。ちなみにこのツアーは'92年4月まで続きます。もちろんパチ▼パチの記事にも登場すると思うよ。

UNICORN

46名

●巻頭UNICORNのプレゼントは①サイン入りポラロイド(5名)②単行本「イナゲ」特典(20名)③単行本「チャンガラ」特典(20名)④リュックサック(1名)の4点。全部パチ▼パチでしか手に入いらない代物ときた日にゃあ…やっぱりパチ▼パチとUNICORNさんは切っても切れない関係ね、きっと。(笑)

KATZE

10名

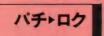
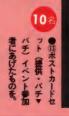
●⑨ポストカードセット(提供・パチ▼パチ編集部)まだまだ根強い人気のKATZE。3枚セットのポストカードを。

パチ▶ロク

30名

●⑩東京スカパラダイスオーケストラ⑪JUN SKY WALKER(S)⑫X(各10名・提供・パチ・ロク編集部)夏にあったパチ・ロク全員プレゼントの残りをアッキーからおすそわけしてもらいました。両面にプリントされているものです。

BY-SEXUAL

20名

●BY-SEXUAL単行本「PENALTY AREA」の予約特典。⑤バッチ2個セットで。⑥トラレスファーシール(あのこするヤツのことさ)各10名・提供・パチ▼パチ編集部)1月1日にNEW SINGLEが発売されるBY-SEXUAL。そして、いろんな所に謹賀新年の駅貼りポスターが出るから楽しみにしてね。3月にはビデオが出るよ。そちらもチェックしてね。

詩人の血

10名

●⑬ポストカードセット(提供・パチ▼パチ)イベント参加者にあげたものを。

BAKU

1名

●㉘BAKUS' FAN証明カード（提供・パチ▼パチ編集部）限定1名。これは本当に残り数が少なくて、余分なしだったので、㊕イトウアキのものをプレゼントします。これもプレゼントまで担当しているイトウアキの強みだっつ。フフフッ。（自慢気）

バービーボーイズ

6名

●㉙テレカ&バック（各3名提供EPIC）

プリンセス[2]

40名

●㉚メモ帳（30名・ソニーレコード）㉛ステッカーセット（10名・パチ▶パチ編集部）『KISS』の予約特典だ！

RIO

1名

●㉝ポスター（提供・東芝EMI）フッチーと同郷のミケ。どんな話してる人だろう。（笑）

スピッツ

1名

●㉜ポスター（提供・ポリドール）倉庫にあった。秘かにパチって、今、ここに。そしてあなたの元に……。

FLYING KIDS

1名

●㉑Tシャツ。（提供・ビクター・インビテーション）タイガースのカバーがカッコイイ。

レピッシュ

7名

●㉒ポラロイド（提供・パチ▼パチ編集部）この間田たミニ・アルバム『TIMES』はもちろん聞いたよね。それから1月1日に発売される『LÄ-PPISCH SUMMER LIVE』も必聴盤。CD未収録曲「KU・MA・MO・TO」が入ってるからね。チェック！ チェック！

真心ブラザーズ

10名

●㉓Tシャツ（提供ライフサイズ）一見渋く良く見ると……何とも言えない。（笑）

BUHi♥BUHi

5名

●㉔まきちゃんの怒っているんだよバッチ（提供・パチ▼パチ編集部）大人気のコーナーのヤツ。

ETC.

11名

●㉕入浴剤2種（各5名）㉖湯呑み（3名・以上キャニオン）㉗バック（2名・シンコー）

THE BOOM

6名

●『君がいっぱい』は予約したかね。私の近くの本屋では週間売上NO1を獲得していた『君がいっぱい』。今回も期待できそうです。というわけで⑭『君がいっぱい』の予約特典、盃（3名提供・パチ▼パチ編集部）⑮ポスター（3名提供・ソニー・レコード）ポスターは倉庫で見付けました。私の汗と涙の証さ――んす。

東京スカパラダイスオーケストラ

1名

●⑰ポスター（提供・EPICソニーレコード）これも倉庫の主になって、ホコリまみれになった証拠さます。

UP-beat

1名

●⑯Tシャツ（提供・オフステーション）これは、私がもらった物で、夏の徹夜の時活用しようと思ったんですが、倒れて入院したので未使用でした。（笑）

ソフトバレエ

2名

●⑱ポラロイド（提供・パチ▼パチ編集部）この間、今、大学で助手をやっている友人にTELしたら森岡賢のファンになってて焦った。

チェッカーズ

33名

●⑲懐かしのマーさんソロライブの時のパンフレット（5名・提供ポニーキャニオン）⑳絶賛発売中！ チェッカーズファン必見！ 400ページ以上のフルボリュームでお届けする7周年記念単行本『SEVEN』。その予約特典のプリティーなしおりを特別にプレゼントしやす。（30名・提供パチ▼パチ編集部）

PATi▶PATi ENCORE PRESENT

5名 布袋寅泰

㊶ポストカードセット（1名・提供・東芝EMI）㊷ポラロイド（3名・提供・パチ▼パチ編集部）布袋さんのポラロイド、どれが当たるかはお楽しみ。

1名 吉川晃司

㊴サイン入りポラロイド（提供・パチ▼パチ編集部）来年の活動に注目！

KAN 1名

㊵腕時計（提供・ポリドール）次のアルバムの制作期間のKANくん。千脇がくれた腕時計を限定で。

BUCK-TICK 10名

㊲占いの本（各5名・提供・パチ▼編集部）

UNICORN 10名

㊳UNICORN様、追加のポスター（提供・編集部）

4名 J(S)W

㊱ポラロイド（提供・編集部）今年、パチ▼パチ表紙登場回数最多選手のJUN SKY WALKER(S)。3月号のパチ▼パチ初の横使い表紙、そして7月号の初のジョイント表紙（With UNICORN）そして12月号。年3回も登場してくれた貢献ぶりです。

パチ・パチ創刊7周年記念PIN-UPカード 1000名プレゼント

1 J(S)W

▶オモテ　◀ウラ

2 UNICORN

3 UNICORN&J(S)W

4 KOME KOME CLUB

5 B'z

6 PRINCESS PRINCESS

7 TMN

8 BAKU

9 BUCK-TICK

10 BY-SEXUAL

11 大江千里

12 渡辺美里

13 Senri&Misato

14 THE CHECKERS

15 松岡英明

16 BARBEE BOYS

17 THE BOOM

18 フリッパーズ・ギター

（応募方法）はい。3ページにわたるスペシャルプレゼントの応募方法でざます。いやぁ、倉庫の棚に登ってプレゼントを探しました、その根性の証でゴザール、バザールでござ〜る。（笑）それにしても、私は今日も夜遅く会議室でこうやって入稿しているわけだが、'92年は、'92年こそは絶対に、ゼ〜〜ッタイに徹夜をせずとも入稿がすべて終わるよう予定を立てたいもんだ。プレゼントは、この本についているハガキで応募してね。切手もちゃんと貼るのだよ。また来年！

SPECIAL PRESENT

250 CD&VIDEO

ALL 1991 DISCOGRAPHY

CD&VIDEOを250名にプレゼント!!

●ハイハイいらっしゃい、いらっしゃい。スタイル名物“250CD&VIDEOプレゼント”コーナーだよ。今年も、太っ腹なところを見せて、ドドーンとあげちゃうから♥ホラ持ってけドロボー!!　これを聞けば、1991年を思い出すような、そんな1枚を選んでね。

■JUN SKY WALKER(S)Ⓢ
⑧START

■JUN SKY WALKER(S)Ⓐ
⑦TOO BAD

■JUN SKY WALKER(S)Ⓐ
⑥START

■UNICORNⓈ
⑤ヒゲとボイン

■UNICORNⓈ
④BLUES

■UNICORNⓈ
③獣の嵐

■EBIⒶ
②MUSEE

■UNICORNⒶ
①ヒゲとボイン

■B'zⒶ
⑯IN THE LIFE

■B'zⒶ
⑮MARS

■BUCK-TICKⓋ
⑭MAD

■BUCK-TICKⓈ
⑬JUPITER

■BUCK-TICKⓈ
⑫MAD

■BUCK-TICKⓈ
⑪スピード

■BUCK-TICKⒶ
⑩狂った太陽

■JUN SKY WALKER(S)Ⓢ
⑨つめこんだHAPPY

■TMNⓋ
㉔WORLD'S END Ⅱ

■TMNⓋ
㉓WORLD'S END Ⅰ

■TMNⓈ
㉒RHYTHM RED BEAT BLACK

■TMNⓈ
㉑LOVE TRAIN

■TMNⓈ
⑳WILD HEAVEN

■TMNⒶ
⑲EXPO

■B'zⓈ
⑱ALONE

■B'zⓈ
⑰LADY NAVIGATION

■BAKUⓋ
㉜DAY AFTER JUMPING STREETS

■BAKUⓋ
㉛ON AND ON

■BAKUⓈ
㉚O.K.

■BAKUⓈ
㉙そうきん

■BAKUⒶ
㉘DAY AFTER

■BAKUⒶ
㉗聞こえる

■PRINCESS PRINCESSⓋ
㉖VIDEO CLIPS

■PRINCESS PRINCESSⒶ
㉕DOLLS IN ACTION

■BIG HORNS BEEⒶ
㊵BHBI

■米米CLUBⓋ
㊴右脳と左脳の恋物語Vol.14

■米米CLUBⓋ
㊳WORK UP Vol.13

■米米CLUBⓋ
㊲ART UP Vol.12

■米米CLUBⓋ
㊱K2C2

■米米CLUBⓈ
㉟ひとすじになれない

■米米CLUBⒶ
㉞K2C

■BAKUⓋ
㉝メイキングオブぞうきん

■THE CHECKERSⓈ
㊽ミセス マーメイド

■THE CHECKERSⓈ
㊼LOVE'91

■THE CHECKERSⒶ
㊻BEST

■THE CHECKERSⒶ
㊺I HAVE A DREAM

■BY-SEXUALⓈ
㊹HYSTERIC

■BY-SEXUALⓈ
㊸幕末純情伝

■BY-SEXUALⓈ
㊷DYNAMITE GIRL

■BY-SEXUALⒶ
㊶Cracker

恒例250名CD＆VIDEOプレゼント!!

■渡辺美里Ⓢ
58 卒業

■渡辺美里Ⓐ
57 Lucky

■THE BOOMⓋ
56 いつものボクたちがいる

■THE BOOMⓈ
55 恐怖の昼休み

■THE BOOMⓈ
54 きのう聞かせた僕の歌

■THE BOOMⓈ
53 みちづれ

■THE BOOMⒶ
52 DEMO

■マサハルⓈ
51 いい人でいられない

■マサハルⓈ
50 君に逢いたかった

■THE CHECKERSⓈ
49 ふれてごらん

■DREAMS COME TRUEⓈ
68 Eyes to me／彼は友達

■DREAMS COME TRUEⒶ
67 MILLION KISSES

■大江千里Ⓥ
66 Moods

■大江千里Ⓥ
65 武道館ライブ

■大江千里Ⓢ
64 格好悪いふられ方

■大江千里Ⓐ
63 HOMME

■渡辺美里Ⓥ
62 clips

■渡辺美里Ⓥ
61 born V

■渡辺美里Ⓢ
60 クリスマスまで待てない

■渡辺美里Ⓢ
59 夏が来た！

●応募方法●

▶ここに掲載されているCD&VIDEOは、パチ▶パチ登場アーティストが1991年にリリースしたものです。この中から好きなものを250名にプレゼントします。
▶応募方法は、アンケートハガキに、欲しいCD、VIDEOの番号を記入して下さい。(アルバム、シングル各1枚) ただし、VIDEOはアルバム扱いとなりますので、番号はアルバムの欄に記入して下さい。アルバム(or VIDEO)を50名。シングルを200名にプレゼントします。〆切は1月末日。発表は3月9日発売4月号パチ▶パチで。

■FLIPPERS GUITARⓈ
76 星の彼方へ

■FLIPPERS GUITARⓈ
75 GROOVE TUBE

■FLIPPERS GUITARⒶ
74 ヘッド博士の世界塔

■SOFT BALLETⓋ
73 COROSSEUM

■SOFT BALLETⓈ
72 FINAL

■SOFT BALLETⓈ
71 EGO DANCE

■SOFT BALLETⒶ
70 愛と平和

■DREAMS COME TRUEⓈ
69 忘れないで

■LÄ-PPISCHⓋ
84 プロペラ

■LÄ-PPISCHⒶ
83 ハーメルン

■LINDBERGⓈ
82 BELIEVE IN LOVE

■LINDBERGⓈ
81 I MISS YOU

■LINDBERGⓈ
80 GLORY DAYS

■LINDBERGⒶ
79 EXTRA FLIGHT

■LINDBERGⒶ
78 LINDBERG Ⅳ

■FLIPPERS GUITARⓋ
77 TESTAMENT

■松岡英明Ⓥ
94 five・five・six

■KANⓈ
93 プロポーズ／恋する気持ち

■KANⓈ
92 イン・ザ・ネイム・オブ・ラヴ

■KANⒶ
91 ゆっくり風呂につかりたい

■布袋寅泰Ⓢ
90 BEAT EMOTION

■布袋寅泰Ⓐ
89 GuitarhythmⅡ

■吉川晃司Ⓥ
88 VOICE OF MOON

■吉川晃司Ⓢ
87 Virgin Moon

■吉川晃司Ⓐ
86 LUNATIC LION

■氷室京介Ⓐ
85 Higher Self

■松井常松Ⓢ
104 SONG OF JOY'

■松井常松Ⓐ
103 SONG OF JOY'

■東京スカパラダイスオーケストラⓋ
102 スカパラビデオ

■東京スカパラダイスオーケストラⓈ
101 ホールインワン

■東京スカパラダイスオーケストラⓈ
100 栄光のカウントダウン

■東京スカパラダイスオーケストラⒶ
99 ワールドフェイマスREMIX

■東京スカパラダイスオーケストラⒶ
98 ワールドフェイマス

■東京スカパラダイスオーケストラⒶ
97 スカパラライブ

■KYOKOⓈ
96 彼方へ…

■BARBEE BOYSⓋ
95 LIVE June 5th, 1990

■すかんちⓈ
114 恋のロマンティック・ブギ

■すかんちⒶ
113 恋のロマンティック大爆撃

■ザ・真心ブラザーズⓋ
112 轉ばぬ先の杖

■ザ・真心ブラザーズⓈ
111 君よりもっとそくに

■ザ・真心ブラザーズⓈ
110 同級生

■倉持陽一Ⓐ
109 倉持の魂

■ザ・真心ブラザーズⒶ
108 あさっての方向

■山下久美子Ⓥ
107 Joy for U LIVE

■山下久美子Ⓢ
106 Tonight

■山下久美子Ⓐ
105 JOY FOR U

■SPARKS GO GOⒶ
124 ROCKWORK ORANGE

■瀧勝Ⓢ
123 人生

■電気GROOVEⓈ
122 MUD EBiS

■電気GROOVEⒶ
121 UFO

■電気GROOVEⒶ
120 FLASH PAPA

■the PILLOWSⓈ
119 雨にうたえば

■the PILLOWSⒶ
118 MOON GOLD

■高野寛Ⓢ
117 目覚めの三月

■高野寛Ⓐ
116 AWAKENING

■すかんちⓋ
115 すかんちいずCLIPS

■詩人の血Ⓥ
(134)rare-tone

■詩人の血Ⓢ
(133)キスの意味

■詩人の血Ⓢ
(132)愛で遊んでる

■詩人の血Ⓐ
(131)cello-phone

■16TONSⓈ
(130)Black Market

■16TONSⓈ
(129)USAGI

■16TONSⒶ
(128)16TONS

■SPARKS GO GOⓋ
(127)TOUR ROCK-WORK ORANGE

■SPARKS GO GOⓋ
(126)R&R SUPER-MARKET

■SPARKS GO GOⓈ
(125)SAD JUNGLE

■スピッツⒶ
(144)名前をつけてやる

■スピッツⒶ
(143)スピッツ

■RioⓈ
(142)あんただあれ

■RioⓈ
(141)彼女になりたい

■RioⒶ
(140)あ

■THE BLANKEY JET CITYⓈ
(139)TEXAS

■THE BLANKEY JET CITYⓈ
(138)不良少年のうた

■THE BLANKEY JET CITYⒶ
(137)Red Guitar and the Truth

■詩人の血Ⓥ
(136)MAGAZINE VOL.2

■詩人の血Ⓥ
(135)MAGAZINE VOL.1

■福山雅治Ⓢ
(151)風をさがしてる

■福山雅治Ⓢ
(150)WOH WOW

■福山雅治Ⓐ
(149)BROS.

■福山雅治Ⓐ
(148)LION

■スピッツⓈ
(147)夏の魔物

■スピッツⓈ
(146)魔女旅に出る

■スピッツⓈ
(145)ヒバリのこころ

SPECIAL PRESENT
250
CD&VIDEO
ALL 1991 DISCO GRAPHY

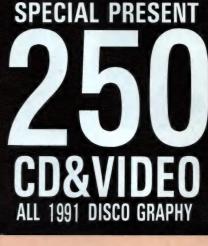
■PTON!Ⓢ
(158)Da・I・Su・Ki

■PTON!Ⓐ
(157)STEP

■To Be ContinuedⓈ
(156)息詰まっちゃうよ

■To Be ContinuedⓈ
(155)君がいたから

■To Be ContinuedⒶ
(154)To Be Continued…

■CHARAⓈ
(153)HEAVEN

■CHARAⒶ
(152)SWEET

■相馬裕子Ⓐ
(168)Wind Songs

■TRACYⒶ
(167)GROOVIN' HEART

■GARAPAGOSⓈ
(166)WAR THE WAR

■KUSU KUSUⓋ
(165)カミタテカマヤン

■KUSU KUSUⓈ
(164)ハッスルジャンジャンX'mas

■KUSU KUSUⓈ
(163)オレンヂバナナ

■KUSU KUSUⓈ
(162)地球オーケストラ

■KUSU KUSUⒶ
(161)アッタクッタ

■KUSU KUSUⒶ
(160)cajón

■PTON!Ⓢ
(159)HOLD YOU

■THE WELLSⒶ
(178)POCKET-FULL HEROES

■佐久間学Ⓢ
(177)カラッカゼ

■佐久間学Ⓢ
(176)長い髪のBABE

■佐久間学Ⓐ
(175)SHOCK MY DEAD

■ムスタングA.K.A.Ⓥ
(174)VIDEO A.K.A

■ムスタングA.K.A.Ⓢ
(173)僕はとぶ

■ムスタングA.K.A.Ⓢ
(172)WONDER-LAND?

■ムスタングA.K.A.Ⓐ
(171)COLORED

■ムスタングA.K.A.Ⓐ
(170)踊りAKAソカ

■ダーリンズダーリンⒶ
(169)MOON'

■GAOⒶ
(188)GAO誕生

■安部純Ⓢ
(187)胸いっぱいの風

■安部純Ⓐ
(186)ETERNAL COLORS

■さくらさくらⓋ
(185)Girls Know Everthing

■さくらさくらⓈ
(184)HELLO!! MY LOVE

■さくらさくらⓈ
(183)女の娘は知っている

■さくらさくらⒶ
(182)Girls Know Everthing

■THE WELLSⓋ
(181)LIVE

■THE WELLSⓈ
(180)1960'S GUN

■THE WELLSⓈ
(179)悲しくてたまらない

■GARLANDⓈ
(198)愛・愛・愛

■鈴木彩子Ⓢ
(197)恋ってさ

■鈴木彩子Ⓢ
(196)GOAL

■鈴木彩子Ⓐ
(195)明日へつながる道

■Nav KatzeⒶ
(194)新月

■Nav KatzeⒶ
(193)歓喜

■FREDERICKⒶ
(192)pudding

■CUTTING EDGEⓈ
(191)HOLE

■CUTTING EDGEⒶ
(190)WAVE

■GAOⓈ
(189)天国と地獄の毎日

▶スペースの都合上、発売されたすべてのCD&VIDEOが掲載されているわけではありません。また掲載は発売順ではありません。

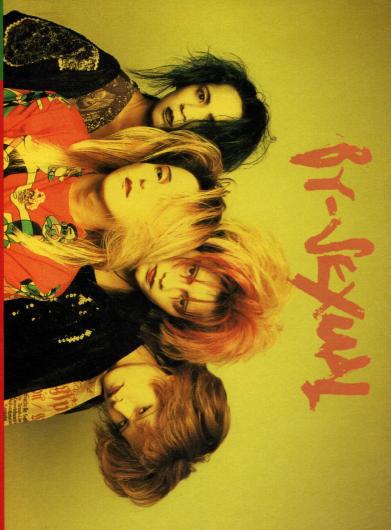
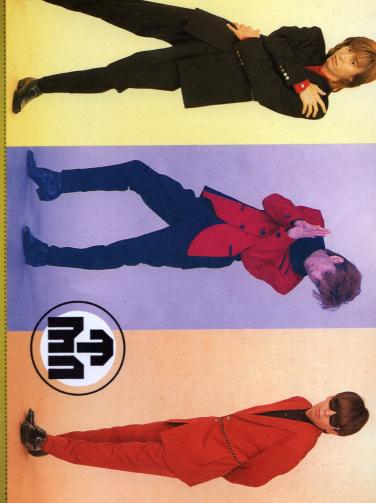
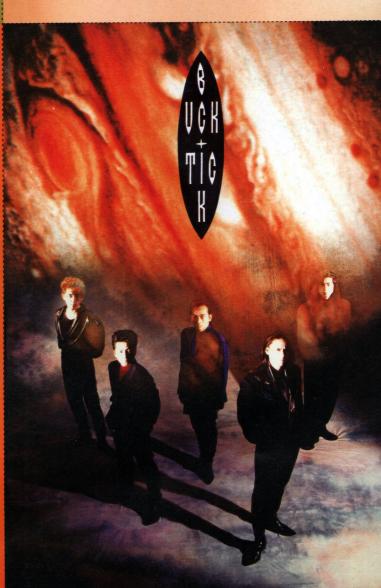
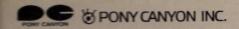
今年で６回目となりました『パチ▶パチ・スタイル』はいかがでしたか？　1991年を振り返り、1992年に思いを馳せることができたでしょうか？　パチ▶パチにとって1991年は７周年目の年にあたり、特大号、記念単行本などを発売しました。この年を、１つのステップとして、10周年、15周年……を迎えられるように、ますますがんばっていきたいと、編集部一同気合いを入れ直しております。世界に音楽があるかぎり、パチ▶パチは〝音楽とアーティスト〟というテーマに切り込んでいきたいと思っています。そう、〝パチ▶パチ流〟にね。1992年もどうぞよろしく!!

ART DIRECTION:JUN'ICHI SOMEYA
=HEADBUTT
DESIGNER:JUN'ICHI SOMEYA
MIKA MURAI
IWAO MIURA
SHINGO NAKAMURA
=HEADBUTT
EDITORIAL DIRECTION:TERUKI AGO
EDITOR:TERUKI AGO
YOSHIMI YOSHIDA
TAKASHI HAGA
MIDORI KUROKI
MASATOSHI FUJIMOTO
SHIGERU MURATA
AKIKO CHIWAKI
ERIKO YAMAZAKI
AKI ITO
ALL WRITERS:KYOKO MORITA
MIHO UTSUNOMIYA
KYOKO SANO
MISATO KONDA
DAI ONOJIMA
MIHOKO TETSUISHI
MAYUMI TAKAYAMA
YASUE MATSURA
MASAKO MIURA
TOMOSO NONAKA
YASUFUMI AMATASU
RYUICHI TAKAHASHI
MIKA SASAKI
MITSURU HIROSE
EIICHI YOSHIMURA
YUKO EGASHIRA
KATSURA SHIMODA
AKI ITO
YUMIKO YAMASHITA
YUKA SAITO
RIE OBA
KOU IMAZU
PHOTOGRAPHERS:YORIHITO YAMAUCHI
TAKEO OGISO
KENJI MIURA
KAZUHIRO KITAOKA
YUKIO FUKUZATO
HISAKO OHKUBO
MASAFUMI SAKAMOTO
KENJI TAGUCHI
YOSHIAKI SUGIYAMA
YOSUKE KOMATSU
KENJI TSUKAGOSHI
KENICHI ISHIWATA
SHINJI HOSONO

パチ▶パチ増刊「パチ▶パチ・スタイル」
第８巻第２号　1992年１月26日発行
編集人＝吾郷輝樹　発行人＝吾郷輝樹
発行所＝株式会社ソニー・マガジンズ
〒102東京都千代田区五番町６－２
TEL03-3234-7906（編集）

定価990円（本体961円）
Printed in Japan

1992 POST CARD PATi▸PATi PRESENTS

1992 POST CARD PATi▸PATi PRESENTS

New Single‣Now On Sale

ふれてごらん

~please touch your heart~

C/W トライアングル ブルース

●CDシングル：PCDA-00263　●シングルCT：PCSA-00174　各￥1.000（税込）

［オリジナル・カラオケ付］

Now On Sale

チェッカーズBEST

NANAからLove '91までのシングルヒット14曲をリリース順に収録した豪華アルバム！

NANA/I Love you, SAYONARA/WANDERER/Blue Rain/ONE NIGHT GIGOLO/Jim & Janeの伝説/素直にI'm Sorry/Room/Cherie/Friends and Dream/運命/夜明けのブレス/さよならをもう一度/Love '91

●全曲のオリジナル・カラオケ付

●CD：PCCA-00325（2枚組）　●CT：PCTA-00114（2本組）　各税込￥3,500

PATi‣PATi創刊7周年記念企画
THE CHECKERS 4年ぶりの単行本！

『SEVEN』

B5判変型・スペシャルハードカバー、ずっしり448ページ。
￥2,800（税込）全国の書店にて発売中!!

㈲03-3234-5811　㈱ソニー・マガジンズ

●ポニーキャニオン25周年「WITH YOUキャンペーン」実施中!!●

チェッカーズベストの中に入っている応募券を官製ハガキに貼り、「WITH YOUキャンペーン」係までお送りください。抽選で2,525名様に素敵なグッズを差し上げます。詳しくは、封入されている応募要項をご覧ください。

エムカ（5,000円レコード券）……………………200名様
25周年記念オリジナルTシャッツ……………1,000名様
25周年記念オリジナルテレカ（50度数）………1,325名様